秋田県文化財調査報告書第460集

# 狼　穴　Ⅱ　遺　跡

——一般国道７号大館西道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ——

２０１０・８

秋　田　県　教　育　委　員　会

秋田県文化財調査報告書第460集

狼穴Ⅱ遺跡

２０１０・８

秋田県教育委員会

シンボルマークは、北秋田市浦田白坂（しろざか）遺跡
出土の「岩偶」です。
縄文時代晩期初頭、1992年８月発見、高さ７㎝、凝灰岩。

# 狼穴（おおかみあな）Ⅱ遺跡

――一般国道７号大館西道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ――

２０１０・８

秋 田 県 教 育 委 員 会

# 序

本県には、これまでに発見された約4,900か所の遺跡をはじめとして、先人の遺産である埋蔵文化財が豊富に残されています。これらの埋蔵文化財は、地域の歴史や伝統を理解し、未来を展望した彩り豊かな文化を創造していくうえで、欠くことのできないものであります。

一方、日本海沿岸東北自動車道をはじめとする高速交通体系の整備や国道の建設は、地域が活発に交流・連携する秋田の創造をめざす開発事業の根幹をなすものであります。本教育委員会では、これら地域開発との調和を図りながら、埋蔵文化財を保存し、活用することに鋭意取り組んでおります。

本報告書は、一般国道７号大館西道路建設事業に先立って、平成20年度に大館市で実施した狼穴Ⅱ遺跡の発掘調査成果をまとめたものです。

調査の結果、縄文時代前期の竪穴住居跡と多くの土器・石器、平安時代の竪穴住居跡等が検出され、当時の人々の生活の一端が明らかになりました。

本書がふるさとの歴史資料として広く活用され、埋蔵文化財保護の一助となることを心から願うものであります。

最後になりましたが、発掘調査及び本報告書の刊行にあたり、御協力いただきました国土交通省東北地方整備局能代河川国道事務所、大館市教育委員会など関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成22年８月

秋田県教育委員会

教育長　根　岸　　均

# 例　　言

1　本報告書は、平成20年度に行った狼穴Ⅱ遺跡の発掘調査成果を収めたもので、一般国道７号大館西道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書としては７冊目にあたる。

2　調査の内容については、すでにその一部を埋蔵文化財センター年報などによって公表しているが、本報告書を正式のものとする。

3　本報告書に使用した図は、国土交通省東北地方整備局能代河川国道事務所提供の工事路線計画図1,000分の１地形図と、国土地理院発行の25,000分の１地形図『大館』である。

4　復元した土器と剥片石器の一部は株式会社アルカに、剥片石器の一部は株式会社ラングに実測を委託した。

5　『第５章　自然科学的分析』は、株式会社パレオ・ラボに業務委託した分析報告である。

6　本報告書の整理作業については、現場で調査を担当した担当者が原則として遺構の第２原図を作成した。

土器の復元や選別、石器の選別、掲載遺物の選択に伴う作業の指示は柴田陽一郎、五十嵐一治が主に行った。遺構・遺物の実測図作成・トレース、版下作成などの指示は柴田陽一郎が行った。

本文の執筆は、現場で調査を担当した担当者から提出された原稿をもとに、柴田が一部加・除筆した。土器の分類は、五十嵐が行った仮分類をベースにして柴田が報告書に反映させた。

柴田陽一郎　第４章第２節１（１）・（４）、第４章第３節１（出土遺物）、第４章第３節２・３、第６章

髙橋和成　第４章第１節、第４章第２節２（２）～（４）、第４章第３節１（捨て場と捨て場個々の概要）

深沢恵里子　第３章第３節、第４章第２節１（２）・（３）・（５）・（６）、第４章第２節２（１）・（５）・３

本報告書の編集は柴田が行った。

7　本書の第１章～第３章は『狼穴Ⅲ遺跡発掘調査報告書』（秋田県文化財調査報告書427集-2008年3月刊行）所収の原稿を一部加・除筆したものである。

8　本報告書の作成にあたり、以下の方々からご指導・ご助言をいただいた。記して感謝申し上げます。

（敬称略・五十音順）

板橋範芳、嶋影壮憲、冨樫泰時

# 凡　　例

1　本報告書で使用した土色の色調表現は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修『新版　標準土色帖』2004年版によった。

2　遺構については、検出順にその種類を示す略記号と通し番号を付したが、後に遺構ではないと判明したものは欠番とした。

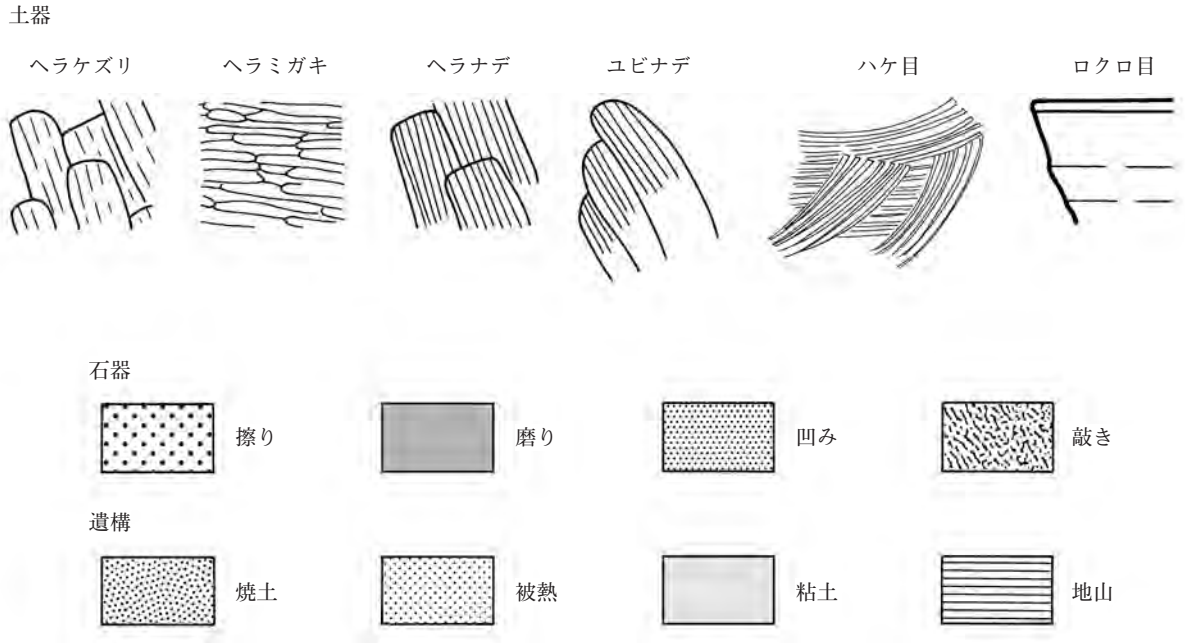
3　遺構に使用した略記号は以下の通りである。

ＳＩ（竪穴住居跡）　ＳＳ（製鉄炉）　ＳＫＦ（フラスコ状土坑）　ＳＫＴ（陥し穴）
ＳＫ（土坑）　ＳＮ（焼土遺構）　ＳＴ（捨て場）　ＳＤ（溝跡）
ＳＫＰ（柱穴様ピット）　Ｐ（ピット－柱穴）

4　縄文土器と土師器の拓本は、断面の左側に外面、右側に内面を配している。

5　遺物の計測値の単位は長さ・幅・厚さが㎜、重さがｇである。

6　挿図の土器実測図断面の内・外面にある上下の線は、スス状炭化物の付着範囲を示している。
挿図中で使用したスクリーントーンは以下のとおりである。



# 目　次


序 …… i
例言・凡例 …… iii
目次 …… v
挿図・表・図版目次 …… vi
第１章　はじめに …… 1
　第１節　調査に至る経過 …… 1
　第２節　調査要項 …… 1
第２章　遺跡の環境 …… 2
　第１節　遺跡の位置と立地 …… 2
　第２節　歴史的環境 …… 4
第３章　発掘調査の概要 …… 7
　第１節　遺跡の概観 …… 7
　第２節　調査の方法 …… 7
　第３節　調査の経過 …… 8
　第４節　整理作業の方法と経過 …… 9
第４章　調査の記録 …… 10
　第１節　基本層序 …… 10
　第２節　検出遺構と出土遺物 …… 10
　　１　縄文時代の遺構と遺物 …… 10
　　（１）竪穴住居跡 …… 10
　　（２）フラスコ状土坑 …… 16
　　（３）土坑 …… 16
　　（４）陥し穴 …… 17
　　（５）溝跡 …… 26
　　（６）柱穴様ピット …… 26
　　２　平安時代の遺構と遺物 …… 26
　　（１）竪穴住居跡 …… 26
　　（２）製鉄炉 …… 29
　　（３）溝跡 …… 30
　　（４）焼土遺構 …… 31
　　（５）柱穴様ピット …… 31
　　３　時期不明の遺構 …… 31
　　（１）柱穴様ピット …… 31
　第３節　遺構外出土遺物 …… 31
　　１　縄文時代の遺構外遺物出土状況 …… 31
　　（１）捨て場と捨て場以外 …… 32
　　①　南東側斜面（Ａ区）の捨て場 …32
　　②　台地上（Ａ区）の捨て場 …… 34
　　③　捨て場以外 …… 35
　　（２）縄文時代のその他の出土品 …… 36
　　①　黒曜石 …… 36
　　②　ベンガラ …… 36
　　③　硅化木 …… 36
　　④　軽石 …… 36
　　２　縄文時代の出土遺物の分類 …… 36
　　（１）土器・土製品 …… 36
　　①　縄文時代前期の土器 …… 36
　　②　縄文時代中期の土器 …… 37
　　③　縄文時代晩期の土器 …… 37
　　④　縄文時代の土製品 …… 37
　　（２）石器類・石製品 …… 38
　　①　縄文時代の石器 …… 38
　　②　縄文時代の石製品 …… 43
　　３　平安時代の出土遺物の分類 …… 45
　　（１）土器 …… 45
　　①　須恵器 …… 45
　　②　土師器 …… 45
　　（２）製鉄関連遺物 …… 45
第５章　自然科学的分析 …… 156
　第１節　放射性炭素年代測定 …… 156
　第２節　黒曜石産地同定 …… 162
第６章　まとめ …… 165
図版
報告書抄録・奥付

# 挿図目次


第１図　遺跡位置図
第２図　地形区分図
第３図　狼穴Ⅱ遺跡と周辺遺跡
第４図　グリッド配置図(地形図)
第５図　遺構配置図
第６図　柱穴様ピット(ＳＫＰ)配置図
第７図　基本土層図(１)
第８図　基本土層図(２)
第９図　ＳＩ03竪穴住居跡平面図・断面図
第10図　ＳＩ21竪穴住居跡平面図・断面図
第11図　ＳＩ21炉平面図・柱穴断面図
第12図　ＳＫＦ14フラスコ状土坑、ＳＮ24焼土遺構、ＳＫ13・16土坑平面図・断面図
第13図　ＳＫＴ01陥し穴平面図・断面図、出土遺物分布図
第14図　ＳＫＴ02陥し穴平面図・断面図、出土遺物分布図
第15図　ＳＫＴ05陥し穴平面図・断面図、出土遺物分布図
第16図　ＳＤ23・25溝跡平面図・断面図
第17図　ＳＩ03・21、ＳＫＦ14、ＳＫ16、ＳＫＴ01・02・05、捨て場出土土器(１)
第18図　捨て場出土土器(２)
第19図　捨て場出土土器(３)
第20図　捨て場出土土器(４)
第21図　捨て場出土土器(５)
第22図　捨て場出土土器(６)
第23図　捨て場出土土器(７)
第24図　捨て場出土土器(８)
第25図　捨て場出土土器(９)
第26図　捨て場出土土器(10)
第27図　捨て場出土土器(11)
第28図　捨て場出土土器(12)
第29図　捨て場出土土器(13)
第30図　捨て場出土土器(14)
第31図　捨て場出土土器(15)
第32図　捨て場出土土器(16)
第33図　捨て場出土土器(17)
第34図　捨て場出土土器(18)
第35図　捨て場出土土器(19)
第36図　捨て場出土土器(20)
第37図　捨て場出土土器(21)
第38図　捨て場出土土器(22)
第39図　捨て場出土土器(23)
第40図　捨て場出土土器(24)
第41図　捨て場出土土器(25)
第42図　捨て場出土土器(26)
第43図　捨て場出土土器(27)
第44図　捨て場出土土器(28)
第45図　捨て場出土土器(29)
第46図　捨て場出土土器(30)
第47図　捨て場出土土器(31)
第48図　捨て場出土土器(32)
第49図　捨て場出土土器(33)
第50図　捨て場出土土器(34)
第51図　捨て場出土土器(35)
第52図　捨て場出土土器(36)、Ａ区遺構外、ＳＤ23・25、Ｂ区遺構外出土土器類(１)
第53図　Ｂ区遺構外出土土器類(２)
第54図　Ｂ区遺構外出土土器類(３)
第55図　Ｂ区遺構外出土土器類(４)
第56図　Ｂ区遺構外出土土器(５)、縄文時代前期以外出土土器
第57図　円盤状土製品(１)
第58図　円盤状土製品(２)
第59図　ＳＫＴ01・02・05、ＳＩ03出土剥片石器

第60図　捨て場出土剥片石器（１）
第61図　捨て場出土剥片石器（２）
第62図　捨て場出土剥片石器（３）
第63図　捨て場出土剥片石器（４）
第64図　捨て場出土剥片石器（５）
第65図　捨て場出土剥片石器（６）
第66図　捨て場出土剥片石器（７）
第67図　捨て場出土剥片石器（８）
第68図　捨て場出土剥片石器（９）
第69図　捨て場出土剥片石器(10)
第70図　捨て場出土剥片石器(11)
第71図　捨て場出土剥片石器(12)
第72図　Ａ区遺構外出土剥片石器
第73図　Ｂ区遺構外出土剥片石器（１）
第74図　Ｂ区遺構外出土剥片石器（２）
第75図　捨て場出土礫石器（１）
第76図　捨て場出土礫石器（２）
第77図　捨て場出土礫石器（３）
第78図　捨て場出土礫石器（４）
第79図　捨て場出土礫石器（５）
第80図　捨て場出土礫石器（６）
第81図　捨て場出土礫石器（７）
第82図　捨て場出土礫石器類（１）
第83図　捨て場出土礫石器類（２）
第84図　Ａ区遺構外出土礫石器
第85図　ＳＤ23溝跡、Ｂ区遺構外出土礫石器類（１）
第86図　Ｂ区遺構外出土礫石器類（２）
第87図　円盤状石製品（１）
第88図　円盤状石製品（２）
第89図　円盤状石製品（３）
第90図　円盤状石製品（４）
第91図　ＳＴ04捨て場範囲・遺物出土状況図
第92図　ＳＴ04捨て場出土遺物分布図（１）
第93図　ＳＴ04捨て場出土遺物分布図（２）
第94図　ＳＴ15捨て場範囲・遺物出土状況図
第95図　ＳＩ06・08竪穴住居跡平面図・断面図
第96図　ＳＩ11竪穴住居跡平面図・断面図
第97図　ＳＩ11竪穴住居跡カマド平面図・断面図・確認状況図
第98図　ＳＩ11竪穴住居跡礫出土状況平面図・断面図
第99図　ＳＩ12Ａ竪穴住居跡平面図・断面図
第100図　ＳＩ12Ａ竪穴住居跡カマド平面図・断面図・確認状況図
第101図　ＳＩ12Ｂ竪穴住居跡平面図、ＳＩ12Ａ・Ｂ竪穴住居跡柱穴断面図
第102図　ＳＩ12Ｂ竪穴住居跡カマド平面図・断面図・確認状況図
第103図　ＳＳ22製鉄炉平面図・断面図
第104図　ＳＤ09溝跡平面図・断面図
第105図　ＳＤ17・19溝跡平面図・断面図
第106図　ＳＩ11竪穴住居跡出土遺物
第107図　ＳＩ11・12Ａ竪穴住居跡出土遺物
第108図　ＳＩ12Ａ・Ｂ竪穴住居跡出土遺物、Ａ区遺構外出土遺物
第109図　暦年較正結果（１）
第110図　暦年較正結果（２）
第111図　試料№.１～９の暦年代
第112図　黒曜石産地分布図(東日本)
第113図　黒曜石産地推定判別図（１）
第114図　黒曜石産地推定判別図（２）

# 表 目 次


第１表　狼穴Ⅱ遺跡と周辺遺跡
第２表　ＳＩ03・21竪穴住居跡柱穴一覧
第３表　土器観察表（１）
第４表　土器観察表（２）
第５表　土器観察表（３）
第６表　土器観察表（４）
第７表　土器観察表（５）
第８表　土器観察表（６）
第９表　土器観察表（７）
第10表　土器観察表（８）
第11表　土器観察表（９）
第12表　土器観察表(10)
第13表　土器観察表(11)
第14表　剥片石器類観察表（１）
第15表　剥片石器類観察表（２）
第16表　礫石器類観察表（１）
第17表　礫石器類観察表（２）
第18表　ＳＩ06柱穴様ピット一覧
第19表　ＳＩ12柱穴様ピット一覧
第20表　柱穴様ピット一覧
第21表　平安時代土器観察表
第22表　測定試料及び処理
第23表　放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果
第24表　黒曜石産地（東日本）の判別群名称
第25表　産地推定結果


# 図版目次


図版１　１　遺跡近景－右が北（真上から）
　　２　遺跡近景－中央が調査区（南から）
図版２　１　調査前のようす－中央が調査区（南東から）
　　２　調査中のようす－ＳＴ04捨て場（北西から）
図版３　１　基本土層断面－ＳＴ04捨て場－ＳＰ・Ｆ～Ｇ下半分（西から）
　　２　基本土層断面－Ａ区平坦部ＳＴ27捨て場－ＳＰ・Ａ～Ｂ（北東から）
図版４　１　ＳＴ04捨て場遺物出土状況－Ⅸ層ＰＲ736（北西から）
　　２　ＳＴ04捨て場遺物出土状況－Ⅸ層ＲＰ780～784（南から）
図版５　１　ＳＴ04捨て場完掘状況（東から）
　　２　ＳＴ15捨て場遺物出土状況（東から）
図版６　１　ＳＩ03竪穴住居跡完掘状況（東から）
　　２　ＳＩ21竪穴住居跡完掘状況（北から）
図版７　１　ＳＫＦ14フラスコ状土坑完掘状況（北から）
　　２　ＳＫＴ01・02陥し穴完掘状況（東から）
図版８　１　ＳＫＴ02陥し穴土層断面、ＳＫＴ01陥し穴完掘状況（南から）
　　２　ＳＫＴ01・02・05陥し穴完掘状況（南西から）
図版９　１　ＳＩ11・12竪穴住居跡検出状況（南から）
　　２　ＳＩ11カマド遺物出土状況（北西から）
図版10　１　ＳＩ11竪穴住居跡カマド完掘状況（北西から）
　　２　ＳＩ11竪穴住居跡完掘状況（北西から）
図版11　１　ＳＩ12Ａ竪穴住居跡カマド完掘状況（北西から）
　　２　ＳＩ12Ａ竪穴住居跡完掘状況（北東から）
図版12　１　ＳＳ22製鉄炉完掘状況（西から）
　　２　Ａ区平坦部調査終了（南から）

# 第１章　はじめに

## 第１節　調査に至る経過

一般国道７号大館西道路は、大館市街地における交通渋滞や騒音の緩和と県内の高速交通ネットワークの形成など、地域の文化と経済交流の活性化を目的として計画された路線で、大館市根下戸新町地内を起点とし、同市商人留地内を終点とする延長6.2㎞、幅員22ｍの自動車専用道路である。そのうち、根下戸新町地内から釈迦内地内の国道７号までの4.6㎞が部分供用されている。

計画路線内には埋蔵文化財が包蔵されている可能性があることから、道路工事に先立って建設省東北地方建設局能代工事事務所（現国土交通省東北地方整備局能代河川国道事務所）より、文化財保護法に基づいて埋蔵文化財包蔵地の確認と今後の対応について、秋田県教育委員会に調査の依頼があった。これを受けて秋田県教育委員会は、計画路線内の分布調査及び確認調査を実施し、記録保存が必要な埋蔵文化財包蔵地については、発掘調査を実施することになった。

狼穴Ⅱ遺跡の確認調査は平成13年度に行われ、縄文時代と平安時代の遺構と遺物が確認されたことから、平成20年度に発掘調査を実施することに至った。

## 第２節　調査要項

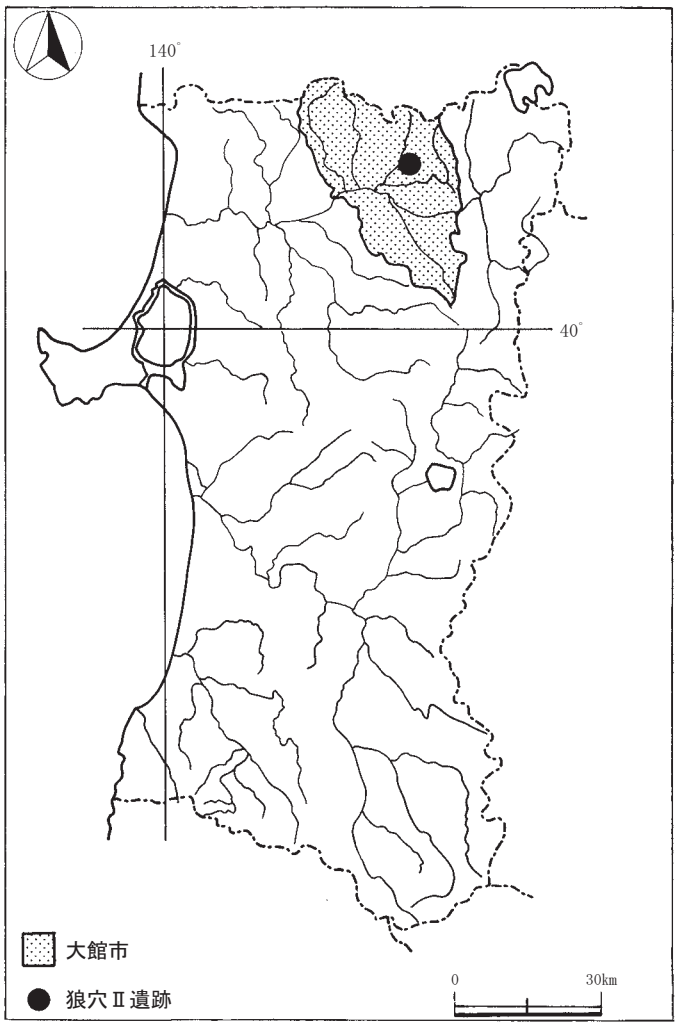
遺　跡　名　狼穴Ⅱ遺跡（おおかみあなにいせき）（遺跡番号　２ＯＡⅡ）
遺跡所在地　秋田県大館市釈迦内字狼穴2－18　外
調査期間　平成20年６月13日～11月21日
調査面積　3,800㎡
調査主体者　秋田県教育委員会
調査担当　秋田県埋蔵文化財センター
　　副主幹：柴田陽一郎
　　文化財主事：髙橋和成
　　調査・研究員：深沢恵里子
調査総務担当　主査：千田喜博　　主事：高村智恵子(調査当時)
調査協力機関　国土交通省東北地方整備局能代河川国道事務所　大館市教育委員会

# 第２章　遺跡の環境

## 第１節　遺跡の位置と立地

狼穴Ⅱ遺跡が所在する大館市は、秋田県の北端に位置する(第１図)。市域は、北を青森県平川市、東を鹿角市・小坂町、南と西が北秋田市に接しており、その面積は913.30㎢で秋田県内では第４位の広さである。

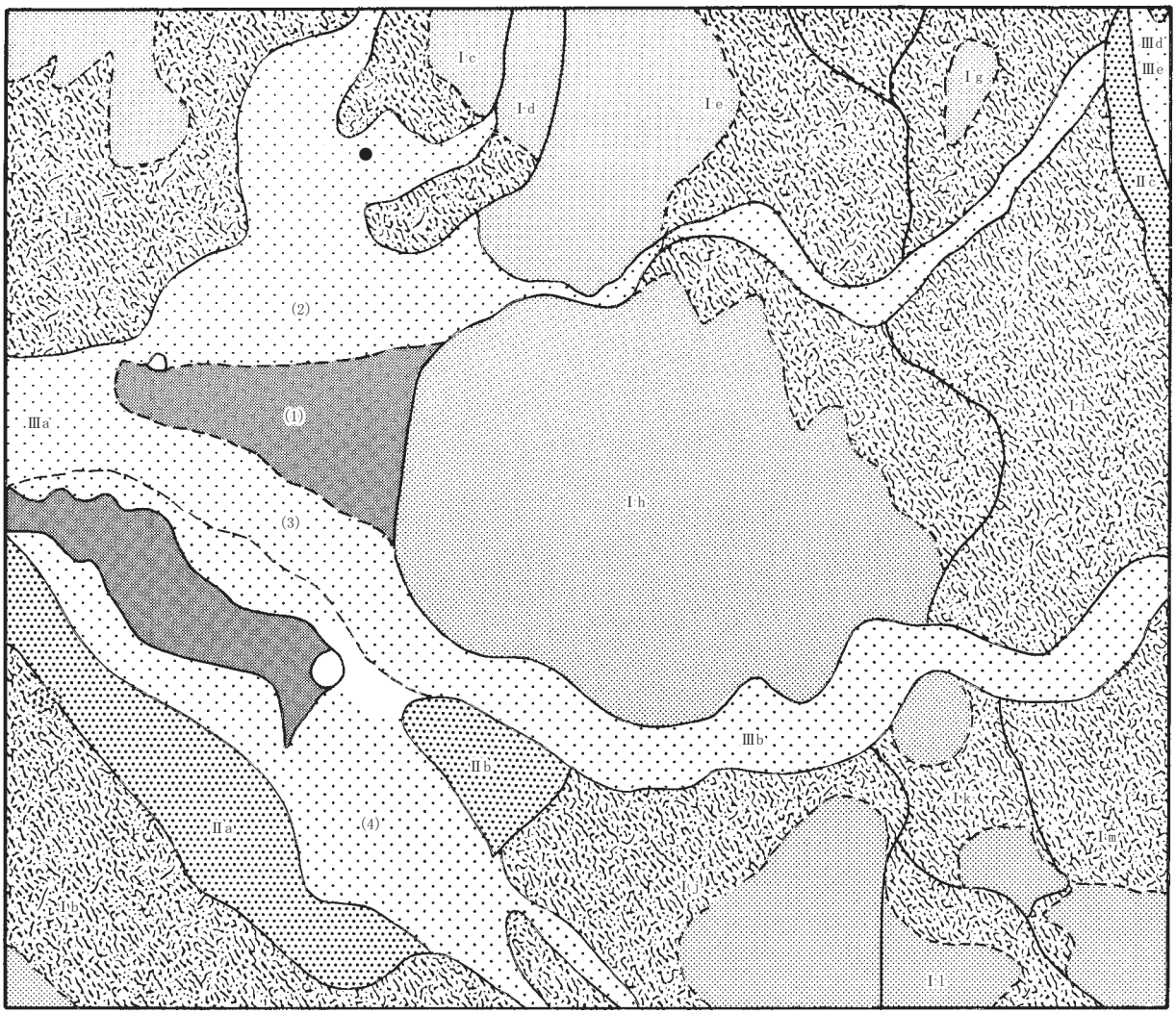
大館市の地形は、大館盆地を囲む山地、盆地に分布する段丘や残丘、山麓沿いに分布する扇状地、盆地内を流れる川沿いの沖積低地からなっている(第２図)。大館盆地は断層により形成された陥没盆地で、盆地の東縁や南西縁ではこれを裏付ける断層崖が現在でも確認できる。盆地をとりまく山地は、北西側に白神山地、東側に高森山地、南西側には摩当山地がある。市街地に近い所では、盆地の東側に鳳凰山(520m)、秋葉山(329m)、獅子ヶ森(224m)があり、西側には大山(378m)を中心とする花岡地区の山地が南北に延びている。盆地内を流れる主要河川は、米代川、長木川、下内川である。米代川は県北第一の主要河川で、岩手県八幡平市(旧二戸郡安代町)の中岳の源流から鹿角市を経て大館市に入り、最終的には日本海に注ぐ。長木川、下内川はこの支流で、長木川は市内茂内屋敷北方の大川目沢に源を発し、盆地中央部を西流して、市内山田渡の西で米代川に合流する。下内川は矢立峠に近い市内陣馬北部の下内沢に源を発して、長走・白沢・釈迦内・沼館と南流して長木川に合流する。なお、下内川沿いの谷底平野は矢立峠付近まで続いており、古来より津軽との重要な交通路として利用されてきた。




**第１図　遺跡位置図**

狼穴Ⅱ遺跡は大館市街地北部の釈迦内地区に所在し、ＪＲ奥羽本線の大館駅から北北東へ約３㎞に位置する(第３図)。

遺跡周辺の地形は火砕流台地と呼ばれる火山起源の地形である。この台地は城ヶ森の橋桁集落付近が最高地点で、そこから南西方向に向かって標高を減じて日景町の乱川対岸付近まで延びる。途中には芝谷地湿原や釈迦内鉱山のあった萩長森の残丘がみられる。また、西を流れる下内川と東を流れる乱川によって挟まれた位置にあり、台地下の水田面とは約10mの高低差がある。




大山山地　（Ⅰa）・比内山地　（Ⅰb）・城ヶ森山地　（Ⅰc）・高森山地　（Ⅰd）
高倉山山地　（Ⅰe）・羽保屋山山地（Ⅰf）・高地山山地　（Ⅰg）・中央山地　（Ⅰh）
松森山地　（Ⅰi）・合窪山山地　（Ⅰj）・三哲山山地　（Ⅰk）・合津山地　（Ⅰl）
尾去沢山地　（Ⅰm）　　山地

比内丘陵地（Ⅱa）・味噌内丘陵地（Ⅱb）・小坂丘陵地（Ⅱc）　　山地

大館盆地　（Ⅲa）　大館丘地（１）・長木川，下内川低地（２）
米代川低地（３）・犀川，引欠川低地（４）　　台地 低地

十二所先行低地（Ⅲb）・長木川峡谷低地（Ⅲc）・元山段丘地（Ⅲd）・小坂川谷低地（Ⅲe）

●狼穴Ⅱ遺跡

**第２図　地形区分図**

## 第２節　歴史的環境

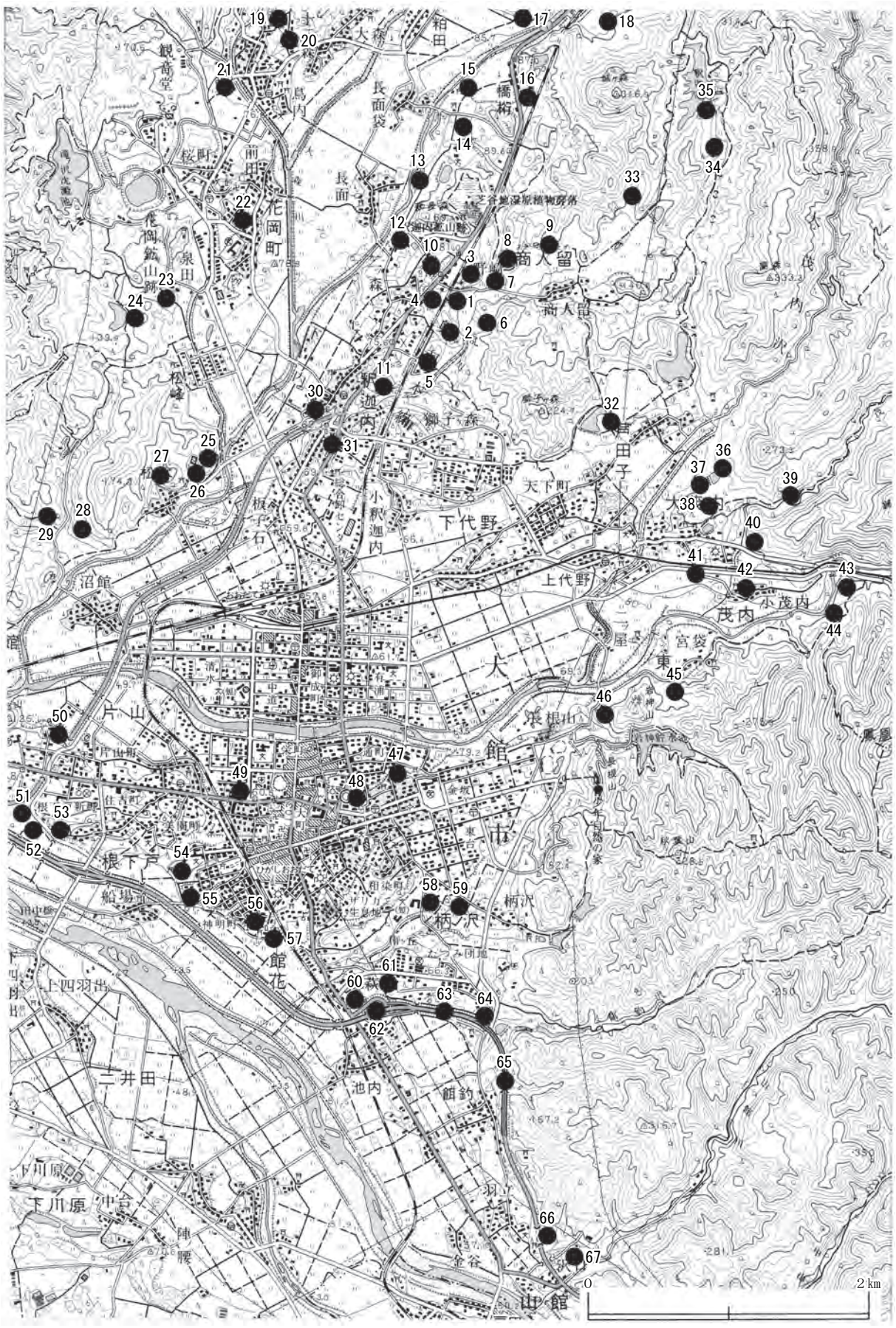
大館市ではこれまでに、旧石器時代から中・近世までの遺跡が157か所確認されている。第３図には、大館市市街地北部に位置する東西約８km、南北約11.8kmの地域の遺跡分布を図示した。この範囲の遺跡の多くは、盆地内に分布する台地上部に位置しており、沖積地にはあまりみられない。

大館市内で確認されている最も古い遺跡は、旧石器時代に属する松木高館平遺跡(26)で、大型の石刃が出土している。縄文時代の遺跡は、早期中葉以降の遺跡が見つかっている。中山の寒沢遺跡、軽井沢の五輪台集落付近にある鳶ヶ長根Ⅳ遺跡からは、貝殻文の土器が比較的まとまって出土しており、根下戸道下遺跡では早期中葉の竪穴住居跡も確認されている。前期の遺跡では集落の調査例が多く、中でも上野にある池内遺跡は、前期中葉～末葉にかけての円筒下層式期の大集落で、大量の土器・石器の外に動植物遺体が出土している。中期の遺跡は、多数見つかっているが集落の様相を把握できるような規模の大きい調査例は少ない。旧比内町の本道端遺跡では、縄文時代の中期の終わり頃の集落が見つかっており、複式炉を伴う住居が検出されている。中期の中頃から波及してくる南東北の大木式文化が、この地域にも影響を及ぼしていることが窺える。後期の遺跡では、中山の寒沢遺跡で７軒、軽井沢の萩峠遺跡で10軒の竪穴住居が見つかっている。このほか茂内新町の塚ノ下遺跡(41)からは、目に天然アスファルトを埋め込んだ土偶が、萩ノ台Ⅱ遺跡(60)からは、十腰内Ⅰ・Ⅱ式に伴って翡翠の大珠が３点出土している。晩期になると、集落のみならず住居跡の検出数も少ない。旧田代町矢石館遺跡では、組石棺墓が５基調査されており、この時期の地域性を示す資料である。

弥生時代の遺跡では、諏訪台Ｃ遺跡(38)で数軒の竪穴住居跡で構成される小集落が、また二ツ森Ⅱ遺跡(10)では土坑墓が見つかっている。しかし弥生時代の調査例は少なく、具体的な様相は不明である。

歴史資料に大館地区に関する記載が最初に見られるのは、元慶二年（878年）に勃発した「元慶の乱」についての記事中である。元慶の乱は、秋田城主介良岑近の悪政に反発した雄物川以北の住民が蜂起した事件で、当時の秋田郡内の各ムラが独立を要求するまでに発展したが、最終的には政治的懐柔策により鎮定された。この独立を要求したムラの中に、当時の大館地方を示す「火内」の文字が記されている。元慶の乱の記事には、当時の各ムラの様子そのものを示す記載は少ないが、律令国家の体制には服属しながらも在地社会のまとまりを残し、対外的な問題には指導者の統率のもと行動がとれる集団が存在していたことが窺える。11世紀代にはそういった流れの中から、安倍・清原・藤原氏が台頭してくる。大館地域もそういった有力者の支配に組み込まれていくと考えられる。

大館市では多くの平安時代の遺跡が確認されており、これまで調査が行われた遺跡によって当時の様相が解明されてきた。時期は９世紀後半から10世紀代が多く、大館野遺跡(17)や扇田道下遺跡(58)は、10世紀代の大きな集落跡であることが分かっている。大館野遺跡では、多くの竪穴住居跡や掘立柱建物跡の他に道路跡に伴うと思われる溝、井戸、製鉄炉が見つかっており、計画的に集落を形成していたことが分かる。また本遺跡（１）の周辺には、同じく平安時代の遺跡である狼穴遺跡(３)、狼穴Ⅲ遺跡(２)、狼穴Ⅳ遺跡(４)、釈迦内中台Ⅰ遺跡(５)、釈迦内中台Ⅱ遺跡(11)、坂下Ⅱ遺跡(７)、野崎遺跡(８)があり、いずれも乱川に面した台地の縁に位置している。




第３図　狼穴Ⅱ遺跡と周辺遺跡

## 第１表　狼穴Ⅱ遺跡と周辺遺跡

| 番号 | 遺跡名 | 時代 | 番号 | 遺跡名 | 時代 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 狼穴Ⅱ | 縄文・平安 | 35 | 釈迦池 | 縄文・弥生 |
| 2 | 狼穴Ⅲ | 縄文・平安 | 36 | 大茂内 | 縄文 |
| 3 | 狼穴 | 縄文・平安 | 37 | 諏訪台 | 縄文 |
| 4 | 狼穴Ⅳ | 縄文・平安 | 38 | 諏訪台Ｃ | 縄文・弥生・平安 |
| 5 | 釈迦内中台Ⅰ | 縄文・弥生・平安 | 39 | 小茂内沢 | 縄文 |
| 6 | 坂下Ⅰ | 不明 | 40 | 蛇沢口 | 縄文・古代 |
| 7 | 坂下Ⅱ | 縄文・平安 | 41 | 塚ノ下 | 縄文・平安 |
| 8 | 野崎 | 縄文・平安 | 42 | 茂内 | 縄文 |
| 9 | 谷地中 | 縄文 | 43 | 鬼ヶ城 | 中世 |
| 10 | 二ツ森Ⅱ | 縄文・弥生 | 44 | 玉林寺跡 | 縄文・中世 |
| 11 | 釈迦内中台Ⅱ | 平安 | 45 | 宮袋 | 縄文 |
| 12 | 二ツ森 | 縄文・古代 | 46 | 岩神 | 縄文 |
| 13 | 福館Ⅱ | 古代 | 47 | 金坂 | 古代・中世 |
| 14 | 福館橋桁野 | 縄文・古代 | 48 | 大館城 | 中世 |
| 15 | 福館 | 中世 | 49 | 土飛山館 | 平安・古代 |
| 16 | 橋桁 | 縄文 | 50 | 片山館コ | 続縄文・中世 |
| 17 | 大館野 | 平安 | 51 | 根下戸Ⅲ | 縄文 |
| 18 | 白沢古館 | 古代・中世 | 52 | 根下戸Ⅱ | 縄文 |
| 19 | 根井下 | 縄文 | 53 | 根下戸Ⅰ | 縄文 |
| 20 | 十三森 | 縄文・古代・中世 | 54 | 稲荷中岱 | 古代・中世 |
| 21 | 七ッ館 | 縄文・古代・中世 | 55 | 太平山 | 縄文 |
| 22 | 花岡城・神山 | 古代・中世 | 56 | 小館町 | 縄文 |
| 23 | 松峰 | 古代・中世 | 57 | 小館花館 | 古代・中世 |
| 24 | 大山板碑 | 中世 | 58 | 扇田道下 | 縄文・平安 |
| 25 | 高館 | 中世 | 59 | 扇田道上 | 古代 |
| 26 | 松木高館平 | 旧石器 | 60 | 萩ノ台Ⅱ | 縄文 |
| 27 | 松木 | 縄文 | 61 | 萩ノ台Ⅰ | 縄文 |
| 28 | 鍛冶屋敷 | 縄文・古代 | 62 | 池内 | 縄文・平安 |
| 29 | 下堤沢 | 古代 | 63 | 上野 | 縄文・平安 |
| 30 | 釈迦内古館 | 中世 | 64 | 餌釣館 | 縄文・平安 |
| 31 | 釈迦内館 | 中世 | 65 | 餌釣 | 縄文・平安・中世 |
| 32 | 芦田子上岱 | 縄文・古代 | 66 | 山館 | 平安・中世 |
| 33 | 田ノ沢 | 縄文 | 67 | 山館上ノ山 | 縄文・平安 |
| 34 | 田ノ沢山 | 縄文 | | | |

# 第３章　発掘調査の概要

## 第１節　遺跡の概観

狼穴Ⅱ遺跡は、下内川と乱川に挟まれた釈迦内台地に所在する。釈迦内台地は北東から南西へ緩く傾斜し、小さな沢により複雑に開析されていくつもの舌状台地が形成されている。本遺跡もそういった舌状台地の上に立地している。調査範囲は舌状に張り出した台地縁辺部が中心であったが、遺跡範囲は台地北東側にも続いていると推定される。調査範囲の地形は、標高約77ｍの舌状に張り出した台地の先端部と標高約68ｍの乱川沖積地からなる。

今回の調査区は、台地上の平坦面と斜面中央・同下方平坦面をＡ区、北東から南西の細長い斜面下方平坦面をＢ区として調査した(第５・６図)。Ａ区平坦面では、縄文時代の狩猟場と集落跡、沢状地形を利用した捨て場、平安時代の集落跡を検出した。同斜面部では、多量の円筒下層式土器や石器を主体とした捨て場を検出した。Ｂ区では現代の撹乱が著しく、Ａ区に比べて遺構は希薄であった。遺物は南側では土師器片が少量出土した。中央では縄文土器片がまとまって出土したが、Ａ区斜面部の捨て場からの流れ込みと判断される。縄文時代、平安時代ともに台地平坦面を生活の中心として利用していたと推察される。

## 第２節　調査の方法

表土の除去は重機によって、Ａ区は捨て場以外の斜面とＢ区の平坦面を行った。遺構精査や表土以下の掘り下げは移植篦・スコップ等を使用して人力で作業を行った。調査方法は、計画的な調査計画立案と遺構・遺物の検出地点を把握するため、グリッド法を採用した(第４図)。設定方法は、調査区に設置されていた４級基準点No. H13-8もしくはH13-9を基準として、国家座標値を導き出し、調査範囲の中央にグリッド原点ＭＡ50を打設した。これを通る国家座標第Ｘ系座標北を求め、このラインを南北基線、これに直交するラインを東西基線とした。この東西南北に沿って４×４ｍのグリッドを設定し、東西方向には東から西へ４ｍごとに「ＬＦ・ＬＧ・・・ＬＴ・ＭＡ・ＭＢ・・・ＭＳ・ＭＴ」という２文字のアルファベットを、南北方向には南から北へ４ｍごとに「39・40・・・48・49・50・・・69・70」という２桁の数字を与え、このアルファベットと数字の組み合わせからなる記号を各グリッドの名称とした。なお、グリッド杭は４ｍ間隔の東西基線と南北基線の交点全てに打設し、前記のグリッド名称を南東隅の杭に記入した。

調査の記録は、平面図・断面図及び写真で行った。平面図・断面図の縮尺は１/20を原則としたが、遺構細部の図面を必要とする際には１/10で作図した。写真撮影は、35㎜のモノクロ、リバーサル、カラーフィルム及び、デジタルカメラを使用した。遺物は、遺構内出土のものは出土遺構名・出土層位・遺物番号・出土年月日を記入し、遺構外出土のものは出土グリッド・出土層位・遺物番号・出土年月日を記入したラベルとともに取り上げた。遺構内出土のものは、適宜出土地点の位置を記録した。

## 第３節　調査の経過

調査は、平成20年６月13日～11月21日まで実施した。以下に、各週ごとの調査経過を記述する。

【第１週】６月13日

調査区の現況確認や測量用杭打設状況を確認し、掘削現場代理人と今後の調査の打ち合わせをした。

【第２週】６月16日～６月20日

機材の搬入・環境整備などを行い、確認調査時のトレンチ壁面精査、基本層位の確認をした。

【第３週】６月23日～６月27日

東側斜面では、縄文時代の捨て場(以下ＳＴ04)の層位と遺物出土範囲確認のため新たに2本のトレンチを設置。遺物が集中して出土し始めたのでトータルステーションで出土地点の計測を開始した。

【第4週】６月30日～７月４日

Ａ区台地上では、北側の平坦面から遺構検出作業に入った。東側斜面のトレンチ裾部では多量の遺物が出土し始めた。

【第５週】７月７日～７月11日

Ａ区台地上では、縄文時代の竪穴住居跡などを確認し、ＳＴ04では裾部から３個体程の深鉢形土器が重なって出土。裾部から沢状地形に向かってトレンチを延長し捨て場の範囲を確認した。

【第６週】７月14日～７月18日

ＳＴ04の掘り下げと土層断面図作成を行った。ＳＴ04の北東側の範囲を確認するために、斜面に直行する方向にトレンチを設置した。

【第７週】７月22日～７月25日

Ａ区台地上では、基本土層断面図を作成した。ＳＴ04では、ＬＳラインより西側の斜面上部から本格的に掘り下げを開始した。

【第８週】７月28日～８月１日

Ａ区台地上では、Ⅱ層で溝跡を確認し、精査、図化作業を進めた。

【第９週】８月４日～８月８日

Ａ区台地上では、縄文時代の竪穴住居跡、陥し穴、平安時代の竪穴住居跡、溝跡の精査及び図化作業を終了した。ＳＴ04では、遺物包含層のⅡｂ層、Ⅱｃ層の掘り下げと遺物の取り上げを進めた。

【第10週】８月19日～８月21日

Ａ区台地上では、ＳＴ27捨て場のＶａ層で縄文時代前期の土器がまとまって出土した。

【第11週】８月25日～８月29日

Ａ区台地上で平安時代の竪穴住居跡の３軒の重複を確認、ＳＴ04でⅣｆ層の遺物取り上げを行った。

【第12週】９月１日～９月５日

Ａ区台地上では、フラスコ状土坑を検出した。ＳＴ04では、Ⅱｃ層、Ⅳｆ層の掘り下げがほぼ終了。

【第13週】９月８日～９月12日

Ａ区台地上ではＳＴ28の掘り下げを開始した。ＳＴ04では、Ⅷ層、Ⅸ層の掘り下げを進めた。

【第14週】９月16日～９月19日

Ｂ区では、溝跡の図化作業が終了した。

【第15週】９月22日、９月24日～９月26日

ＳＴ04では、Ⅱｂ、ｃ層、Ⅳｆ層の掘り下げと遺物の取り上げを行った。

【第16週】９月29日～10月３日

北東斜面で新たに捨て場（以下ＳＴ15）を確認し掘り下げを開始した。

【第17週】10月６日～10月10日

ＳＴ15はⅡ層から遺物がまとまって出土した。

【第18週】10月14日～10月18日

17日には釈迦内小学校６年生の遺跡見学を行った。また、18日には遺跡見学会を実施し、見学者102名が来跡した。

【第19週】10月20日～10月24日

Ａ区台地上では、平安時代の竪穴住居跡の精査を終了した。新たに縄文時代の竪穴住居跡が検出され精査を開始した。Ｂ区北側は、遺物包含層上面までを重機で掘削した。

【第20週】10月27日～10月31日

28日には航空写真撮影を実施した。Ａ区台地上では縄文時代の竪穴住居跡の精査を終了した。ＳＴ04では、Ｘ層を掘り終わりＳＴ04の精査を終了した。ＳＴ15では遺物の取り上げを行い、精査を終了した。Ｂ区北側では、溝跡が確認され精査を開始した。

【第21週】11月４日～11月７日

Ａ区台地上では、新たに製鉄炉を検出し精査を開始した。Ｂ区北側では、溝跡の精査を行い、Ｂ区の精査を終了した。

【第22週】11月10～11月14日

Ａ区台地上では製鉄炉の精査及びＳＴ27･28が終了し、Ａ区台地上の精査を完了した。Ｂ区北側では、新たに検出した溝跡の精査、遺物包含層の掘り下げを終了した。文化財保護室立ち会いのもと国土交通省東北地方整備局能代河川国道事務所に調査区の引き渡しを行った。

【第23週】11月17日～21日

発掘機材を撤収し、すべての作業を終了した。

## 第４節　整理作業の方法と経過

遺構関係の整理作業では、遺構調査段階で作製した原図をもとに、平面図・断面図を組み合わせて製図、レイアウトを行い、遺構図は縮尺を１/40、カマドや焼土遺構は縮尺を１/20で図示した。版面に収まらないものは、例外的に別縮尺で図示している。また、遺構内出土遺物については、出土遺構との関連性を重視する意味で極力図示した。遺物関係では、遺物の分類に当たって、各遺物全点観察を行い、種別や器種に漏れが生じないように注意した。土器については、可能な限り推定口径を復元して実測を行った。また、土器破片の分類では、胎土・焼成・原体・調整の種類などからできるだけ同一個体を抜き出し、別個体と思われる資料を報告書掲載資料として抽出した。

# 第４章　調査の記録

## 第１節　基本層序（第５・７・８図、図版３）

調査開始当初、確認調査時に設定した台地を縦横断する３トレンチ及び５トレンチを復原し、さらに東側斜面には20トレンチを新設した。これらの土層観察から基本土層を決定し、その層位毎に掘り下げを進めた。

Ａ区台地上では表土から地山を含めて大別して21層に分けた。Ⅱ層が平安時代の遺物包含層であり、第一の遺構検出面となる。Ⅲ層が十和田ａ火山灰層である。Ⅳ層は平安時代の遺物包含層であるが土師器と少量の縄文土器が混在して出土する。Ⅴ層は縄文時代の遺物包含層である。Ⅵ層以下は縄文時代以前に谷内に堆積していたものと考えられ、全くの無遺物層である。

Ａ区東側斜面のＳＴ04捨て場では大別して10層に分けられ、Ⅱ層、Ⅳ層及びⅧ・Ⅸ層の３つの遺物包含層があり、層位が下がるに従い遺物の密度、破片の大きさは増大する。遺物の出土量・出土状況から最下層の包含層であるⅧ・Ⅸ層が捨て場の主体となる層位である。

## 第２節　検出遺構と出土遺物

今回の調査では縄文時代の竪穴住居跡・フラスコ状土坑・陥し穴、平安時代の竪穴住居跡・製鉄炉などの遺構を検出した。Ａ区の台地上では現代の宅地・農地造成による削平で、縄文時代の竪穴住居跡の壁、土坑の上部が残っていないなど、遺構が部分的に壊された状況で検出した例が多々見られた。

柱穴様ピットは精査の結果、平面形や断面形、土壌の堆積状況を検証して、柱を立てたような穴を認定して番号を付したものである。ここでは遺構に関連もしくは関連する可能性のあるものは「柱穴」（Ｐ）として記述する。遺物は出土状況やその特徴の概要と掲載点数を記した。詳細は観察表に明記している。

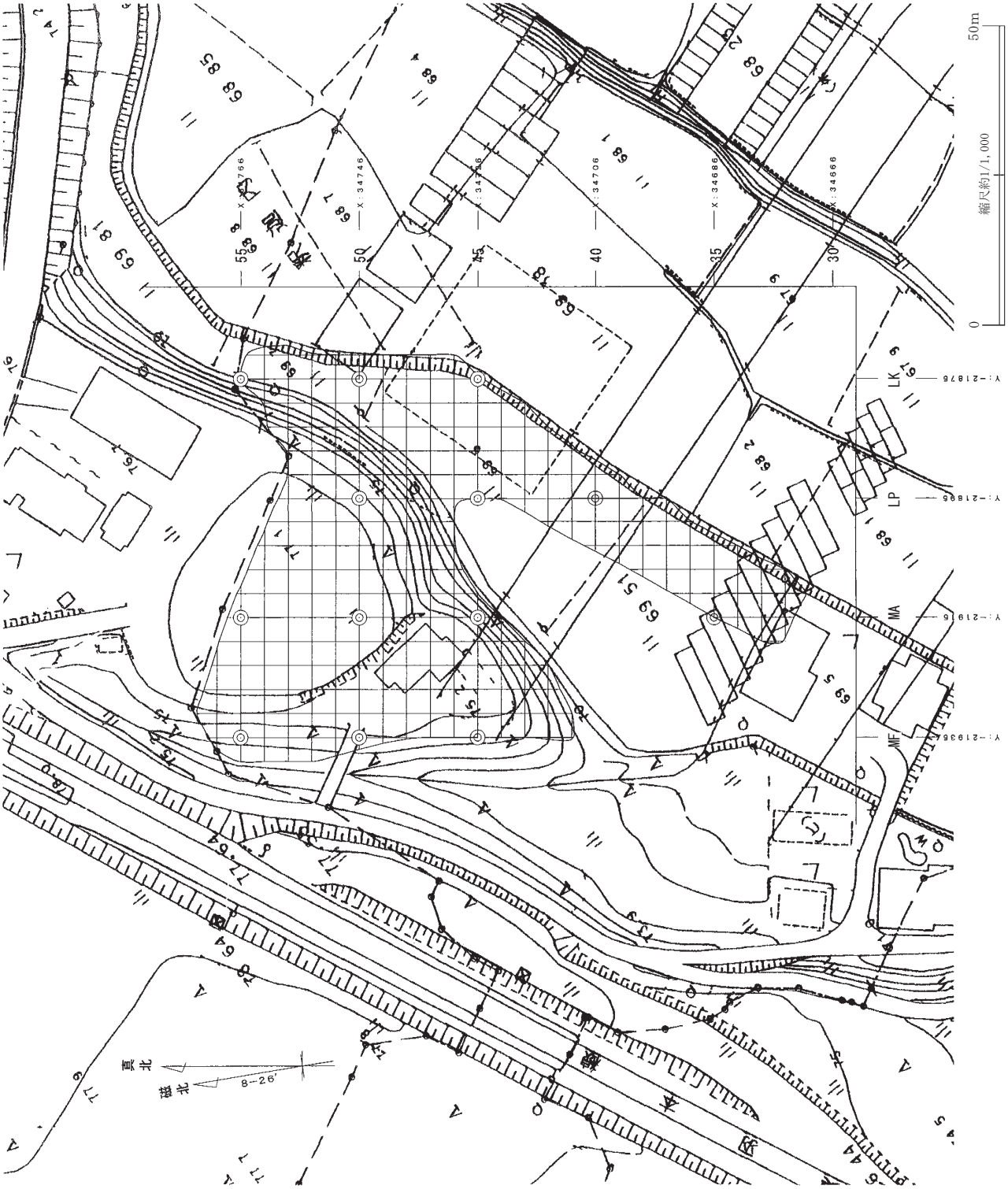
### １　縄文時代の遺構と遺物

#### （１）竪穴住居跡

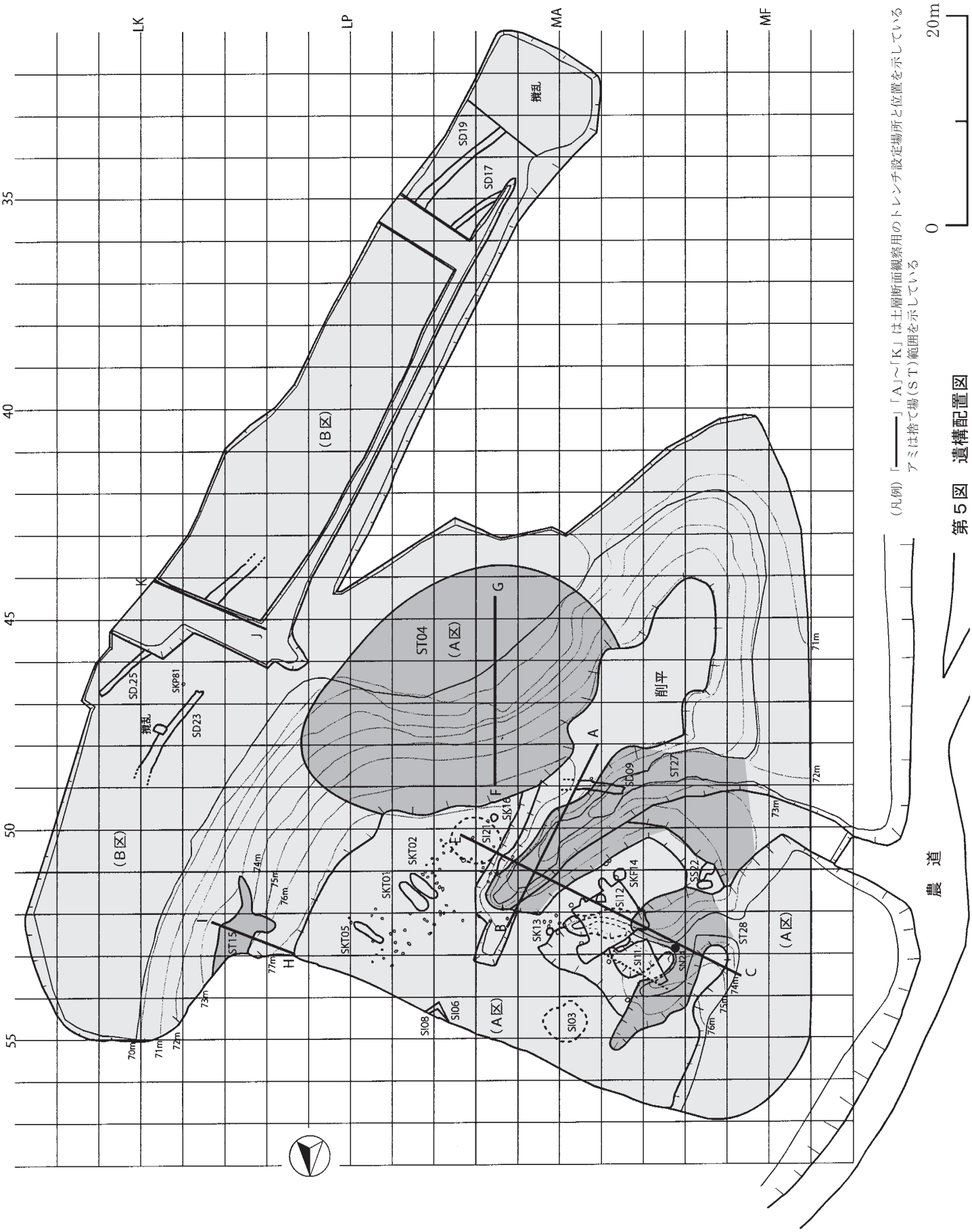
**ＳＩ03**（第９図、第２表、図版６）

**遺　構**　Ａ区のＭＡ54・ＭＢ54グリッドに位置し、地山面で確認した。現代の造成工事などによる著しい削平・不整形な土坑状の掘り込み（撹乱）のため壁は残っていなかったが、柱穴と炉の位置で竪穴住居跡と判断した。重複する遺構は無い。

炉は「擂り鉢」状の掘り込みをもつ地床炉で、炉の規模は長軸0.60ｍ、短軸0.55ｍ、深さ0.25ｍである。炉の周辺に７本の柱穴を確認した。柱穴のうち、Ｐ２、Ｐ６は平面形が円形で、深さがそれぞれ0.45ｍ、0.49ｍと他の柱穴より深いという共通性があることから主柱穴と判断できる。Ｐ３、Ｐ４も配置や平面形が円形である事からこの遺構に伴うと想定される。この遺構の規模はＰ２、Ｐ６の位置から径が2.5ｍから3.0ｍほどと推定される。

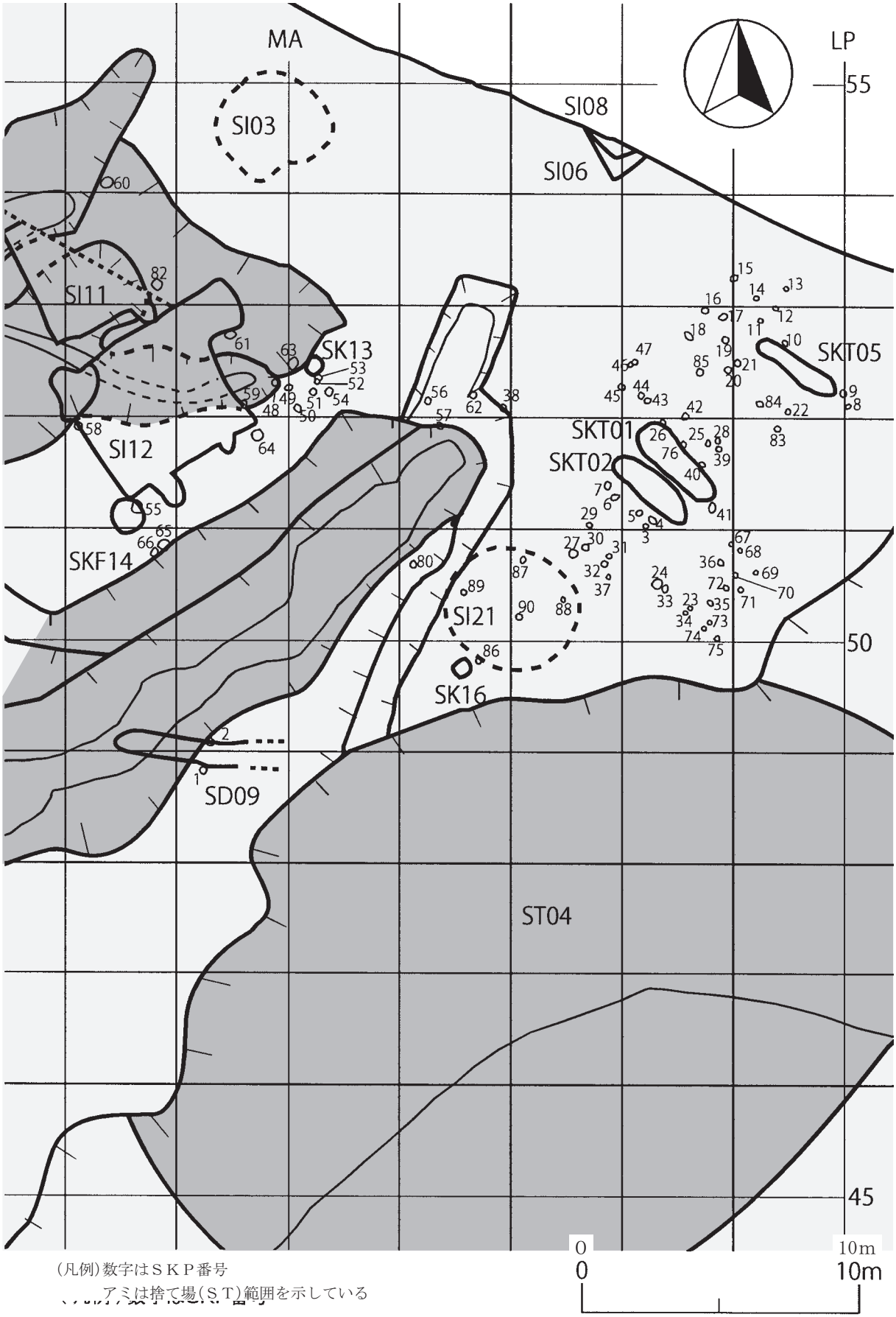



第４図　グリッド配置図（地形図）



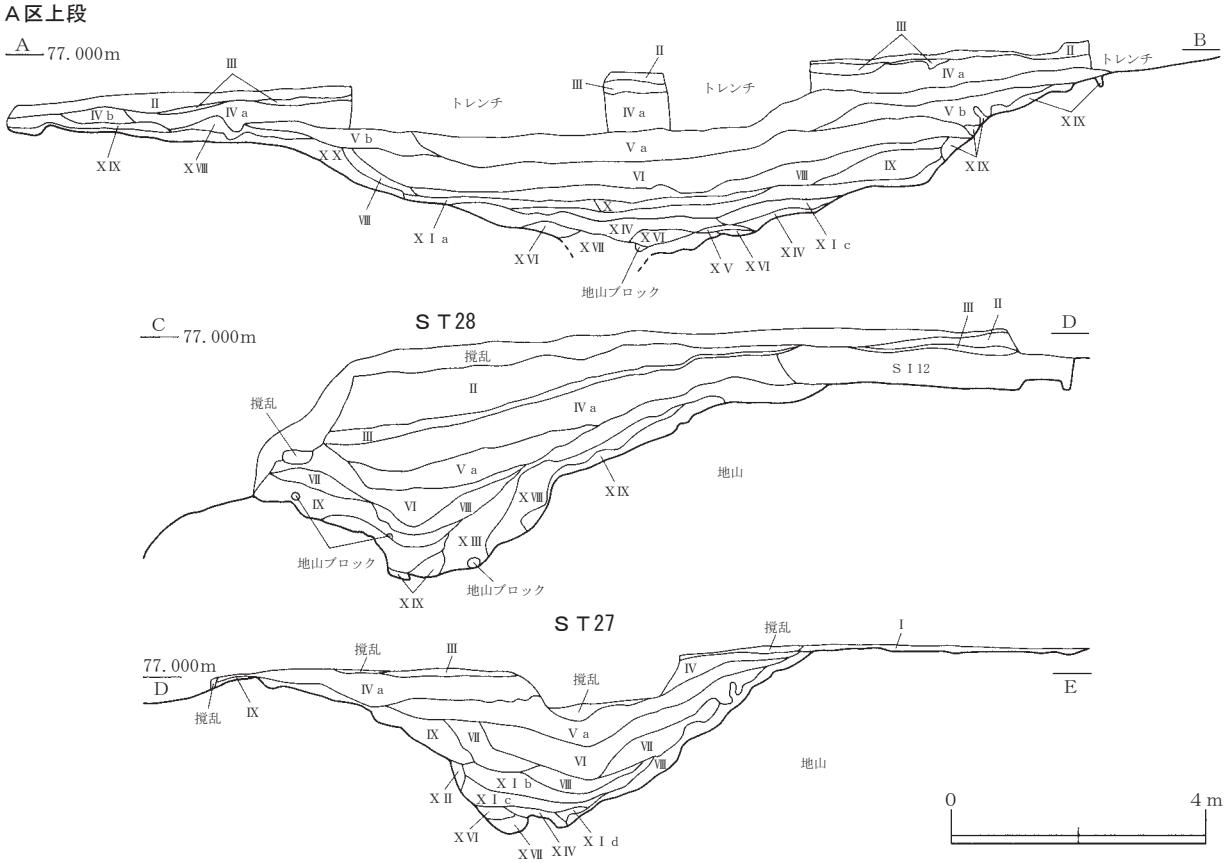

（凡例）「――」「A」～「K」は土層断面観察用のトレンチ設定場所と位置を示している
アミは捨て場（ＳＴ）範囲を示している

第５図　遺構配置図



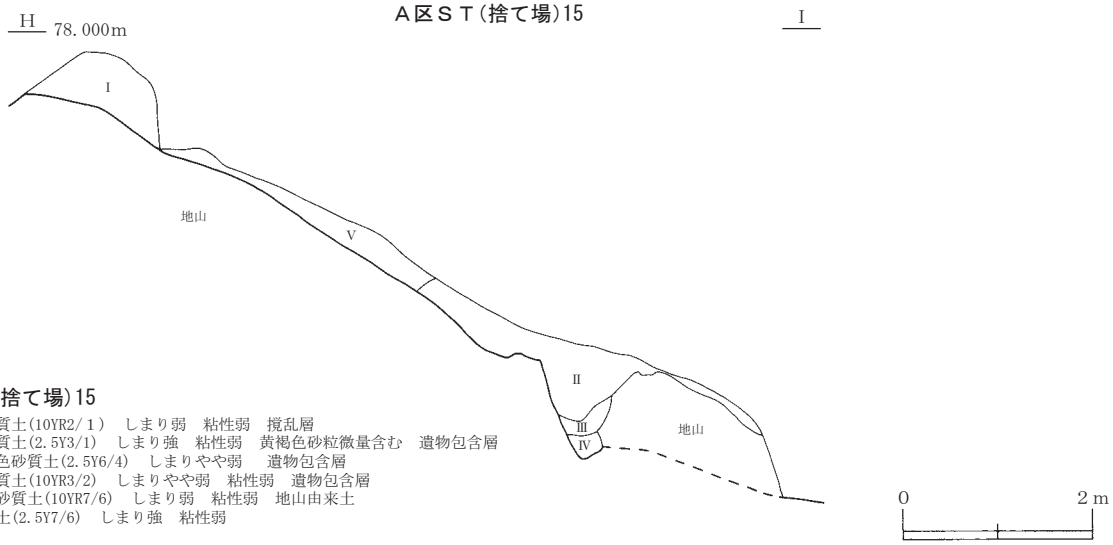

（凡例）数字はＳＫＰ番号
　　アミは捨て場（ＳＴ）範囲を示している

第６図　柱穴様ピット（ＳＫＰ）配置図




## Ａ区上段・ＳＴ(捨て場)27・28

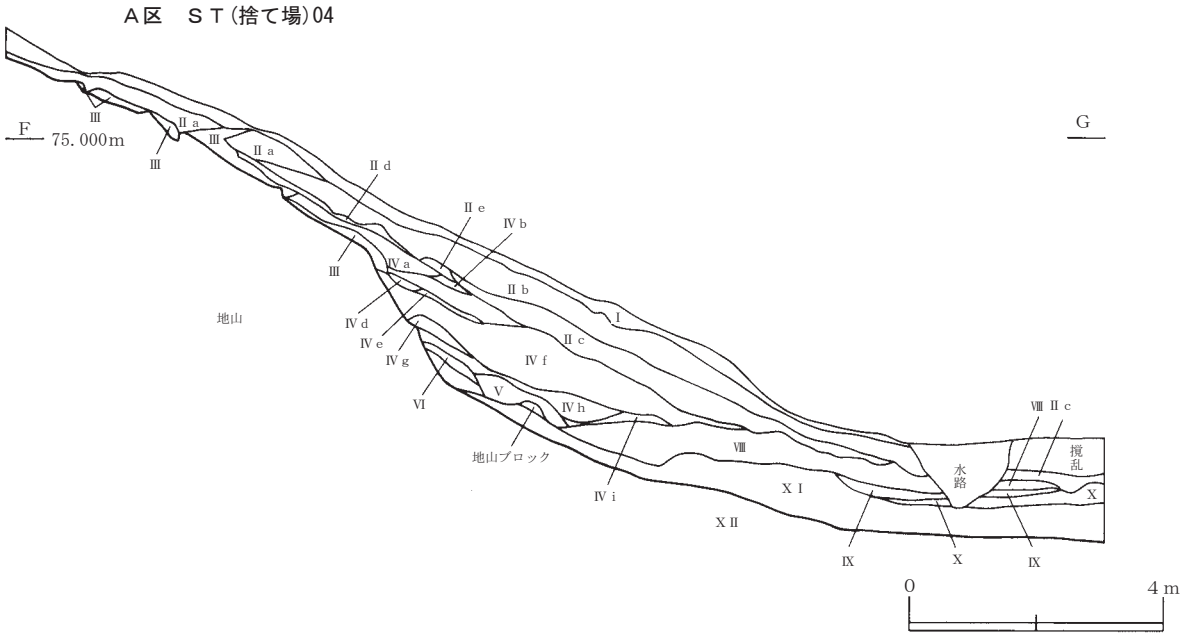
Ⅰ層　黒褐色土(10YR2/2)　しまり強　粘性弱　小礫多量含む
Ⅱ層　黒色土(10YR2/1)　しまり強　粘性弱　小礫多量含む
Ⅲ層　(火山灰)　黄褐色砂層(10YR5/6)　しまり強　粘性弱　軽石多量、砂粒多量含む
Ⅳａ層（包含層）　黒色土(10YR2/1)　しまり強　粘性弱　黄褐色土塊少量、小礫少量含む
Ⅳｂ層　黒褐色土(10YR2/2)　しまり強　粘性弱　小礫微量含む
Ｖａ層（包含層）　黒色土(10YR2/1)　しまり強　粘性弱　黄褐色土粒多量、小礫少量含む
Ｖｂ層　黒色土(10YR2/1)　しまり強　粘性弱　黄褐色土粒多量、白色砂粒多量、小礫少量含む
Ⅵ層　黒色土(10YR1.7/1)　しまり強　粘性弱　黄褐色土塊微量、黄褐色土粒多量、小礫少量含む
Ⅶ層　黒褐色土(10YR2/2)　しまり強　粘性弱　黄褐色土塊微量、黄褐色土粒多量含む
Ⅷ層　黒色土(10YR2/1)　しまり強　粘性弱　黄褐色土塊少量、黄褐色土粒多量含む
Ⅸ層　暗褐色砂(10YR3/4)　しまり強　粘性弱　橙色粘土塊微量、小礫多量含む
Ⅹ層　黒色土(10YR1.7/1)　しまり強　粘性弱　黄褐色土塊少量、小礫微量含む
ⅩⅠａ層　黒色土(10YR2/1)　しまり強　粘性弱　黄褐色土粒多量、軽石微量、小礫微量含む
ⅩⅠｂ層　黒色土(10YR2/1)　しまり強　粘性弱　黄褐色土塊・粒多量、軽石微量、小礫微量含む
ⅩⅠｃ層　黒色砂(10YR2/1)　しまり強　粘性弱　黄褐色土塊少量、軽石多量、小礫微量含む
ⅩⅠｄ層　黒褐色砂(10YR2/1)　しまり強　粘性弱　黄褐色土塊多量含む
ⅩⅡ層　明黄褐色土(10YR6/8)しまり強　粘性弱
ⅩⅢ層　黒褐色土(10YR2/3)しまり強　粘性弱　黄褐色土塊少量、黄褐色砂塊・粒多量含む
ⅩⅣ層　黒色土(10YR1.7/1)しまり強　粘性弱　黄褐色土塊微量、黄褐色土粒多量含む
ⅩⅤ層　暗褐色土(10YR3/4)しまり強　粘性弱　酸化鉄粒多量含む
ⅩⅥ層　黒色土(10YR1.7/1)しまり強　粘性弱　明黄褐色砂粒多量含む
ⅩⅦ層　黒色土(10YR1.7/1)しまり強　粘性弱　明黄褐色砂粒微量含む
ⅩⅧ層　黒色土(10YR2/1)しまり強　粘性弱　明黄褐色砂塊微量、明黄褐色土塊多量小礫少量含む
ⅩⅨ層　黄褐色砂(10YR5/6)しまり強　粘性弱　小礫微量含む
ⅩⅩ層　褐色土(10YR4/4)しまり強　粘性弱　黄褐色土塊微量含む
地山　黄橙色砂(10YR7/8)




## Ａ区　ＳＴ(捨て場)15

Ⅰ層　黒褐色砂質土(10YR2/１)　しまり弱　粘性弱　撹乱層
Ⅱ層　黒褐色砂質土(2.5Y3/1)　しまり強　粘性弱　黄褐色砂粒微量含む　遺物包含層
Ⅲ層　にぶい黄色砂質土(2.5Y6/4)　しまりやや弱　遺物包含層
Ⅳ層　黒褐色砂質土(10YR3/2)　しまりやや弱　粘性弱　遺物包含層
Ⅴ層　明黄褐色砂質土(10YR7/6)　しまり弱　粘性弱　地山由来土
地山　明黄褐色土(2.5Y7/6)　しまり強　粘性弱

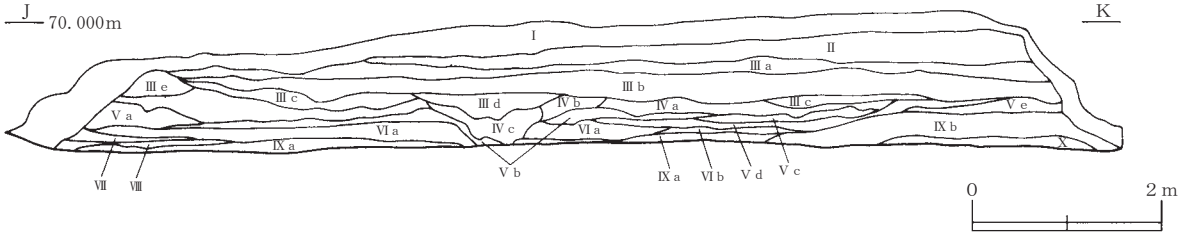
**第７図　基本土層図(１)**




### Ａ区　ＳＴ(捨て場)04

Ⅰ層　黒褐色土(10YR2/2)　しまり強　粘性弱　黄褐色砂粒少量含む
Ⅱａ層　黒色土(10YR2/1)　しまり強　粘性弱　黄褐色砂粒少量、小礫微量含む
Ⅱｂ層　黒色土(10YR1.7/1)　しまり強　粘性弱　黄褐色砂粒微量、小礫少量含む
Ⅱｃ層　黒色土(10YR1.7/1)　しまり強　粘性弱　炭化物粒微量、黄褐色砂・粒微量　小礫微量含む
Ⅱｄ層　黒色土(10YR2/1)　しまり強　粘性弱　黄褐色砂粒少量含む
Ⅱｅ層　黒色土(10YR2/1)　しまり強　粘性弱　炭化物粒微量、黄褐色砂塊・粒微量含むⅢ層　褐色砂(10YR4/6)　しまり強　粘性弱
Ⅳａ層　黒褐色土(10YR2/2)　しまり強　粘性弱　炭化物粒微量、黄褐色粘土塊・粒多量含む
Ⅳｂ層　黒褐色土(10YR2/2)　しまり強　粘性弱　黄褐色粘土塊・粒少量含む
Ⅳｃ層　黒色土(10YR2/1)　しまり強　粘性弱　炭化物塊・粒微量、黄褐色粘土塊・粒微量、小礫微量含む
Ⅳｄ層　黒褐色土(10YR2/2)　しまり強　粘性弱　炭化物粒微量、黄橙色粘土塊・粒多量、黄褐色砂粒少量含む
Ⅳｅ層　黒褐色土(10YR2/2)　しまり強　粘性弱　黄褐色粘土塊・粒多量含む
Ⅳｆ層　(包含層)　黒褐色土(10YR2/2)　しまり強　粘性弱　炭化物粒微量、黄橙色粘土塊・粒多量、小礫微量含む
Ⅳｇ層　暗褐色土層(10YR3/3)　しまり強　粘性弱　黄橙色粘土塊・粒多量、黄橙色砂粒多量
Ⅳｈ層　黒褐色土層(10YR2/2)　しまり強　粘性弱　黄橙色粘土塊・粒多量含む
Ⅳｉ層　黒色土(10YR2/1)　しまり強　粘性弱　黄橙色粘土塊・粒多量、小礫微量含む
Ⅴ層　黒色土(10YR1.7/1)　しまり強　粘性弱　黄橙色粘土塊・粒多量、地山土塊少量含む
Ⅵ層　暗褐色土(10YR3/4)　しまり強　粘性弱　地山土塊多量含む(崩落土か？)
Ⅶ層　褐色土(10YR4/4)　しまり強　粘性弱　地山土塊多量含む(崩落か？)
Ⅷ層　(捨て場層)　黒色土(10YR2/1)　しまり強　粘性弱　黄橙色粘土・粒多量含む　＊酸化鉄分が５㎜～１㎝の帯になっている
Ⅸ層　(捨て場層)　黒色土(10YR1.7/1)　しまり強　粘性弱　小礫微量含む
Ⅹ層　灰黄褐色砂(10YR5/2)　しまり強　粘性弱　炭化物粒微量、小礫微量含む
ⅩⅠ層　黒色土(10YR1.7/1)　しまり強　粘性やや強　黄褐色小粒子微量含む
ⅩⅡ層　黄灰色砂(2.5Y4/1)　しまり弱　粘性弱　(地山と対応する)
地山　明黄褐色土(10YR6/8)

### Ｂ区




### Ｂ区

Ⅰ層　黒褐色砂質土層(2.5Y2/1)　表土
Ⅱ層　にぶい黄褐色砂質土層(10YR5/3)　現代の道路跡
Ⅲａ層　黒色シルト質土層(10YR2/1)　しまり強　粘性やや強　明黄褐色極小砂粒微量含む
Ⅲｂ層　黒色シルト質土層(2.5Y2/1)　しまり強　粘性弱　明黄褐色小砂粒微量、暗褐色砂中ブロック含む
Ⅲｃ層　黒褐色シルト質土層(2.5Y3/1)　しまり強　粘性弱　白色・明黄褐色極小砂粒微量含む
Ⅲｄ層　黒色シルト質土層(5YR1.7/1)　しまりやや強　粘性やや強　白色、黄褐色極小砂粒微量含む　黒褐色小ブロック含む
Ⅲｅ層　黒色シルト質土層(10YR2/1)　しまりやや強　粘性極めて弱　黄褐色極小砂粒少量含む
Ⅳａ層　黒色シルト質土層(5Y2/1)　しまりやや強　粘性やや強　白色極小砂粒微量含む　遺物包含層
Ⅳｂ層　黒褐色シルト質土層(2.5Y3/1)　しまりやや弱　粘性やや弱　淡黄褐色砂粒大ブロック含む　遺物包含層
Ⅳｃ層　黒褐色シルト質土層(2.5Y3/1)　しまりやや強　粘性やや弱　褐色小・中ブロック多量含む　遺物包含層
Ⅴａ層　黒色シルト質土層(2.5Y2/1)　しまりやや弱　粘性弱
Ⅴｂ層　黒色シルト質土層(10YR1.7/1)　しまりやや弱　粘性やや弱　白色、黄褐色極小砂粒格微量含む
Ⅴｃ層　黒褐色シルト質土層(10YR3/1)　しまり強　粘性強　黄褐色、赤褐色小砂粒微量含む　遺物包含層
Ⅴｄ層　オリーブ褐色シルト質土層(5Y2/2)　しまり強　粘性やや弱　赤褐色極小砂粒微量含む
Ⅴｅ層　黒色シルト質土層(10YR2/1)　しまり強　粘性やや弱　白色、明黄褐色極小砂粒微量含む
Ⅵａ層　黒褐色砂質土層(2.5Y3/1)　しまりやや強　粘性弱　黄褐色小砂粒中量、黒色小ブロック含む遺物包含層
Ⅵｂ層　にぶい黄色砂質土層(2.5Y6/4)　しまりやや強　粘性強　白色、赤褐色極小砂粒少量含む　遺物包含層
Ⅶ層　黒色シルト質土層(5Y2/1)　しまりやや弱　粘性強
Ⅷ層　黒褐色砂質土層(10YR3/1)　しまりやや強　粘性弱　赤褐色小砂粒微量含む　遺物包含層
Ⅸａ層　黒色シルト質土層(5YR1.7/1)　しまりやや弱　粘性強
Ⅸｂ層　黒色シルト質土層(5YR1.7/1)　しまりやや弱　粘性弱
Ⅹ層　灰黄褐色砂層(10YR4/2)　しまりやや強

## 第８図　基本土層図(２)

**遺　物**　縄文土器（第17図１～４）、円盤状土製品（第57図409）、石鏃（第59図S6）
が出土した。土器は床面直上からの出土である。１～４は縄文か撚糸文を施文している。１は撚糸文を施文した土器底部で、外底面にも撚糸文と思われる文様を施文している。いずれの土器も胎土や焼成から縄文時代前期のものと考えられる。

**ＳＩ21**（第10・11図、第２表、図版６）

**遺　構**　Ａ区のＬＲ50・ＬＱ50グリッドに位置し、地山面で確認した。現代の造成工事などによる著しい削平のため壁は残っていなかったが、柱穴と炉の位置で竪穴住居跡と判断した。重複する遺構は無い。

炉は「擂り鉢」状の掘り込みをもつ地床炉で、炉の規模は長軸0.43ｍ、短軸0.40ｍ、深さ0.08ｍである。炉の周辺に12本の柱穴を確認した。炉から2.5ｍの範囲内で柱穴が９基と比較的まとまって確認できた。このうちＰ２・５～７・10は断面形や規模が類似しているが、炉を円形や楕円形で囲むような配列にはならず、本遺構に伴う柱穴か否かの判断は難しい。

**遺　物**　縄文土器（第17図５）、砥石（第75図S135）が出土した。５は撚糸文を施文した土器で、胎土や焼成から縄文時代前期と考えられる。

**（２）フラスコ状土坑**

**ＳＫＦ14**（第12図、図版７）

**遺　構**　ＭＢ50・51グリッドに位置し、Ａ区第21層で円形の黒褐色土の広がりを確認した。ＳＩ12Ａ・Ｂと重複し、本遺構の方が古い。周辺にはＳＩ03・21、ＳＫ13・16、ＳＴ27・28がある。

堆積土は９層に分けた。１～９層まで黒褐色または黒色基調の土がレンズ状に堆積していることから、自然堆積により埋没したものと考えられる。３・５・６層は地山土粒・塊を多量に含んでおり、壁面からの崩落土を含んでいる。廃絶後は自然堆積により埋没している。

平面形は開口部、底面共に楕円形である。規模は開口部が長径0.96ｍ、短径0.90ｍ、底面が長径1.46ｍ、短径1.34ｍで、検出面から底面までの深さは0.52ｍである。断面形はフラスコ状で、検出面より0.32ｍ下で傾斜が変わり、下位ほど外側に膨らむ。底面は平坦である。

**遺　物**　２層と４層から縄文土器片が２点出土（第17図６・７）した。土器は縄文や撚糸文を施文した土器である。６，７は撚糸文を施文しており、胎土や焼成から縄文時代前期と考えられる。

**（３）土坑**

**ＳＫ13**（第12図）

**遺　構**　Ａ区のＬＴ52グリッドに位置し、第21層で楕円形の黒色土の広がりを確認した。重複する遺構はない。周辺にはＳＩ03・21、ＳＫＦ14、ＳＫ16、ＳＴ27・28がある。

堆積土は１層のみである。上部削平のため本来の埋没過程は不明である。平面形は楕円形で、規模は長径0.66ｍ、短径0.61ｍで、検出面から底面までの深さは0.18ｍである。壁は急角度で、底面にはやや凹凸がある。

**遺　物**　本遺構からは遺物が出土しなかったが、検出面や周辺の遺構分布から縄文時代の遺構と考えられる。

**ＳＫ16**（第12図）

**遺　構**　Ａ区のＬＳ46グリッドに位置し、第21層で楕円形の黒褐色土の広がりを確認した。重複する遺構はない。周辺にはＳＩ03・21、ＳＫＦ14、ＳＫ13、ＳＴ27・28がある。

堆積土は１層のみである。上部削平のため本来の埋没過程は不明である。平面形は不正な楕円形で、規模は長径0.70ｍ、短径0.55ｍで、検出面から底面までの深さは0.35ｍである。壁は急角度で、底面は平坦である。

**遺　物**　１層から縄文土器片が２点出土（第17図19・20）した。20は口縁部に縄文原体の圧痕文を施文している。土器は胎土や焼成から縄文時代前期と考えられる。

**（４）陥し穴**（第13～15図､図版７・８）

Ａ区上段の北側平坦部で、３基を表土下の地山面において近接・並列した状態で検出した。これらの遺構周辺は現代の造成工事などにより地山が削平されている場所である。

周辺では比較的多くの柱穴様ピット（ＳＫＰ）を検出している。ＳＫＴ01とＳＫＴ02と重複して分布するＳＫＰ４・７・26・40の底面標高は76.75～76.86ｍと値が近似している（第20表）。この４本の柱穴様ピットは柱筋が長方形となる（第６図）。しかし、本体と重複していることから陥し穴との関連性は明確でない。

また、３遺構とも平面形は溝状で、深さの違いがややある。ＳＫＴ02・05は両端中央に杭状のものを横・斜めに渡したような細い穴状の掘り込みがある。

遺物は、この種類の遺構にしては大変多く、縄文時代前期中葉の土器や石器が遺構埋土底面～上位で出土した。底面付近から出土した遺物もある。

**ＳＫＴ01**（第13図、図版７・８）

**遺　構**　Ａ区の北東端ＬＱ51グリッドに位置する。遺構の規模は長軸3.51ｍ、短軸1.00ｍ、深さ1.48ｍである。底面はほぼ平坦である。重複する遺構は無い。

**遺　物**　縄文土器（第17図８・９）、石鏃（第59図Ｓ１）、削器（第59図Ｓ２）、円盤状石製品（第90図Ｓ286）が出土した。８は撚糸文を施文した土器である。土器は２点とも撚糸文を施文しており、胎土や焼成から縄文時代前期と考えられる。

**ＳＫＴ02**（第14図、図版７・８）

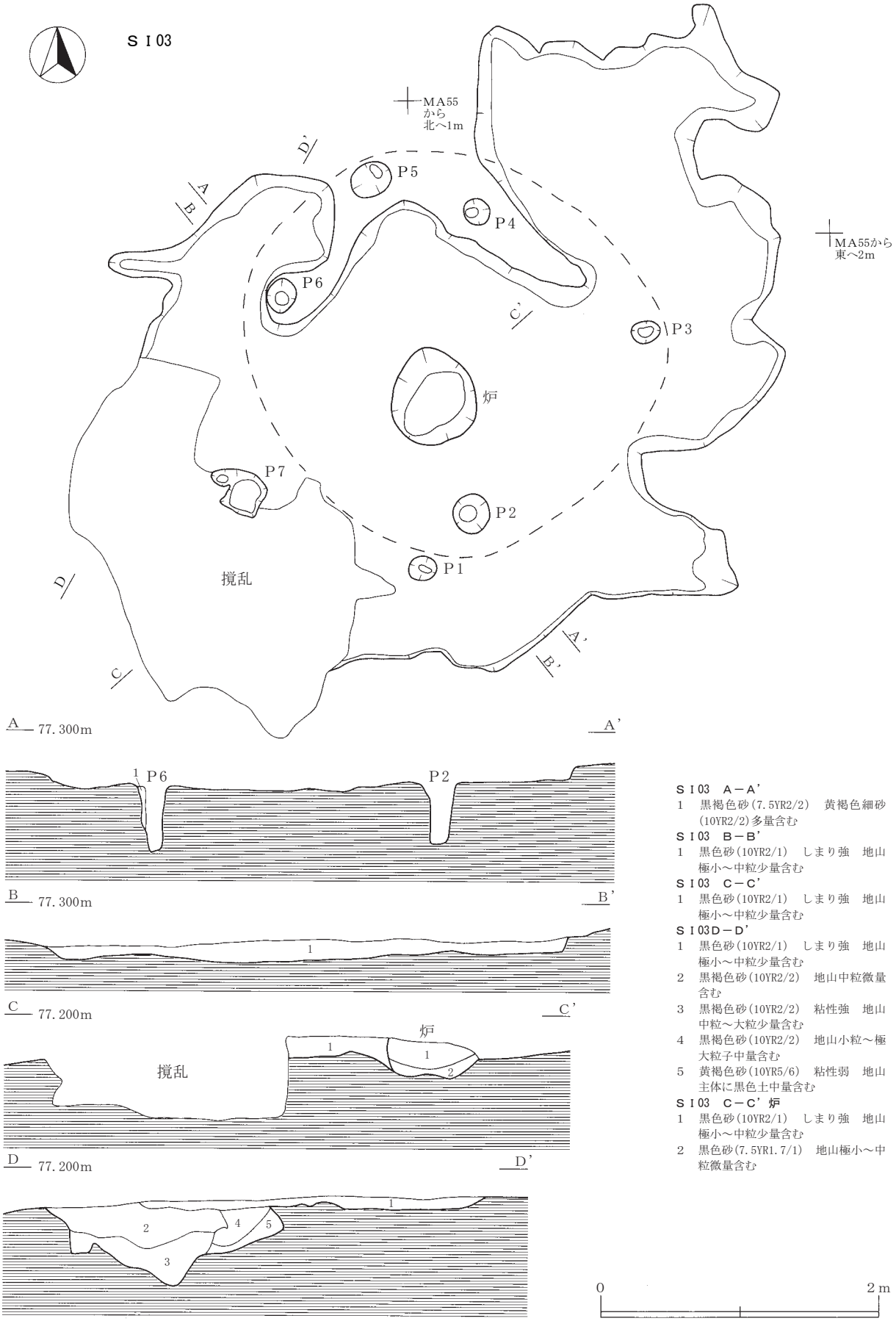
**遺　構**　Ａ区の北東端ＬＱ51グリッドに位置する。遺構の規模は長軸3.36ｍ、短軸0.96ｍ、深さ1.54ｍである。底面はほぼ平坦である。重複する遺構は無い。

**遺　物**　縄文土器（第17図10～16)、有撮石器（第59図Ｓ３）、半円状扁平打製石器（第75図Ｓ136）が出土した。土器は撚糸文、綾繰文、絡条体圧痕文、半載竹管文を施文している。10・16は地文が撚糸文で、口縁部に２条の絡条体圧痕文を施文している。いずれも胎土や焼成から、縄文時代前期の円筒下層ａ式土器と考えられる。

**ＳＫＴ05**（第15図、図版８）

**遺　構**　Ａ区の北東端ＬＰ52グリッドに位置する。遺構の規模は長軸3.38ｍ、短軸0.45ｍ、深さ1.18ｍである。底面はほぼ平坦である。重複する遺構は無い。

**遺　物**　縄文土器（第17図17・18)、石錐（第59図Ｓ４）、石匙（第59図Ｓ５）が出土した。土器は撚糸文を施文しており、胎土や焼成から縄文時代前期と考えられる。




ＳＩ03　Ａ－Ａ’
1　黒褐色砂(7.5YR2/2)　黄褐色細砂(10YR2/2)多量含む

ＳＩ03　Ｂ－Ｂ’
1　黒色砂(10YR2/1)　しまり強　地山極小～中粒少量含む

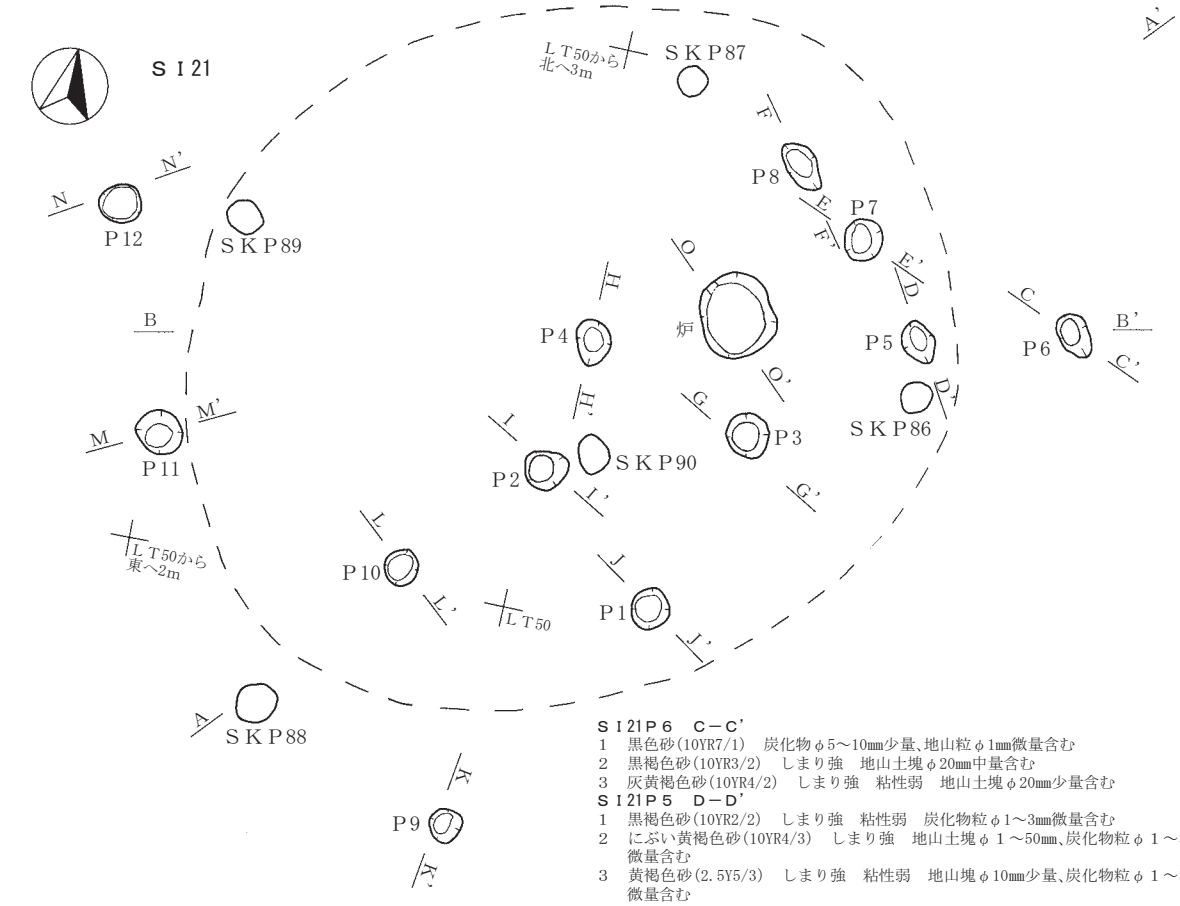
ＳＩ03　Ｃ－Ｃ’
1　黒色砂(10YR2/1)　しまり強　地山極小～中粒少量含む

ＳＩ03Ｄ－Ｄ’
1　黒色砂(10YR2/1)　しまり強　地山極小～中粒少量含む
2　黒褐色砂(10YR2/2)　地山中粒微量含む
3　黒褐色砂(10YR2/2)　粘性強　地山中粒～大粒少量含む
4　黒褐色砂(10YR2/2)　地山小粒～極大粒子中量含む
5　黄褐色砂(10YR5/6)　粘性弱　地山主体に黒色土中量含む

ＳＩ03　Ｃ－Ｃ’炉
1　黒色砂(10YR2/1)　しまり強　地山極小～中粒少量含む
2　黒色砂(7.5YR1.7/1)　地山極小～中粒微量含む

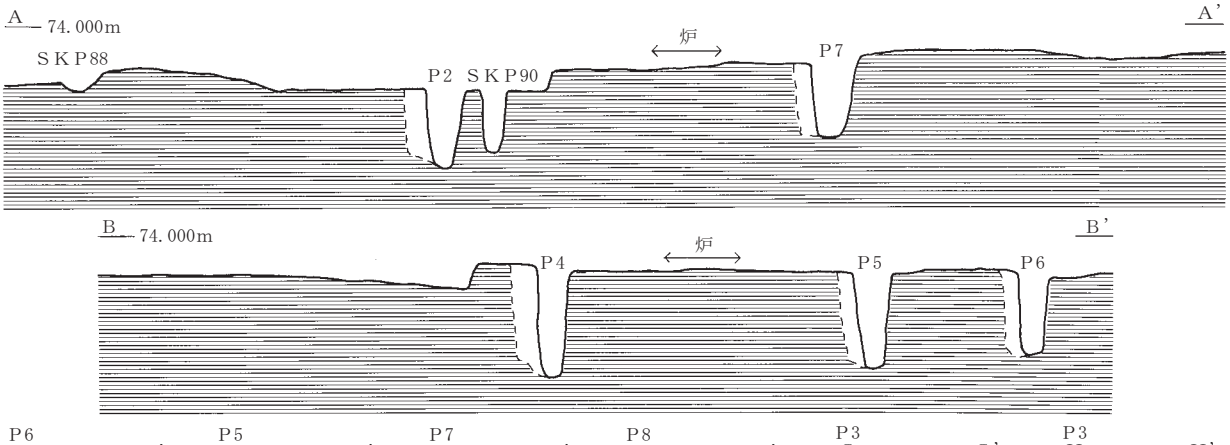
0　2m

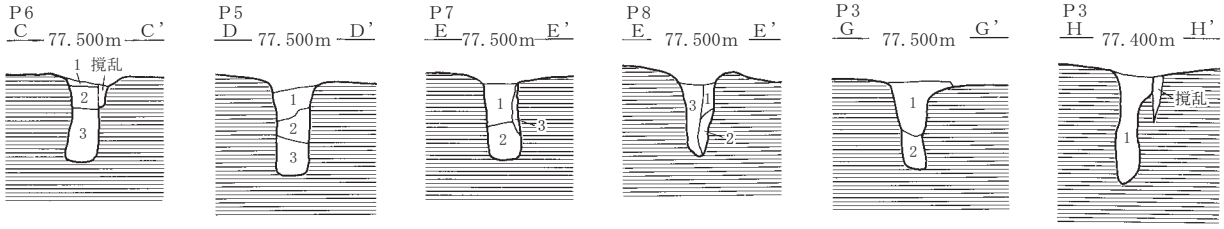
**第９図　ＳＩ03竪穴住居跡平面図・断面図**




**ＳＩ21Ｐ６　Ｃ－Ｃ'**
1　黒色砂(10YR7/1)　炭化物φ5～10㎜少量、地山粒φ1㎜微量含む
2　黒褐色砂(10YR3/2)　しまり強　地山土塊φ20㎜中量含む
3　灰黄褐色砂(10YR4/2)　しまり強　粘性弱　地山土塊φ20㎜少量含む

**ＳＩ21Ｐ５　Ｄ－Ｄ'**
1　黒褐色砂(10YR2/2)　しまり強　粘性弱　炭化物粒φ1～3㎜微量含む
2　にぶい黄褐色砂(10YR4/3)　しまり強　地山土塊φ１～50㎜、炭化物粒φ１～3㎜微量含む
3　黄褐色砂(2.5Y5/3)　しまり強　粘性弱　地山塊φ10㎜少量、炭化物粒φ１～3㎜微量含む



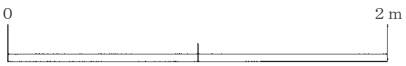




**ＳＩ21Ｐ７　Ｅ－Ｅ'**
1　黒褐色砂(10YR2/2)　しまり強　炭化物粒φ1～3㎜少量含む
2　黒褐色砂(10YR3/2)　しまり強　粘性弱　地山粒φ1～3㎜少量含む
3　暗褐色砂(10YR3/3)　しまり強　黒褐色土10%・地山土粒50%含む

**ＳＩ21Ｐ８　Ｆ－Ｆ'**
1　黒褐色砂(10YR2/2)　しまり強　炭化物粒φ1～5㎜少量含む
2　黒褐色砂(10YR5/6)　しまり強　粘性弱　黄褐色砂・黒褐色土少量含む
3　黒色砂(10YR1.7/1)　しまり強　炭化物粒φ1～3㎜少量含む

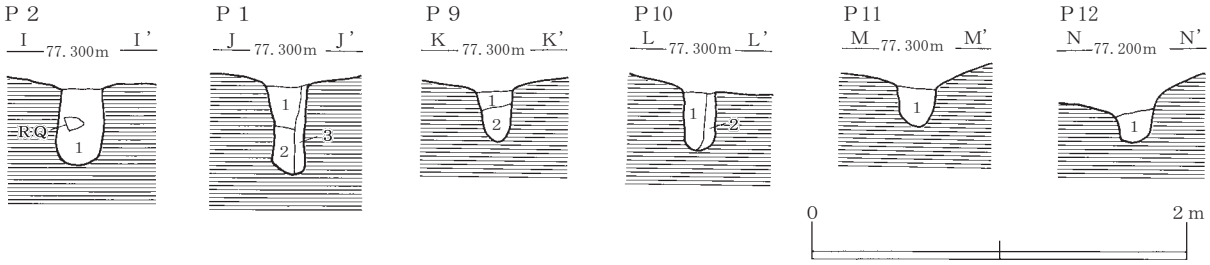
**ＳＩ21Ｐ３　Ｇ－Ｇ'**
1　黒褐色砂(10YR3/2)　粘性弱　地山粒φ1～3㎜微量含む
2　にぶい黄褐色砂(10YR5/3)　しまり強　粘性弱　炭化物粒φ1～3㎜微量含む

**ＳＩ21Ｐ４　Ｈ－Ｈ'**
1　黒色砂(10YR2/1)　しまり強　地山粒φ1～3㎜中量、炭化物粒φ1～3㎜少量含む
撹乱　黒色砂(10YR1.7/1)　地山粒φ1～3㎜少量、炭化物粒φ1～3㎜微量含む

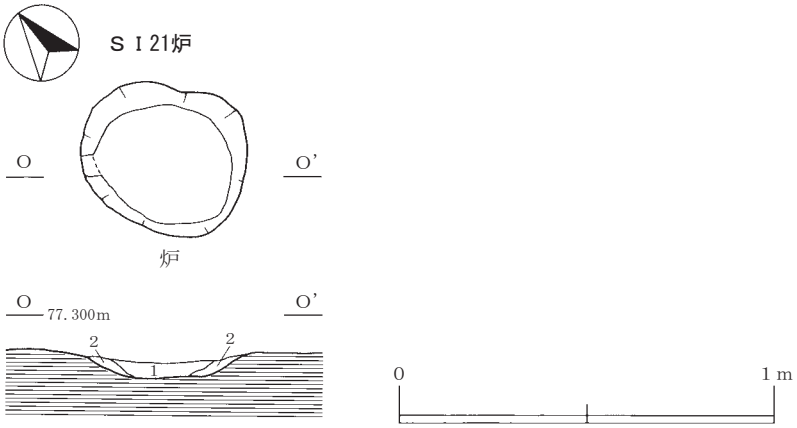



**第10図　ＳＩ21竪穴住居跡平面図・断面図**

ＳＩ21柱穴




ＳＩ21Ｐ２　Ｉ－Ｉ’
1　黒色砂(10YR2/1)　しまり強　粘性弱　地山粒φ1～5㎜中量含む
ＳＩ21Ｐ１　Ｊ－Ｊ’
1　黒褐色砂(10YR2/3)　粘性弱　地山土粒(10YR6/8)φ1～5㎜少量含む
2　にぶい黄褐色砂(10YR5/3)　しまり強　粘性強　地山土粒・炭化物粒φ1～3m微量含む
3　黒褐色砂(10YR3/2)
ＳＩ21Ｐ９　Ｋ－Ｋ’
1　黒褐色砂(10YR2/3)　粘性弱　地山粒φ1～3㎜少量含む
2　黒褐色砂(10YR3/2)　しまり強　地山粒φ1～3㎜中量含む
ＳＩ21Ｐ10　Ｌ－Ｌ’
1　黒褐色砂(10YR3/2)　粘性弱　地山土粒φ1～3㎜中量、炭化物粒φ1～3㎜微量含む
2　黒褐色砂(10YR2/2)　しまり強　粘性弱　地山土粒φ1～3㎜少量含む
ＳＩ21Ｐ11　Ｍ－Ｍ’
1　黒褐色砂(10YR2/2)　しまり強　黄橙地山土（10YR8/8）塊φ10～30㎜微量、地山土粒　　φ1～3㎜少量含む
ＳＩ21Ｐ12　Ｎ－Ｎ’
1　黒色砂(10YR1.7/1)　しまり弱　地山土粒φ1～3㎜少量含む



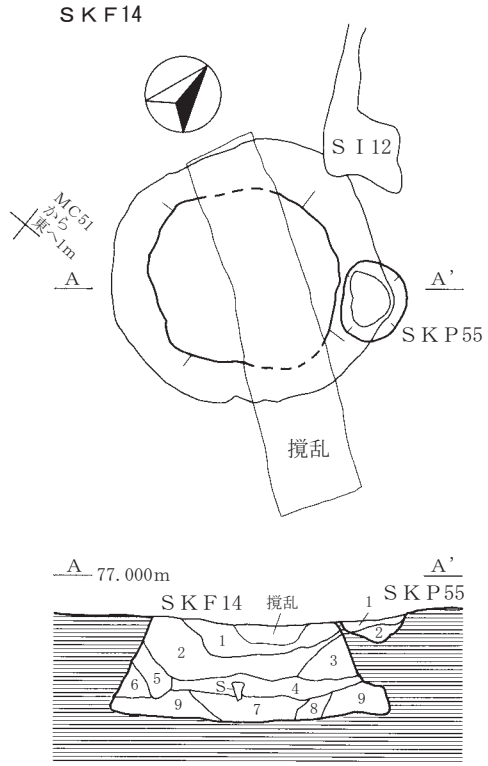

ＳＩ21　炉　　Ｏ－Ｏ’
1　灰黄褐色砂(2.5Y4/2)　しまり強　粘性弱　地山土粒φ1～5㎜中量、炭化物粒φ1～10㎜　　少量含む
2　オリーブ褐色砂(2.5Y4/4)　しまり強　粘性弱炭化物粒φ1～5㎜微量、赤褐色土(5YR4/6)　　被熱土多量含む

## 第11図　ＳＩ21炉平面図・柱穴断面図

## 第２表　ＳＩ03・21竪穴住居跡柱穴一覧

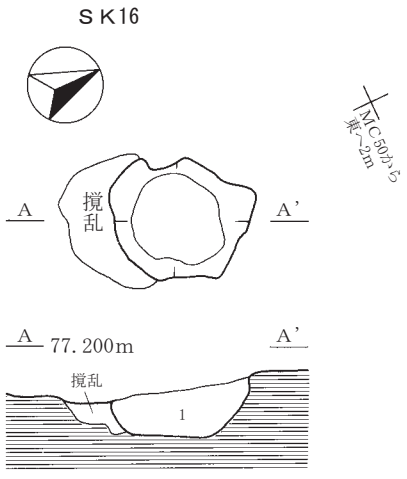
| ＳＩ03 | グリッド | 長軸(m) | 短軸(m) | 深さ(m) | 底面の標高(m) |
|---|---|---|---|---|---|
| Ｐ１ | LT･MA54 | 0.19 | 0.16 | 0.08 | 76.87 |
| Ｐ２ | ＬＴ54 | 0.29 | 0.25 | 0.45 | 76.50 |
| Ｐ３ | ＬＴ54 | 0.20 | 0.16 | 0.15 | 76.81 |
| Ｐ４ | ＬＴ55 | 0.20 | 0.19 | 0.11 | 76.87 |
| Ｐ５ | ＭＡ55 | 0.30 | 0.25 | 0.13 | 76.85 |
| Ｐ６ | ＭＡ54 | 0.25 | 0.21 | 0.49 | 76.45 |
| Ｐ７ | ＭＡ54 | 0.40 | 0.31 | 0.17 | 76.73 |

| ＳＩ21 | グリッド | 長軸(m) | 短軸(m) | 深さ(m) | 底面の標高(m) |
|---|---|---|---|---|---|
| Ｐ１ | ＬＲ50 | 0.22 | 0.20 | 0.37 | 76.70 |
| Ｐ２ | LR･LS50 | 0.22 | 0.20 | 0.43 | 76.64 |
| Ｐ３ | ＬＲ50 | 0.23 | 0.21 | 0.62 | 76.57 |
| Ｐ４ | ＬＲ50 | 0.23 | 0.16 | 0.57 | 76.61 |
| Ｐ５ | ＬＲ50 | 0.24 | 0.16 | 0.51 | 76.72 |
| Ｐ６ | ＬＲ50 | 0.24 | 0.16 | 0.43 | 76.82 |
| Ｐ７ | ＬＲ50 | 0.22 | 0.19 | 0.43 | 76.82 |
| Ｐ８ | ＬＲ50 | 0.29 | 0.14 | 0.51 | 76.77 |
| Ｐ９ | ＬＳ49 | 0.18 | 0.16 | 0.29 | 76.81 |
| Ｐ10 | ＬＳ50 | 0.18 | 0.17 | 0.46 | 76.66 |
| Ｐ11 | ＬＳ50 | 0.23 | 0.22 | 0.29 | 76.83 |
| Ｐ12 | ＬＳ50 | 0.21 | 0.20 | 0.36 | 76.63 |

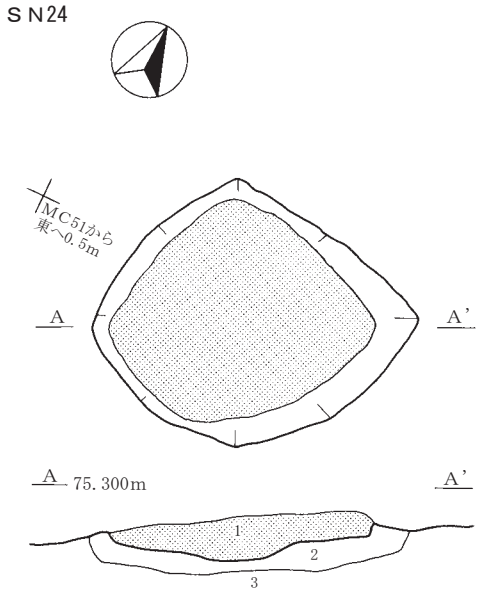



ＳＫＦ14　Ａ－Ａ’
1　黒褐色土（10YR2/2）　しまり強　粘性弱　地山土小粒少量含む
2　黒褐色土（10YR2/2）　粘性弱　地山土大塊・小粒多量含む
3　暗褐色土（10YR3/3）　しまり強　粘性弱　地山土小～大塊多量含む
4　黒色土（10YR2/1）　しまり強　粘性弱　礫微量、地山土大塊・小粒少量含む
5　暗褐色土（10YR3/3）　しまり強　粘性弱　地山土大塊・小粒多量含む
6　黒褐色土（10YR2/2）　しまり強　粘性弱　地山土大塊少量含む
7　黒色土（10YR2/1）　しまり強　粘性弱　地山土小～大粒少量含む
8　黒色土（10YR2/1）　しまり強　粘性弱　地山土極小粒微量含む
9　黒色土（10YR2/1）　しまり強　粘性弱　地山土小～大塊多量含む

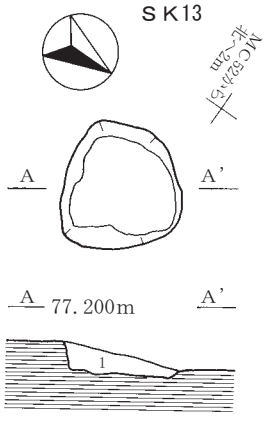
ＳＫＰ55　Ａ－Ａ’
1　黒褐色土（10YR2/3）　粘性弱　地山土小粒微量含む
2　暗褐色土（10YR3/4）　しまり強　粘性弱　地山土小～中塊多量含む




ＳＫ16　Ａ－Ａ’
1　黒褐色土(10YR2/2)　しまり強　粘性弱
　　地山土小～中塊多量含む

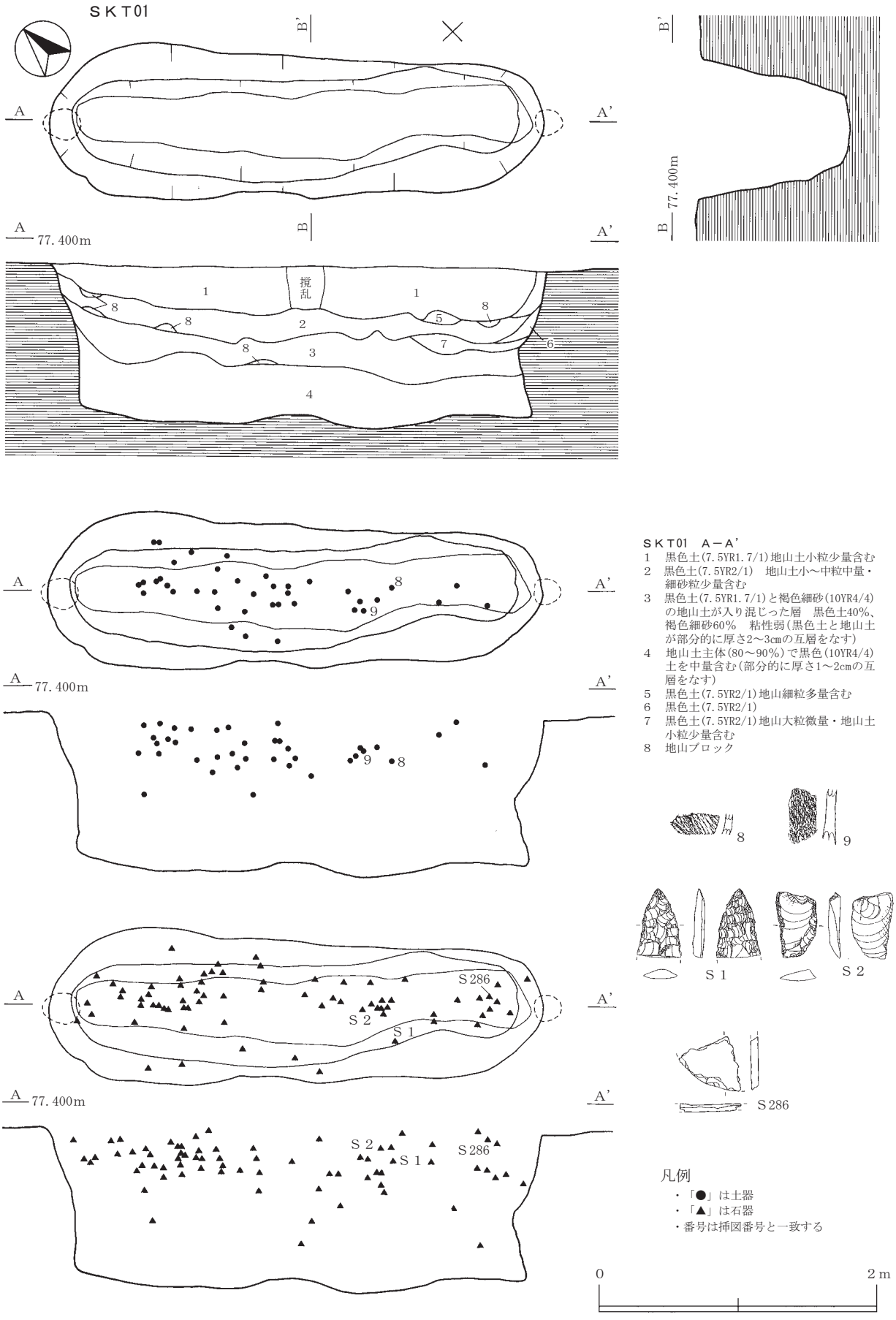



ＳＮ24　Ａ－Ａ’
1　褐色砂(7.5YR4/6)　しまりやや弱　粘性弱　黒色砂小粒中量含む(焼土層)
2　黒色砂(2.5Y2/1)　しまりやや強　粘性やや強　焼土小・中粒微量含む
3　黒色砂(2.5Y2/1)　しまり強　粘性やや弱(埋没谷内の堆積土)



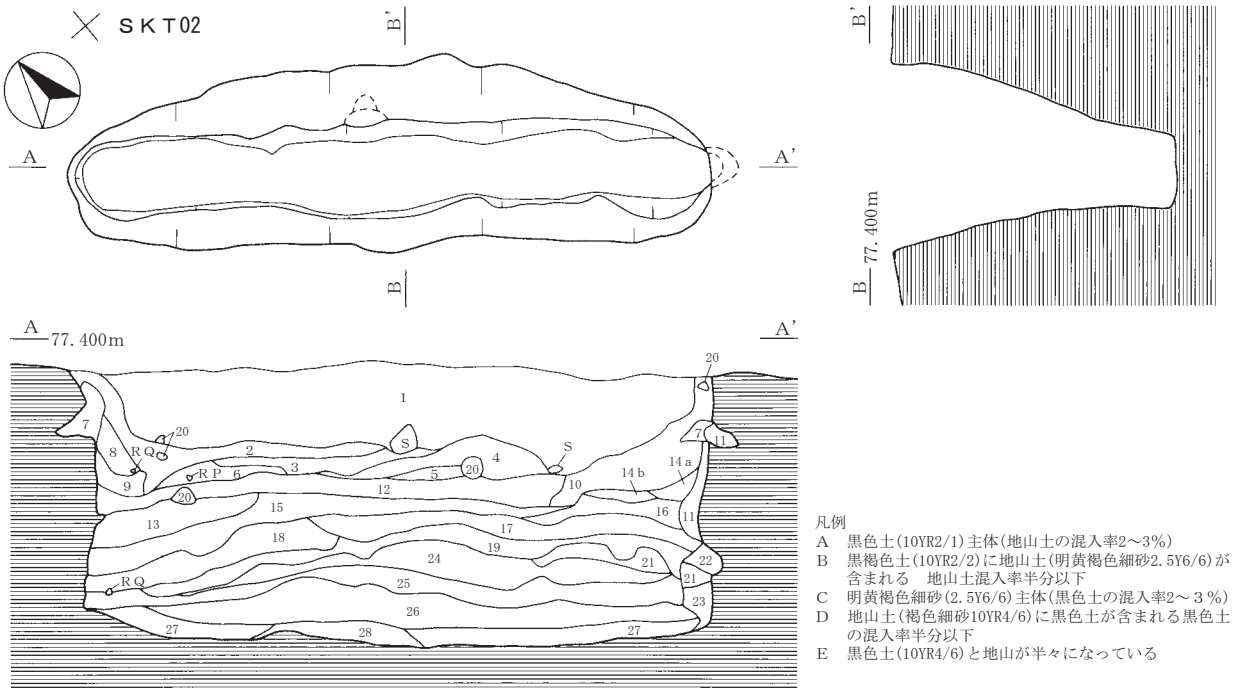

ＳＫ13　Ａ－Ａ’
1　黒色土(10YR2/1)　粘性弱
　　地山土小～中塊少量含む

第12図　ＳＫＦ14フラスコ状土坑、ＳＮ24焼土遺構、ＳＫ13・16土坑平面図・断面図



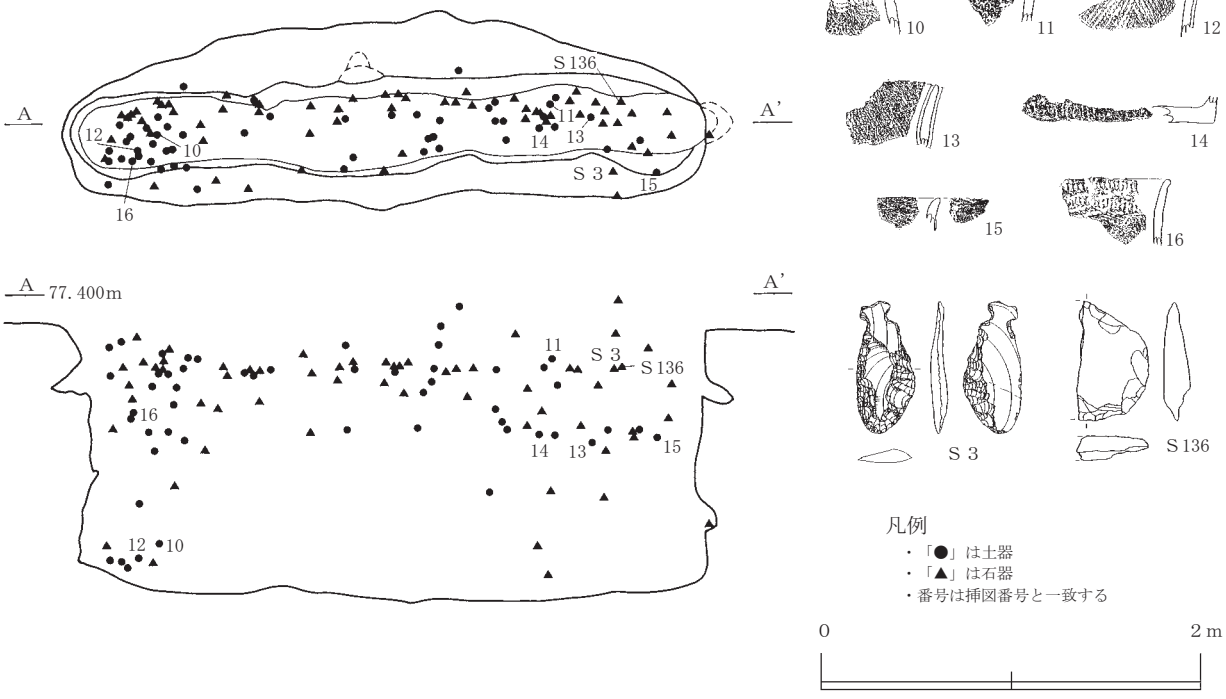

ＳＫＴ01　Ａ－Ａ'
1　黒色土(7.5YR1.7/1)地山土小粒少量含む
2　黒色土(7.5YR2/1)　地山土小～中粒中量・細砂粒少量含む
3　黒色土(7.5YR1.7/1)と褐色細砂(10YR4/4)の地山土が入り混じった層　黒色土40%、褐色細砂60%　粘性弱(黒色土と地山土が部分的に厚さ2～3cmの互層をなす)
4　地山土主体(80～90%)で黒色(10YR4/4)土を中量含む(部分的に厚さ1～2cmの互層をなす)
5　黒色土(7.5YR2/1)地山細粒多量含む
6　黒色土(7.5YR2/1)
7　黒色土(7.5YR2/1)地山大粒微量・地山土小粒少量含む
8　地山ブロック

第13図　ＳＫＴ01陥し穴平面図・断面図、出土遺物分布図

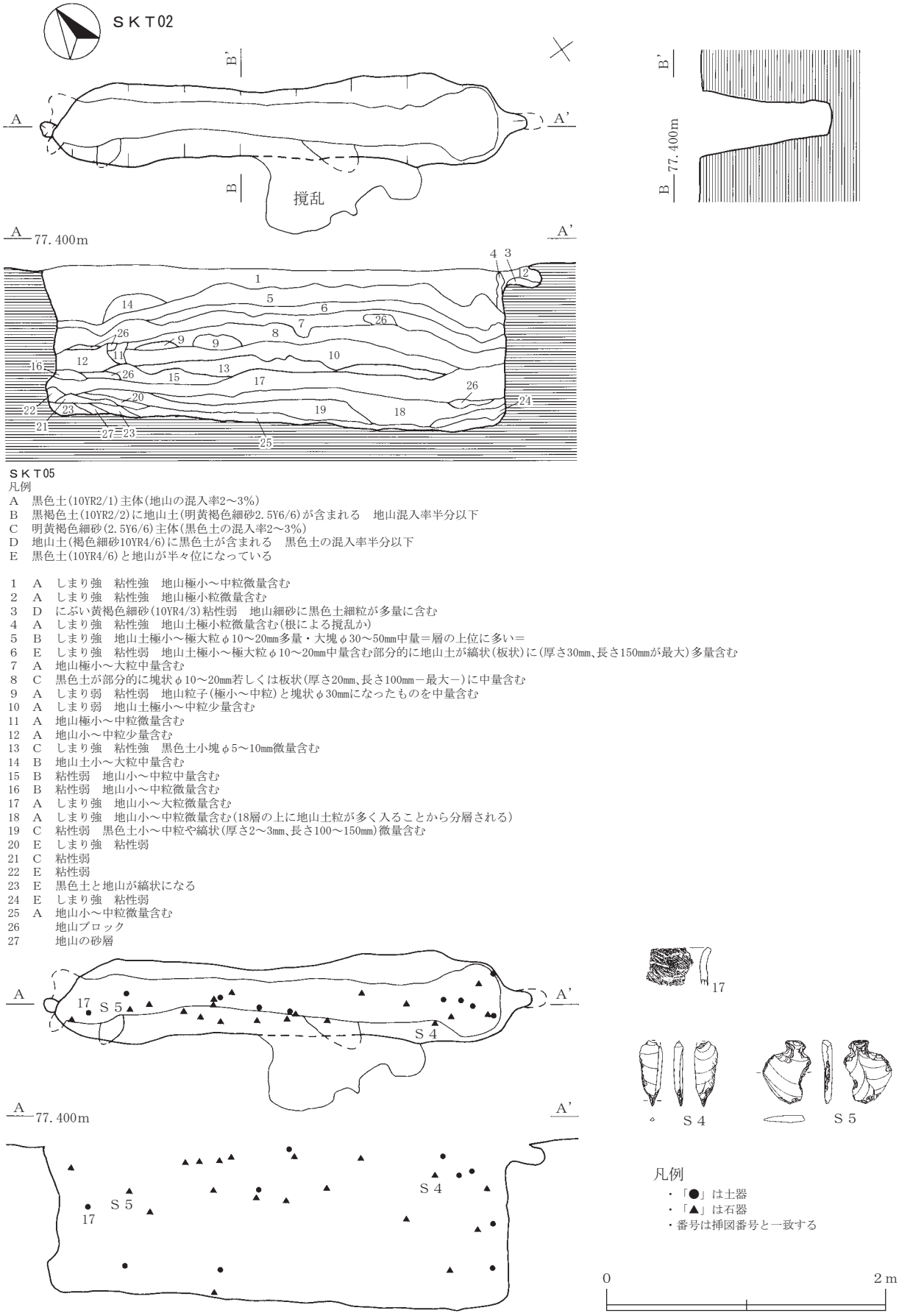



ＳＫＴ02　Ａ－Ａ'

1　A　地山極小～中粒微量含む
2　B　地山極小～中粒少量含む
3　C　粘性弱　黒色土の小～大粒中量含む
4　A　地山の小～大粒少量含む
5　D　黒色土の小～大粒中量含む
6　C　黒色土の小～中粒中量含む
7　C　黒色土の小～中粒少量含む
8　A　粘性弱　地山の中～極大粒中量含む
9　C　しまり弱　黒色土の小～中粒微量含む
10　A　地山の小～極大粒中量含む
11　C　しまり弱　黒色土の小～中粒多量含む
12　E　しまり弱　黒色土と地山土小～大粒半々に入り混じる
13　C　地山中粒微量含む
14a　C　しまり弱　黒色土の小～中粒微量含む
14b　B　しまり弱　粘性弱　地山中～極大粒少量含む
15　C　しまり弱　黒色土小塊φ3～5㎜微量含む
16　B　地山極小～大粒少量含む
17　D　粘性弱　黒色土中～大粒少量含む
18　C　黒色土中粒微量含む
19　B　地山極小～大粒中量含む
20　　地山ブロック
21　C　しまり弱(地山砂層)
22　C　しまり弱　黒色土の小～中粒多量含む
23　C　しまり弱　黒色土小～中粒多量含む
24　D　しまり弱(黒色土が幅１㎝、長さ20㎝ほどの縞状に数条入る)
25　B　しまり弱　地山小～特大塊φ5㎝中量含む
26　C　しまり強　黒色土混じりの地山土塊φ5～7㎝含む
27　A　地山土極小～中粒微量含む
28　E　粘性中



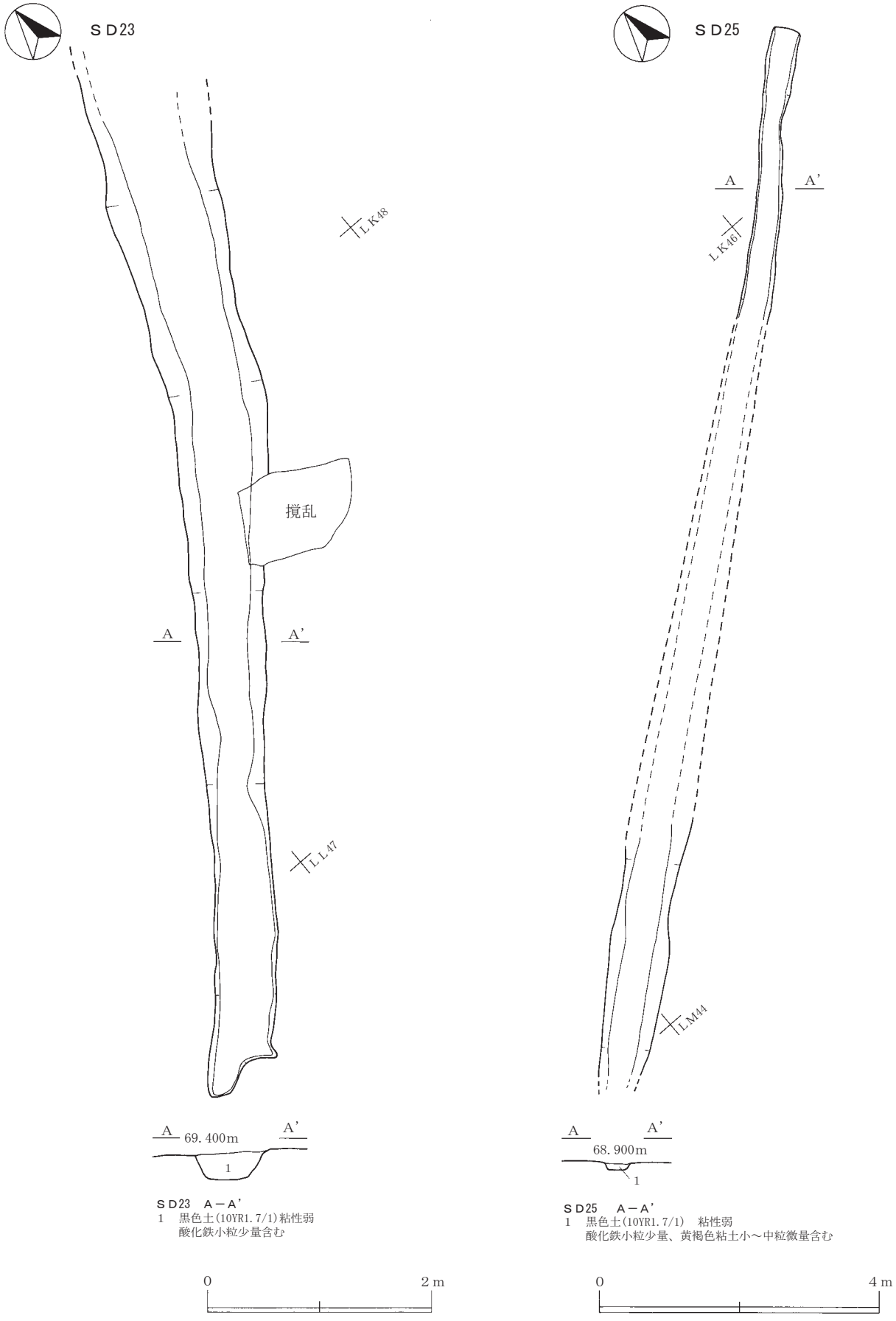

第14図　ＳＫＴ02陥し穴平面図・断面図、出土遺物分布図




ＳＫＴ05
凡例
A　黒色土(10YR2/1)主体(地山の混入率2～3%)
B　黒褐色土(10YR2/2)に地山土(明黄褐色細砂2.5Y6/6)が含まれる　地山混入率半分以下
C　明黄褐色細砂(2.5Y6/6)主体(黒色土の混入率2～3%)
D　地山土(褐色細砂10YR4/6)に黒色土が含まれる　黒色土の混入率半分以下
E　黒色土(10YR4/6)と地山が半々位になっている

1　A　しまり強　粘性強　地山極小～中粒微量含む
2　A　しまり強　粘性強　地山極小粒微量含む
3　D　にぶい黄褐色細砂(10YR4/3)粘性弱　地山細砂に黒色土細粒が多量に含む
4　A　しまり強　粘性強　地山土極小粒微量含む(根による撹乱か)
5　B　しまり強　地山土極小～極大粒φ10～20㎜多量・大塊φ30～50㎜中量＝層の上位に多い＝
6　E　しまり強　粘性弱　地山土極小～極大粒φ10～20㎜中量含む部分的に地山土が縞状(板状)に(厚さ30㎜、長さ150㎜が最大)多量含む
7　A　地山極小～大粒中量含む
8　C　黒色土が部分的に塊状φ10～20㎜若しくは板状(厚さ20㎜、長さ100㎜－最大－)に中量含む
9　A　しまり弱　粘性弱　地山粒子(極小～中粒)と塊状φ30㎜になったものを中量含む
10　A　しまり弱　地山土極小～中粒少量含む
11　A　地山極小～中粒微量含む
12　A　地山小～中粒少量含む
13　C　しまり強　粘性強　黒色土小塊φ5～10㎜微量含む
14　B　地山土小～大粒中量含む
15　B　粘性弱　地山小～中粒中量含む
16　B　粘性弱　地山小～中粒微量含む
17　A　しまり強　地山小～大粒微量含む
18　A　しまり強　地山小～中粒微量含む(18層の上に地山土粒が多く入ることから分層される)
19　C　粘性弱　黒色土小～中粒や縞状(厚さ2～3㎜、長さ100～150㎜)微量含む
20　E　しまり強　粘性弱
21　C　粘性弱
22　E　粘性弱
23　E　黒色土と地山が縞状になる
24　E　しまり強　粘性弱
25　A　地山小～中粒微量含む
26　　地山ブロック
27　　地山の砂層

**第15図　ＳＫＴ05陥し穴平面図・断面図、出土遺物分布図**




**第16図　ＳＤ23・25溝跡平面図・断面図**

### （５）溝状遺構

**ＳＤ23**（第16図）

**遺　構**　Ｂ区のＬＫ47・48グリッド、ＬＬ46・47グリッドに位置し、第Ⅵｂ層で溝状の黒色土の広がりを確認した。重複する遺構はない。周辺にはＳＴ15、ＳＤ25がある。

堆積土は１層のみで自然流入土と考えられる。北東－南西方向に延伸方向をもち、規模は確認できただけで、全長8.70m、幅は0.28m～0.96mで、深さは検出面から底部までの最深部で0.39mである。

遺物は出土状況から、本遺構の北西側斜面にあるＳＴ15捨て場からの流入と思われる。

**遺　物**　１層から縄文土器片、石器が多量に出土した。そのうち縄文土器片２点（第52図355・356）、擦石１点（第85図S228）、円盤状石製品（第89図S277）を図示した。土器は縄文や撚糸文を施文しており、胎土や焼成からも縄文時代前期と考えられる。

**ＳＤ25**（第16図）

**遺　構**　Ｂ区のＬM43グリッドを南端、ＬＪ46グリッドを北端とする範囲に位置し、Ｂ区第Ⅵｂ層で溝状の黒色土の広がりを確認した。重複する遺構はないが、部分的に失われている。周辺にはＳＴ15、ＳＤ23がある。

堆積土は１層のみで自然流入土と考えられる。北東－南西方向に延伸方向をもつ。部分的に失われているが、規模は確認できただけで、全長15.1m、幅は0.30m～0.83mで、深さは検出面から底部までの最深部で0.26mである。

遺物は本遺構の北西側斜面にあるＳＴ15から流入したと考えられる。

**遺　物**　１層から縄文土器片が少量出土した。そのうち１点（第52図357）を図示した。

357は撚糸文を施文した土器で、胎土や焼成から縄文時代前期と考えられる。

### （６）柱穴様ピット（第５・６図、第20表）

６基検出した。既述したように陥し穴（ＳＫＴ）周辺では比較的多くの柱穴様ピット（ＳＫＰ）を検出している。このうちＳＫＴ01とＳＫＴ02の本体と重複して分布するＳＫＰ４・７・26・40は柱筋がとおり、平面形が長方形となる（第６図）。

遺物はＳＫＰ57・60は埋土から縄文土器片各１点、ＳＫＰ57からは石器１点が出土している。

## ２　平安時代の遺構と遺物

### （１）竪穴住居跡

**ＳＩ06**（第95図、第18表）

**遺　構**　Ａ区のＬＱ・ＬＲ54グリッドに位置し、第21層で地山土塊を含む黒色土の壁溝を確認した。後世の削平により住居内堆積土は壁溝部分だけしか残っていない。ＳＩ08と重複し、本住居跡の方が古い。周辺にはＳＩ11、ＳＩ12Ａ・Ｂがある。

住居内堆積土は壁溝のみで２層に分けた。１層は地山塊を含む黒色土で、ＳＩ08を構築する際に、人為的に埋めた可能性がある。確認できたのは南西隅だけであり、全体の平面形は不明である。壁溝の規模は、南東壁1.72m、南西壁2.2mである。幅は0.1～0.2m、床面からの深さは0.17～0.19mである。

柱穴は床面で３基確認した。直径は0.15～0.25mで、床面からの深さは0.07～0.12mである。いず

れの柱穴からも柱の痕跡は確認できなかった。

本住居跡は、ほとんどを後世の削平により失われているが、壁溝を巡らした住居である。廃絶後はＳＩ08の構築のため人為的に埋め戻した可能性がある。

**遺　物**　１層から土師器片が１点出土した。甕の胴部で外面に刷毛目かヘラケズリを施し、内面は指で調整している。

**ＳＩ08**（第95図）

**遺　構**　Ａ区のＬＱ・ＬＲ54グリッドに位置し、Ａ区第21層で地山土塊を含む黒色土の広がりを確認した。後世の削平により大部分が失われている。ＳＩ06と重複し、本住居跡の方が新しい。周辺にはＳＩ11、ＳＩ12Ａ・Ｂがある。

堆積土は１層のみで地山土塊を含む黒色土で、非常に硬く締まっている。

確認できたのは南西隅だけであり、全体の平面形は不明である。規模は、南東壁1.22m、南西壁1.80mである。

本住居跡は、ほとんどを後世の削平により失われているが、構築する際にＳＩ06上に貼り床を施した住居跡である。

**遺　物**　本住居跡からは遺物が出土しなかった。

**ＳＩ11**（第96図、図版９・10）

**遺　構**　Ａ区のＭＢ・ＭＣ52・53グリッドに位置し、第Ⅱ層下位で方形の黒色土の広がりを確認した。南西隅と北西側が現代の撹乱により上位が破壊されている。また、北西側と北東側は確認調査時のトレンチにより破壊されている。ＳＩ12Ａ・Ｂと重複し、本住居跡の方が新しい。周辺にはＳＩ06、ＳＩ08がある。

堆積土は７層に分けた。１～４層は、地山土塊や白色砂塊や軽石を含む黒色基調の土で、概ね水平堆積であり人為的な堆積、５層は斜位に堆積する流入土とみられる。６層は壁溝内堆積土で、７層は貼り床の土で地山塊を多量に含んでおり、硬く締まっている。

平面形は、北西側と北西側が失われているため正確には分からないが、ほぼ正方形と想定される。カマドの付く壁に直交する主軸方位はＮ－54°－Ｗである。確認できた規模は、南東壁3.90m、南西壁4.50mである。壁の高さは検出面から0.26～0.50mで、壁の傾きは垂直である。床はほぼ全体に、黒色土と地山塊の混合土を敷き詰め貼り床とし、平坦に整えている。

壁溝は確認できる範囲ではほぼ全周している。上場幅0.10～0.22m、下場幅0.03～0.42m、床面からの深さは0.08～0.15mである。

柱穴は北西隅と南西隅の床面で主柱穴の２基（Ｐ１・Ｐ２）を確認した。その間は3.85m、直径0.25mで、床面からの深さは0.20～0.24mである。

カマドは南東壁の中央から東よりの位置にあり、黒褐色土とカマドを構成する明褐色粘土の分布によって確認した。確認できた施設は煙道、袖、火床面、前庭部である。堆積土は11層に分けた。１～４層は住居埋め立て時の造成土である。５層は崩落したカマド上部構造の粘土である。６～９層は周囲からの流入土である。10層はカマド袖構築粘土で、11層がその基部の造成土である。煙道から前庭部末端まで2.12m、袖の最大幅が0.60mである。煙道はスロープ状で住居壁から0.68m外に延びる。火床面は残存している部分で0.54mの被熱範囲である。前庭部は、東側半分が確認調査のトレンチに

より一部破壊されているが、ほぼ楕円形と思われる浅い掘り込みである。

本住居跡は四隅に主柱をもつと想定され、南東壁にカマドを設置する住居である。また、南西隅に近い床面に焼土粒を含む粘土の広がり、南西壁から外に粘土と0.13～0.25ｍの礫の範囲が広がっており、カマドの造り替えがあったと推定される。廃絶後は人為的に埋め戻した可能性がある。

**遺　物**（第106図437～446、第107図447・448、第21表）　住居内の床面とカマド周辺から土師器杯・甕が出土した。大部分がカマド周辺に集中している。また、遺構外のＭＣ・ＭＤ52グリッドⅡ層出土の土師器片と接合したものもある。

444は土師器坏（Ｂ類）である。内面にミガキと黒色処理は施されていない。445は土師器甕（Ｂ類）である。非ロクロ成形で底部は砂底、外面にヘラケズリ、内面にヘラナデの二次調整を施す土器である。

**ＳＩ12Ａ・Ｂ**（第99～102図、図版11）

本住居跡は、Ａ区のＭＡ・Ｂ51～53グリッドに位置し、第Ⅳａ層上位で方形の黒褐色土の広がりを確認した。北西隅が現代の撹乱により壊されている。ＳＩ11と重複し、本住居跡の方が古い。周辺にはＳＩ06・08・11がある。

本遺構は壁溝、柱穴の配置やカマドの作り替えから２時期あることが判明した。新しい順にＡ・Ｂのアルファベットを付けて表記した。

**ＳＩ12Ａ**（第99・100図、図版11）

**遺　構**　ＳＩ12Ｂの南東壁に張り出しの部分を新設した住居である。

堆積土は12層に分けた。１～６層は十和田ａ火山灰や地山塊を含む黒色土基調の土で概ね水平堆積であることから、人為的な堆積と考えられる。また、５・６層は焼土粒を含んでいることから、ＳＩ12Ｂのカマドを解体した時の土と思われる。７～10層は斜位に堆積する流入土とみられる。11層は壁溝内堆積土である。12層は貼り床で、ＳＩ12Ｂ床面を埋め立てている。

平面形は北西－南東方向にわずかに長い長方形である。カマドの付く壁に直交する主軸方位はＮ－55°－Ｗである。規模は残る北東壁4.90ｍ、南東壁5.30ｍ、確認できた南西壁は3.45ｍ、北西壁は3.45ｍである。壁の高さは検出面から0.16～0.45ｍで、壁の傾きは垂直である。南東壁北東隅には張り出しが付く。１基の柱穴と溝で構成され、住居壁直交方向で1.70ｍ、住居壁平行方向で1.65ｍで、底面は住居床面と同レベルである。出入り口とみられる。床はほぼ全体に、黒色土と黄褐色粘土塊、地山土粒・塊の混合土を貼り床とし、ＳＩ12Ｂを埋め立てて造成している。

壁溝は北東壁、北西壁で確認できない部分があったが、南東壁、南西壁では壁に沿うように回っていた。上端幅0.09～0.19ｍ、下端幅0.02～0.10ｍ、床面からの深さは0.02～0.13ｍである。

柱穴は壁溝内と床面で11基確認した。Ｐ１～３は、住居隅の壁溝内に配置する主柱穴である。直径は0.27～0.36ｍで、床面からの深さは0.28～0.46ｍである。柱穴間の距離はＰ１－Ｐ２間4.80ｍ、Ｐ２－Ｐ３間5.15ｍである。北西隅は、現代の撹乱により破壊されているため、確認できなかった。Ｐ４～Ｐ10は壁溝内にあり、壁板保持の補助柱穴と考えられる。Ｐ11は床面にできた凹みの可能性があり柱穴とは断定し難い。

カマドは南西壁の中央から西よりの位置で、黒褐色土とカマドを構成する褐色粘土の分布によって確認した。確認できた施設は煙道、袖、火床面、前庭部である。堆積土は５層に分けた。１～３層は

煙道や周囲からの流入土である。４層はカマド上部構造、袖部構築粘土である。５・６層は前庭部を構成した土であり、５層は前庭部の掘り込みに貼った褐色粘土で、ＳＩ12Ｂカマド前庭部の掘り込みを埋め立て、造成している。煙道から前庭部末端まで2.87ｍ、袖の最大幅が0.78ｍである。煙道はスロープ状で住居壁から1.09ｍ外に延びる。火床面は楕円形で直径0.48ｍの被熱範囲である。前庭部はほぼ楕円形の浅い掘り込みである。

本住居跡は隅に主柱をもち、南西壁にカマドを設置する住居である。廃絶後は人為的に埋め戻したと考えられるが、ＳＩ11構築の際に埋め立てた可能性がある。

**遺　物**（第107図449～455、第108図456～458、第21表）　住居内の床面とカマド周辺、埋土から土師器甕、須恵器壺が出土した。大部分がカマド周辺に集中しており、このうち土師器甕が主体である。図示したのは全て土師器甕である。須恵器杯は小破片のため図示しなかった。

土師器甕は非ロクロ成形で、外面にヘラケズリ、内面にヘラナデ、ユビナデなどの二次調整を施し、器形はバラエティがある。449、456の底部は砂底である。456はほぼ完全に復元出来た土器で、カマド出土である。器形は底部から胴部下半まで丸味を持って立ち上がり、胴部上半は内湾し、口唇部がわずかに外反する。胴部上半に最大径をもつ比較的大きい土器である（Ａ類）。

**ＳＩ12Ｂ**（第101・102図）

**遺　構**　ＳＩ12Ａの古段階の住居で張り出しを付属しない以外、規模は変わらない。本住居跡に伴う堆積土はない。

平面形は北西－南東方向にわずかに長い長方形である。カマドの付く壁に直交する主軸方位はＮ－55°－Ｗである。

床面は地山上面を利用し、平坦である。壁溝は北東壁、北西壁で確認できない部分があったが、南東壁、南西壁では壁に沿うように巡っていた。

柱穴は壁溝内で３個確認した。いずれもＳＩ12Ａと同位置だが、Ｐ３は若干位置をずらしている。

カマドは南西壁の中央から東よりの位置で、黒褐色土とカマドを構成する黄褐色粘土の分布で確認した。確認できた施設は煙道、火床面、前庭部である。堆積土は５層に分けた。１～３は煙道や周囲からの流入土である。４・５層は崩落したカマド上部構造の粘土である。煙道から前庭部末端まで2.66ｍ、袖の最大幅が0.61ｍである。煙道はスロープ状で住居壁から1.21ｍ外に延びる。火床面は楕円形で直径0.60ｍの被熱範囲である。前庭部は一部ＳＩ12Ａカマドの前庭部が切っているが、ほぼ楕円形の浅い掘り込みである。

本住居跡は隅に主柱をもち、南東壁にカマドを設置する住居である。ＳＩ12Ａ構築の際に貼り床を施し、カマドを破壊したと考えられる。

**遺　物**（第108図459、第21表）カマド前庭部と煙道から土師器甕が出土した。459はいずれも非ロクロ成形で底部は砂底である。内面にハケ目、外面にヘラケズリの二次調整を施す。

### （２）製鉄炉

**ＳＳ22**（第103図、図版12）

**遺　構**　Ａ区のＭＤ50、ＭＤ51グリッドに位置する。被熱し、鉄滓を含む褐色土（10ＹＲ4/4）の広がりとして地山面で確認した。１基のみの確認で、重複する遺構は無い。本遺構の南東部西斜面は現代の宅地造成でかなり削平されており、その辺にも散在していた可能性が考えられる。

残存する炉体の平面形は長楕円形で、長さ約0.7m、幅約0.55m、残存高は0.38mである。上部作業場の平面形は隅丸長方形で、規模は長辺約1.5m、短辺約0.6mである。

炉内の堆積土は６層に分けられるが、人為的に整地された層は確認されなかった。地山を掘り込んでその床を作業面とし、断面図Ａ～Ａ′の16・18層が床面に焼土として堆積し、操業終了後に１～４層が炉内に堆積したと考えられる。炉体を断ち割ってみると（断面図Ｂ～Ｂ′）炉壁の内側に５層確認された。２層は炉壁が砂粒化した層であり、３～６層が粘土で構築された炉本体である。これらの観察から、はじめに外側の６層、５層を作る。５層が被熱を受けていることから、この段階で空焚きしていることが推定される。その後、４層、３層を加え完成したものと考えられる。

上部作業場、炉底、下部作業場の底面には被熱した痕跡がある。それぞれの規模は上部作業場で直径0.25m、厚さ0.07m、炉底で長さ0.45m、幅0.15m、厚さ0.05m、下部作業場で長さ0.75m、幅0.45m、厚さ0.02mである。

**遺　物**　出土遺物には炉壁と鉄滓がある。炉内、作業場から炉壁は4,025ｇ、鉄滓は4,332ｇが出土している。土器が出土していないため操業時期を決定付られないが、確認面や東側で検出された平安時代の竪穴住居跡との位置関係から、これらの住居跡と同時期に操業していたものと想定される。

**（３）溝跡**

**ＳＤ09**（第104図）

**遺　構**　Ａ区のＭＡ・ＭＢ48・49グリッドに位置し、第Ⅱ層で溝状の黒色土の広がりを確認した。ＳＫＰ02と重複し、本遺構の方が古い。

堆積土は１層のみで自然流入土と考えられる。西－東方向に延伸方向をもつ。規模は確認できただけで、全長4.3m、検出面から底部までの最深部で0.38mである。

本遺構は火山灰降下後に掘り込まれており、ＳＩ11と同時期と考えられる。

**遺　物**　１層から土師器の小破片が15点出土した。

**ＳＤ17**（第105図）

**遺　構**　Ｂ区のＬＳ33・34、ＬＲ33～35、ＬＱ34・35グリッドに位置する。ＬＳ33グリッドの南西端は現代の撹乱で、北東端はトレンチにぶつかって途切れている。トレンチ以北からは検出されなかった。Ｂ区Ⅵａ層の上面、黄褐色小砂粒（十和田ａ火山灰）を含む黒色砂質土（2.5Ｙ2/1)の広がりとして確認した。

平面形・規模は、残存する長さが10.6m、上端幅0.65～0.95m、下端幅0.3～0.6m、深さは0.2m～0.46mである。

堆積土は十和田ａ火山灰に由来する小砂粒を多く含む層と含まない層が互層となって堆積しているところに溝が掘り込まれている。溝内の堆積土は黒色（2.5Ｙ2/1）若しくはオリーブ黒色（5Ｙ3/1～2/2）の砂質土が自然堆積している。

**遺　物**　５層から土師器の小破片が１点出土した。

本遺構の性格は不明であるが、時期は、土師器片が出土したことや十和田ａ火山灰を含んだ堆積層を掘り込んでいることから、平安時代の遺構と推定される。

**ＳＤ19**（第105図）

**遺　構**　Ｂ区のＬＳ34・35・ＬＲ35グリッドに位置する。南西端及び北東端はいずれも確認調査のトレンチに壊されており、トレンチを挟んだ反対側からは検出されなかった。Ｂ区Ⅳａ層の上面、黒色シルト質土（5Y2/1）の広がりとして確認した。重複する遺構は無い。

平面形・規模は、残存する長さが約4.3m、上端幅約0.5m、下端幅0.2～0.35mで、深さは0.05～0.12mである。

堆積土は十和田ａ火山灰に由来する小砂粒を多く含む層と含まない層が互層となって堆積しているところに溝が掘り込まれている。溝内の堆積土は黒色（2.5Y2/1）砂質土が自然堆積している。

**遺　物**　出土しなかったが、ＳＤ17と隣接し、同様な方向に延びていることから、ＳＤ17と同じく平安時代に造られた遺構と推定される。

**（４）焼土遺構**

**ＳＮ24**（第12図）

**遺　構**　Ａ区のＭＣ52、ＭＣ53グリッドに位置する。ＳＴ28捨て場Ⅳａ層の中位で被熱した褐色土(7.5ＹＲ4/6)の広がりとして確認した。重複する遺構は無い。

平面形は楕円形で、規模は長径0.9m、短径0.65mである。

堆積土は１層のみである。第12図の１層が本遺構の堆積土である、２及び３層はＳＴ28の堆積土（Ｖａ層）である。

**遺　物**　縄文土器の小破片が出土している。時期は検出された層位から、平安時代の遺構と考えられる。他の場所の焼土が谷に捨てられたのではなく、谷が埋没する過程で火を焚いた痕跡と推定される。

**（５）柱穴様ピット**（第５・６図、第20表）

ＳＫＰ01・02・58・59の４基を検出した。規模や断面形状、ＳＩ12・ＳＤ09などの新旧関係や検出面から平安時代と考えられる。

### ３　時期不明の遺構

**（１）柱穴様ピット**（第５・６図、第20表）

80基を検出した。既述したように陥し穴周辺とＳＩ21周辺とそれを結ぶラインの南西側では比較的多くの柱穴様ピットを検出している。しかし、規模や断面形状、配置に規則性が無く、削平が著しく、遺物も出土しなかったため時期不明の遺構としたものである。

## 第３節　遺構外出土遺物

### １　縄文時代の遺構外遺物出土状況

遺構内・外から出土した遺物は中コンテナ（容量18ℓ）で300箱である。このうち縄文時代前期の深鉢形土器と石器がほとんどで、Ａ区の４か所の捨て場（ＳＴ）、特にＡ区ＳＴ04捨て場から多量に出土した。捨て場は台地縁辺部の急斜面や台地上の谷が埋没していく途中に遺物が廃棄されたりして形成されたもので、斜面や谷は自然地形で、人間が構築した「遺構」では無い。現場では調査・整理作業の便宜上、範囲を確定させて遺構番号を付して遺物を取り上げたが、ここでは以上のような考え

方から、捨て場出土遺物は遺構外として扱う。また、遺物は出土層別に取り上げを行ったので、遺物実測図は捨て場毎・層毎に掲載した。

遺物の法量、施文や成形・調整技法や分類、特徴等については遺物観察表に記載した。

**（１）捨て場と捨て場以外**

【捨て場の概要】狼穴Ⅱ遺跡は舌状に張り出す台地上に立地する。台地上面は２段の平坦面からなるが、これらは現代の宅地造成の削平による段差と平坦面と考えられる。台地の西側と南東側には急傾斜の斜面が存在し、その南東側に捨て場が形成されている（ＳＴ04・ＳＴ15)。また、調査区台地上の中央から西に向かって一つ、さらにその北側に埋没した谷があり、それぞれが捨て場となっている（ＳＴ27・ＳＴ28)。

各捨て場の範囲については第５・６図にアミ掛けして明示し、ＳＴ04・ＳＴ15については第91・94図に土器出土状況図とあわせて掲載した。

なお、掲載した遺物（実測図）は報告書用に選別したものであり、それが全てではない。

**①　南東側斜面（Ａ区）の捨て場**

**ａ　ＳＴ04**

（位置）MB46～43、MA47～43、LT48～43、LS48～44、LR48～44、LQ48～45、LP48～46、LO48～LO47グリッドの範囲、南東側斜面の地山が地滑りなどで谷状に抉れたところに位置する。

（堆積土）10層に分けられる。20トレンチの東壁及び８トレンチの東壁を土層観察用ベルトとして残し、層位毎に掘り下げを進めた。表土下のⅡ層である黒色土（10ＹＲ1.7/1～10ＹＲ2/1）から遺物が出土し始める。土器は小片が主体であるが、石器の出土が多い。特にⅡｂ・Ⅱｃ層からは石匙を中心に多くの石器が出土している。Ⅳ層は黒褐色土(10ＹＲ2/2)を主体とする堅くしまった地層である。

Ⅳｆ層を中心に遺物が出土するが、Ⅱ層に比べ土器片が徐々に大きくなり、個体ごとにまとまって出土するものも増える。Ⅷ層は黒色土（10ＹＲ2/1）を主体とする地層であるが、台地中の鉄分が地中を流れ、層状に沈着している。遺物にもこの鉄分が多量に付着している。Ⅸ層はこの鉄分層の下層にあたる。主体となるのはⅧ層と同様の黒色土であるが鉄分の沈着が無い層位をⅨ層とした。Ⅷ層からⅨ層にかけて遺物が最も出土した層である。土器は１個体が潰れた様に出土するものが多くみられる（第93図の土器出土状況図・図版４参照）が、石器の出土はⅡ層に比べると減少する。

（出土遺物）第３～９表、第13～17表に遺物観察表を掲載している。（土器の出土状況の図は第93図下段にあり、Ⅸ層出土のＲＰ736は実測図第44・45図264・257・258で、図版４－１である。図版４－２は、同じⅨ層でＬＳ44グリッド出土のＲＰ781・784で、実測図第38・42・45図223・245・263である。）

Ⅰ層から縄文土器が３点（第17図22～24)、石鏃が１点（第60図Ｓ７)、石錐が１点（第60図Ｓ９)、石匙が１点（第60図Ｓ８)、掻器が１点（第60図S10)、凹石が１点（第75図S137）出土している。Ⅱ層から縄文土器が２点（第17図25・26)、石匙が２点（第60図S11・S12)、石篦が１点（第60図S13)、磨製石斧が１点（第75図S140)、打製石斧が１点（第75図S138)、擦石が１点（第75図S139)、半円状扁平打製石器が２点（第75図S142・S144)、凹石が２点（第75図S143・S145)、円盤状石製品が１点（第89図S272）出土している。Ⅱｂ層から縄文土器が12点（第18図27～38)、円盤状土製品が２点（第57図418・419)、石鏃が４点（第61図S14～17)、石錐が１点（第62図S25)、石匙が５点（第61図S19～S21、

第62図S22・S24)、石篦が１点（第61図S18)、有撮石器が１点（第62図S23)、削器が２点（第62図S27・S28)、掻器が１点（第62図S26)、半円状扁平打製石器が４点（第76図S146～S149)、擦石が１点（第76図S150)、敲石が１点（第75図S141）出土している。

Ⅱｃ層から縄文土器が37点（第18～21図39～75)、円盤状土製品が１点（第57図420)、石鏃が６点（第63図S29～S34)、石錐が２点（第65図S47・S48)、石匙が７点（第64図S36～S42)、石篦が３点（第63図S35、第65図S51・S52)、削器が２点（第65図S49・S50)、掻器が４点（第64図S43～S46)、磨製石斧が１点（第76図S152)、半円状扁平打製石器が４点（第76図S151・S153～S155)、ナタ状の礫石器が１点（第77図S156)、凹石が２点（第77図S157・S158)、磨石が１点（第77図S160)、円盤状石製品が２点（第87図S249・S254)、有孔石製品が１点（第77図S159）出土している。

Ⅱｄ層から石匙が１点（第65図S53）出土している。

Ⅲ層から縄文土器が２点（第21図76・77）出土している。

Ⅳ層から縄文土器が８点（第21・22図78～85)、土製品が１点（第22図86)、削器が１点（第66図S54)、石皿が１点（第77図S166）出土している。

Ⅳｃ層から円盤状石製品が２点（第87図S255・S258）出土している。

Ⅳｆ層から縄文土器が38点（第23～25図87～124)、石鏃が１点（第66図S55)、石槍が１点（第66図S60)、石錐が１点（第67図S65)、石匙が４点（第66図S56～S59)、石篦が１点（第66図S61)、削器が２点（第67図S62・S63)、掻器が１点（第67図S64)、磨製石斧が１点（第77図S161)、磨石が３点（第77図S162～S164)、円盤状石製品が１点（第90図S280)、その他の石製品が１点（第77図S165）出土している。

Ⅷ層から縄文土器が78点（第26～35図125～202)、円盤状土製品が３点（第57図S410・S421、第58図430)、石鏃が１点（第67図S66)、石匙が１点（第67図S67)、石篦が１点（第67図S68)、半円状扁平打製石器が２点（第78図S167・S169)、磨石が１点（第78図S168)、石皿が４点（第78図S170～S173)、円盤状石製品が７点（第87図S250・S256、第88図S263、第89図S273・S274・S278、第90図S281）出土している。

Ⅸ層から縄文土器が70点（第35～46図203～272)、円盤状土製品が７点（第57図411・422～425、第58図431・432)、土製品が１点（第46図273)、石篦が１点（第67図S69)、磨製石斧が２点（第79図S174・S177)、半円状扁平打製石器が７点（第79図S175・S176・S178～S181)、擦石が１点（第80図S185)、砥石が１点（第80図S184)、凹石が１点（第79図S183)、磨石が２点（第79図S182、第80図S187)、石皿が１点（第80図S186)、円盤状石製品が４点（第87図S257、第88図S268、第89図S275・S279）出土している。

Ｘ層から縄文土器が３点（第46図274～276)、磨石が１点（第80図S189)、石皿が１点（第80図S188)、円盤状石製品が３点（第87図S259・S260・S264）出土している。

排土から縄文土器が１点（第46図277)出土している。出土地点・層位は不明であるが、半円状扁平打製石器が１点（第80図S190）出土している。

ｂ　ＳＴ15

（位置）LM53～51、LL53～51グリッドの範囲に位置する。

（堆積土）８層に分けられる。大雨による流水などの自然作用によって削られたところに遺物を含む

Ⅱ～Ⅳ層が堆積した後、台地上の地山に由来するⅤ層が堆積したと考えられる（第94図のⅡ層からの土器出土状況図参照）。土器溜まりの性格が強いように思われる。

（出土遺物）第９～11表、第14～17表に遺物観察表を掲載している。（土器の出土状況の図は第94図下段にあり、図中のⅡ層出土のＲＰ768・769・770～773は土器の実測図第47・48図282・298・300・303・304である。）

Ⅰ層から縄文土器が３点（第46図278～280）、石鏃が１点（第68図S70）、石錐が１点（第68図S71）、石匙が１点（第68図S72）、石篦が１点（第68図S73）出土した。

Ⅱ層から縄文土器が40点（第46図281、第47～50図282～320）、円盤状土製品が４点（第57図S412、第58図S433・S434・S436）、石鏃が５点（第68図S74～S78）、石錐が１点（第69図S81）、石篦が２点（第69図S79・S82）、有撮石器が１点（第69図S80）、削器が１点（第69図S83～S85）、掻器が１点（第69図S86）、磨製石斧が１点（第81図S191）、半円状扁平打製石器が２点（第81図S192・S193）、円盤状石製品が３点（第87図S246、第88図S265、第90図S285）、有孔石製品が１点（第81図S195）、その他の石製品が１点（第81図S194）出土した。

Ⅲ層から石鏃が１点（第69図S87）、石槍が１点（第70図S89）、石錐が１点（第70図S91）、石匙が１点（第70図S88）、石篦が１点（第70図S90）出土した。排土から半円状扁平打製石器が２点（第81図S196・S197）出土した。出土層位は不明であるが円盤状土製品が１点（第58図426）、削器が１点（第70図S92）出土した。

排土から縄文土器が４点（第50図328～331）が出土した。

**②　台地上（Ａ区）の捨て場**

**ａ　ＳＴ27**

（位置）MC49～47、MB49～48、MA50～48、LT51～LT49、LS51～LS50グリッドに位置する。LS51から谷頭が始まり、南西側に抜ける埋没した谷である。

（堆積土）基本土層のⅣ層～ⅩⅨ層までが谷内の堆積土であるが、遺物包含層は黒色土（10ＹＲ2/1）であるⅣａ層及びⅤａ層だけである。Ⅳａ層からは縄文土器、弥生土器、土師器が混在して出土している。Ⅴａ層は縄文時代前期の包含層であり、土器・石器が出土している。Ⅵ層以下は無遺物層であり縄文時代前期以前の堆積層となる。これらのことから、台地上での生活が始まった縄文時代前期の段階ではこの谷の半分以上はすでに埋没しており、やや窪んだ所に土器や石器を廃棄していたと考えられる。

（出土遺物）第11～17表に遺物観察表を掲載している。Ⅱｃ層から石匙が１点（第70図S93）出土した。Ⅳａ層から縄文土器が１点（第56図400）、石鏃が１点（第70図S94）が出土した。Ⅴａ層から縄文土器が７点（第51図332～334、第56図401～404）、円盤状土製品が４点（第57図415、第58図427・428・435）、石鏃が１点（第70図S95）、石錐が１点（第70図S96）、石匙が１点（第70図S98）、削器が１点（第70図S97）、磨製石斧が２点（第81図S198・S199）、半円状扁平打製石器が７点（第81図S200～S202、第82図S203～S206）、擦石が２点（第82図S207・S208）、凹石が２点（第82図S209・S210）、磨石が１点（第83図S215）、円盤状石製品が７点（第82図S212、第87図S247・S251・S261、第88図S269、第89図S276、第90図S282）、線刻礫が１点（第83図S213・S214）、その他の石製品が１点（第82図S211）出土した。Ⅴｂ層から縄文土器が１点（第51図335）、石匙が１点（第70図S99）出土した。

ｂ　ＳＴ28

（位置）MD54～51、MC54～51、MB53～52、MA53～52グリッドに位置する。MA52、MA53の境界辺から谷頭が始まり、西側に広がる埋没した谷である。

（堆積土）基本土層のⅡ～Ⅸ、ⅩⅢ、ⅩⅧ～ⅩⅩの12層に分けられる。ST27同様遺物包含層はⅣａ層、Ⅴａ層であり、Ⅵ層以下は無遺物層である。十和田ａ火山灰の堆積層であるⅢ層の堆積が自然傾斜であることから、谷内の堆積層もST27と同じくⅣａ層以下であり、10世紀初頭には完全に埋没していたと考えられる。SP-Gから東に４ｍの付近で地山が最も低くなり堀状になり、この低くなった沢筋が北から南へ走る地形となる。

（出土遺物）第11～17表に遺物観察表を掲載している。Ⅳ層から石錐が１点（第71図S100）、剥片石器が１点（第71図S101）出土した。Ⅳａ層から縄文土器が12点（第51図336～344、第56図405～407）、円盤状土製品が１点（第57図413）、石鏃が１点（第71図S102）、石匙が１点（第71図S103）、削器が１点（第71図104）、円盤状石製品が２点（第87図S248・S262）出土した。Ⅴａ層から縄文土器が５点（第51図345・346、第52図347～349）、石鏃が２点（第71図S106・S107）、石匙が１点（第71図S108）、石篦が１点（第71図S105）、削器が２点（第71図S109・S110）、半円状扁平打製石器が６点（第83図S216～S221）、円盤状石製品が２点（第87図S252、第88図S270）出土した。Ⅵ層から縄文土器が１点（第52図350）出土した。Ⅶ層から縄文土器が１点（第52図351）出土した。撹乱部分から縄文土器が１点（第56図408）出土した。

③　捨て場以外

Ａ区遺構外出土遺物

第３～17表に遺物観察表を掲載している。Ⅰ層から石匙が１点（第72図S111）出土した。Ⅱ層から半円状扁平打製石器が２点（第84図S222・S223）、円盤状石製品が１点（第88図S266）出土した。排土から縄文土器が１点（第52図354）、石鏃が１点（第72図S112）、石槍が１点（第72図S118）、削器が１点（第72図S119）、半円状扁平打製石器が２点（第84図S225・S226）、円盤状石製品が１点（第87図S245）出土した。撹乱から縄文土器が２点（第52図352・353）、石錐が２点（第72図S114・S115）、石匙が１点（第72図S116）、石篦が２点（第72図S113・S117）、半円状扁平打製石器が２点（第84図S224・S227）出土した。出土層位は不明であるが縄文土器が１点出土した。

Ｂ区遺構外出土遺物

第11～17表に遺物観察表を掲載している。Ⅰ層から縄文土器が２点（第52図358・359）出土した。Ⅱ層から石匙が１点（第73図S120）出土した。Ⅳａ層から縄文土器が１点（第52図360）、石族が１点（第73図S121）、有孔石製品が１点（第86図S237）出土した。Ⅳｂ層から磨製石斧が２点（第86図S239・S243）、半円状扁平打製石器が１点（第86図242）、擦石が１点（第86図S239）、凹石が１点（第86図S240）、磨石１点（第86図S241）、有孔石製品（第86図S244）が出土した。Ⅵａ層から縄文土器が20点（第52図362・363、第53図364～375、第54図376～378・380・381）、石鏃が１点（第73図S122）、石槍が１点（第73図S123）、石錐が２点（第73図S125・S126）、石匙が２点（第74図S127・S128）、石篦が１点（第73図S124）、削器が１点（第74図S129）、掻器が１点（第74図S131）、磨製石斧が１点（第85図S229）、半円状扁平打製石器が６点（第85図S230～S235）、石皿が１点（第86図S238）、円盤状石製品が３点（第87図S253、第88図S271・S283）出土した。Ⅵｂ層から縄文土器が17点（第54図379・382・

383、第55図384～394、第56図395～398)、円盤状土製品が４点（第57図414・416・417、第58図429)、石槍が１点（第74図S132)、石匙が１点（第74図S134)、削器が１点（第74図S133)、円盤状石製品が２点（第88図S267、第90図S284）出土した。撹乱から縄文土器が１点（第56図399）が出土した。

**（２）縄文時代のその他の出土品**

**①　黒曜石**

科学分析に出したＳＴ27捨て場出土の剥片１点、他、ＳＴ04捨て場と遺構外から剥片２点と大小の原石が３点出土した。

**②　ベンガラ**

大小のベンガラと思われるものがＡ区ＳＴ04・15・26・27やＢ区遺構外から、中コンテナで約１箱出土した。

**③　硅化木**

Ａ区の遺構外から１点出土した。加工痕は見られない。

**④　軽石**

大小10点、Ａ区ＳＴ04・27から出土した。

## ２　縄文時代の出土遺物の分類

前項で述べたように、遺構内・外から出土した遺物は中コンテナ（容量18ℓ）300箱で、このうち縄文時代前期の深鉢形土器と石器がほとんどである。縄文時代では前期以外に中期・晩期の土器が少量、平安時代の土師器が遺構内からややまとまって出土している。遺構内出土の遺物については遺構毎に概要を記してきているが、ここでは遺物を総体的に見て分類する都合上、遺構内出土のものもその対象とした。遺物の法量、施文や成形・調整技法や分類、特徴等については遺物観察表に記載した。

**（１）土器・土製品**

**①　縄文時代前期の土器**（第17～56図、第３～13表）

土器の大きさに大小の差はあるが全て深鉢形土器である。

Ａ類　　全面に縄文を施文した土器である。

Ａ′類　全面に綾繰文を施文した土器である。

Ｂ類　　全面に撚糸文を施文した土器である。

Ｃ類　　口縁部に綾繰文、胴部に縄文を施文し、区画帯の無い土器である。

Ｄ類　　口縁部に綾繰文、胴部に撚糸文を施文し、区画帯の無い土器である。

Ｅ類　　口縁部に撚糸文、胴部に縄文を施文し、区画帯の無い土器である。

Ｆ類　　口縁部に斜めもしくは横位に撚糸文、胴部にも斜位に撚糸文を施文した区画帯の無い土器である。

Ｇ類　　頸部の隆帯に原体圧痕文・指頭圧痕文など、口唇部には刺突文を、地文は縄文・綾繰文・撚糸文などを施文している土器である。

Ｈ類　　頸部に沈線文・撚糸文・撚糸圧痕文・結節回転文などを横位に施文し、口縁部と胴部文様帯を区画している土器である。胴下半部に頸部と同様な文様を施文しているものもある。

Ｉ類　　上記で分類した土器に以下の文様が付加されたり、口縁部に突起がある土器である。

・「口」－Ｇ類以外で口唇部に刺突・指頭圧痕・撚糸圧痕等のあるもの（観察表などに「口」と表記）。
・「鋸」－体部に鋸歯状の沈線が付加されたもの（観察表などに「鋸」と表記）。
「突」－口縁部に突起があるもの（観察表などに「突」と表記）。
・他に破片ながら、極めて稀に、網目状撚糸文、半裁竹管文、円形刺突文を施文する場合もある（観察表などにそれぞれ表記）。
・「底部」－底外面に文様があるが、分類不能なもの（観察表などに「底部」と表記）。

**②　縄文時代中期の土器**（第56図401・402、第12表）

401、402は深鉢形土器で、401は波状口縁の波頂部の突起部分かと推定される土器である。口縁部は折り返し口縁様で内・外面に細い粘土紐を楕円形（横位）に貼付し装飾を施している。402は外面に細い粘土紐を三角形様に貼付し、地文は縄文である。いずれも円筒上層ｄ式土器である。Ａ区ＳＴ27捨て場から出土した。

**③　縄文時代晩期の土器**（第56図400・403～408、第12表）

器壁が薄く、外面に細かい縄文を施文している土器が多い。403は高台部で、平行沈線を３条巡らす。器厚や施文の特徴などから、いずれも縄文時代晩期後半の台付鉢形土器か台付浅鉢形土器と考えられる。

**④　縄文時代の土製品**

**円盤状土製品**

土器の破片を円形に打ち欠いたもので、遺構内・外から28点出土している。文様・焼成・胎土・色調からほとんどが縄文時代前期中頃の円筒下層ａ式期のものと思われる。径の大小で５類に分けた。文様は縄文、綾繰文、撚文などで、胴部破片がほとんどであるが、底部破片が１点ある。周縁は打ち欠き後、磨いて凹凸を少なくしたものと、打ち欠いたままのものとに分かれる。胎土に繊維を含むものが多い。

Ａ類　径が30～39㎜のものが６点（第57図409～414）出土した。うち414は周縁を打ち欠いたままのもの。他には磨きがある。

Ｂ類　径が40～49㎜のものが３点（第57図415～417）出土した。いずれも磨いているものである。

Ｃ類　径が50～59㎜のものが12点（第57図418～425、第58図426～429）出土した。418・419・422・423・426・427・429は磨きがあり、他の５点420・421・424・425・428は打ち欠いたままである。419は外面を磨いており、縄文が不鮮明になっている。

Ｄ類　径が60～69㎜のものが６点（第58図430～435）出土した。433・435は磨きがあり、他の４点（430～432・434）は打ち欠いたままである。432は内外面に「ス ス」が付着している。434は底部破片である。

Ｅ類　径110～119㎜のものが１点（第58図436）出土した。周縁を磨いている。

その他の土製品

２点出土（第22図86、第46図273）している。86は半分が欠損しているが、平面形はやや薄い円盤状で、裏面は平坦で、中央付近にわずかに孔をあけた痕跡が残る。胎土には繊維がやや多く、石英粒

なども混入している。273は土偶の足かと考えられ、足の裏面は平坦になっている。

### （２）石器類・石製品

#### ①　縄文時代の石器

#### （ア）剥片石器類

**石鏃**

石鏃は総数で67点出土した。そのうち30点を図示した。中茎の有無と基部の形態で次のように分類した。石質は全て頁岩である。無茎鏃と円基鏃が主体で、尖基鏃が１点出土した。

１類　基部に抉入のある凹基無茎鏃である（第59図S６、第63図S31・S34、第68図S70・S77、第72図S112、第73図S121）。

２類　基部が直線的な平基無茎鏃である（第60図S７、第61図S14・S15、第63図S29・S30、第67図S66、第70図S94、第71図S106・S107）。S107はきわめて小さい。

３類　基部が丸味を帯びる円基鏃である（第61図S16・S17、第63図S32・S33、第68図S74～S76・S78、第69図S87、第70図S95）。S16、S74、S95は基部の両端を調整し、基部全体にわずかな丸味をもたせている。

４類　基部が尖る尖基鏃である（第73図S122）。

第59図S１、第66図S55、第71図S102は折れているため中茎の有無、基部の形態が不明で分類不可能である。

**石槍**

石槍は総数で56点出土した。そのうち５点(第66図S60、第70図S89、第72図S118、第73図S123、第74図S132）を図示した。いずれも表・裏全体に丁寧な調整剥離を加え、刃先を薄く、鋭く仕上げている。S123のように身の幅があるものや、S132のように身が細く、長いものもある。

**石錐**

石錐は総数で54点出土した。そのうち15点（第59図S４、第60図S９、第62図S25、第65図S47・S48、第67図S65、第68図S71、第69図S81、第70図S91・S96、第71図S100、第72図S114・S115、第73図S125・S126）を図示した。錐部の断面形が菱形・三角形である。S４・S25・S48・S47・S65・S96・S115は縦長の剥片を利用しており、S４・S25・S48・S96は錐部以外はほとんど加工していない。

**石匙**

石匙は遺構内と捨て場から234点、遺構外から51点で、総数で285点出土した。そのうち35点を図示した。両側縁から抉りを入れて摘みを作出しているもので、剥片の形態は縦長と横長があるが、縦長が圧倒的に多い。縦長の剥片を加工した縦長石匙は28点を図示した。第59図S５、第60図S８・S11、第61図S21、第62図S22・S24、第64図S36～S41、第65図S53、第66図S56～S59、第67図S67、第68図S72、第70図S93・S99、第71図S103、第72図S111・S116、第73図S120、第74図S127・S128・S134である。S８・S21・S24・S38・S39・S41・S58・S72・S93・S111は片面全体に丁寧な調整剥離を施しており、特にS８・S24・S38・S111は他に比べて長く、細身である。S11・S22・S36・S37・S40・S53・S103・S127は片面の両周縁に調整剥離を施しており、縦形の中央部に稜線が残る。S36・S37は他に比べて長く、細身である。S127は小形で、先端部が石錐状に尖る。S59・S67・S72・S99・S120・S128は長さが比較的短く、幅広である。S120は両面、他は片面調整である。S５・S56・S57・S116は片面の両周縁に細

かな調整剥離のみ施す粗製の石匙である。S56、S57は細身で、Ｓ５・S116は幅広である。

横長の剥片を加工した横長石匙は第61図S20、64図S42、第70図S98の３点を図示した。S20・S42は片面調整で、S98は片面の他に主要剥離面の周縁にも調整剥離を施している。

第60図S12、第61図S19、第70図S88、第71図S108は横長の剥片の斜め上に撮みを作出しているものである。刃部の形態はS19・S88は直線的で、S12・S108は弧状となる。

**石篦**

石篦は総数で40点出土した。そのうち16点（第60図S13、第61図S18、第63図S35、第65図S51・S52、第66図S61、第67図S68・S69、第68図S73、第69図S79・S82、第70図S90、第71図S105、第72図S113・S117、第73図S124）を図示した。左右がほぼ対称で、石槍に似て細長いものや平面形が長方形、小判形等のいわゆる“ヘラ状”呈し、表・裏を２次調整しているものが主体であるが、片面調整のものもある。両面調整のものはやや厚く、片面調整のものは薄い。

S13・S35・S79・S90・S105・S113は石槍に似た形で、両面調整を施している。S18・S124は前者に比べやや幅があるものの、石槍に似た形である。S51・S52・S82は小判形で、片面もしくは半両面調整である。S68・S117は長方形S68は片面、S117は半両面調整である。S51・S52・S82は小判形で、S52・S82は片面調整、S51は半両面調整である。

**有撮石器**

石匙の撮みと同様の作り方をした撮みを持ち、両面あるいは半両面調整を主体としており、石器の中軸線でほぼ左右対称となる石器である。第59図Ｓ３、第62図S23、第69図S80の３点が出土した。S23・S80は両面調整、Ｓ３は半両面調整である。

**削器**

削器は75点出土した。そのうち20点を図示した。剥片の側縁に連続的な調整剥離によって刃部を作出した石器である。石器の大小、刃部の形状によって分類した。

１類　縦長で細長い剥片の片側縁か両側縁に、片面もしくは半両面の調整剥離を施すものである。第69図S83、第71図S104、第74図S129の３点である。

２類　縦長で、やや幅広の剥片の片側縁か両側縁に、片面もしくは半両面の調整剥離を施すものである。先端部が尖る。第62図S28、第65図S50の２点である。

３類　縦長の三日月形である。やや幅広の剥片の表面もしくは半両面の片側縁に調整剥離を施すものである。第67図S62、第69図S85の２点である。

４類　縦長で、やや幅広の剥片の片側縁か両側縁に、片面もしくは半両面の調整剥離を施すものである。第62図S27、第70図S97、第71図S109の３点である。

５類　幅広の剥片の片側縁もしくは両側縁に調整剥離を施すものである。第67図S63、第72図S119の２点である。

６類　幅広の楕円形をした剥片の両側面に、片面もしくは半両面の調整剥離を施すものである。第65図S49、第69図S84、第74図S130の３点である。

７類　幅広の台形様の剥片の両側縁に、片面の調整剥離を施すものである。第59図Ｓ２、第74図S133の２点である。

８類　幅広の三角形様の剥片の両側縁に、片面の調整剥離を施すものである。第66図S54、第70

図S92、第71図S110の３点である。

**掻器**

厚い剥片の周縁や側縁に調整剥離を施して急角度の刃部を作出した石器である。29点出土した。そのうち、９点を図示した。

１類　縦長で細身の剥片で、片面もしくは半片面の側縁もしくは周縁に調整剥離を施すものである。第64図S44・S45、第74図S131の３点である。

２類　縦長で幅広の大型の剥片で、片面の周縁に調整剥離を施すものである。第69図S86の１点である。

３類　縦長でやや幅広の楕円形もしくはそれに近い形の剥片で、半両面の周縁もしくは片側縁に調整剥離を施すものである。第64図S43・S46、第67図S64の３点である。

４類　縦長でやや幅広の三角形に近い形の剥片で、片面の側縁の一部に調整剥離を施すものである。第60図S10、第62図S26の２点である。

**石核**

石核は18点出土した。縦長や横長、円形の石材を加工し、剥片素材を採取したものである。

**磨製石斧**

磨製石斧は12点出土した。そのうち10点（第75図S140、第76図S152、第77図S161、第79図S174・S177、第81図S191・S198・S199、第85図S229、第86図S239）を図示した。S239はほぼ完形で、残り９点は基部の半ばで折れている。S239は刃部が斜めの偏刃で、断面は隅丸長方形となる定角式磨製石斧である。S161・S174は刃部が残っており、その平面形と断面形から円刃の定角式磨製石斧である。S140・S152・S177・S191・S198・S199・S229は基部もしくはその周辺が残っているものである。S140・S198・S229は断面形が長方形で、小型の割に厚くS198・S229は石斧主面の両面に溝が消しきれずに残っていることから、擦切磨製石斧と考えられる。以上の石斧の石質は輝緑凝灰岩や蛇紋岩である。

**磨製石斧様石器**

磨製石斧と類似した石器が１点（第86図S243）出土した。形態は小型の定角式磨製石斧に似るが、両側縁の片側もしくは両側に調整剥離を施している。剥離面以外は丁寧に磨いてみごとな刃部（「片刃」、「円刃」）に仕上げている。石質は他の磨製石斧と異なり、安山岩である。

**（イ）礫石器類**

打製石斧、半円状扁平打製石器、擦石、砥石、ナタ状石器、凹石、磨石、敲石、石皿、円盤状石製品、有孔石製品が出土した。

これらの石器は「する」、「たたく」、「つぶす」といった機能を想定でき、この結果は複合して痕跡として残る場合が多い。このため、上記した器種順に序列を定め複合した痕跡の認められるものは、先に記したものを上位としそれに含める。

「する」に関しては、①石材の面をすって「磨く」ものに「磨」の字を、②石材の辺・稜をすって「擦り切る」、「擦り潰す」機能を想定できるものに「擦」の字をあてて使い分けた。①では磨石、凹石、石錘、半円状扁平打製石器などの磨面が、②では半円状扁平打製石器、擦石などが該当する。

**打製石斧**

楕円形状の礫の表・裏の周縁に調整剥離を施し、表・裏の中央部には磨いた痕跡で明瞭に残ってい

る（第75図S138）。

**半円状扁平打製石器**

１類　　底辺を打ち欠き、側縁に抉りを入れたもの。

１－ａ類　両側縁に抉りを入れたものが１点（第81図S193）出土した。

１－ｂ類　対辺と両側縁に抉りを入れたものが１点（第86図S242）出土した。

２類　　底辺と片側縁を打ち欠いたものが３点（第75図S142・S144、第76図S151）出土した。

２－ａ類　底辺の擦りの痕跡が明瞭でないものが２点（S142・S151）出土した。

２－ｂ類　底辺の擦りの痕跡が明瞭なものが１点（S144）出土した。

３類　　底辺と両側縁を打ち欠いたもの。

３－ａ類　底辺の刃部の幅が打ち欠いたままで、刃部に擦りの痕跡が明瞭でないものが２点（第81図S196、第84図S224）出土した。

３－ｂ類　底辺の刃部の幅が打ち欠いた時より広くなって、刃部に擦りの痕跡が明瞭なものが１点（第78図S167)出土した。

４類　　底辺と片側縁を打ち欠いたもの

４－ａ類　底辺と対辺、片側縁を打ち欠いたもので底辺の刃部は打ち欠いたままのものが２点（第79図S180、第81図S192）出土した。

４－ｂ類　底辺と対辺、片側縁を打ち欠いたもので底辺は擦りの痕跡（幅）をもつものが１点（第76図S146）出土した。

４-c類　底辺と片側縁を打ち欠き片側縁もしくは両側縁に抉りを入れたもので底辺に擦りの痕跡が明瞭に残るものが２点（第80図S190、第82図S204）出土した。S204は抉り部分が打ち欠き後に擦れて、浅い溝状となっている。

５類　　底辺と対辺を打ち欠き、両側縁に抉りを入れたものが３点（第79図S175、第85図S230・S231）出土した。

６類　　底辺と対辺、両側縁を打ち欠いているもの。

６－ａ類　底辺の刃部が打ち欠いた幅のままのもので、擦りの痕跡が明瞭でないものが12点（第76図S147～S149、第78図S169、第81図S200～S202、第83図S216・S217・S219、第84図S226、第85図S232）出土した。

６－ｂ類　底辺の擦りの痕跡が明瞭で、その擦りの幅が形成されているものが15点（第76図S154、第79図S176・S179、第81図S197、第82図S203・S205・S206、第83図S218・S220・S221、第84図S222・S223・S225、第85図S233・S235）出土した。

７類　　折れたり（欠損したり）して全体の形状が不明であるが、残存部の形状、厚さ、刀部の打ち欠きの状況により分けた。

７－ａ類　底辺、対側縁を打ち欠き、側縁が磨製石斧のような断面形状をもつ。全体を磨いた痕跡が顕著で、比較的薄手のものが多く、全て半分ほどが折れている。６点(うち縦に剥落しているもの１点)出土しているが未掲載。

７－ｂ類　底辺と対辺・側縁を打ち欠いたもの。比較的薄手で底辺は打ち欠いたままのものが多い。10点出土しているうち４点を図示した（第75図S136、第79図S178・S181、第85図S

234)。

７-c類　やや厚手のもので、底辺と対辺・側縁を打ち欠いたものや、底辺と側縁を打ち欠き、底辺に明瞭に擦痕を残すものがある。２点出土しているが未掲載。

７-d類　細長く厚手のもので、底辺・対辺・側縁を打ち欠いたもの。１点出土しているが未掲載。

Ⅶ-e類　底辺と側縁を打ち欠いているもの。底辺は打ち欠いただけのものと、擦った痕跡を明瞭に残すものがあり、中央の両面もしくは片面に凹みをもつもの。２点（第76図S155、第84図S227）出土した。

**擦石**

７点（第75図S139、第76図S150、第80図S185、第82図S207・S208、第85図S228、第86図S236）を図示した。①平面形が長楕円形状の河原石（S139・S150・S207・S228・S236）②平面形が長方形の節理面となっており、断面形が角張っている（S185・S208)。いずれも部分的に擦面や凹み、敲打痕が残る。①は両側縁や片側縁などに擦面があり、S139・S150・S228・S236は「凹み」も認められる。②はいずれも、部分的に擦面があり、先端に敲打痕が残る。

**ナタ状石器**

平面形が「鉈」状になった礫の緩い弧状部に片側縁に調整剥離を施して刃部としたものである（第77図S156)。

**凹石**

９点（第75図S137・S143・S145、第77図S157・S158、第79図S183、第82図S209・S210、第86図S240）出土し、いずれも図示した。円形、楕円形や長楕円形様もしくは細長い礫に凹みの痕跡を残しているものである。①は円形のもので２点（S143・S145）出土している。S145は周縁に敲打痕が残る。②は楕円形のもので１点（S240）出土している。③は長楕円形様のもので５点（S137・S157・S158・S183・S210）出土している。④は節理面のある細長い礫で、断面形が五角形となる。１点（S209）出土している。三面に凹みの痕跡を残し、尖った先端部には敲打痕も残している。

**磨石**

10点（第77図S160・S162～S164、第78図S168、第79図S182、第80図S187・S189、第83図S215、第86図S241）出土したものを全て図示した。磨石は円形、楕円形、隅丸長方形もしくは隅丸方形の礫で、ほぼ全体的に磨られている。①は円形のもので３点（S163・S189・S215)出土した。②は楕円形で２点（S168・S187）出土した。S187の１側縁には敲打痕が残る。③は大・小あるが、隅丸長方形ものもが４点（S160・S162・S164・S241）出土した。S160、S162は小形で、先端部に敲打痕が残る。S160は側面に凹みも残る。S164・S241は前の２点に比較してやや大きく、両者の使い分けが想定される。④は１点（S182）出土した。隅丸方形で、表面や側面に一定の範囲で、顔料（ベンガラ）と思われる暗赤褐色の物質が付着している。

**敲石**

６点出土した。このうち１点（第75図S141）を図示した。形は擦石の②としたS185・S208と似て細長く、断面形が四角である。先端部と上の側縁に敲打痕が残る。安山岩製。

**石皿**

石皿は８点出土しており、そのうちＡ区のＳＴ04捨て場から７点（第77図S166、第78図S170～S173、第80図S186・S188）、Ｂ区遺構外から１点（第86図S238）出土している。欠損しているものが多く、全体の形状の分かるものは少ないが、隅丸長方形や楕円形のものが多いと推定される。S188は完全な形の大きめの河原石（長さ36.1㎝）で、磨面（使用痕）が浅い皿状に凹む。S172も破片ながら凹みを持っている。他の６点は磨面が平坦になっている。S166は完全な形で、両面が平坦な磨面となっている。S186は平坦な片面に、部分的ながら顔料（ベンガラ）と思われる暗褐色の物質が付着している。輝石、安山岩など目の粗い石が使われている。

**砥石**

２点（第75図S135、第80図S184）出土した。破片で全体の形が分かるものはないが、磨面に浅い溝状の痕跡を５～７条ほど残している。S135はＡ区ＳＩ21竪穴住居跡、柱穴から出土したもので、磨面は緩い弧状にくぼんでいる。S184はＡ区ＳＴ04捨て場からの出土で、磨面は平坦で両側縁も平坦に仕上げられている砥石である。石材は凝灰岩と思われる。

**有孔石製品**

凝灰岩質の礫を円形に磨ったり、整形したりして加工し、中央に孔を穿ったものである。４点（第77図S159、第81図S195、第86図S237・S244）出土した。Ａ区のＳＴ04・15捨て場やＢ区遺構外からの出土である。大きさや厚さ、成形方法によって違いがある。S159・S195・S244は厚さが一定で板状である。S159は小型で、表・裏面と周縁を丁寧に磨いている。S195は周縁に整形時の打ち欠き痕が残る。S244はS195に比較してやや厚く、それほど平滑でない。S237は断面形が紡錘状で、全体がそれほど平滑でない。

**線刻礫**

Ａ区のＳＴ27捨て場から２点（第83図S213・S214）出土した。板状の節理面を持つ略正方形もしくは略台形の礫の片面もしくは両面に直線が刻まれているものである。略長方形で大きいS214はS213に比較して、線が部分的にかなり太めで、断面が「Ｖ」字状になる所もあることから、砥石としての機能があったかも知れない。

**②　縄文時代の石製品**

**円盤状石製品**

石を円盤状に加工したものである。大きさと成形方法によって以下のように分類した。

１類　径が20～29㎜のものが１点（第87図S245）出土した。表・裏と周縁に丁寧な磨きを施す。

２類　径が40～49㎜のものが１点（第87図S246）出土した。片面に数条の直線的な線刻が並列するように施され、浅い溝状となる。

３類　径が50～59㎜のものが２点（第87図S247・S248）出土した。表・裏と周縁に丁寧な磨きを施すもの（S247）。断面角の形状が角張るものと、丸みを帯びるもの（S248）がある。

４類　径が60～69㎜のものが５点（第87図S249～S253）出土した。 周縁を打ち欠いたままのもの（S249、S250）と周縁を打ち欠いた後にやや磨っているもの（S251・S252）と表・裏、周縁を丁寧に磨いて「おむすび」状になっているもの（S253）がある。S249は表・裏を磨いている。

５類　径が70～79㎜のものが４点（第87図S254～S257）出土した。周縁を打ち欠いたままで表・裏を丁寧に磨いているもの（S255）と、周縁を打ち欠いた後にやや磨いているもの（S256・S257）や全体を丁寧に磨いてから、表・裏に線刻を施すもの（S254）がある。S256は表・裏を丁寧に磨いている。

６類　径が80～89㎜のものが５点（第87図S258～S262）出土した。周縁を打ち欠いたままのもの（S259）と、周縁を打ち欠いた後に「擦り」の痕跡を残すもの（S258・S262）、全体を磨いて成形しているもの（S260・S261）がある。

７類　径が90～99㎜のものが６点（第82図S212、第88図S263～S267）出土した。ａ周縁を打ち欠いたままのもの（S264）。ｂ全体を磨いているもの（S212、S263、S265～S267）である。周縁の磨り具合はS266、S267は打ち欠きの痕跡がやや残り、S263、S265は丁寧な磨きで打ち欠き痕を残していない。S212は片面中央付近に盲孔が残る。S265は表裏全面に直線的な線刻が残る。

８類　径が100～109㎜のものが４点（第88図S268～S271）出土した。ａ周縁を打ち欠いた後に部分的に擦った痕跡を残すもの（S268・S270）で、S268は部分的に敲いた痕跡を残す。ｂ全体を磨いているもの（S269・S271）である。S271の表・裏は特に丁寧に磨かれており、中央付近に直線的な線刻が２本残る。S269は表・裏に「凹み石」にあるような凹みが残る。

９類　径が110～119㎜のものが６点（第89図S272～S277）出土した。ａ周縁を打ち欠いたままのもの（S275～S277）である。S277は薄く、表面を丁寧に磨いている。ｂ全体を磨いているもの（S272～S274）である。S273・S274は表・裏に特に丁寧な磨きを施している。S272は軽石製である。

10類　径が120～129㎜のものが２点（第89図S278・S279）出土した。ａ表・裏は全面を丁寧に、周縁は上下を部分的に磨いている。周縁の打ち欠き痕の残る左右は、部分的に擦られて幅の狭い平滑部となっている（S279）。ｂ表・裏は全面を丁寧に、周縁はやや凹凸があるもののやや平滑であることから、いずれも磨いて成形したものと思われる（S278）。S279は薄手、S278は厚手である。

11類　径が130～139㎜のものが５点（第90図S280～S284）出土した。ａ表・裏の片面もしくは両面を磨き、周縁は打ち欠き痕を残し、明瞭な平滑な面が形成されていない（S280～S282、S284）。S281・S282・S284は片面を、S280は両面を磨いている。S282は表面に直線的な細い線が全面に残り、裏面には凹み石にあるような凹みが残る。ｂ表裏、周縁を丁寧に磨いており、大変薄手で、平滑である（S283）。

12類　径が140～149㎜のものが１点（第90図S285）出土した。表・裏と周縁を丁寧に磨いている。周縁は成（整）形時の打ち欠きなどによると思われるわずかな凹みが部分的に残るが、全体的にはきれいな円を描く。全体の形態的特徴は９類のS273と類似する。

13類　破片のため全体の形状は不明であるが、表・裏は大部分平滑で、側縁は弧を描き、打ち欠いたままである（第90図S286）。製作技法や石質から薄手の半円状扁平打製石器の可能性があるが、残存部の平面が円形であることから円盤状石製品とした。

**その他の石製品**

（第82図S211）は円形で、表・裏とも中心から径の半ばまでが、盛り上がっている形の礫岩製の石製品である。全体的に磨って成形されているが、特に周縁は凹凸が少なく、平滑になっている。

（第77図S165）は緑色凝灰岩製の礫を薄く板状に縦割りし、磨って円形にした後に、周縁の４か所に「Ｖ」字状の刻みを入れた石製品である。

（第81図S194）は礫の一部が剥落したもので、表面の半分ほどに赤色顔料が付着している。

## ３　平安時代の出土遺物の分類

### （１）土器

竪穴住居跡の埋土上の遺構外から土師器坏が出土している。時期は十和田ａ火山灰降下（915年）前後の10世紀前半頃と考えられる。

**①　須恵器**

(ｱ) 壺：胴部が出土しているが、破片のため器形の全容が分かるものはない。

(ｲ) 甕：口縁部や胴部が出土しているが、破片のため器形の全容が分かるものはない。タタキ目が認められるものもある。

**②　土師器**

(ｱ) 坏：竪穴住居跡やその上面から２点出土している。いずれもロクロ成形で外面にロクロ目を、底部外面には糸切り痕が残る。

Ａ類　器形は体部がやや開き気味に立ち上がり、内面にミガキと黒色処理を施すもの。

Ｂ類　器形は底部から体部が丸味を持ってやや急に立ち上がり、内面にミガキと黒色処理を施さないもの。

(ｲ) 甕：竪穴住居跡や遺構外から出土している。いずれも非ロクロ成形で底部は砂底である。外面にヘラケズリ、内面にヘラナデ、ユビナデなどの二次調整を施す。出土量が少なく、全体の器形が分かるように復原できたものは２点である。

Ａ類　器形は底部から胴部下半まで丸味を持って立ち上がり、胴部上半は内湾し、口唇部がわずかに外反する。胴部上半に最大径をもつ比較的大型の土器である（ＳＩ12Ａ竪穴住居跡カマド出土－第108図456）。

Ｂ類　器形は高さの割に広めの底径をもつ底部から胴部下半が丸みを持って立ち上がり、胴部上半は内湾し、口唇部が「く」の字状に外反する比較的小型の土器である（ＳＩ11竪穴住居跡カマド出土－第106図445）。

### （２）製鉄関連遺物

炉壁の破片と鉄滓がある。製鉄炉の北西側斜面・南東側のＳＴ27捨て場などから炉壁が224ｇ、鉄滓が1,326ｇ出土している。

《参考文献》

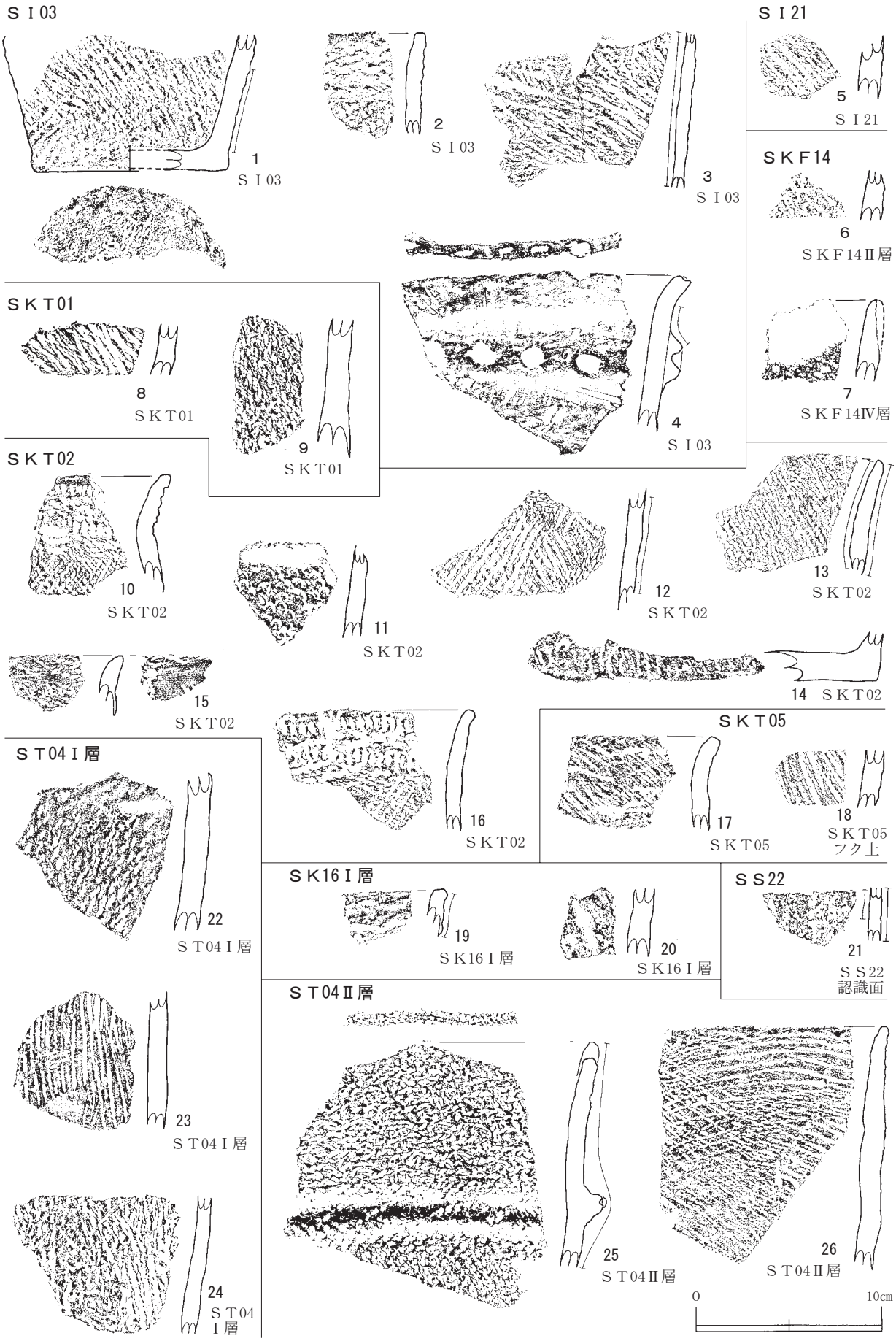
鈴木　道之助　『図録・石器入門事典〈縄文〉』　柏書房株式会社　1994（平成６）年

秋田県教育委員会　『東北横断自動車道秋田線発掘調査報告書Ⅱ　上ノ山Ⅰ遺跡・館野遺跡・上ノ山Ⅱ遺跡』　秋田県文化財調査報告書第166集　1988(昭和63)年

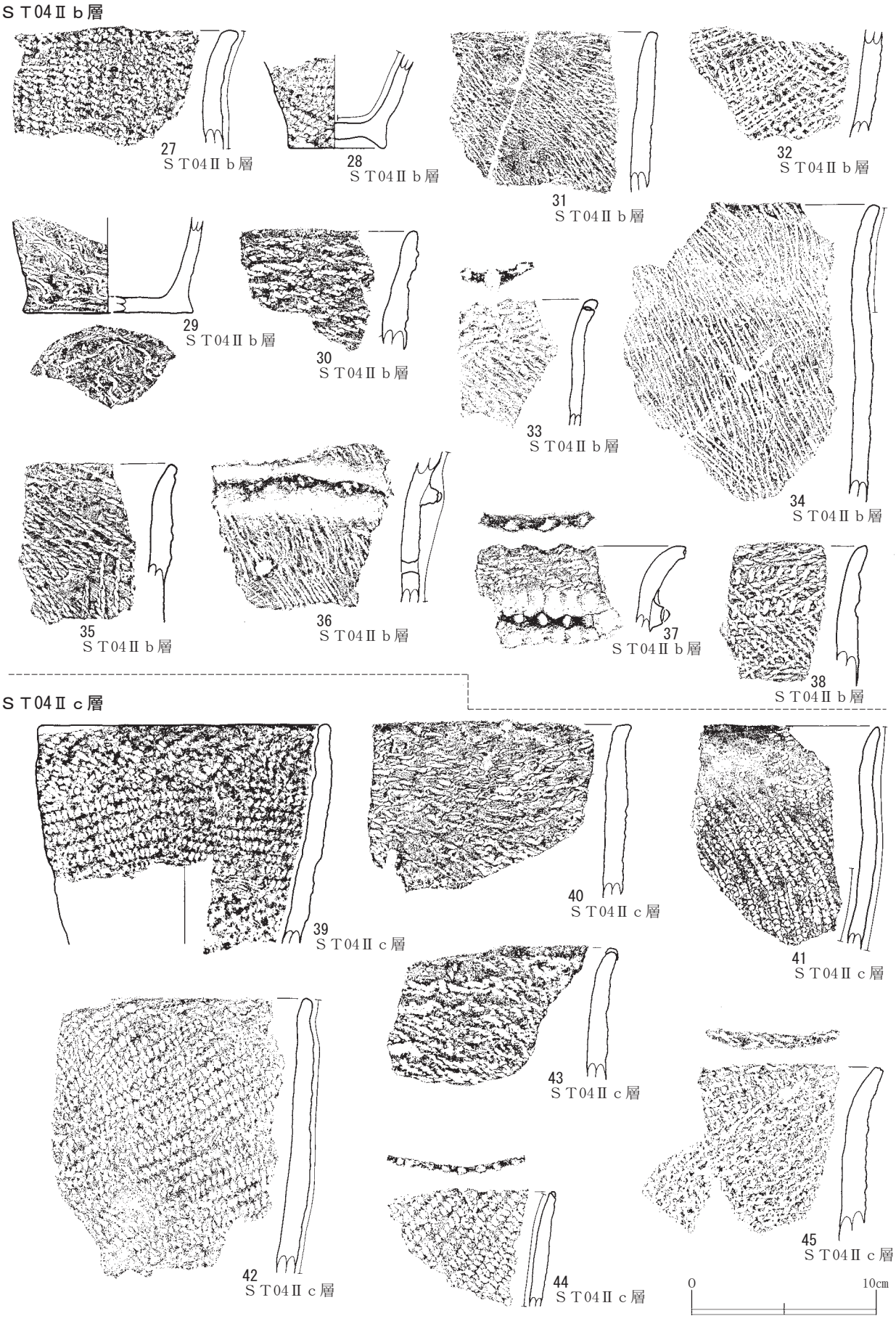
秋田県教育員会　『国道103号道路改良工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ－上ノ山Ⅰ遺跡第２次調査－』　秋田県文化財調査報告書第211集　1991(平成３)年

秋田県教育委員会　『松木台Ⅲ遺跡－日本海沿岸東北自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書』　秋田県文化財調査報告書第326集　2001（平成13）年

秋田県教育員会　『ヲフキ遺跡－県営ほ場整備事業（大砂川地区）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ』　秋田県文化財調査報告書第352集　2003(平成15)年

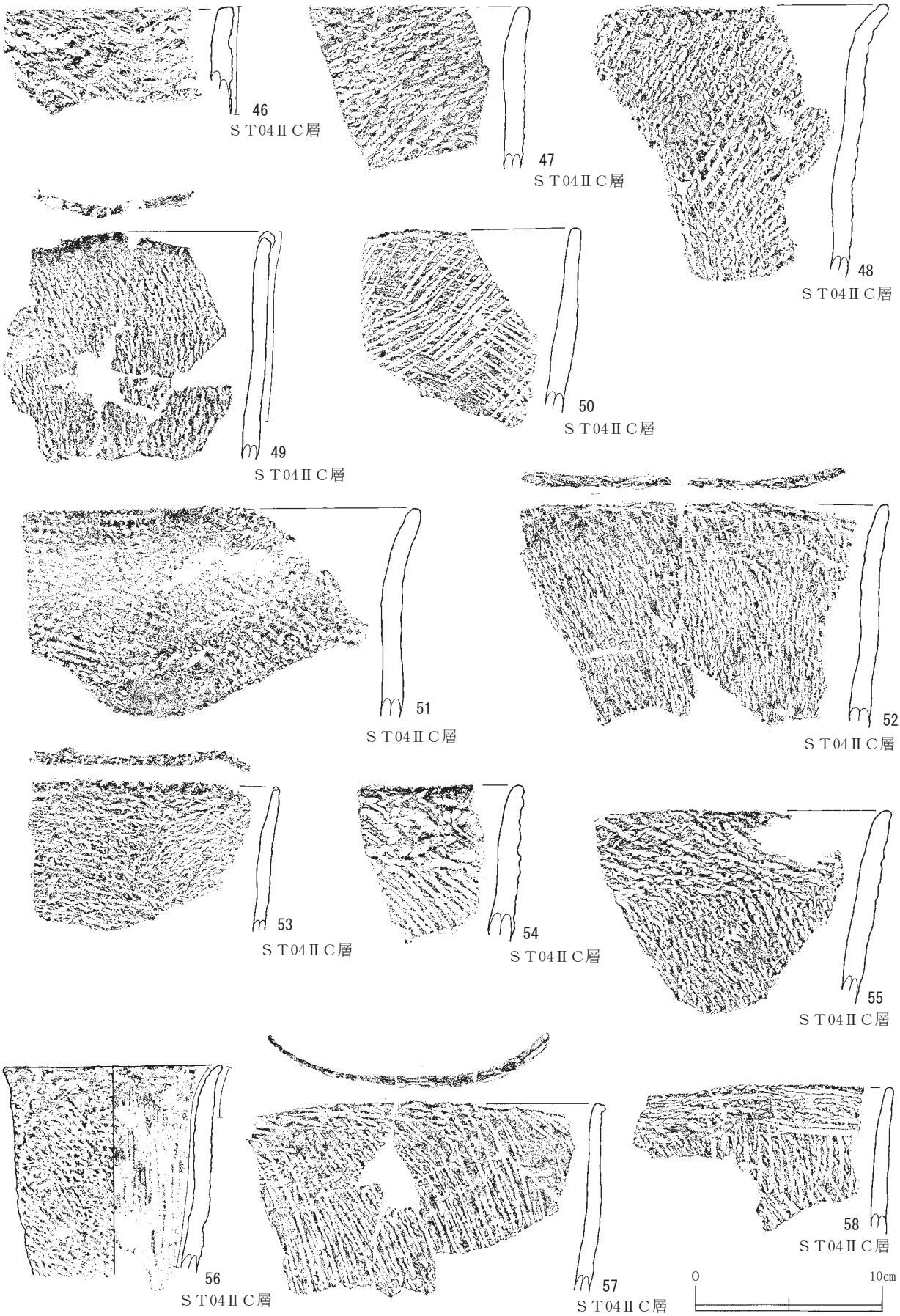



第17図　ＳＩ03・21、ＳＫＦ14、ＳＫ16、ＳＫＴ01・02・05、捨て場出土土器（１）



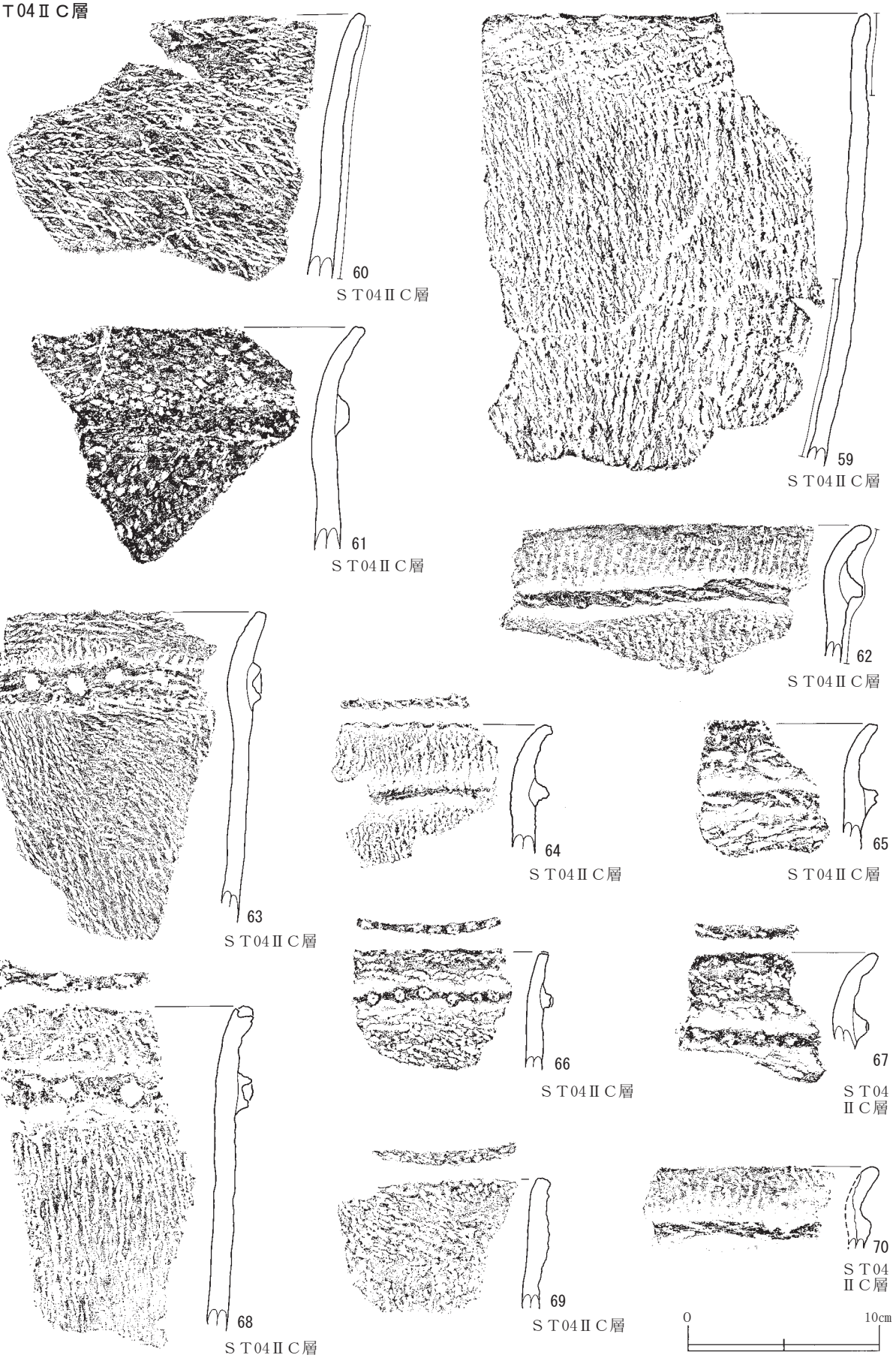

第18図　捨て場出土土器（２）

ＳＴ04ⅡＣ層

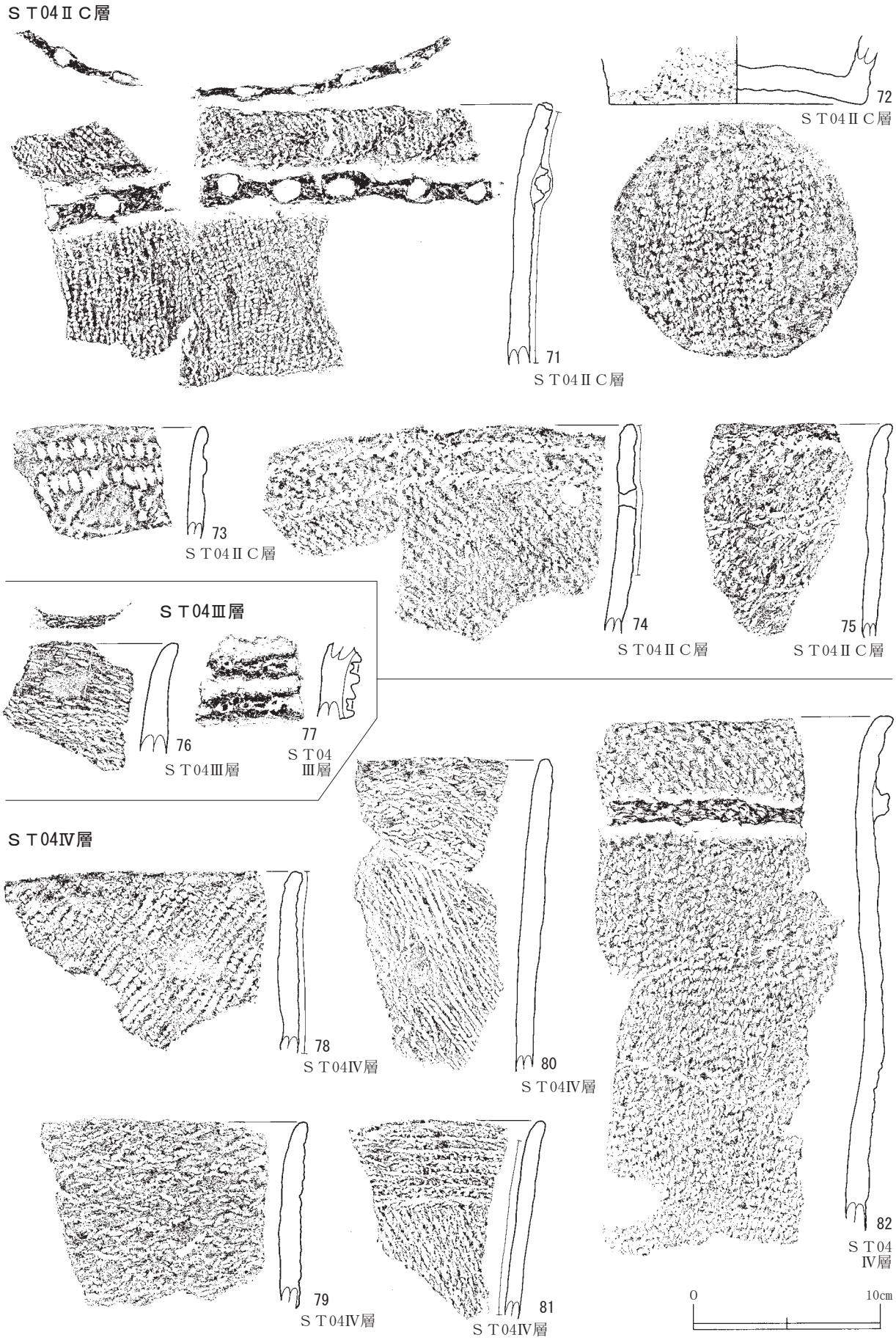



第19図　捨て場出土土器（３）

ＳＴ04ⅡＣ層

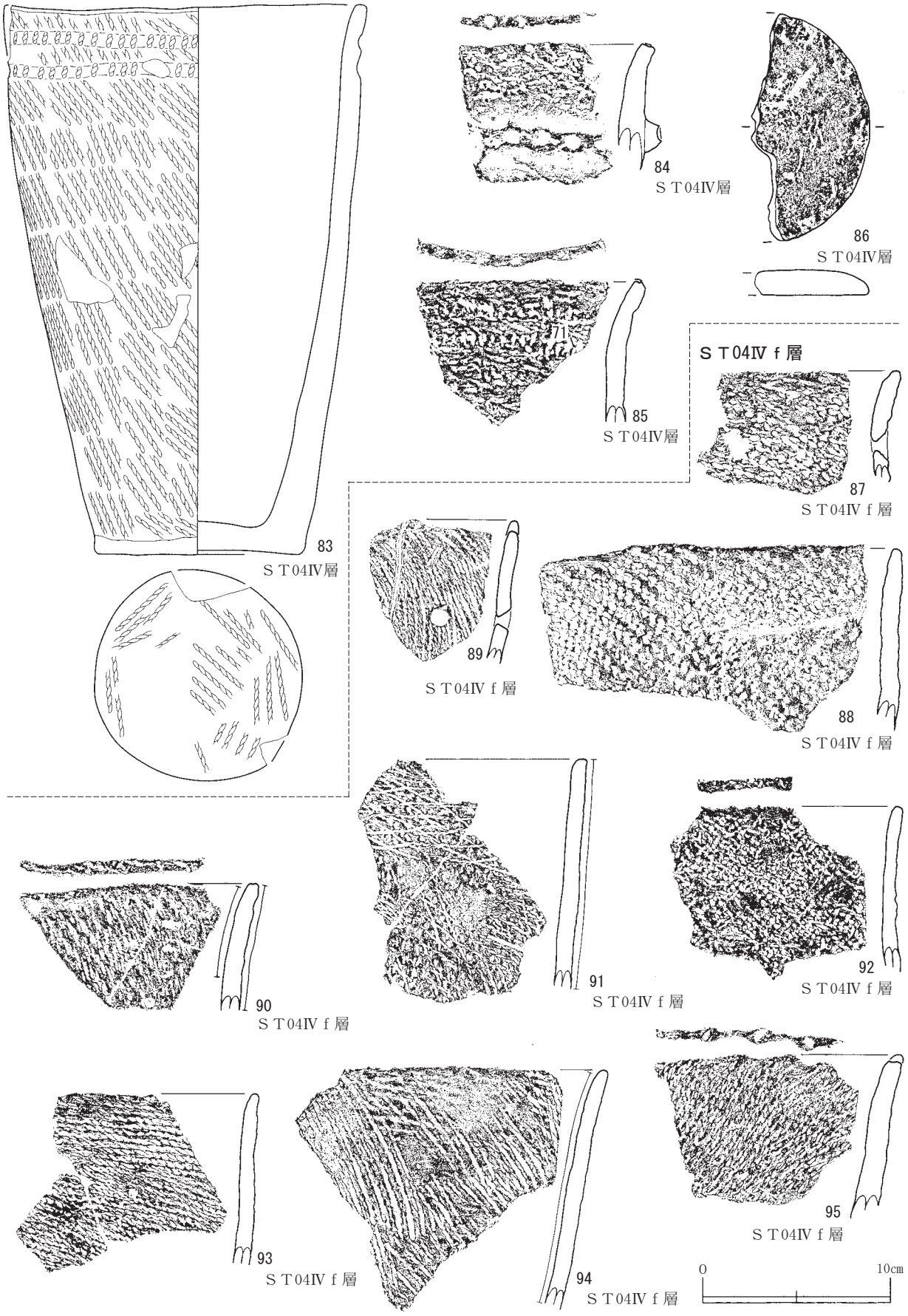



第20図　捨て場出土土器（４）



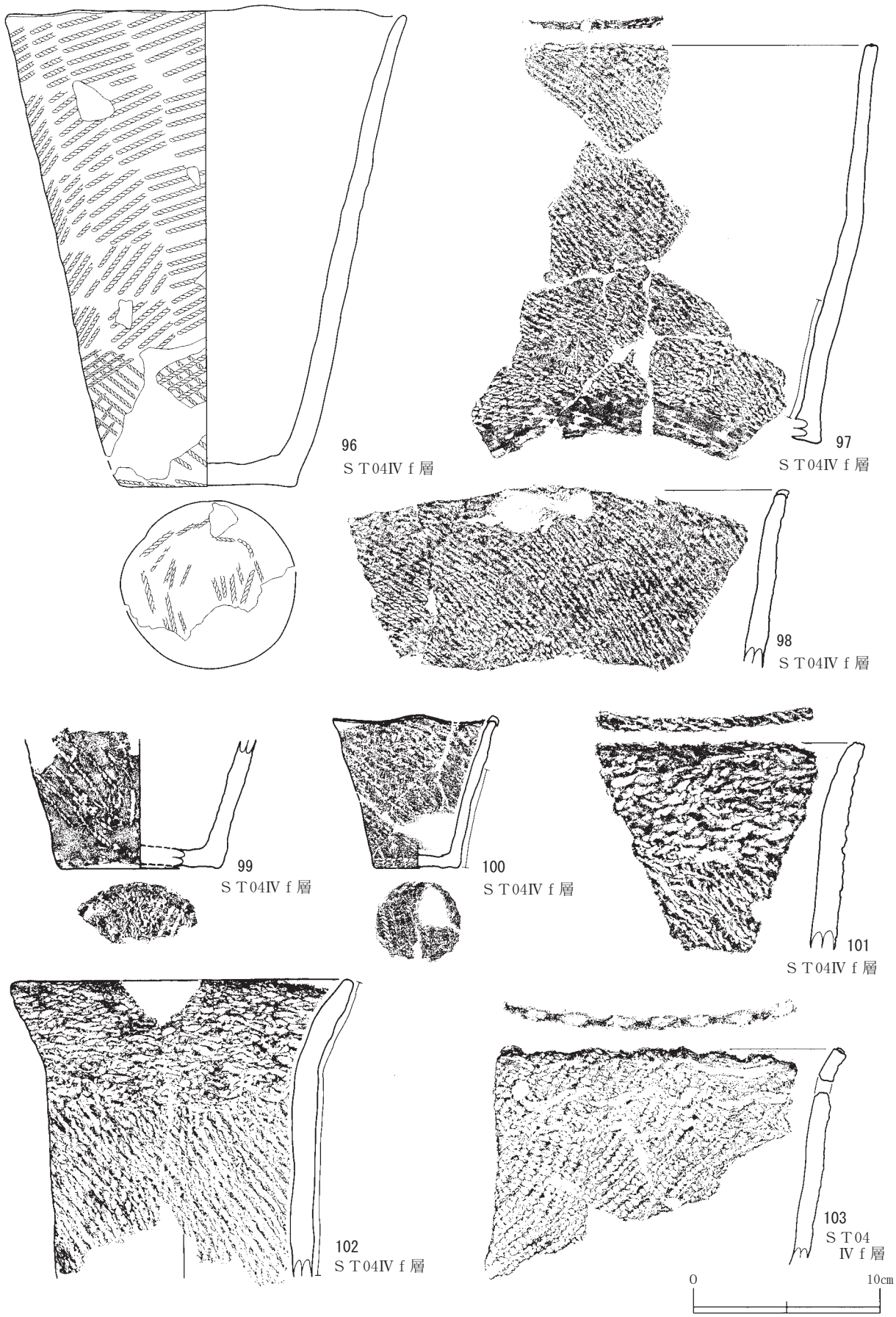

第21図　捨て場出土土器（５）

ＳＴ04Ⅳ層



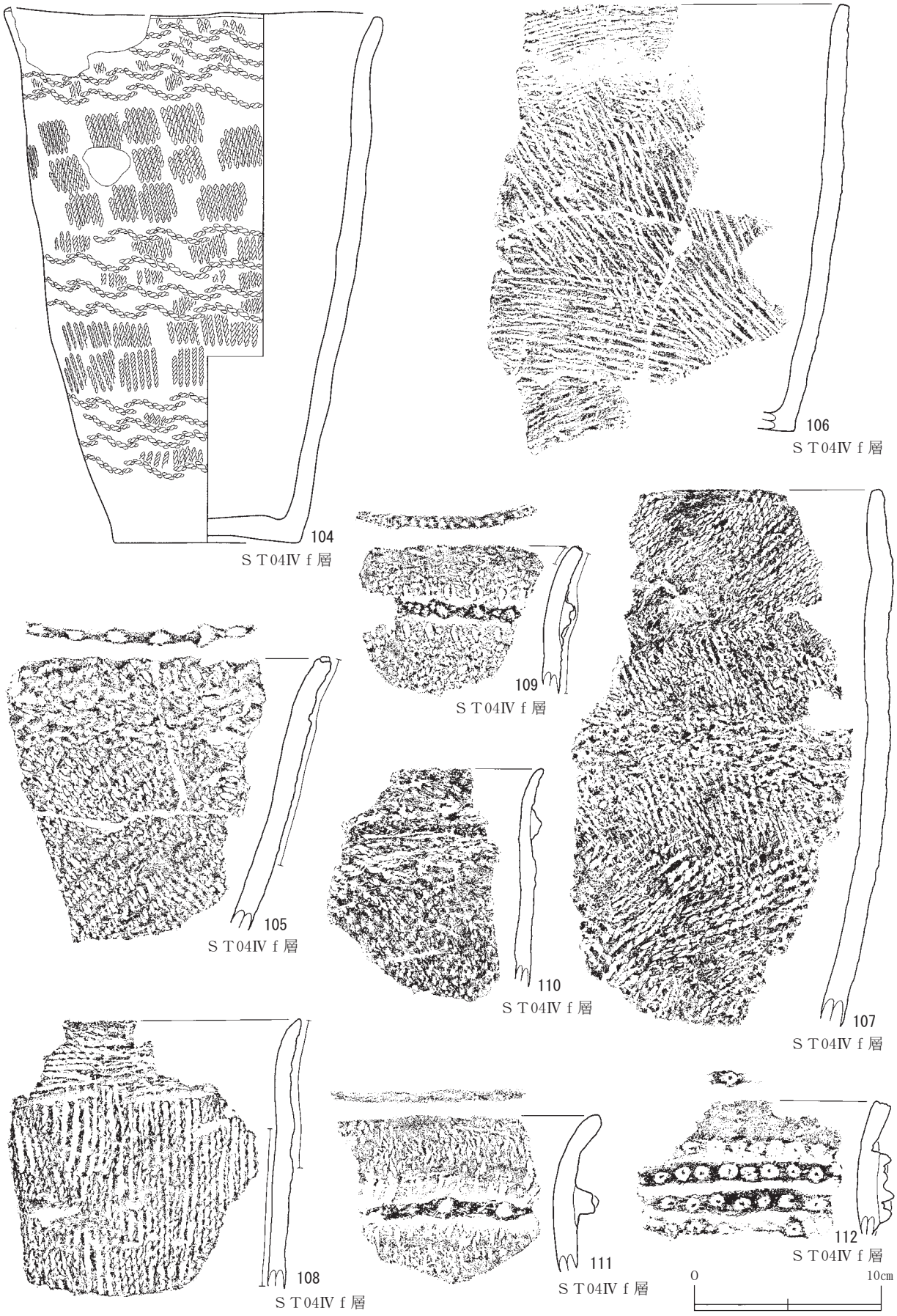

第22図　捨て場出土土器（６）

ＳＴ04Ⅳｆ層



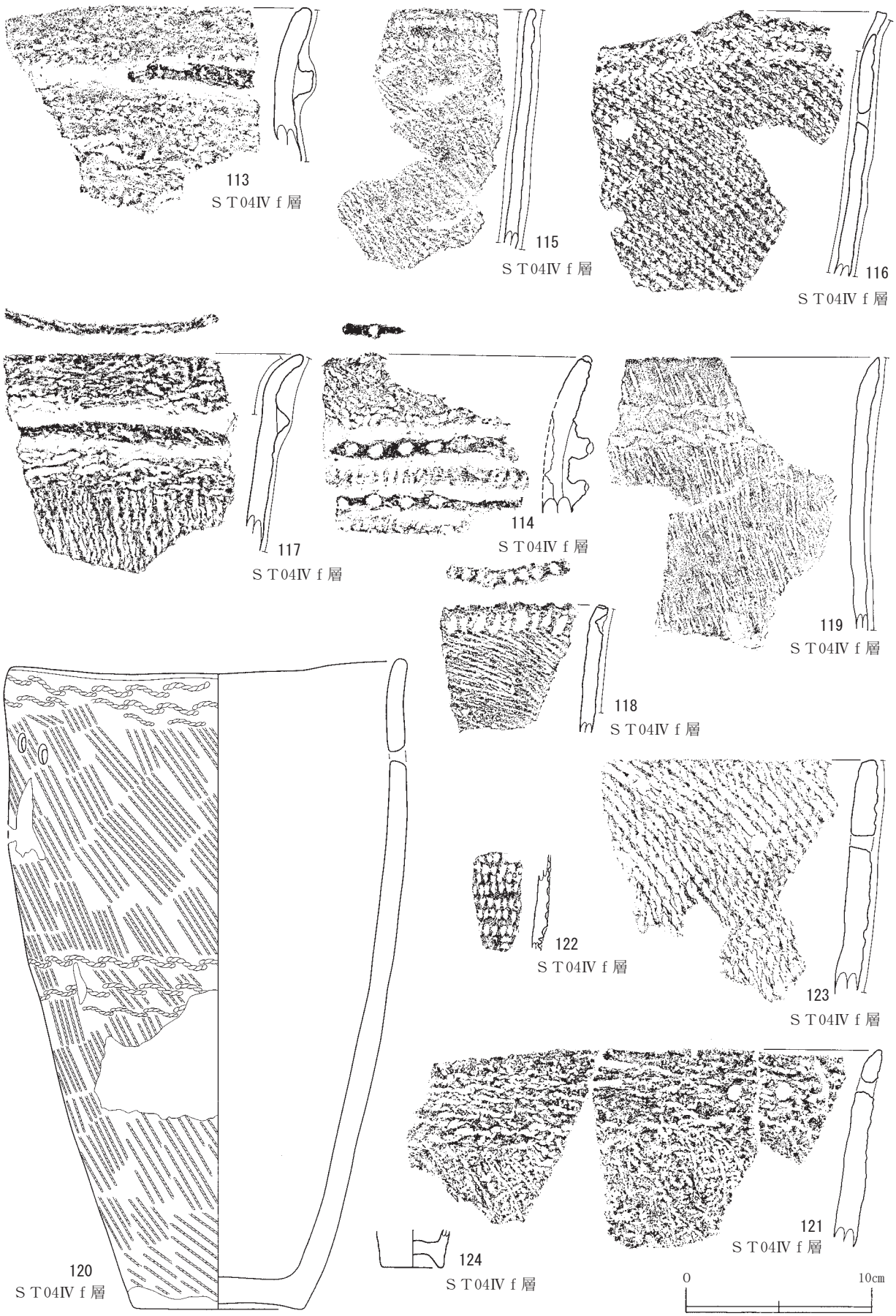

第23図　捨て場出土土器（７）

ＳＴ04Ⅳｆ層



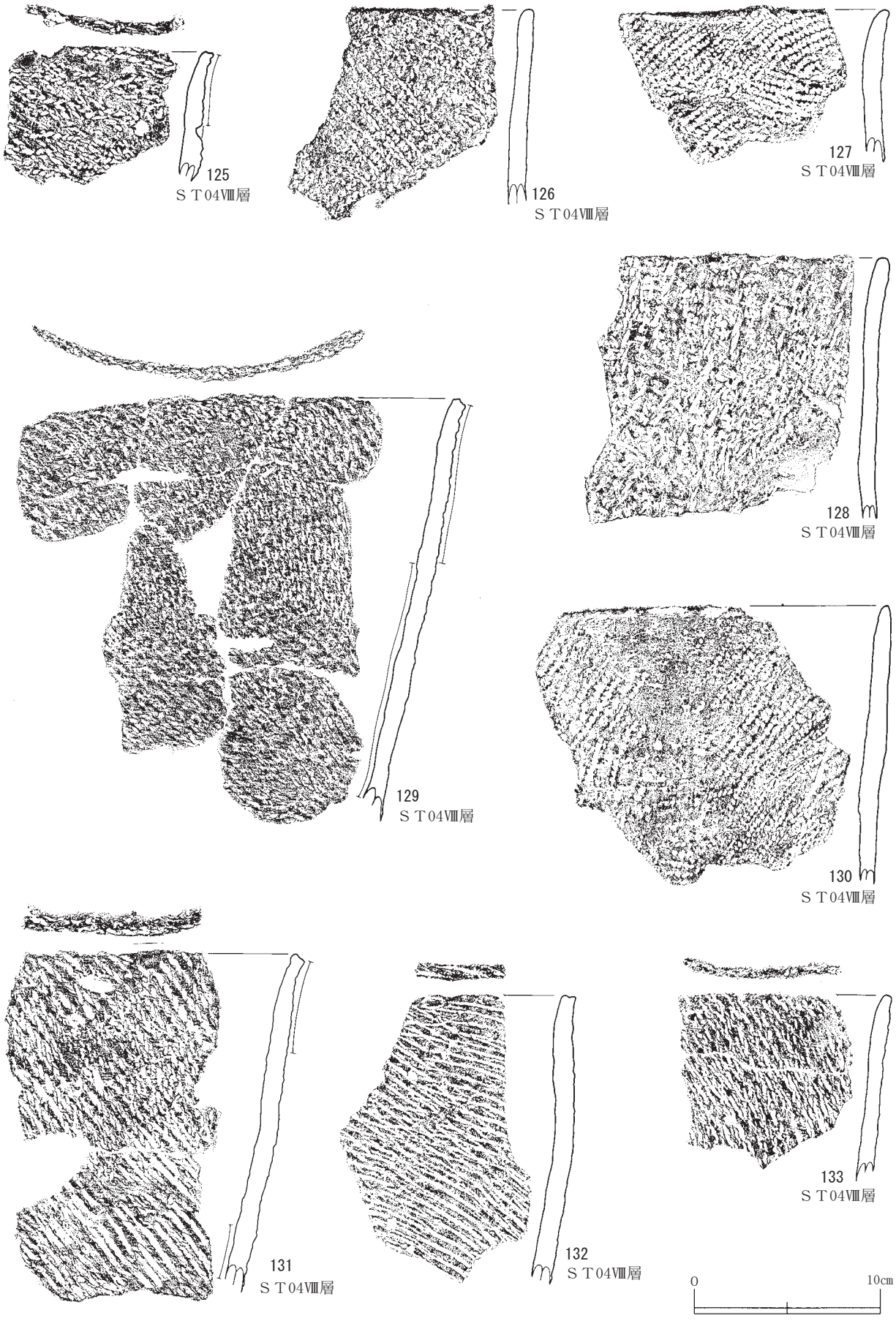

第24図　捨て場出土土器（８）

ＳＴ04Ⅳｆ層



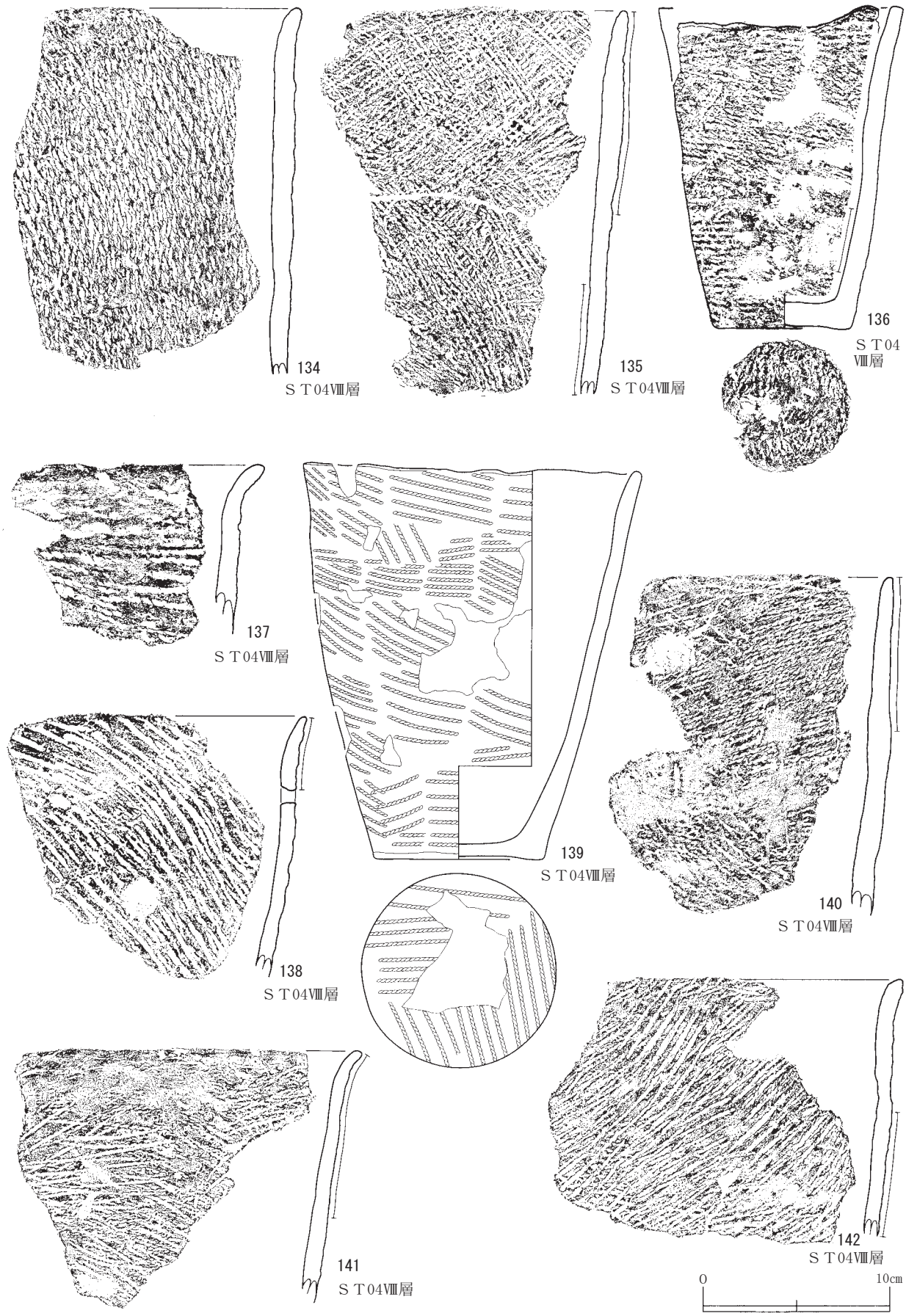

第25図　捨て場出土土器（９）

ＳＴ04Ⅷ層



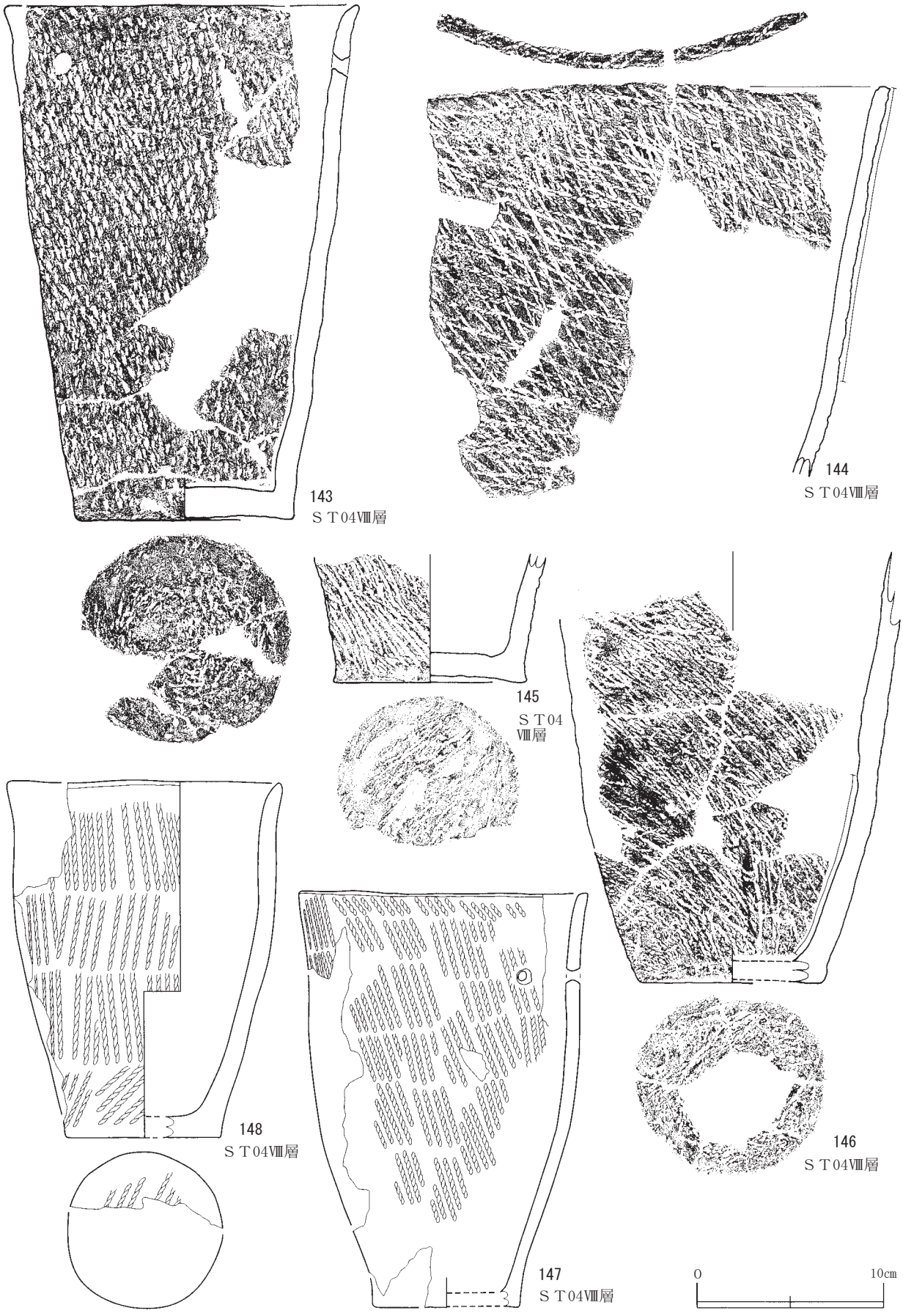

第26図　捨て場出土土器(10)

ＳＴ04Ⅷ層



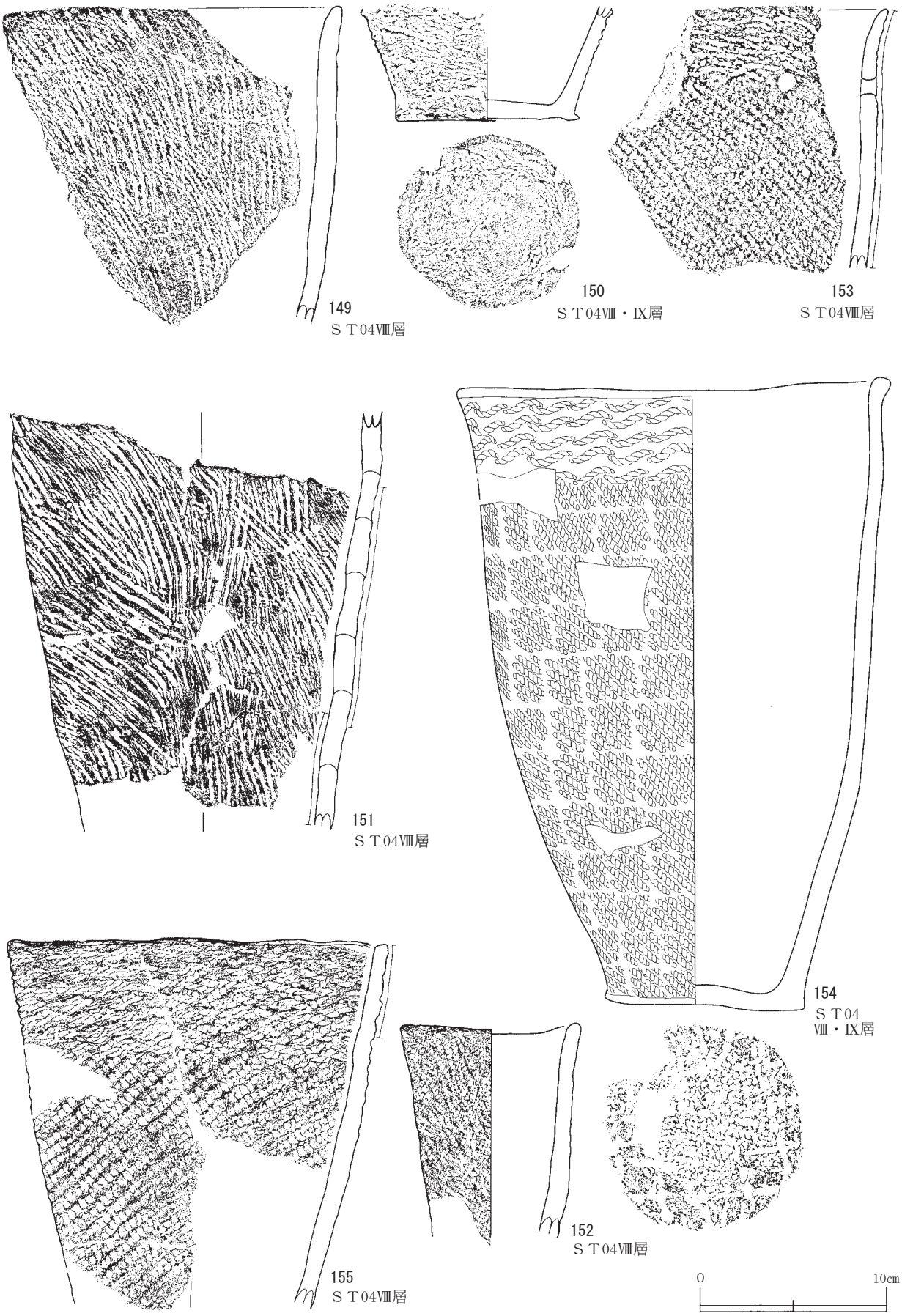

第27図　捨て場出土土器(11)

ＳＴ04Ⅷ層



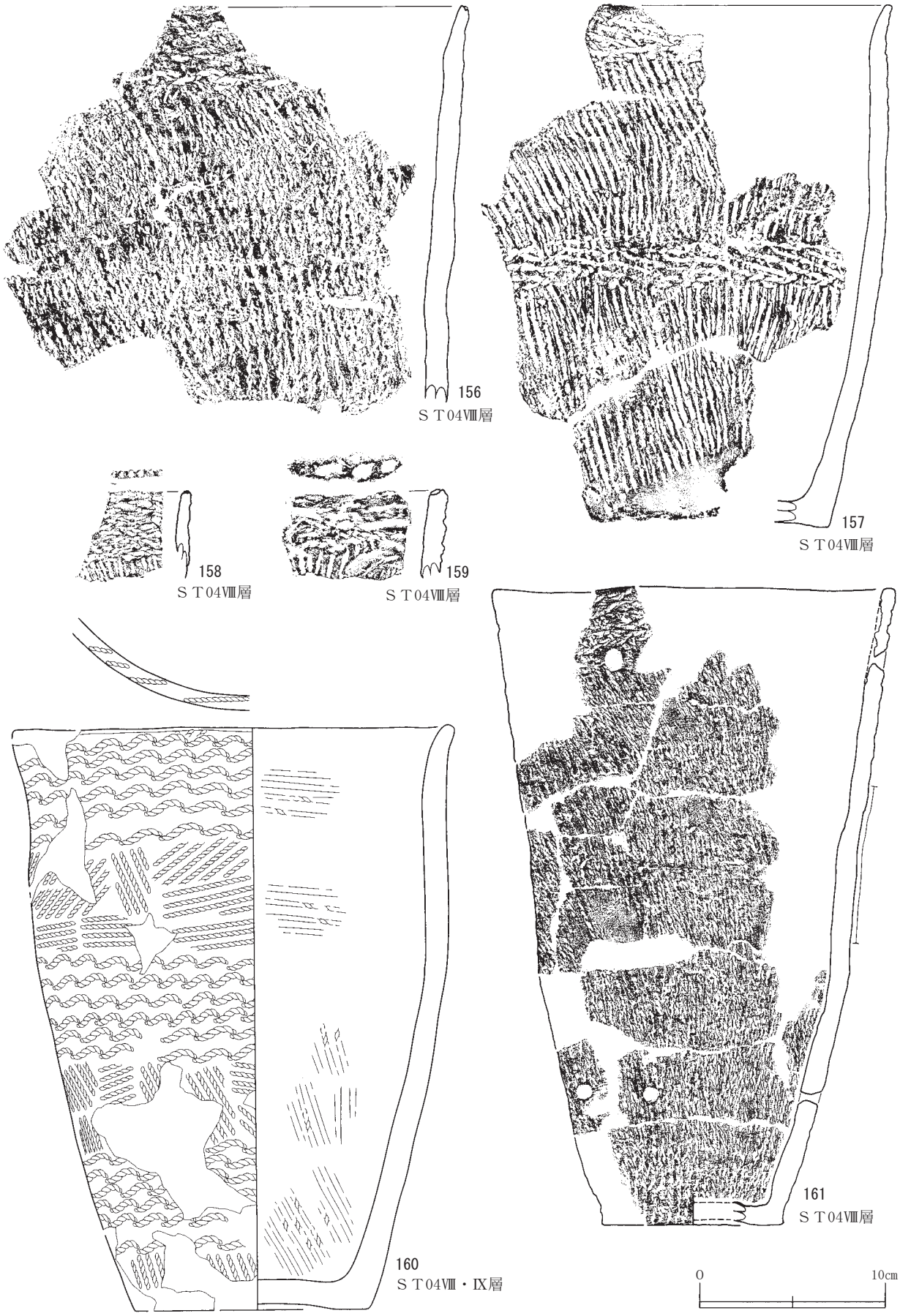

第28図　捨て場出土土器(12)

ＳＴ04Ⅷ層



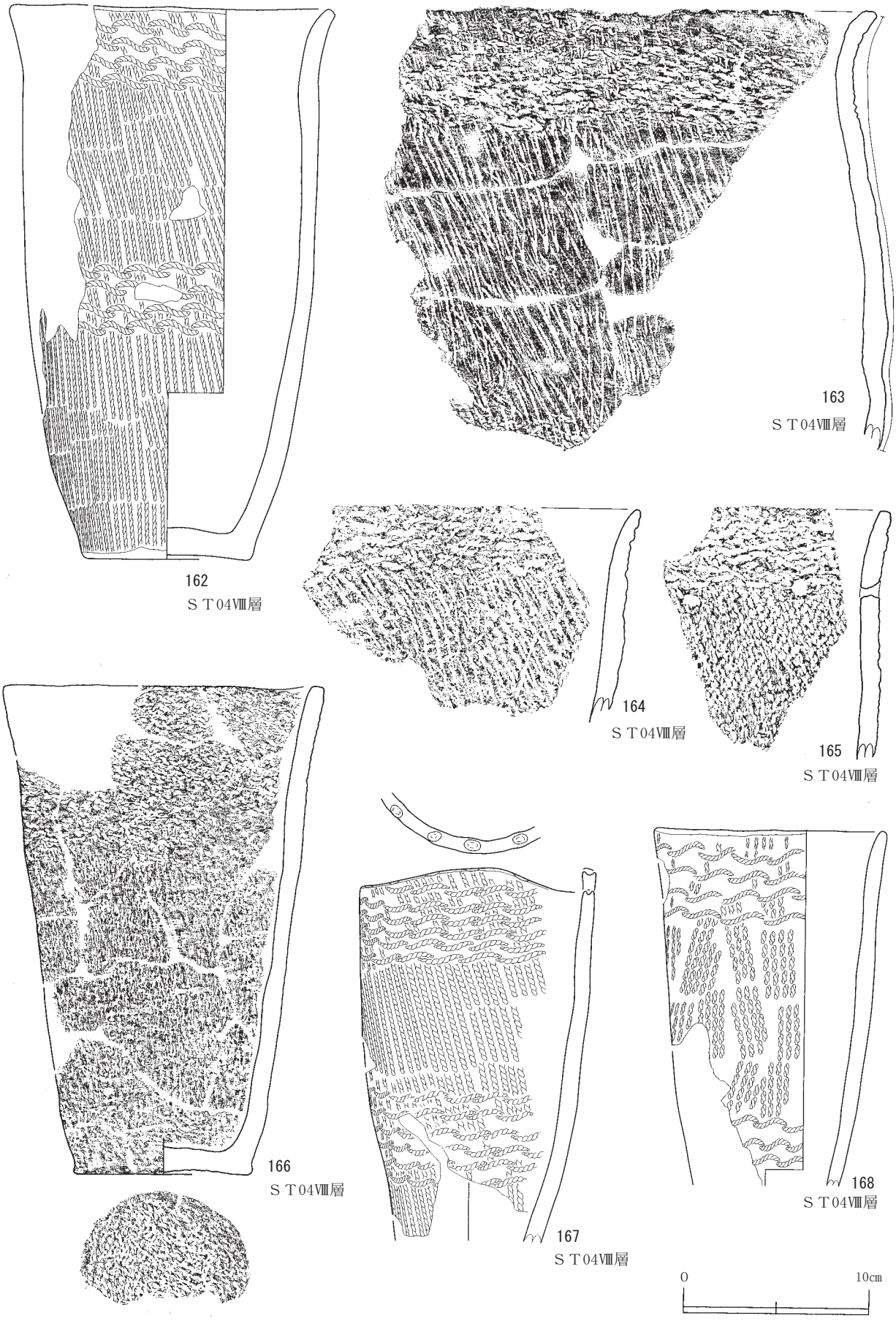

第29図　捨て場出土土器(13)

ＳＴ04Ⅷ層



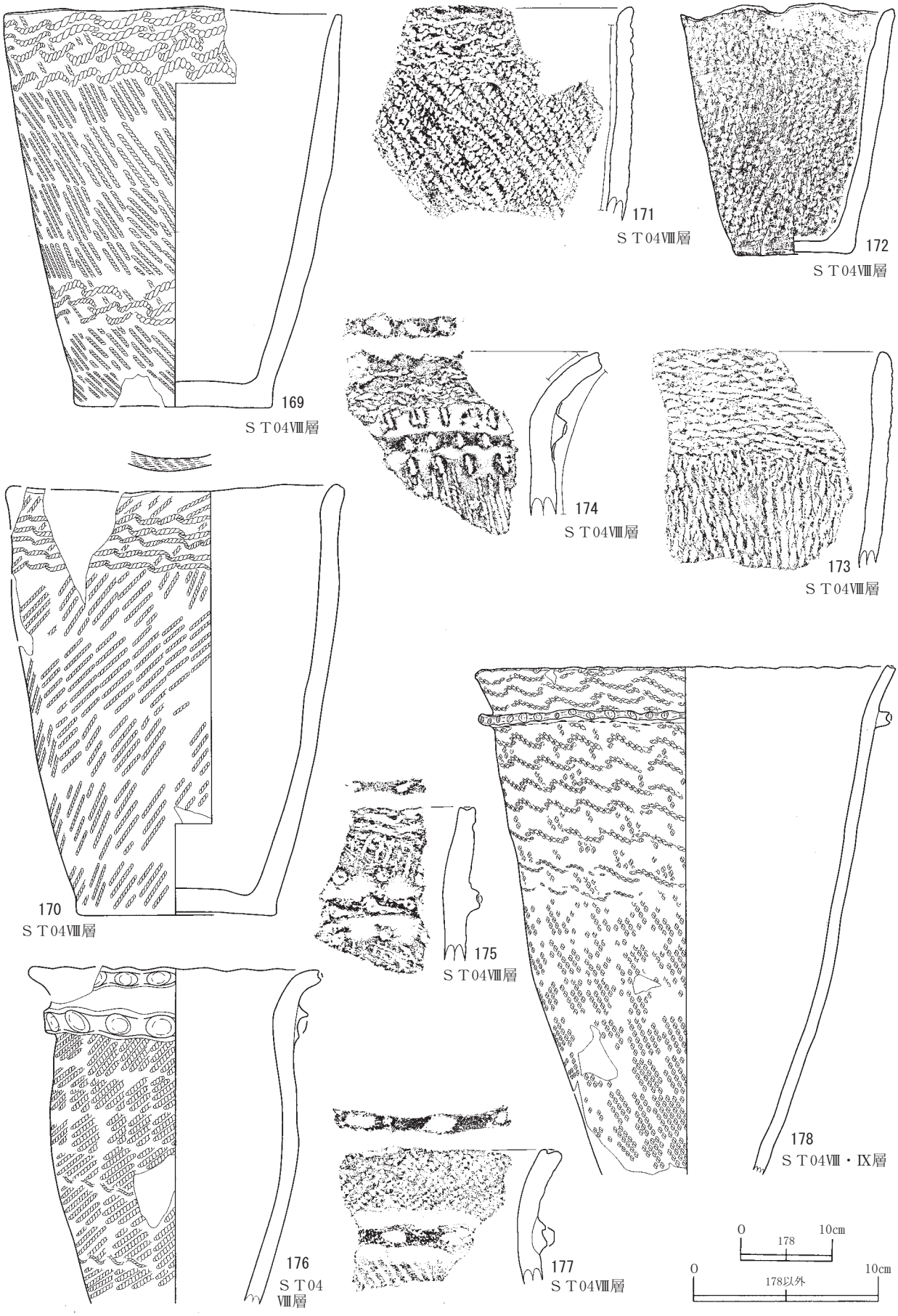

第30図　捨て場出土土器(14)

ＳＴ04Ⅷ層



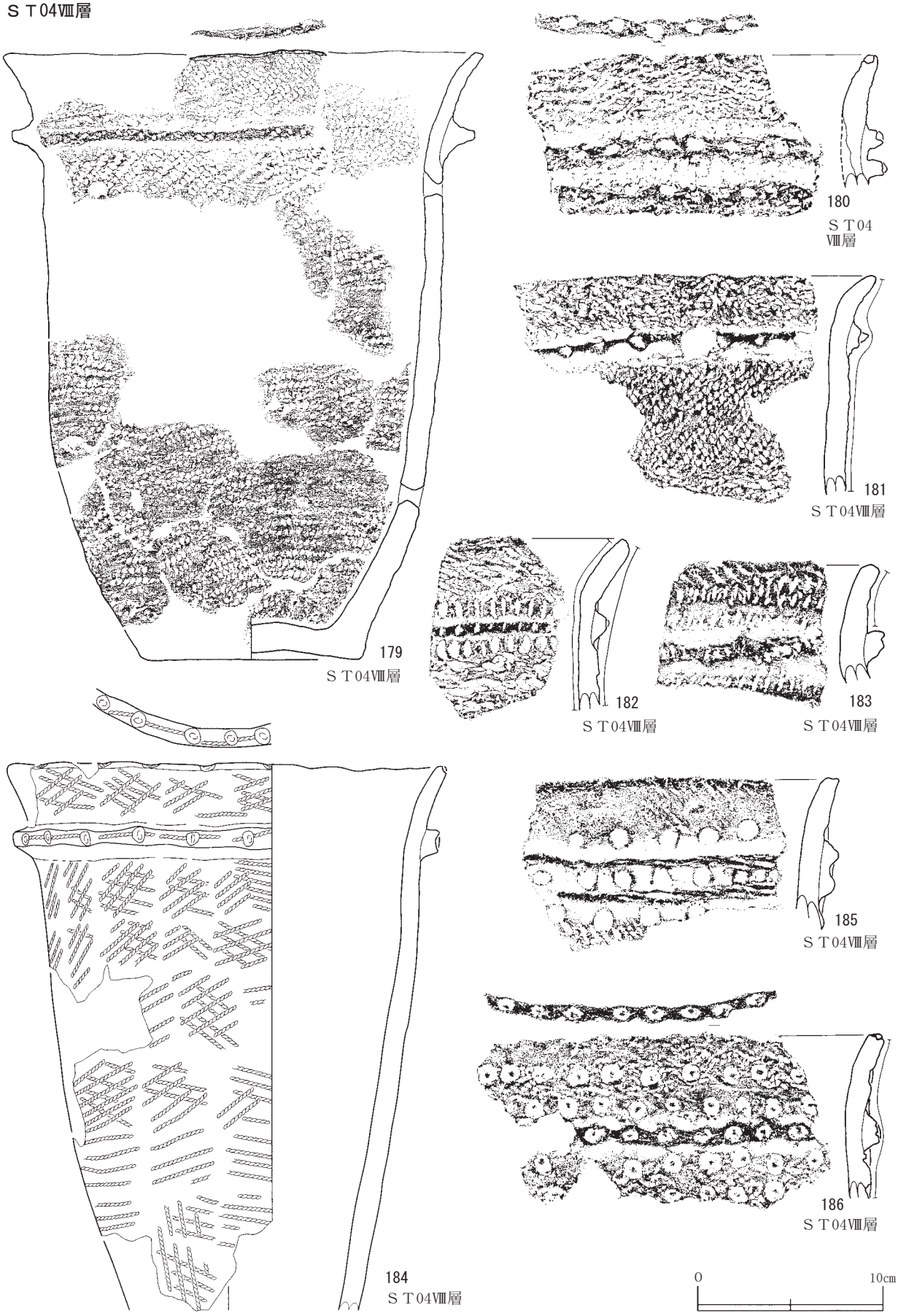

第31図　捨て場出土土器(15)

ＳＴ04Ⅷ層



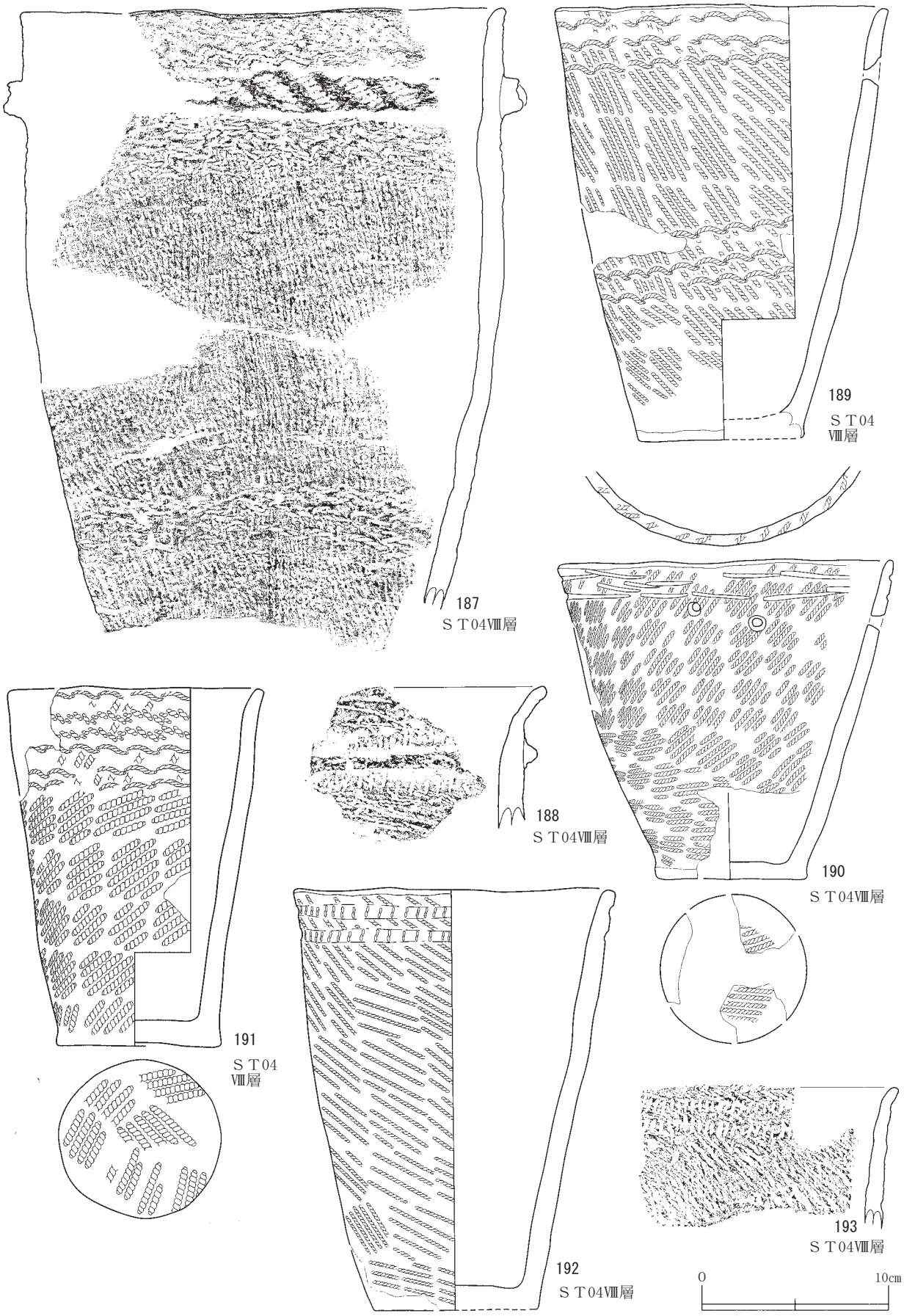

第32図　捨て場出土土器(16)

ＳＴ04Ⅷ層

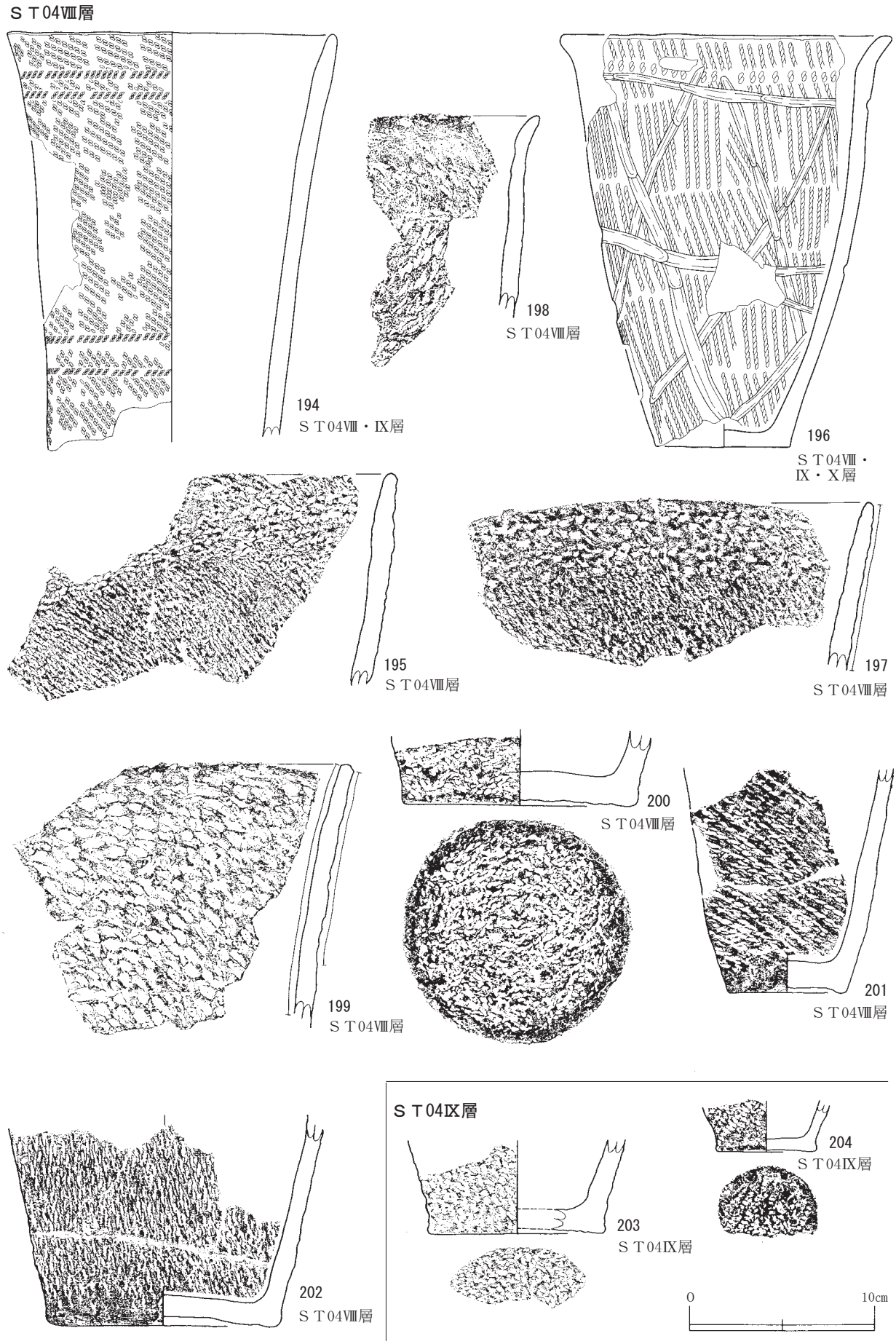



第33図　捨て場出土土器(17)

ＳＴ04Ⅷ層

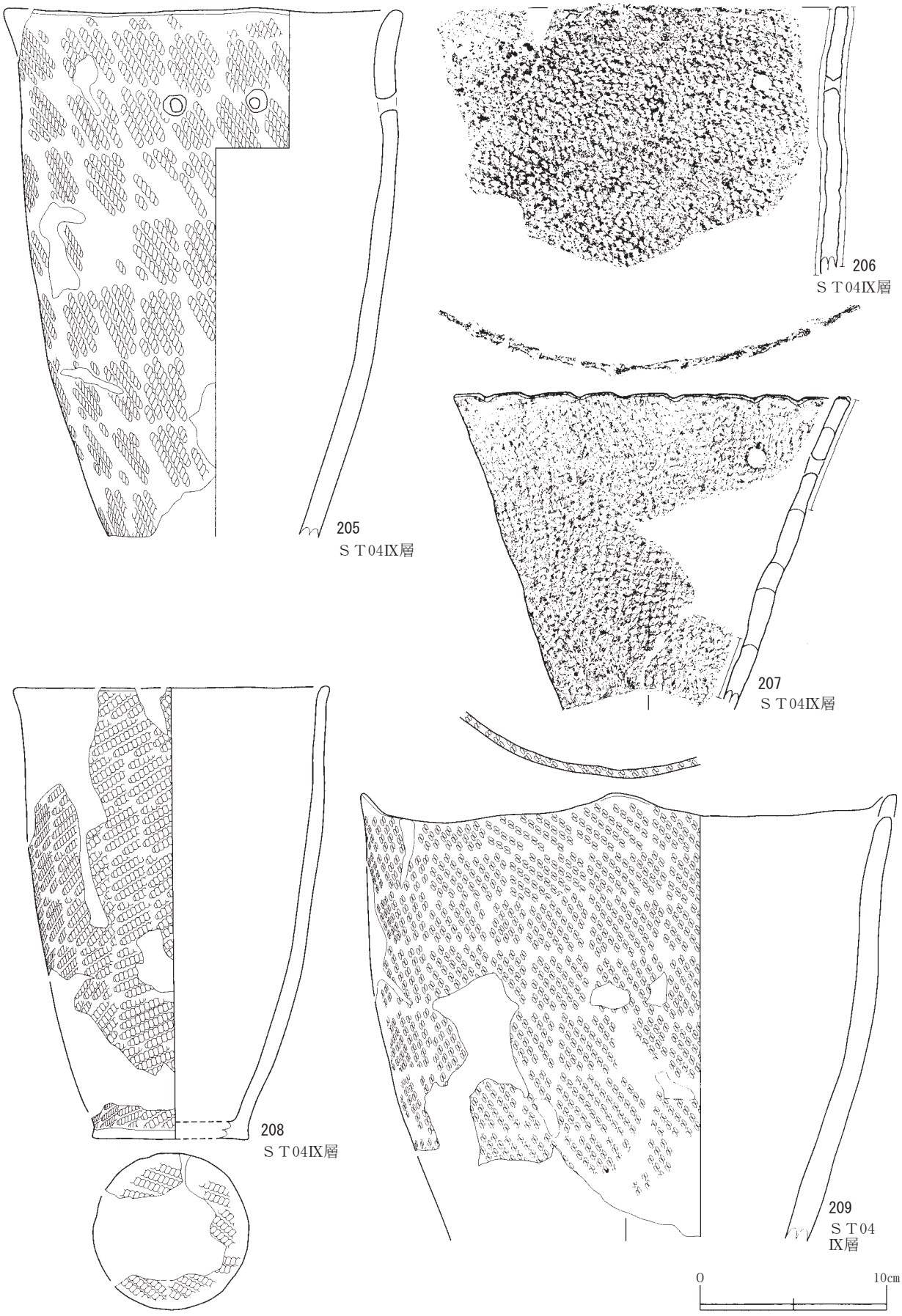



第34図　捨て場出土土器(18)



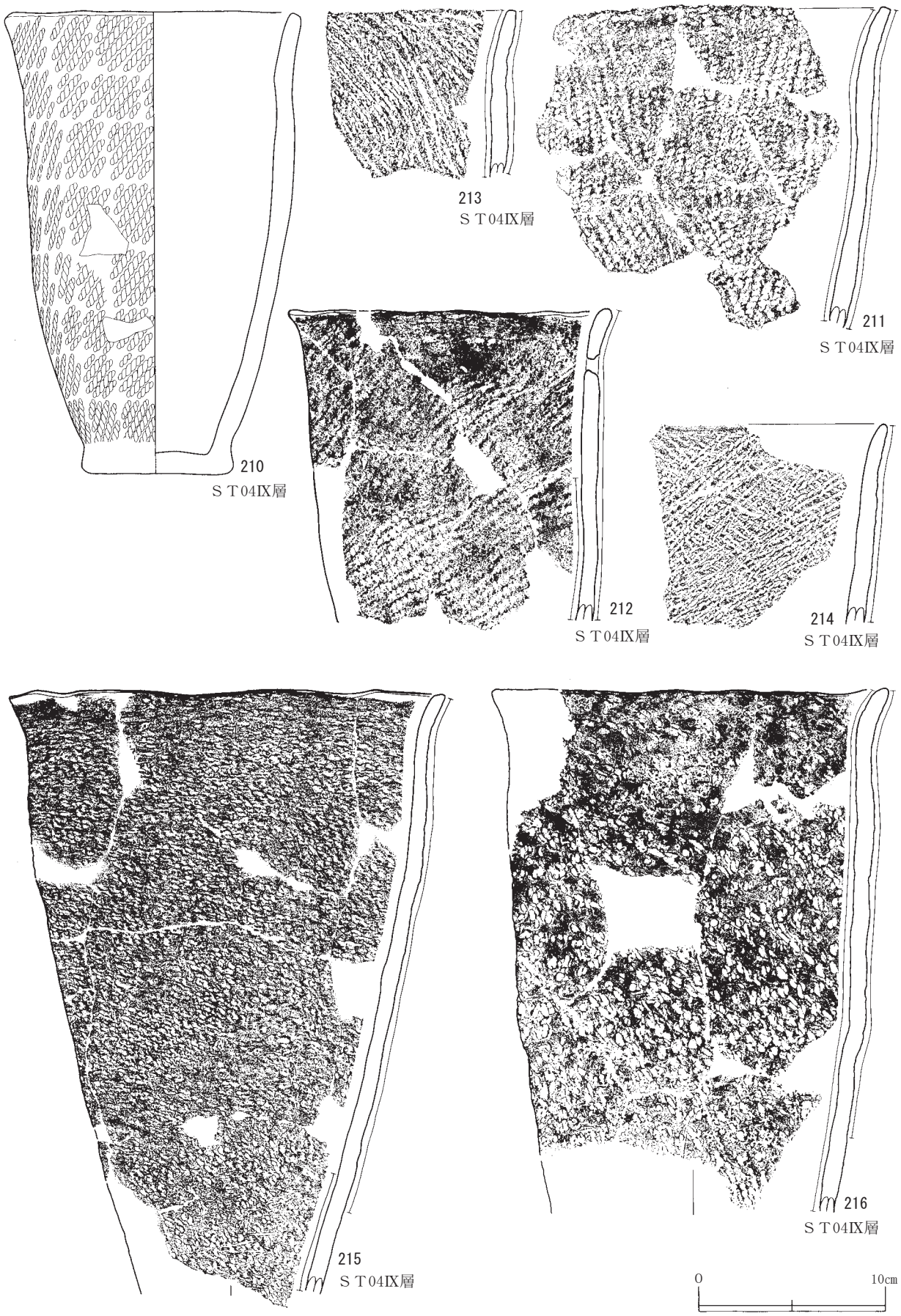

第35図　捨て場出土土器(19)

ＳＴ04Ⅸ層



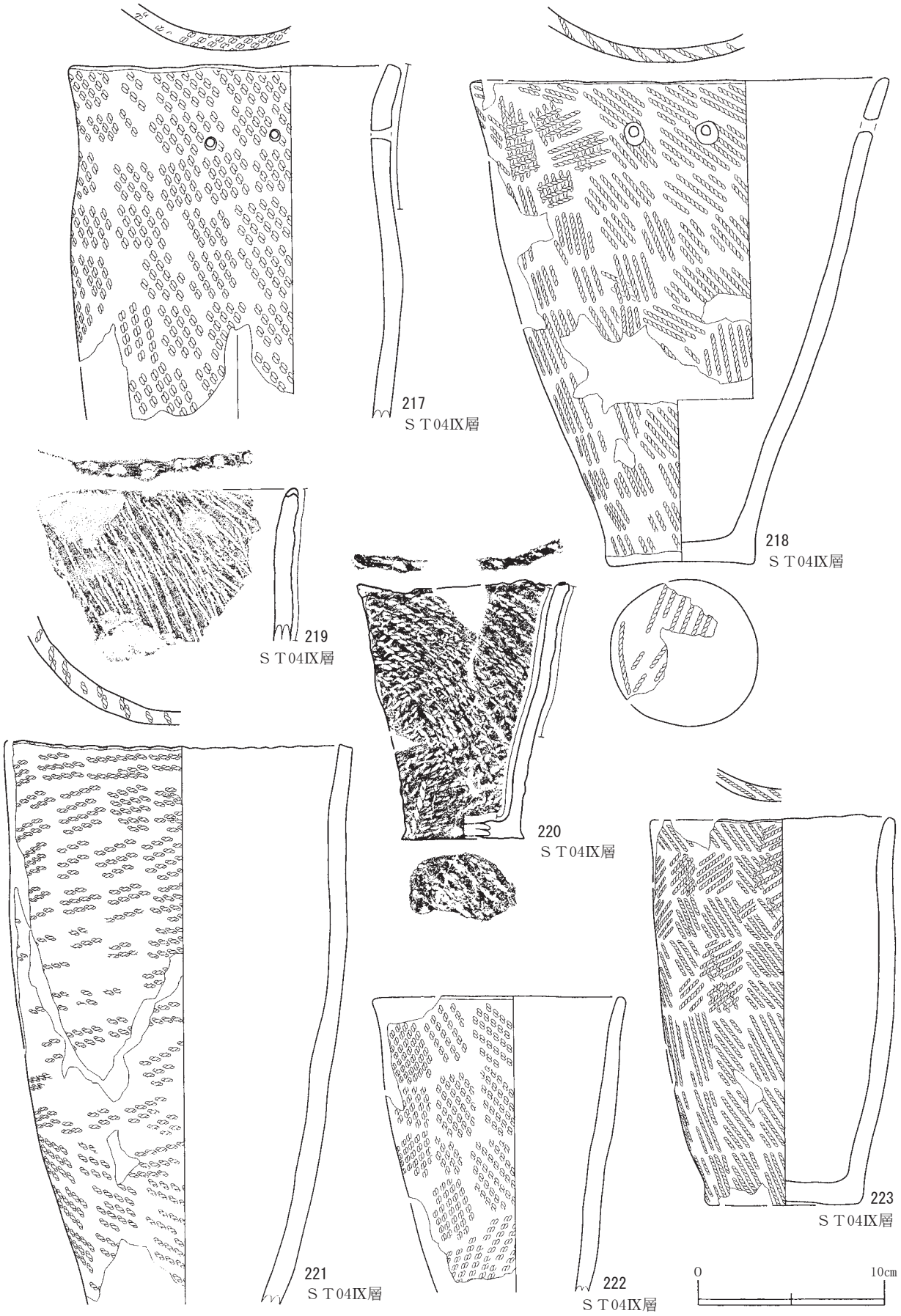

第36図　捨て場出土土器(20)

ＳＴ04Ⅸ層



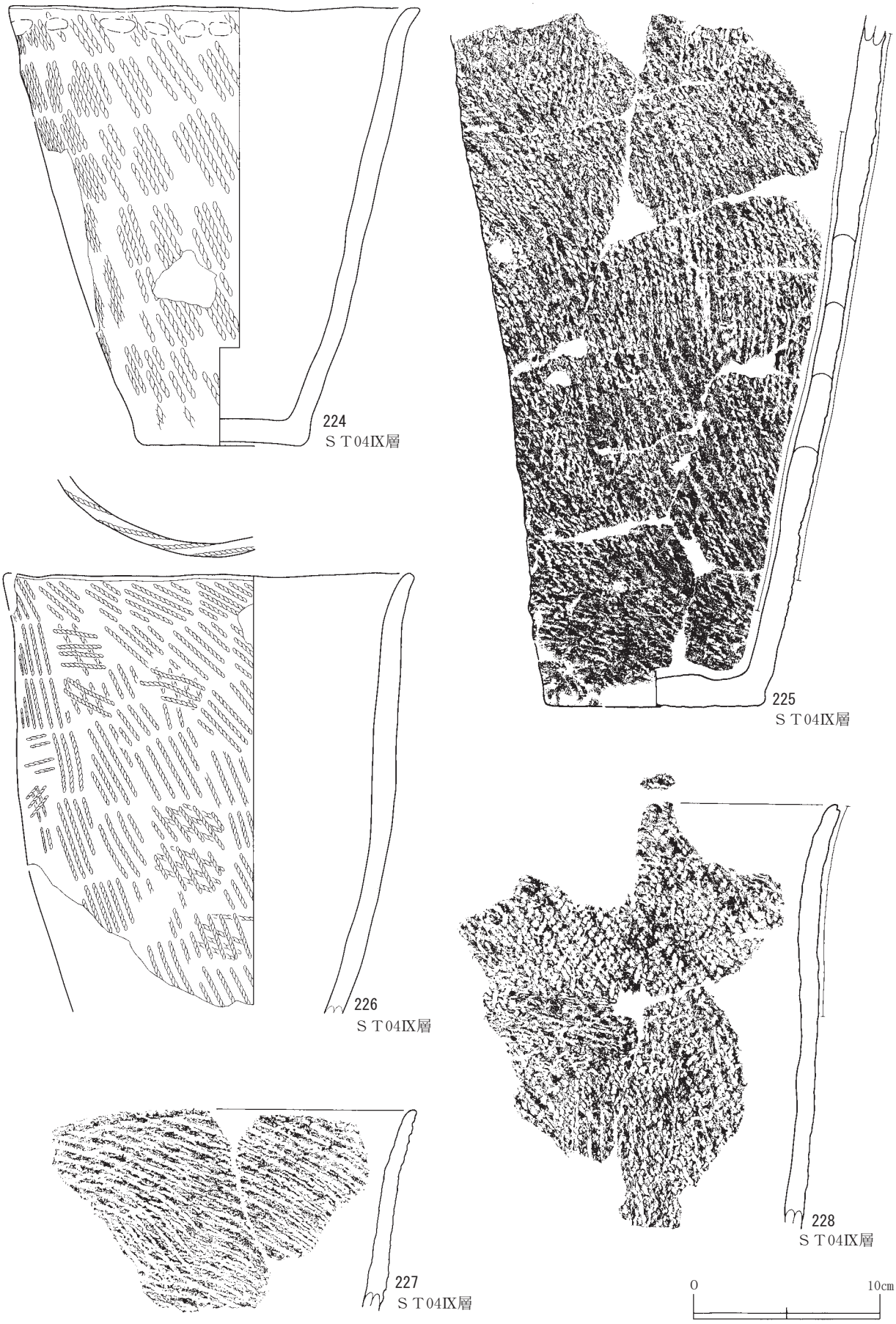

第37図　捨て場出土土器(21)

ＳＴ04Ⅸ層



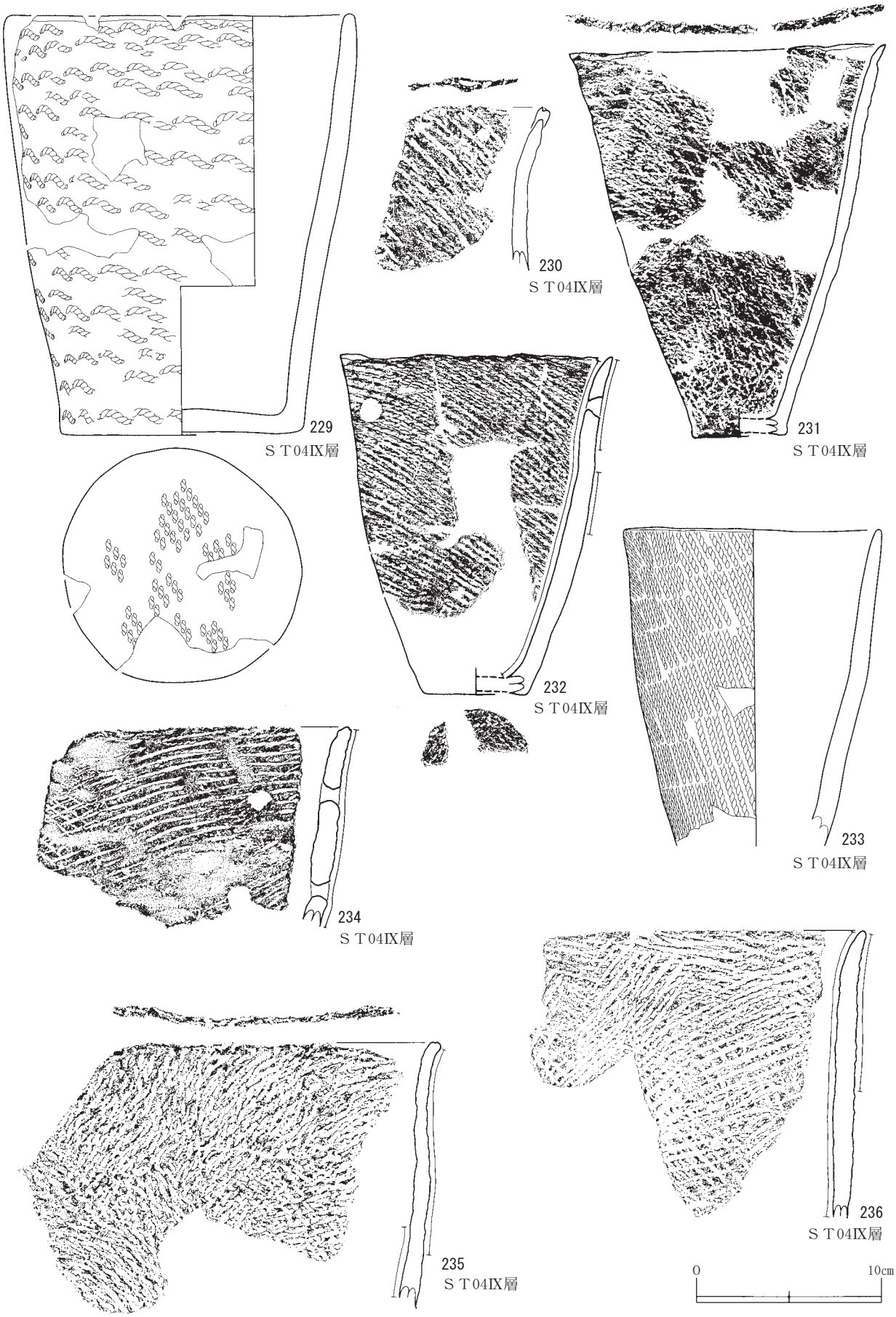

第38図　捨て場出土土器(22)

ＳＴ04Ⅸ層



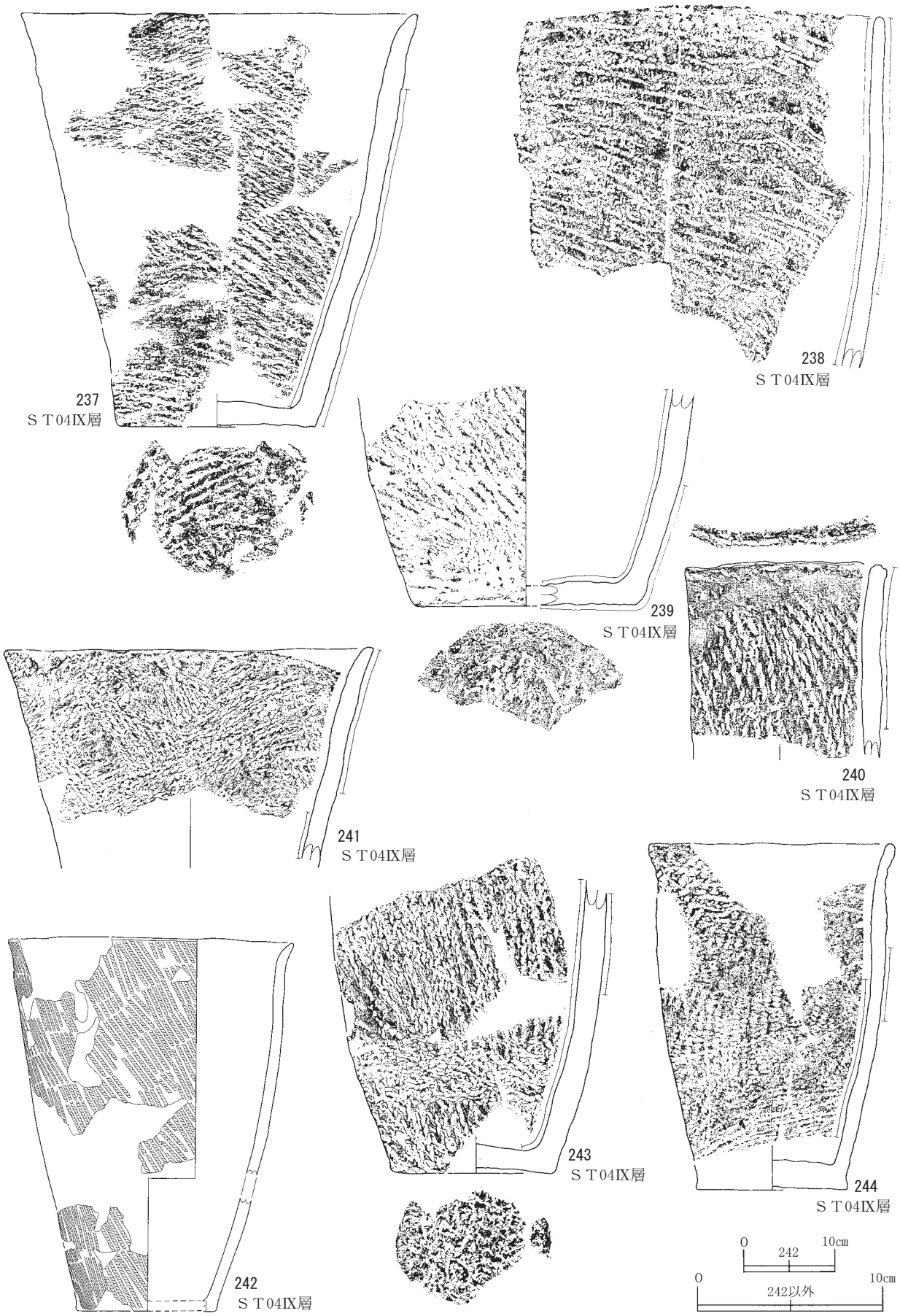

第39図　捨て場出土土器(23)

ＳＴ04Ⅸ層



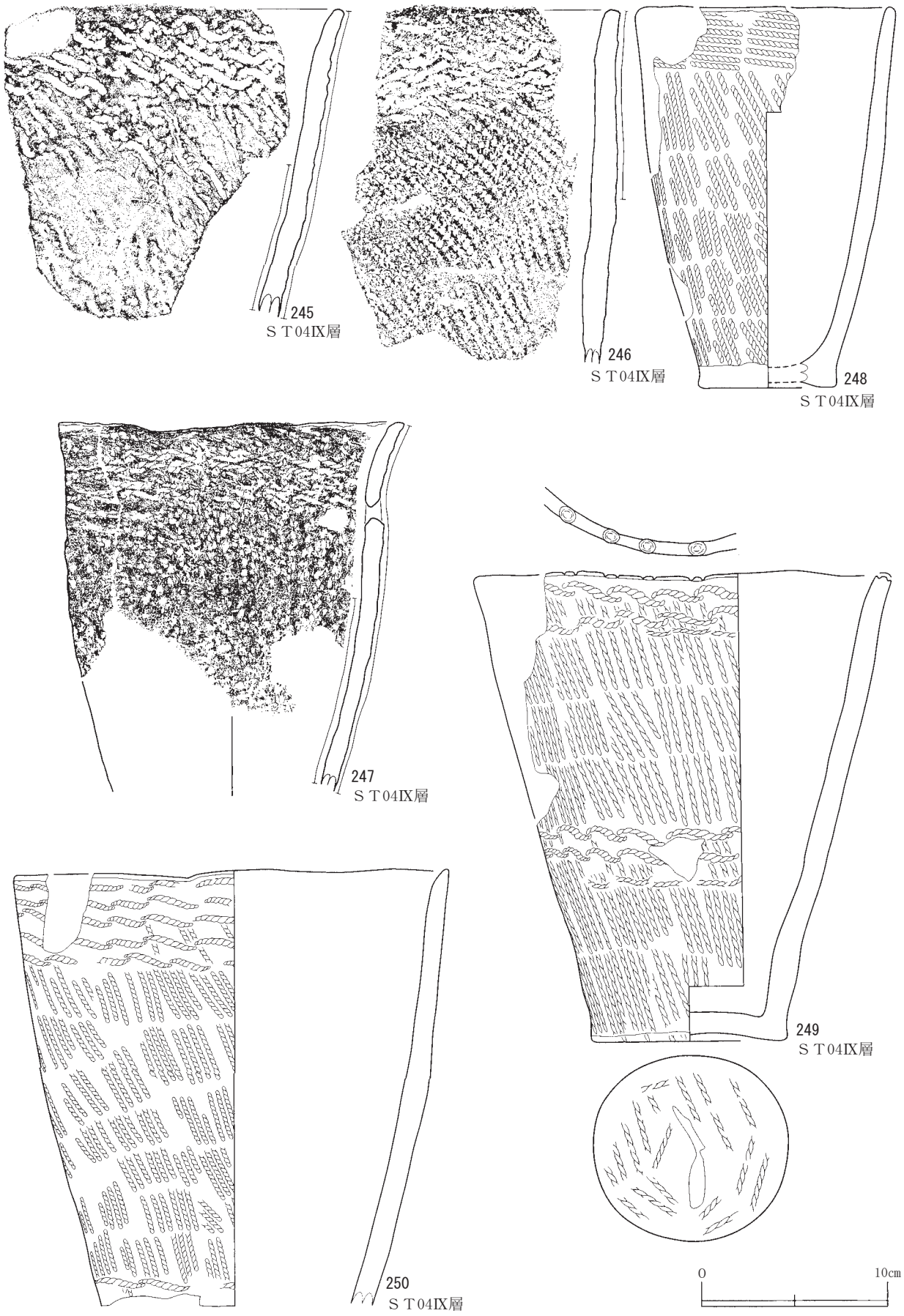

第40図　捨て場出土土器(24)

ＳＴ04Ⅸ層



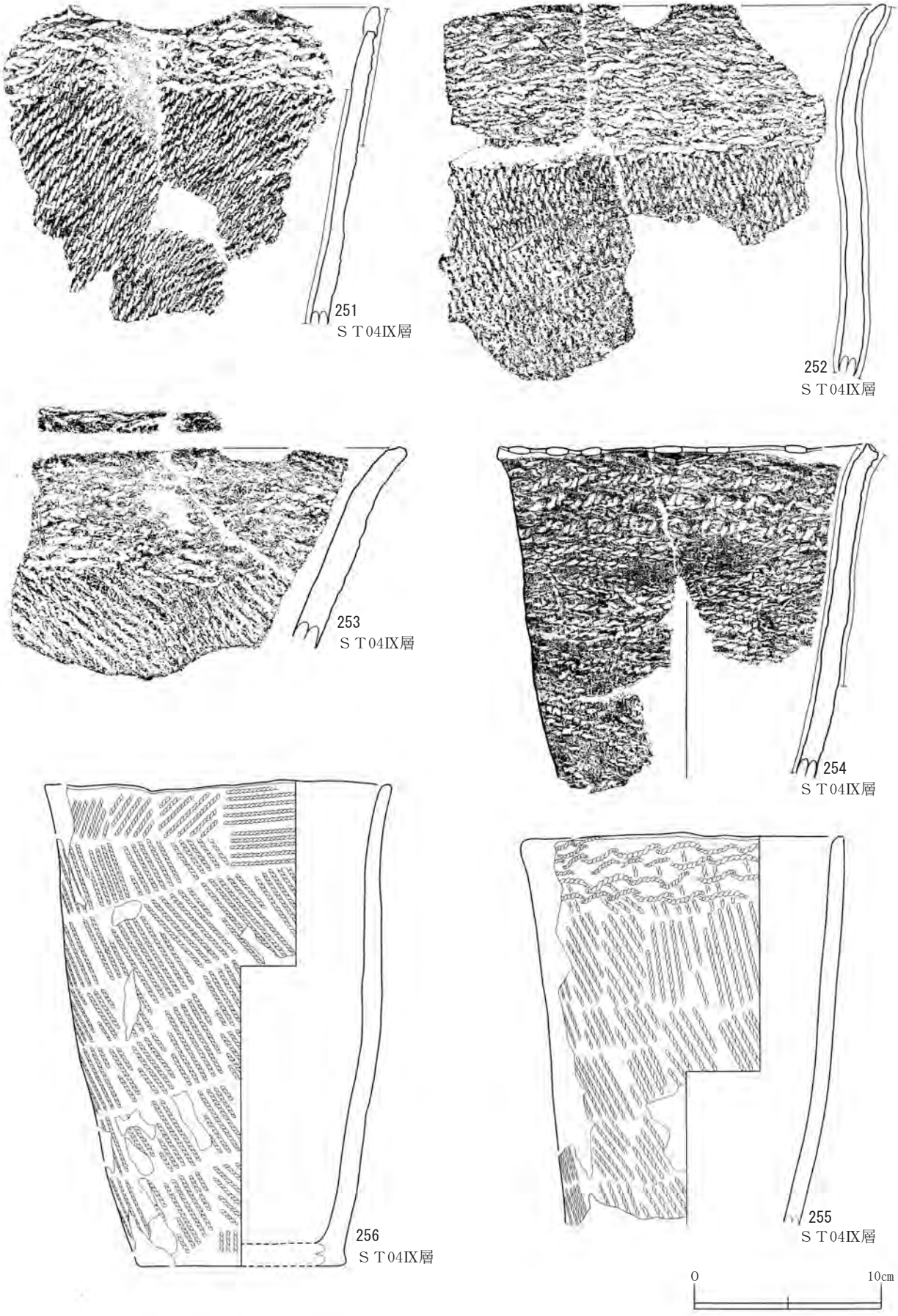

第41図　捨て場出土土器(25)

ＳＴ04Ⅸ層



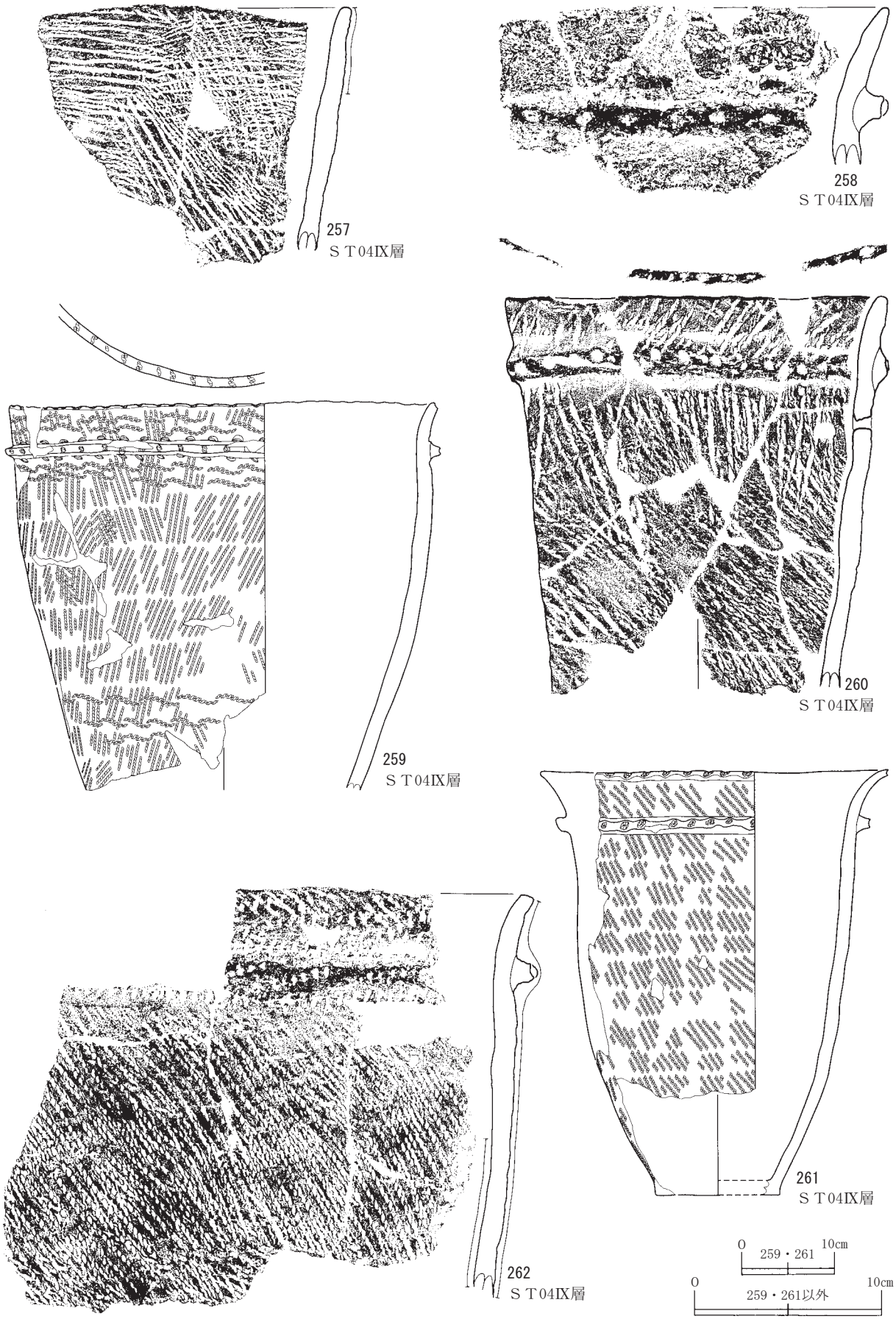

第42図　捨て場出土土器(26)

ＳＴ04Ⅸ層



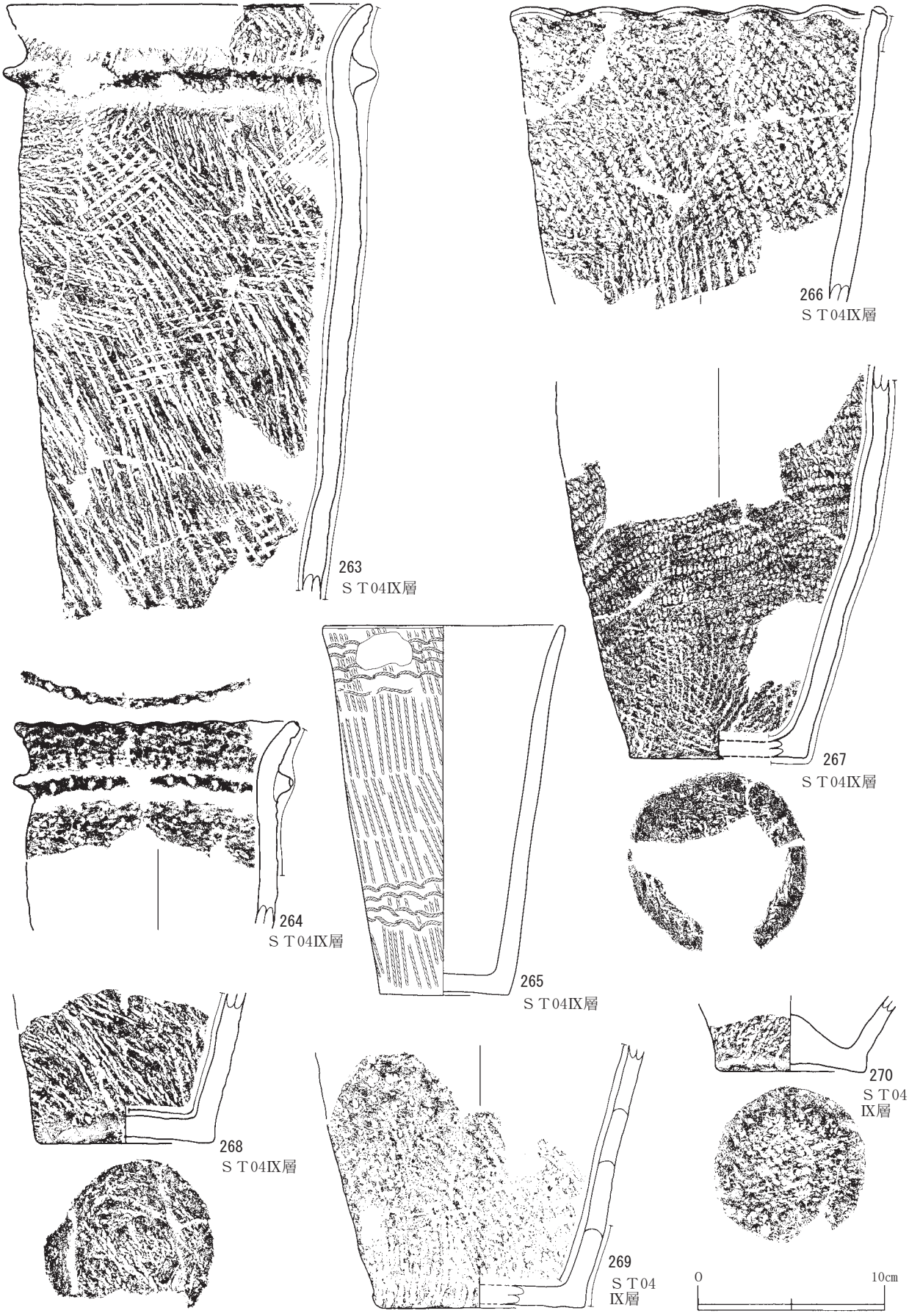

第43図　捨て場出土土器(27)

ＳＴ04Ⅸ層



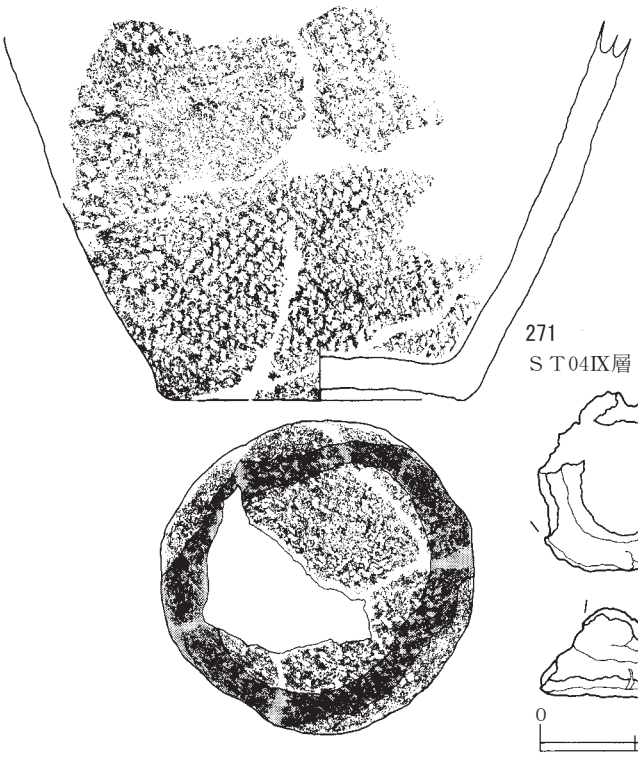

第44図　捨て場出土土器(28)

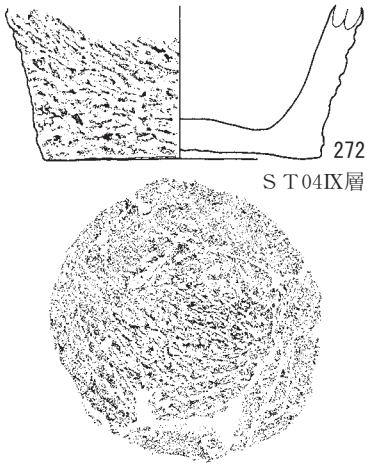
ＳＴ04Ⅸ層

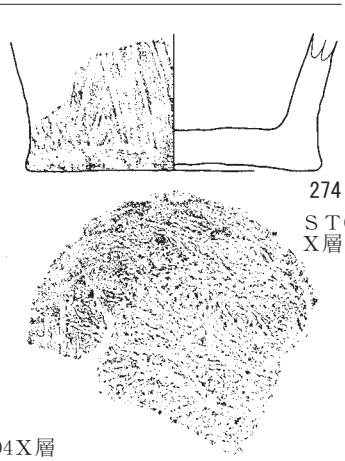



第45図　捨て場出土土器(29)

ＳＴ04Ⅸ層

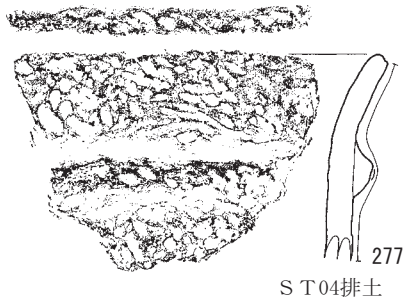


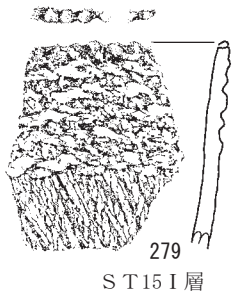




ＳＴ04Ｘ層

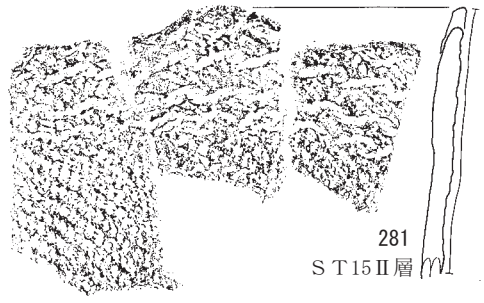
ＳＴ04

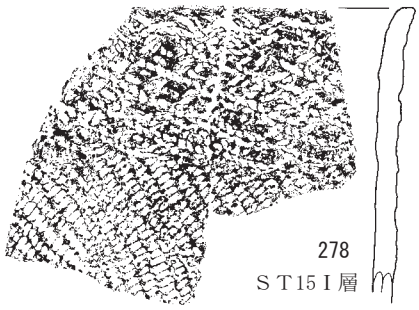


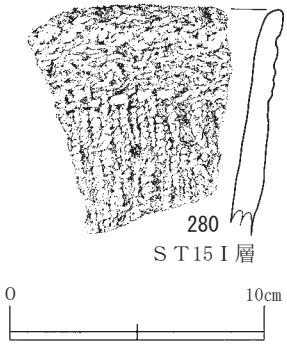

ＳＴ15Ⅰ層




ＳＴ15Ⅱ層

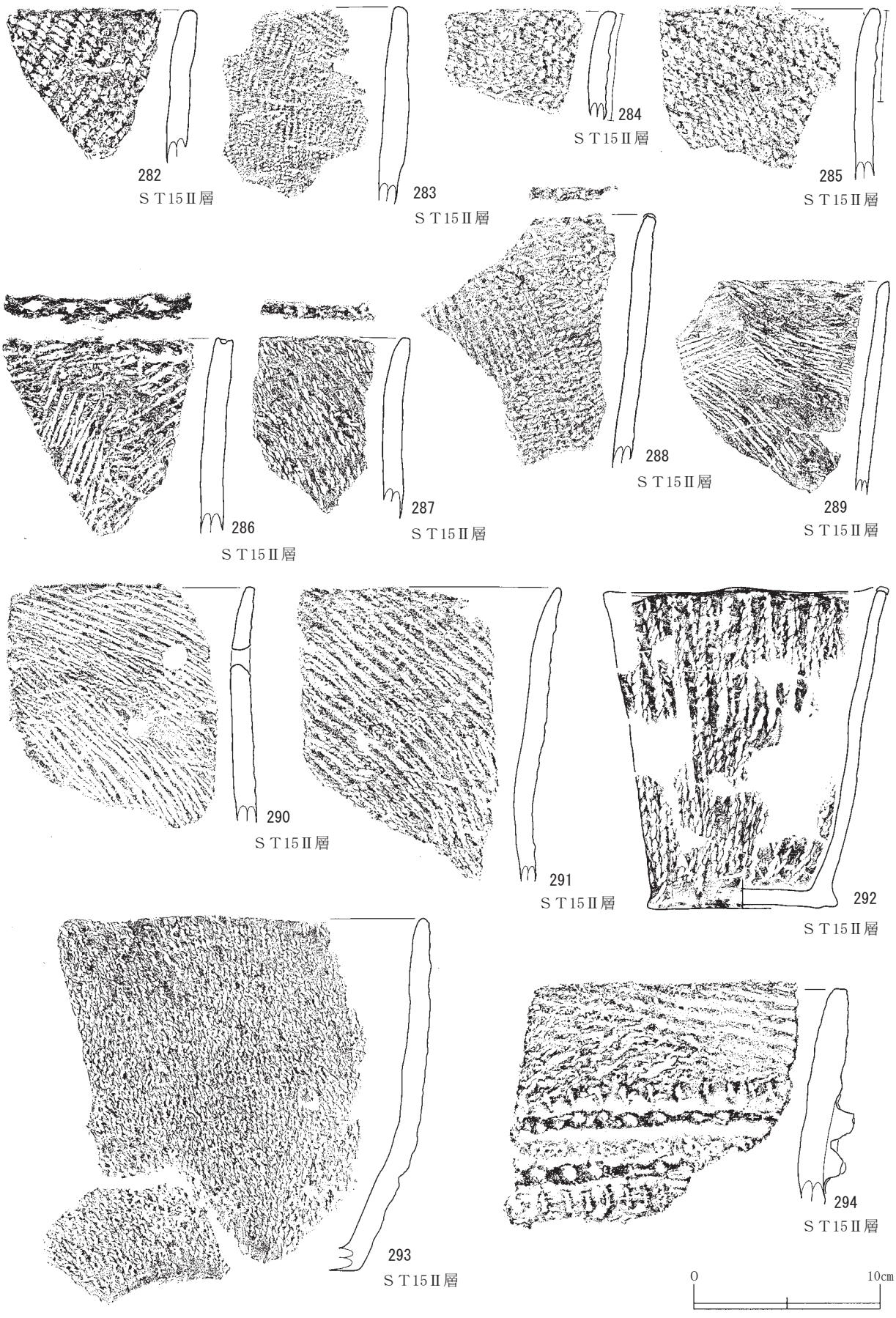


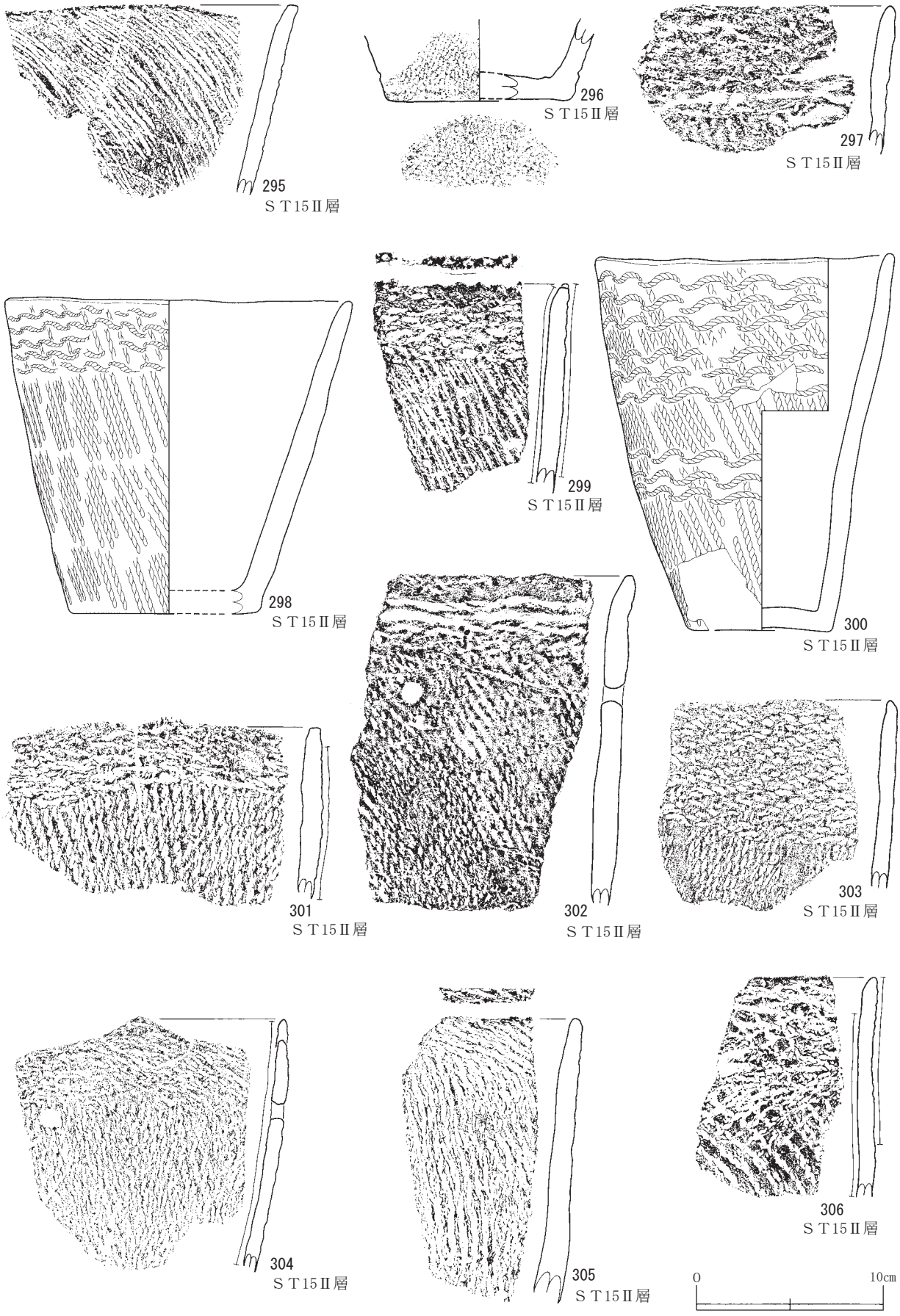

第46図　捨て場出土土器(30)

ＳＴ15Ⅱ層



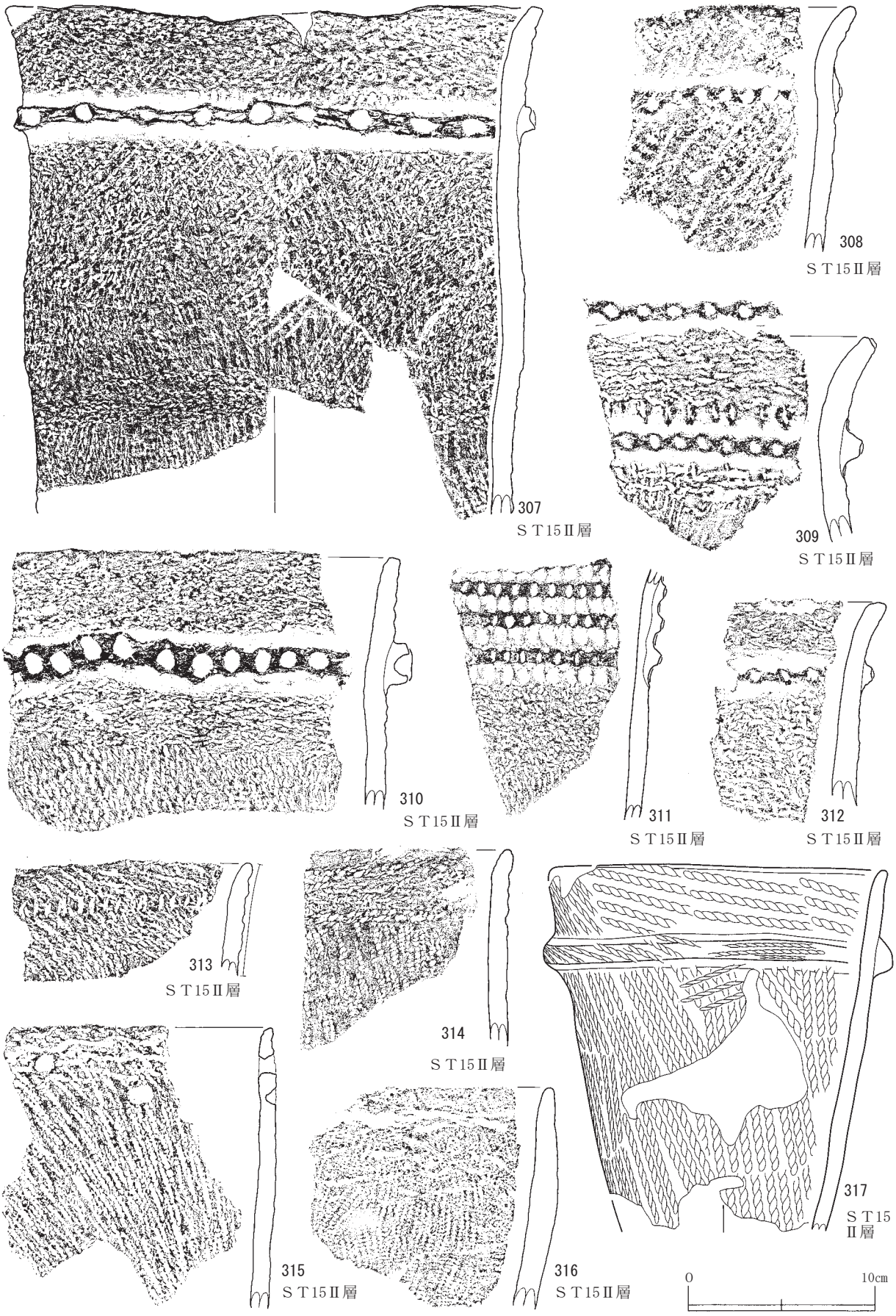

第47図　捨て場出土土器(31)

ＳＴ15Ⅱ層



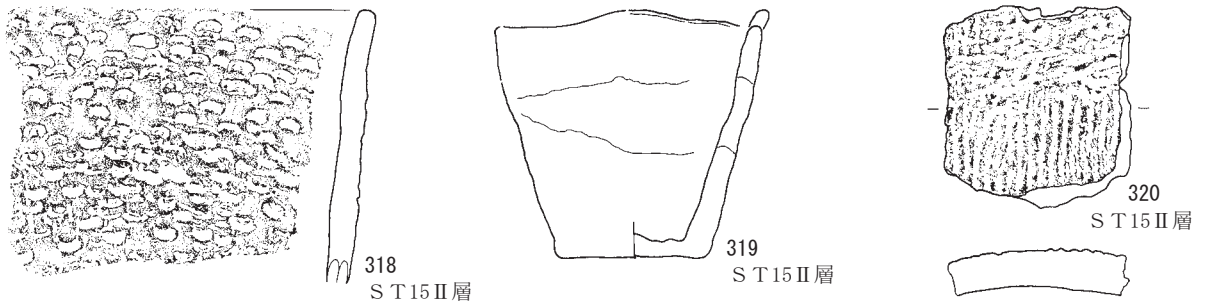

第48図　捨て場出土土器(32)

ＳＴ15Ⅱ層

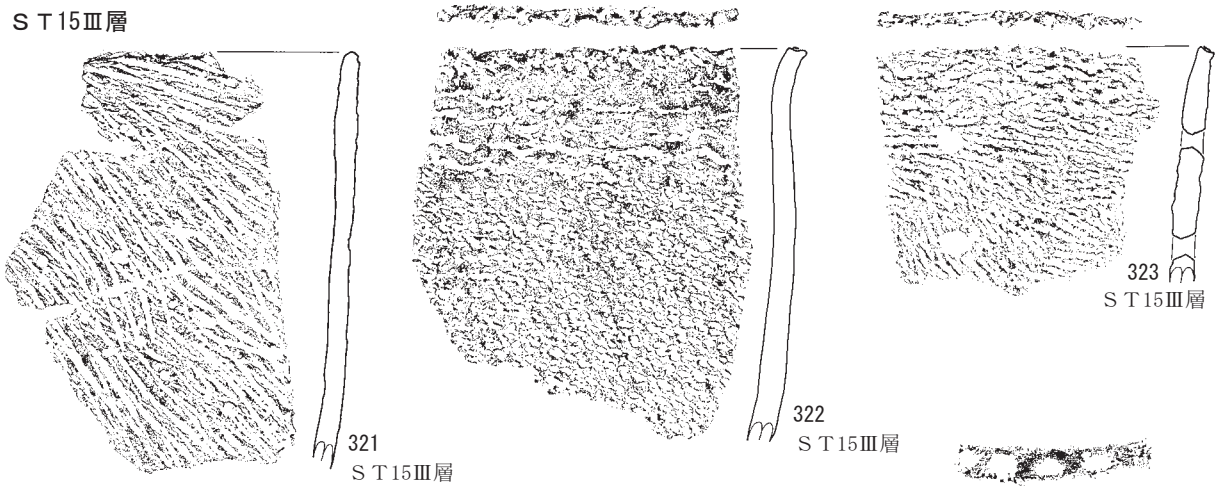


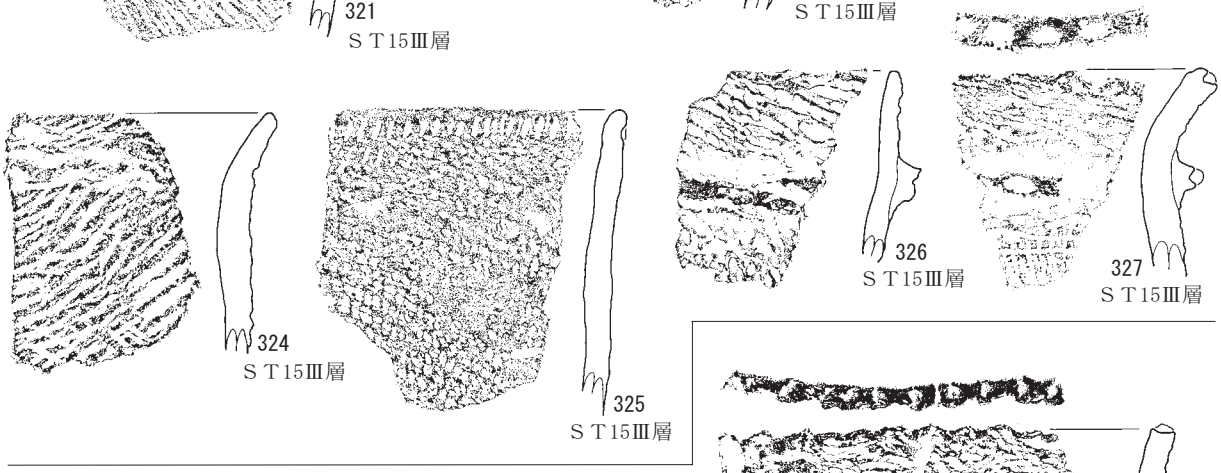

第49図　捨て場出土土器(33)

ＳＴ15Ⅱ層

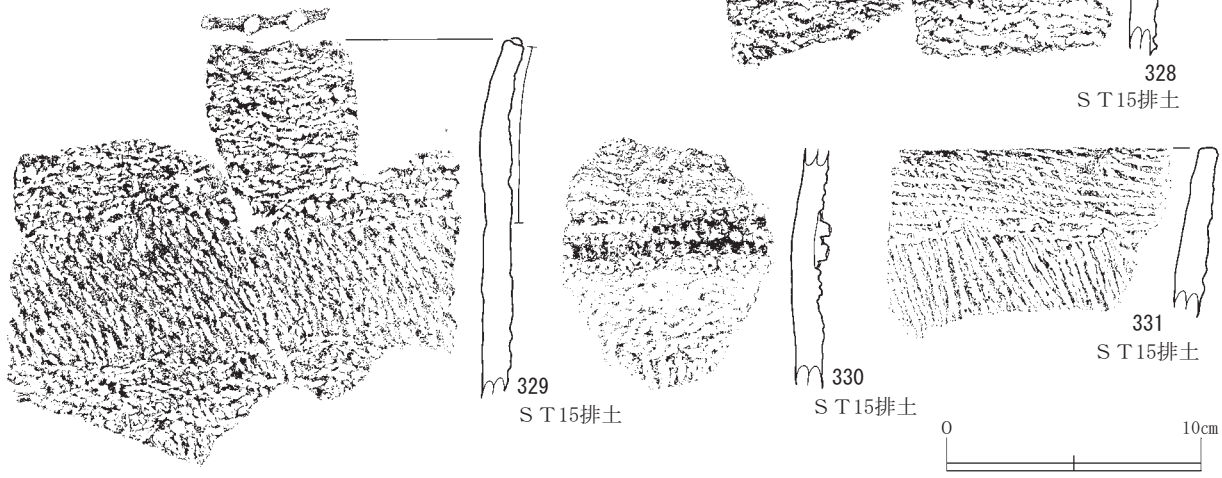



ＳＴ15Ⅲ層

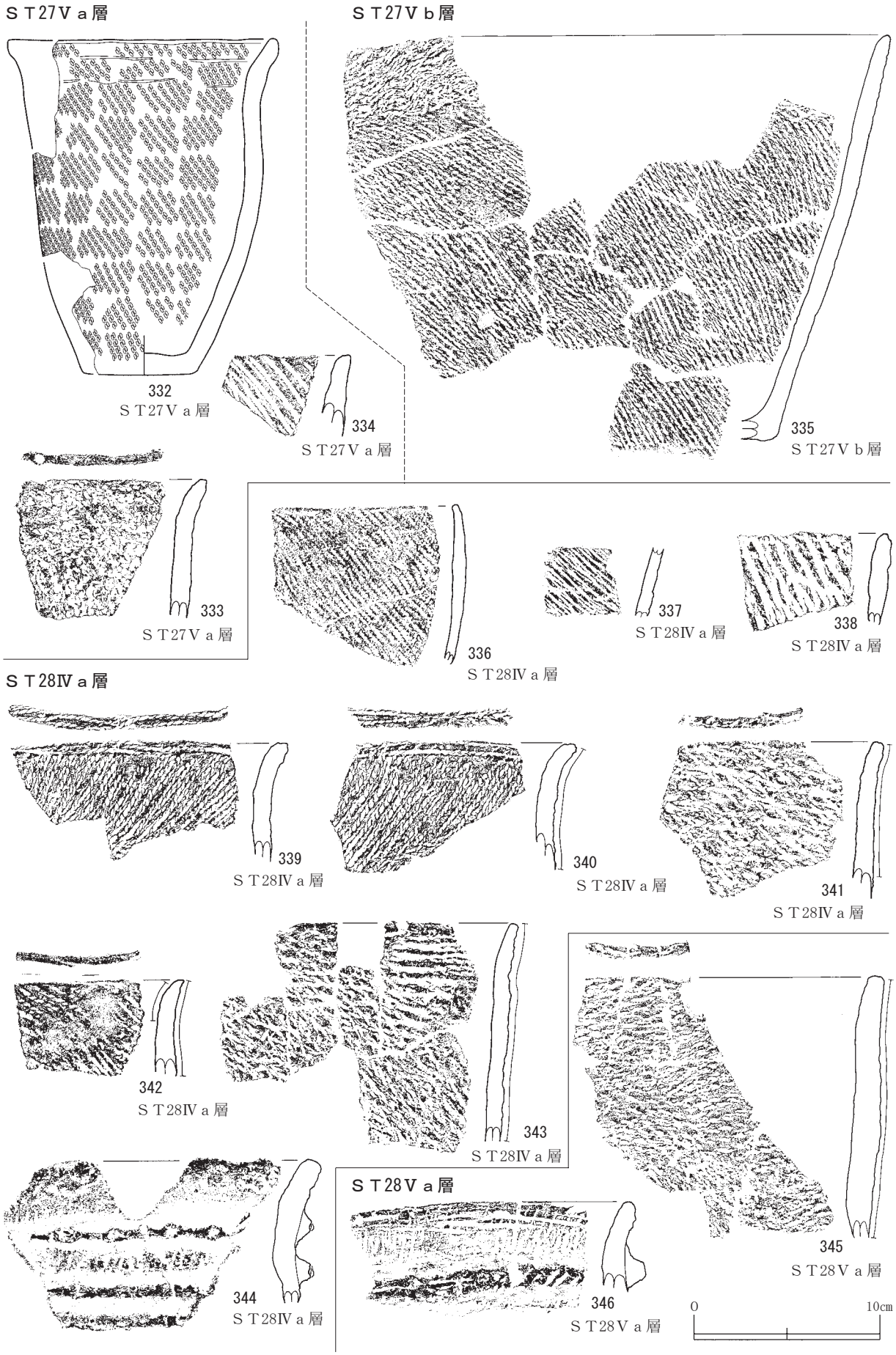


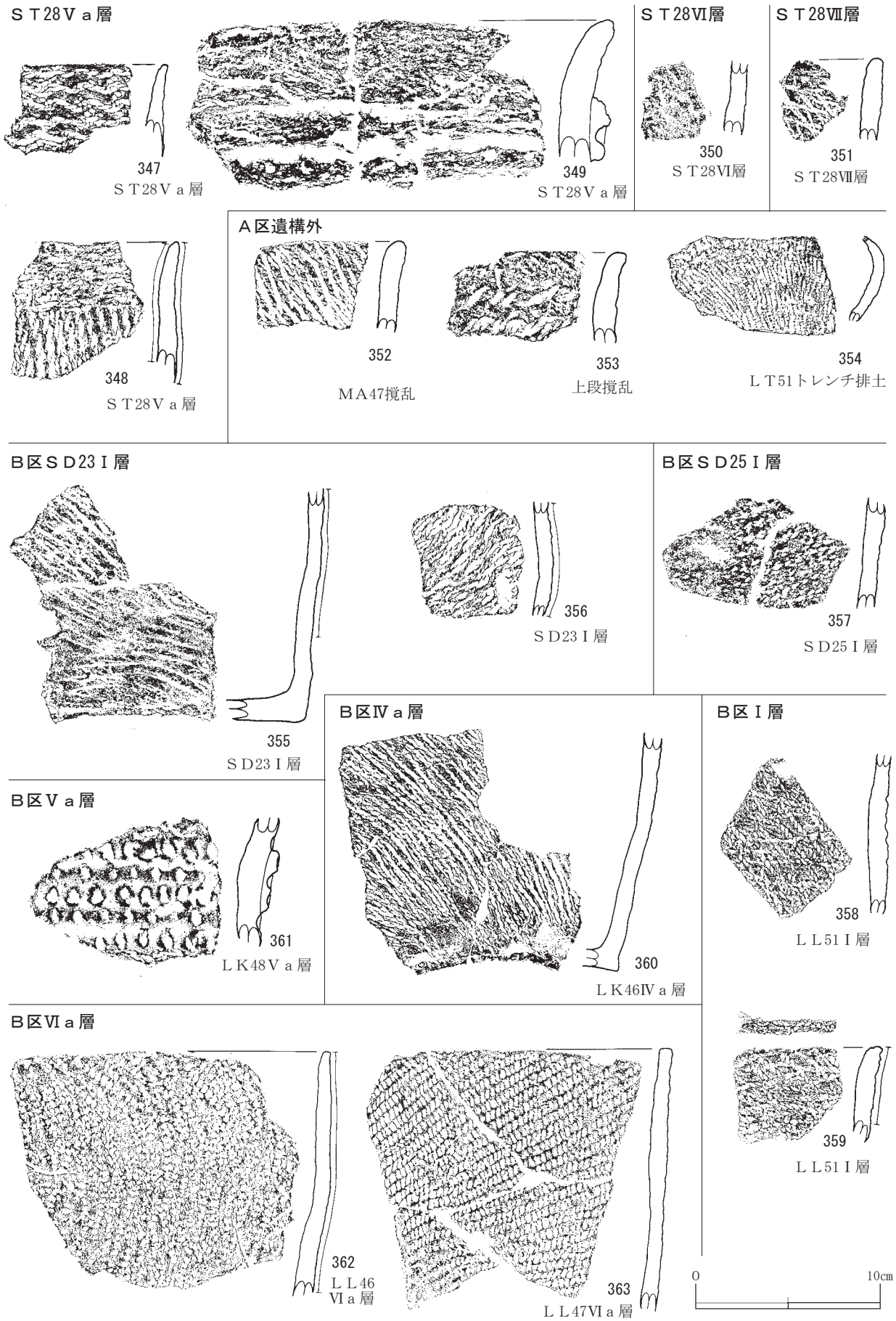

ＳＴ15




第50図　捨て場出土土器(34)

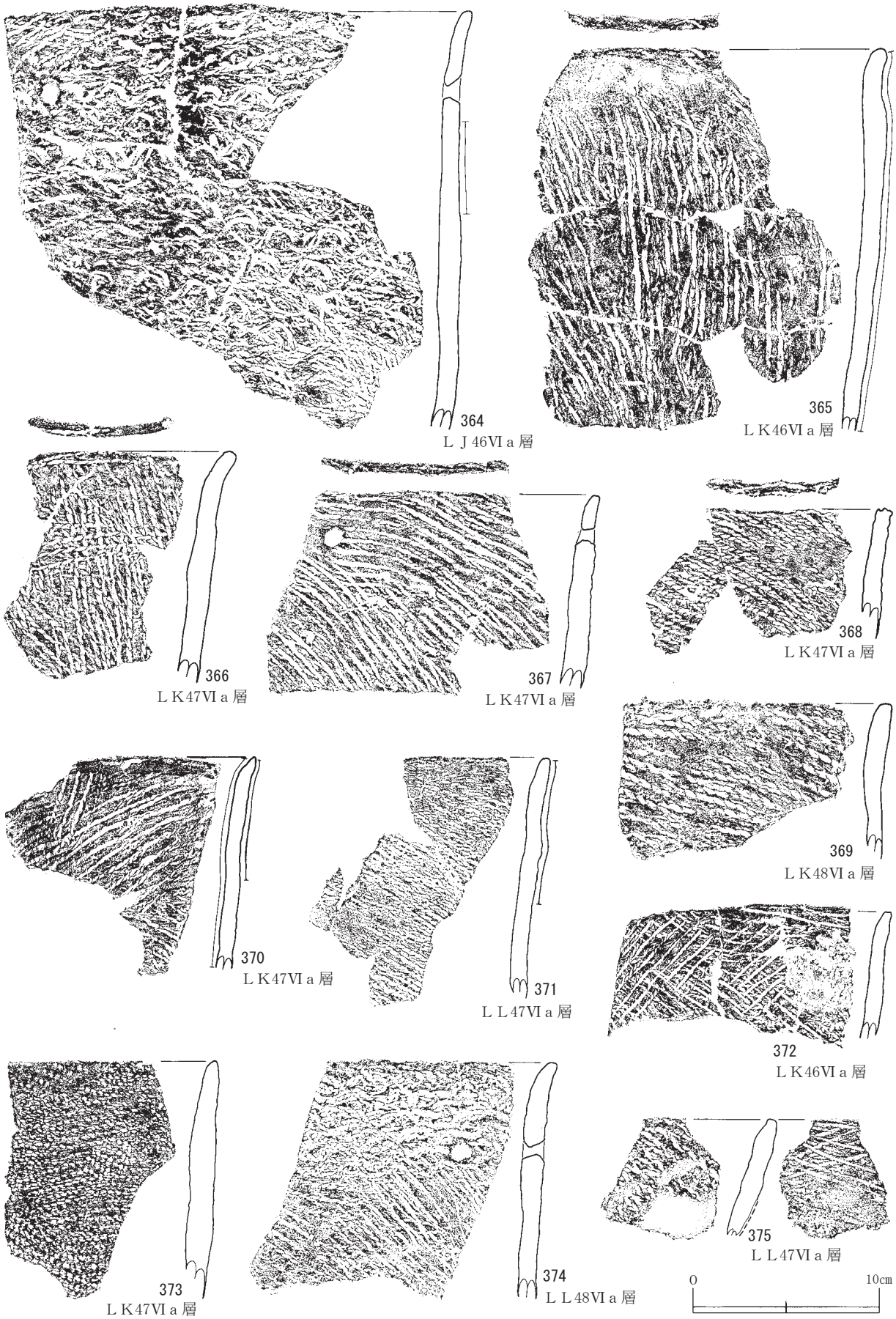



第51図　捨て場出土土器(35)

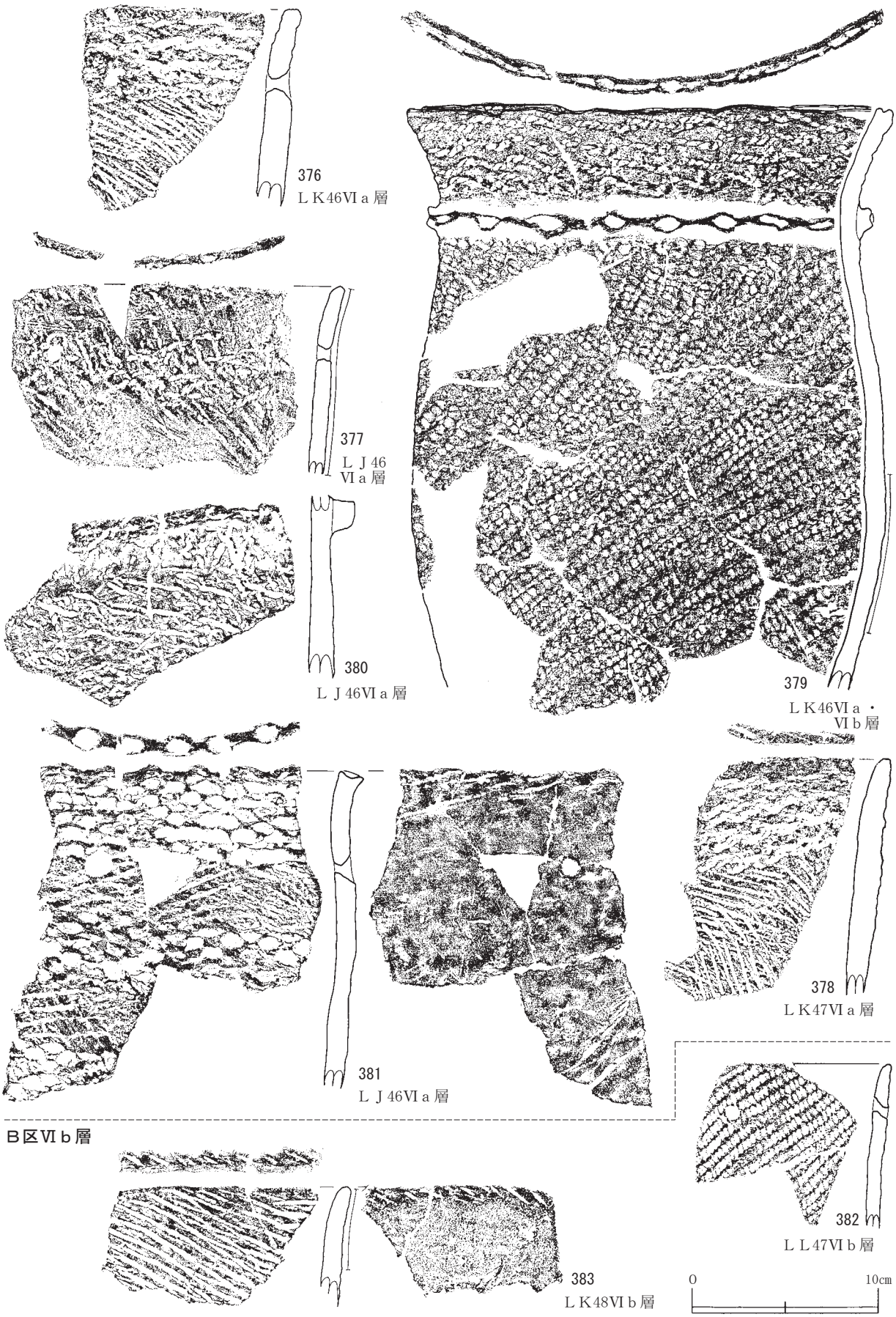



第52図　捨て場出土土器(36)、Ａ区遺構外、ＳＤ23・25、Ｂ区遺構外出土土器類（１）

Ｂ区Ⅵａ層

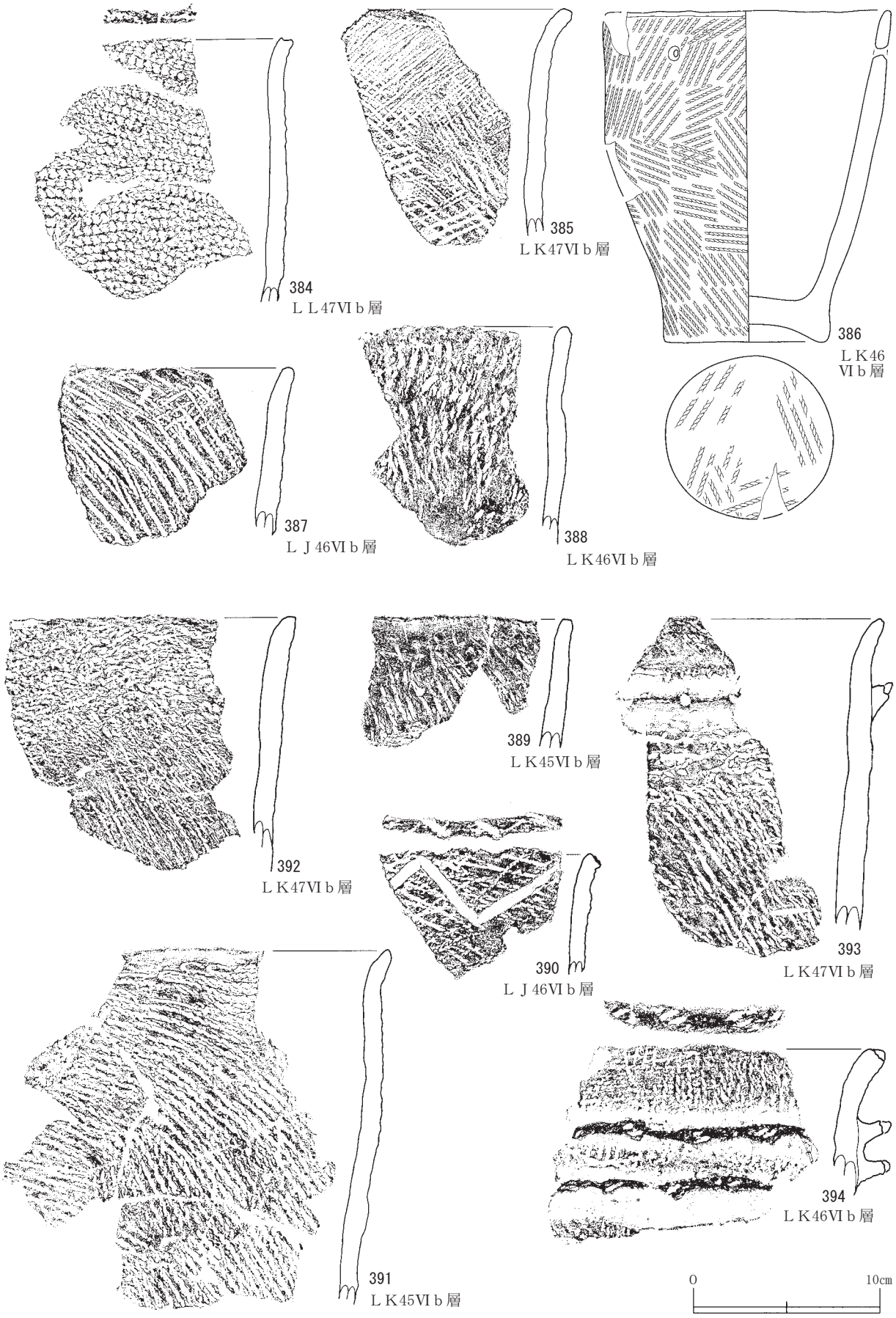



第53図　Ｂ区遺構外出土土器類（２）



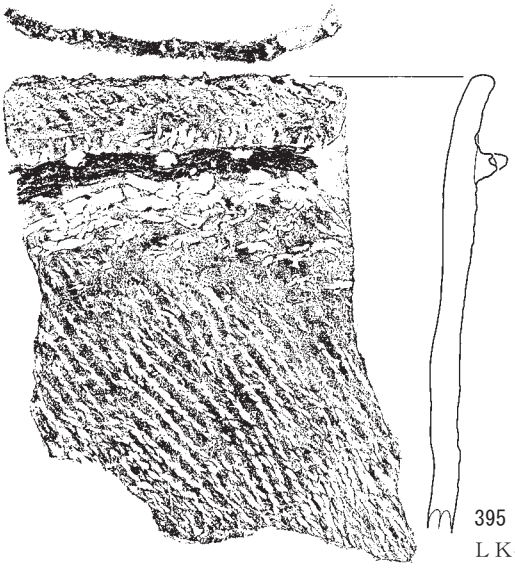

第54図　Ｂ区遺構外出土土器類（３）

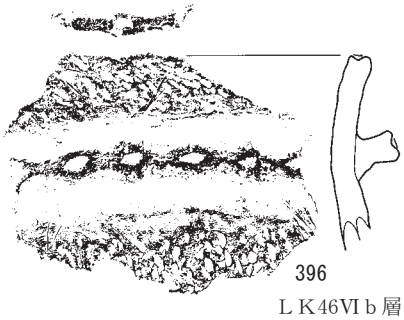
Ｂ区Ⅵｂ層

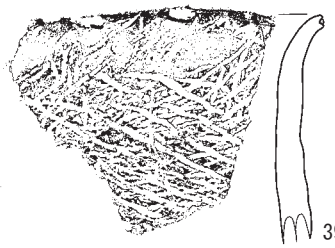


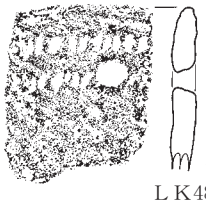

第55図　Ｂ区遺構外出土土器類（４）

Ｂ区Ⅵｂ層

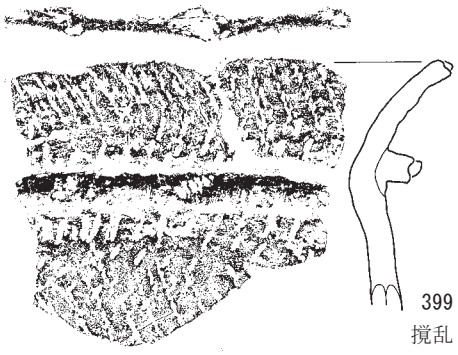

395
ＬＫ47Ⅵｂ層


396
ＬＫ46Ⅵｂ層

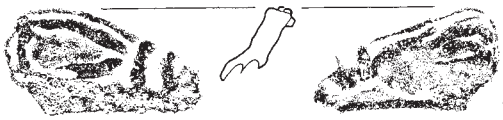

397
ＬＫ47Ⅵｂ層

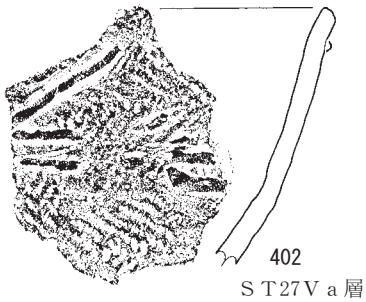

398
ＬＫ48Ⅵｂ層

Ｂ区


399
撹乱

縄文時代前期以外の出土土器

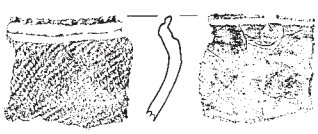

401
ＳＴ27Ⅴａ層

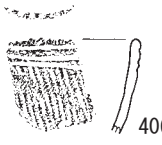

402
ＳＴ27Ⅴａ層

400
ＳＴ27Ⅳａ層

403
ＳＴ27Ⅴａ層

404
ＳＴ27Ⅴａ層

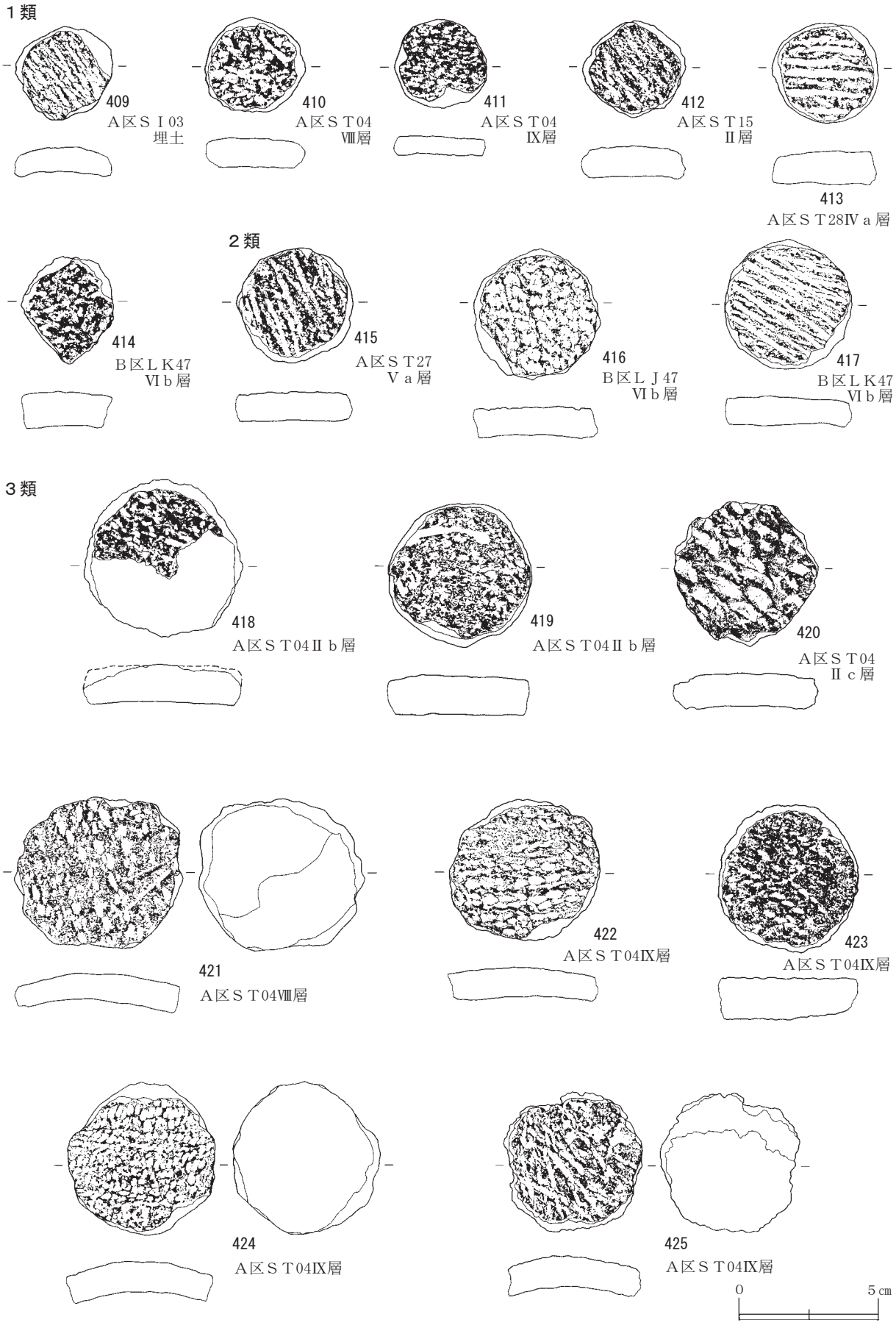

405
ＳＴ28Ⅳａ層


406
ＳＴ28Ⅳａ層

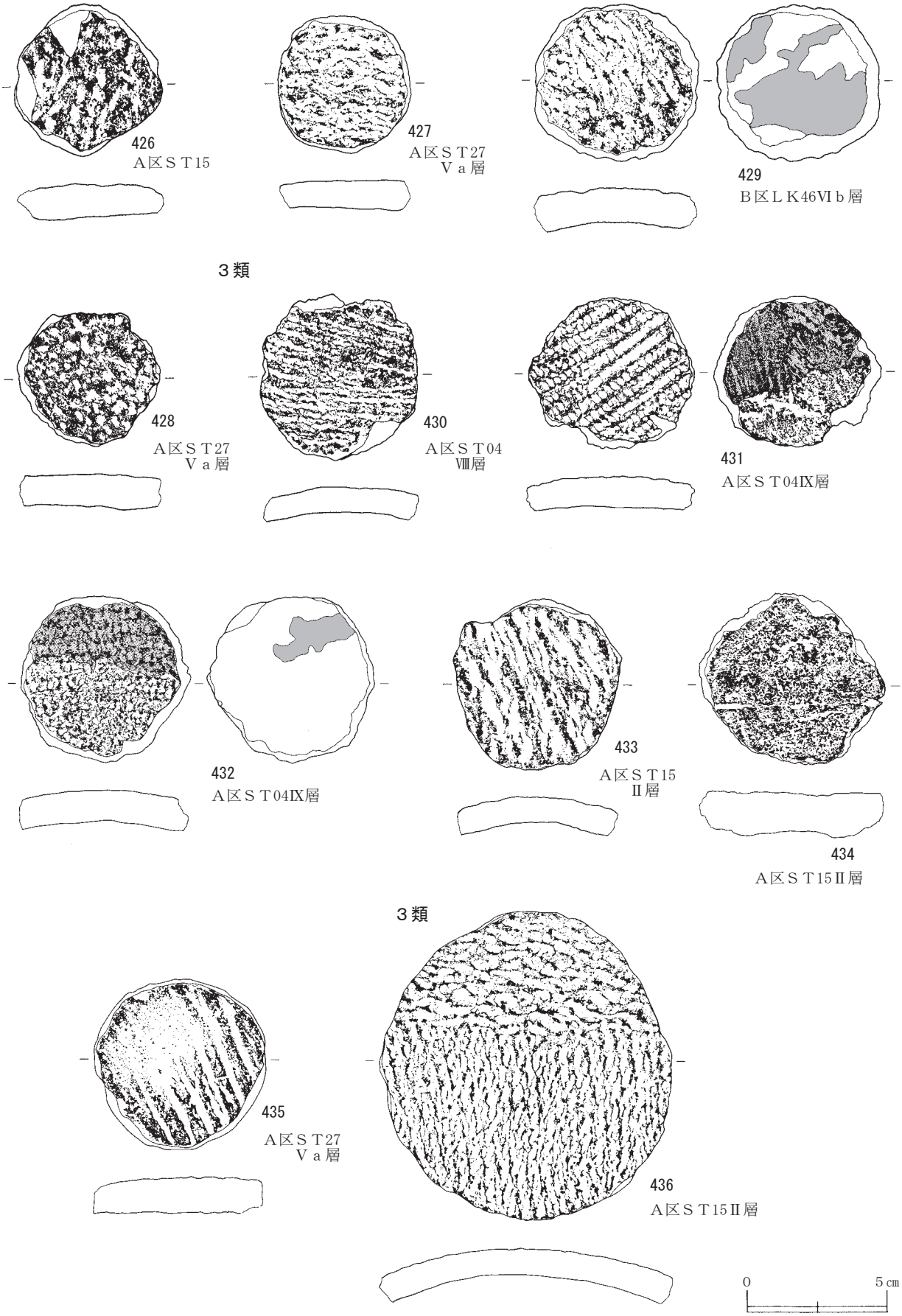
407
ＳＴ28Ⅳａ層

408
ＳＴ28
撹乱

第56図　Ｂ区遺構外出土土器（５）、縄文時代前期以外出土土器

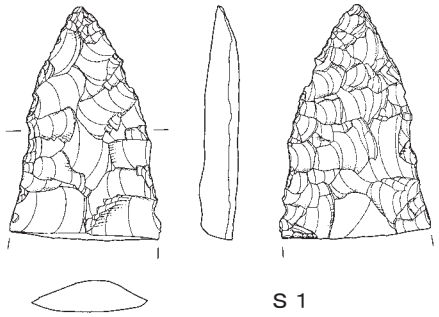



第57図　円盤状土製品（１）

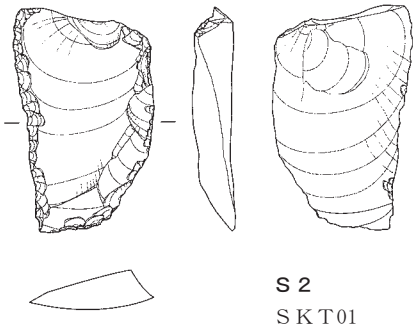



第58図　円盤状土製品（２）

ＳＫＴ01

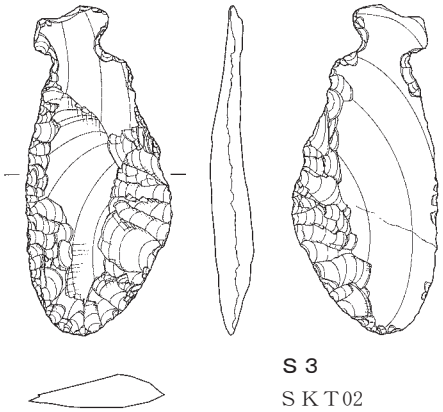


Ｓ１
ＳＫＴ01



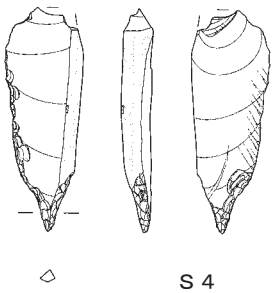
Ｓ２
ＳＫＴ01

ＳＫＴ02

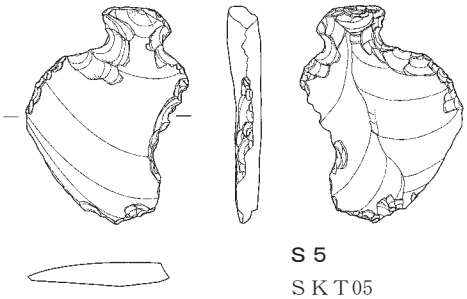


Ｓ３
ＳＫＴ02

ＳＫＴ05

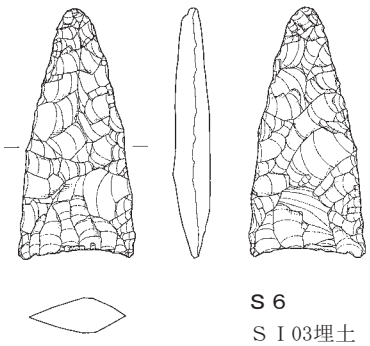


Ｓ４
ＳＫＴ05

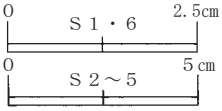


Ｓ５
ＳＫＴ05

ＳＩ03

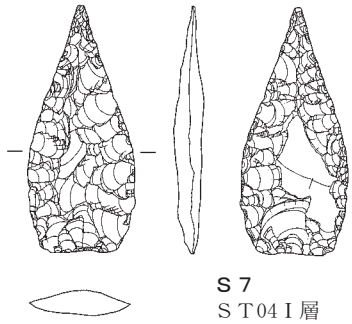


Ｓ６
ＳＩ03埋土

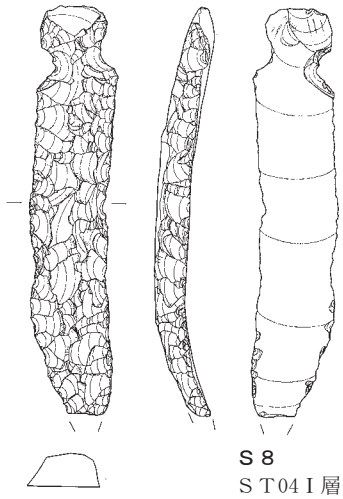



第59図　ＳＫＴ01・02・05、ＳＩ03出土剥片石器

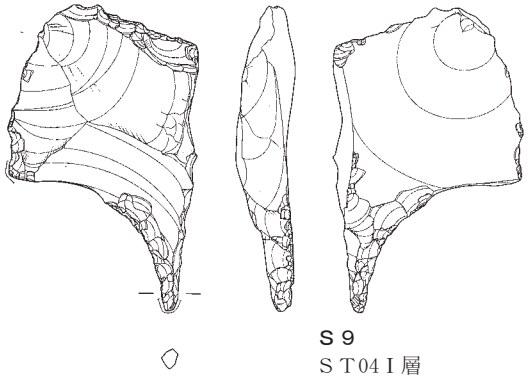
ＳＴ04Ⅰ層



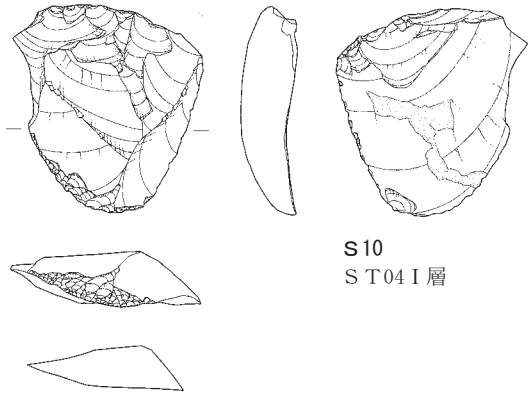
Ｓ７
ＳＴ04Ⅰ層



Ｓ８
ＳＴ04Ⅰ層

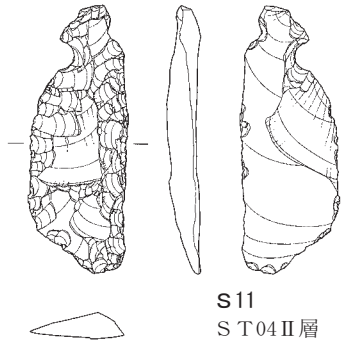


Ｓ９
ＳＴ04Ⅰ層

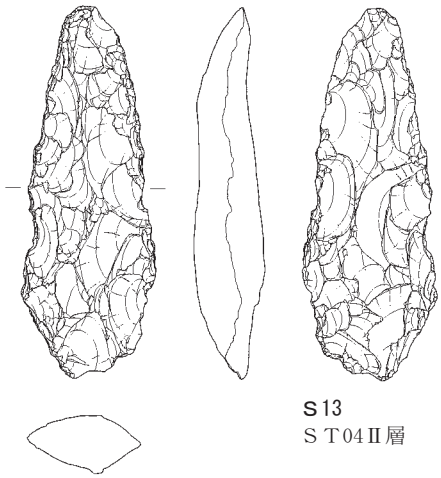


Ｓ10
ＳＴ04Ⅰ層

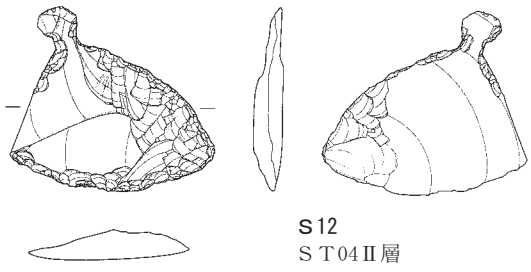
ＳＴ04Ⅱ層



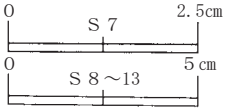
Ｓ11
ＳＴ04Ⅱ層



Ｓ13
ＳＴ04Ⅱ層

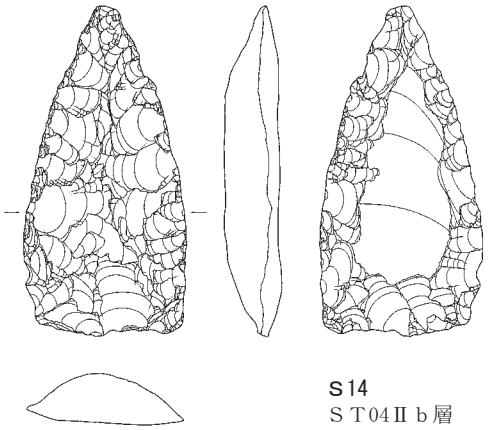


Ｓ12
ＳＴ04Ⅱ層

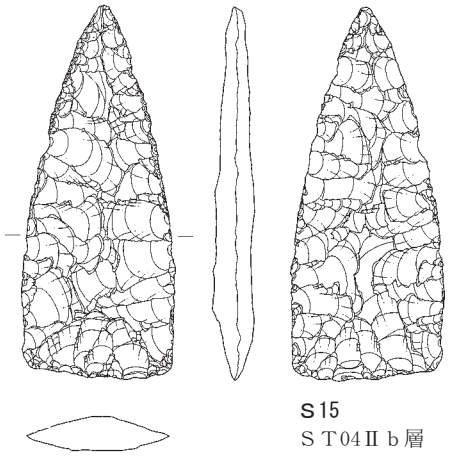



第60図　捨て場出土剥片石器（１）

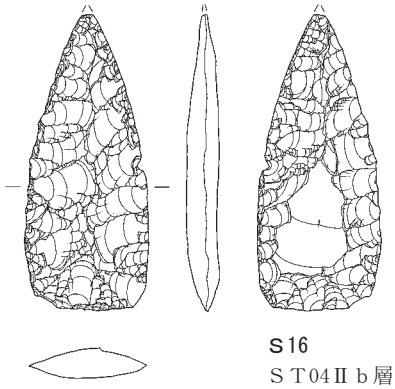
ＳＴ04Ⅱｂ層



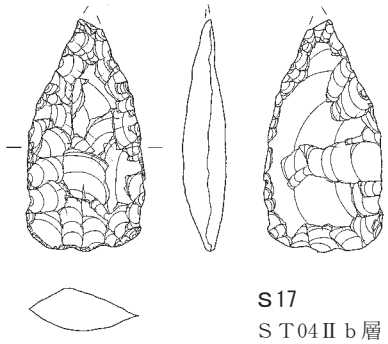
S14
ＳＴ04Ⅱｂ層



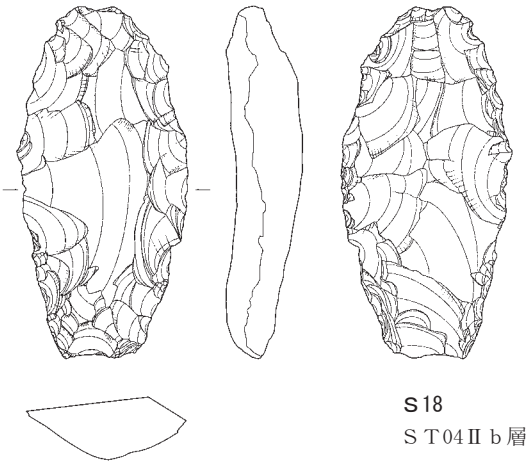
S15
ＳＴ04Ⅱｂ層



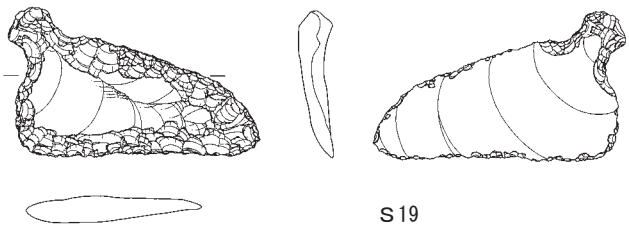
S16
ＳＴ04Ⅱｂ層



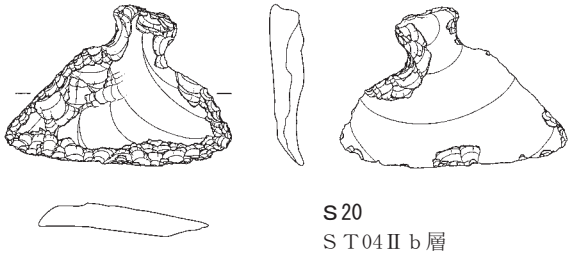
S17
ＳＴ04Ⅱｂ層



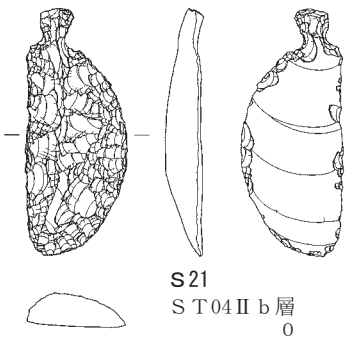
S18
ＳＴ04Ⅱｂ層



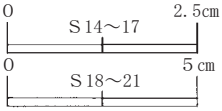
S19
ＳＴ04Ⅱｂ層



S20
ＳＴ04Ⅱｂ層

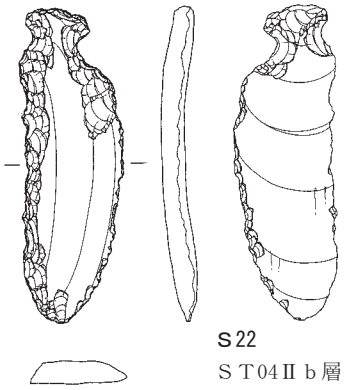


S21
ＳＴ04Ⅱｂ層

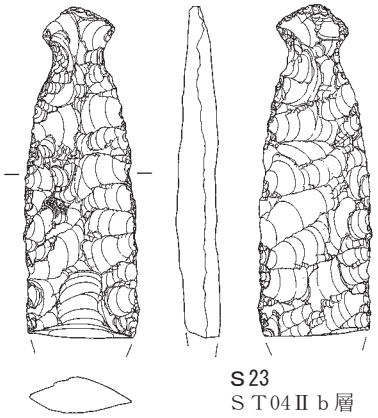



第61図　捨て場出土剥片石器（２）

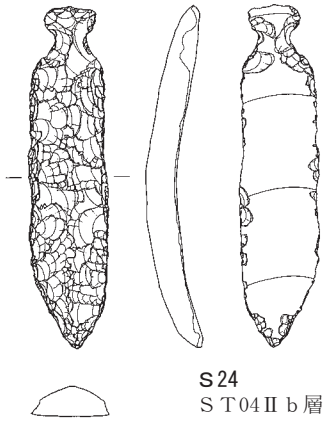
ＳＴ04Ⅱｂ層



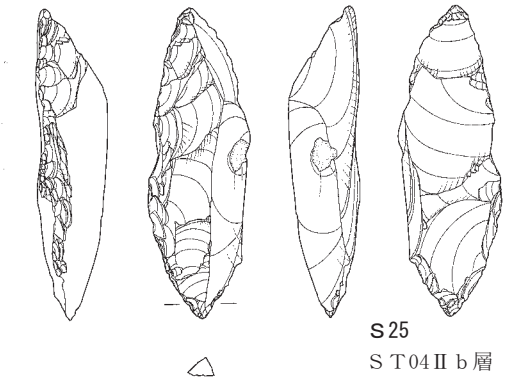
S22
ＳＴ04Ⅱｂ層



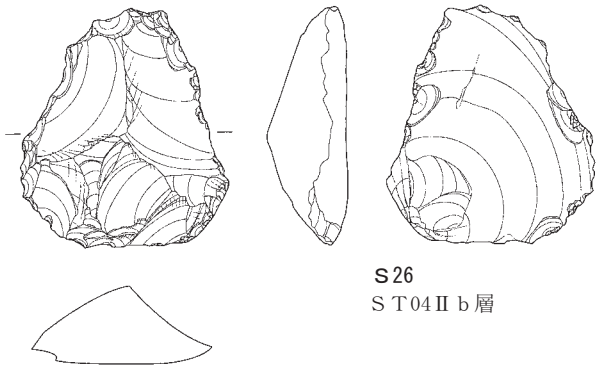
S23
ＳＴ04Ⅱｂ層



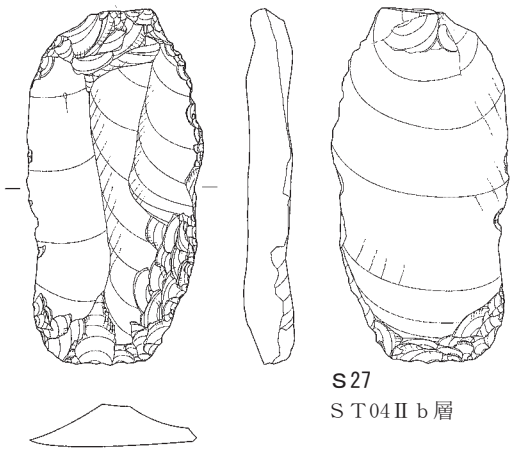
S24
ＳＴ04Ⅱｂ層



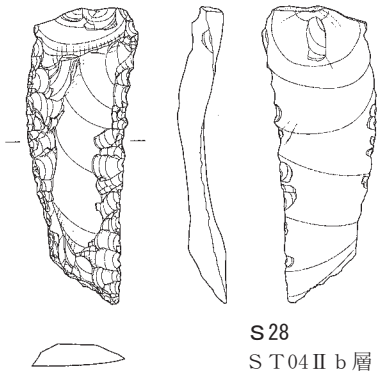
S25
ＳＴ04Ⅱｂ層



S26
ＳＴ04Ⅱｂ層



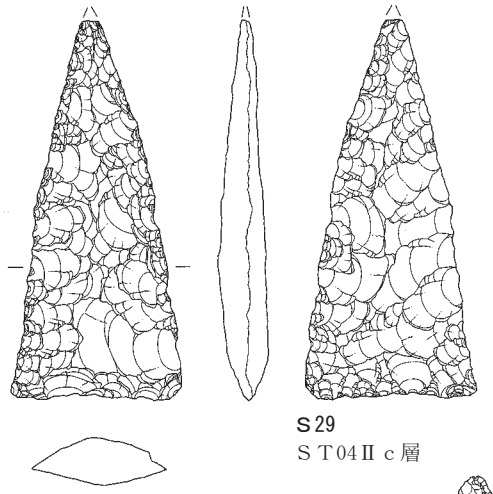
S27
ＳＴ04Ⅱｂ層



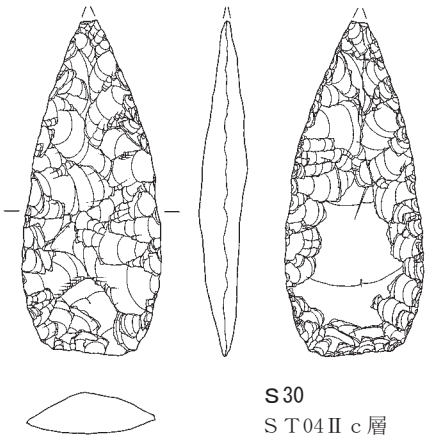
S28
ＳＴ04Ⅱｂ層

第62図　捨て場出土剥片石器（３）

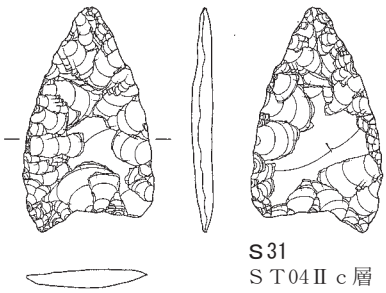
ＳＴ04Ⅱｃ層



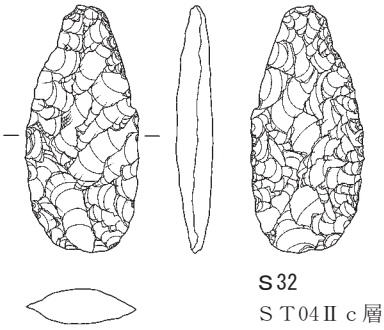
S29
ＳＴ04Ⅱｃ層



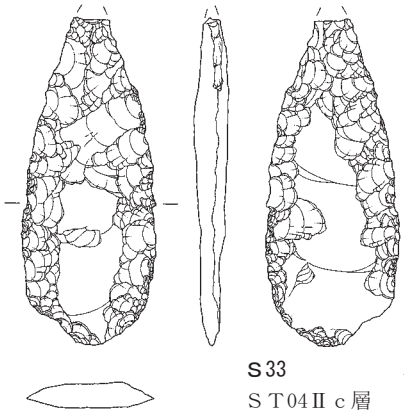
S30
ＳＴ04Ⅱｃ層



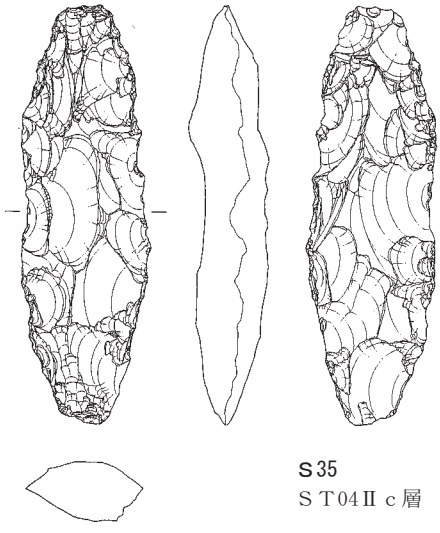
S31
ＳＴ04Ⅱｃ層



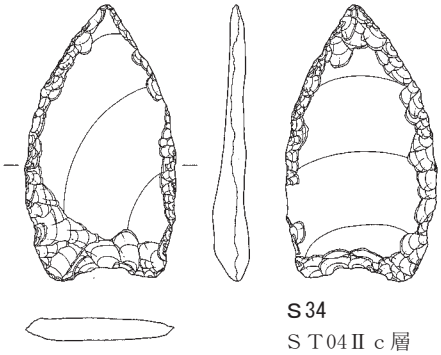
S32
ＳＴ04Ⅱｃ層



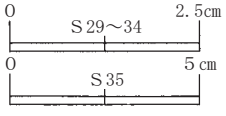
S33
ＳＴ04Ⅱｃ層



S35
ＳＴ04Ⅱｃ層

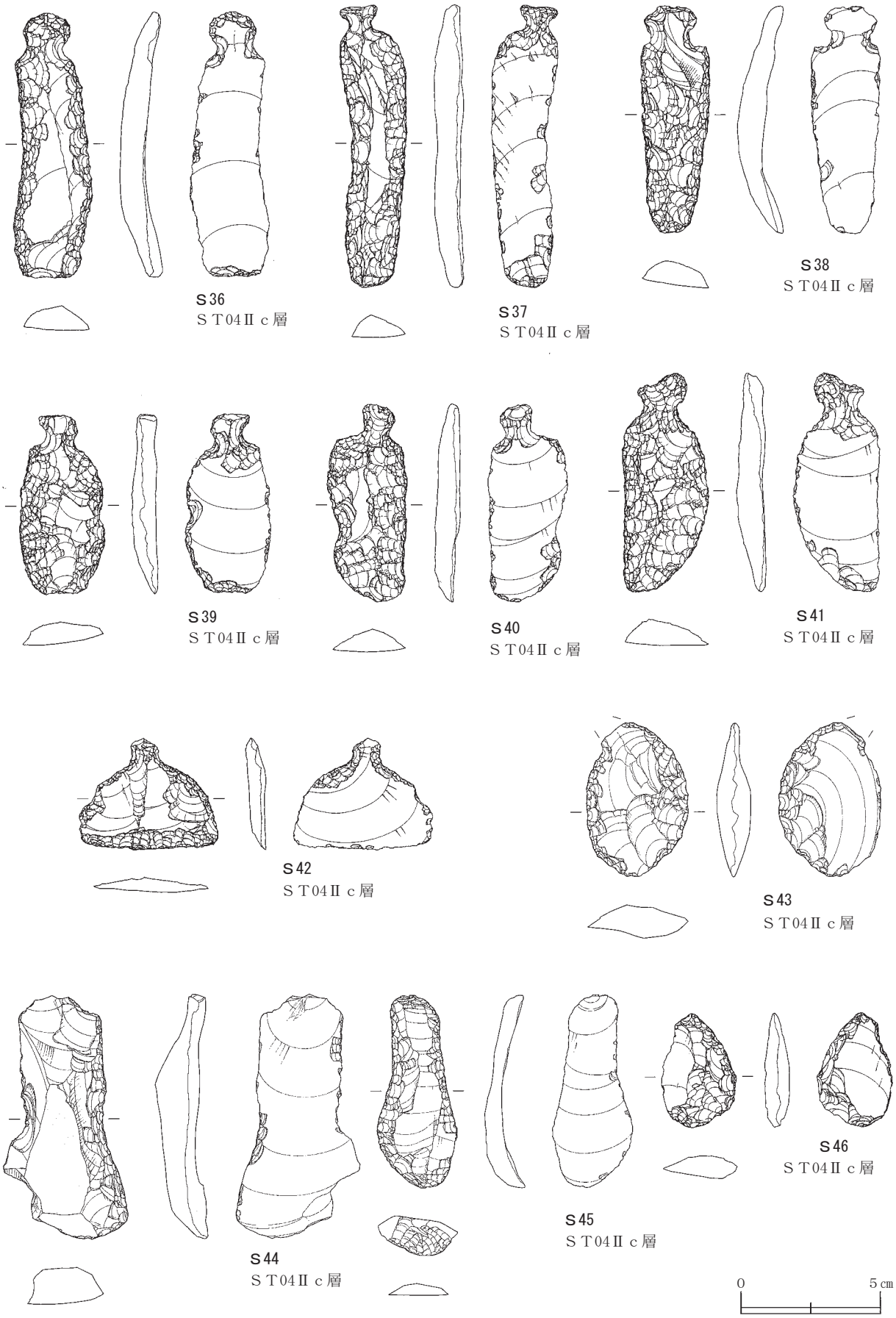


S34
ＳＴ04Ⅱｃ層



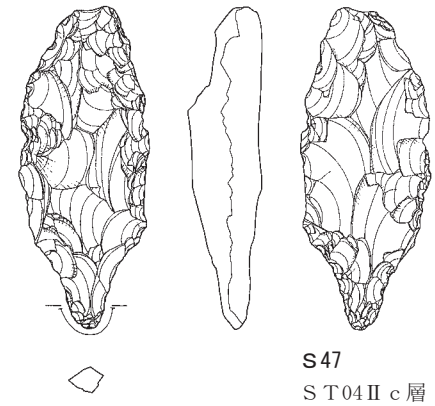

第63図　捨て場出土剥片石器（４）

ＳＴ04Ⅱｃ層

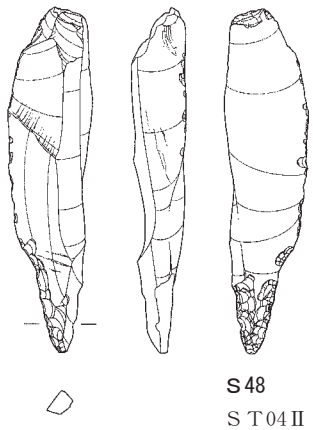



第64図　捨て場出土剥片石器（５）

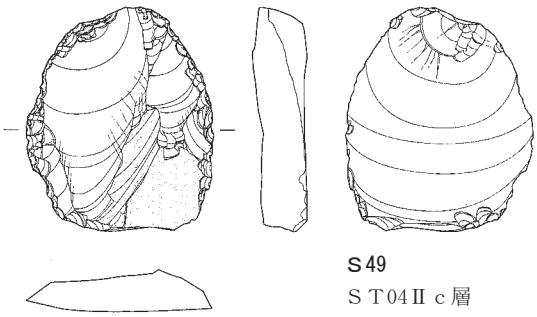
ＳＴ04Ⅱｃ層



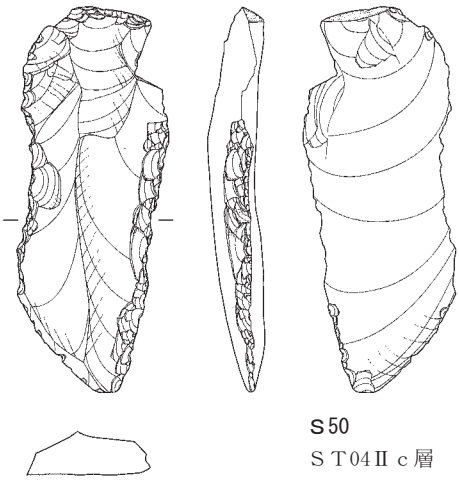
S47
ＳＴ04Ⅱｃ層



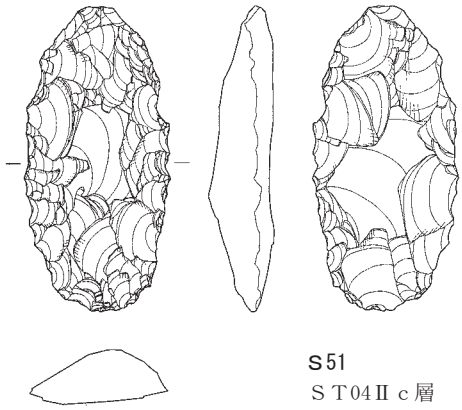
S48
ＳＴ04Ⅱｃ層



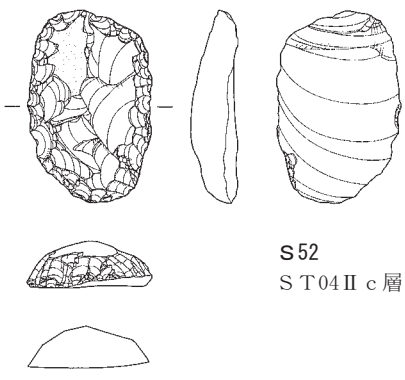
S49
ＳＴ04Ⅱｃ層



S50
ＳＴ04Ⅱｃ層

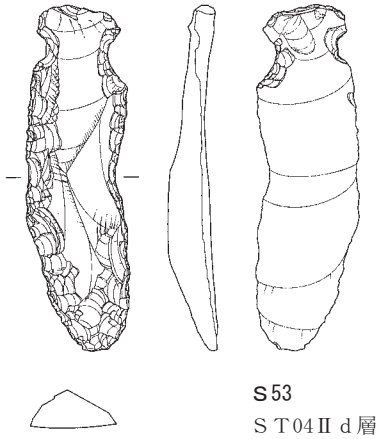


S51
ＳＴ04Ⅱｃ層



S52
ＳＴ04Ⅱｃ層

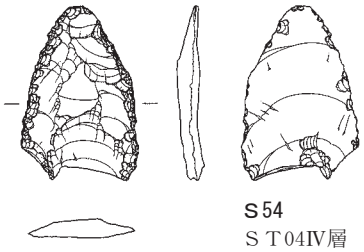
ＳＴ04Ⅱｄ層



S53
ＳＴ04Ⅱｄ層

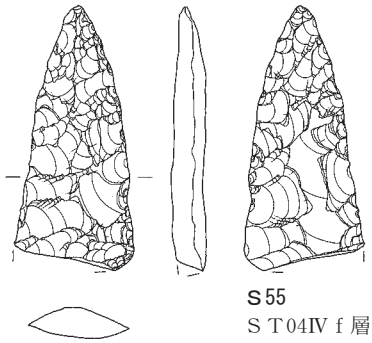
第65図　捨て場出土剥片石器（６）

ＳＴ04Ⅳ層

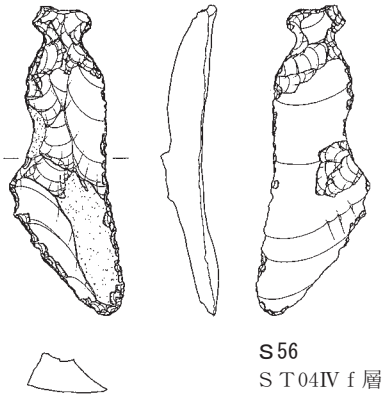


S54
ＳＴ04Ⅳ層

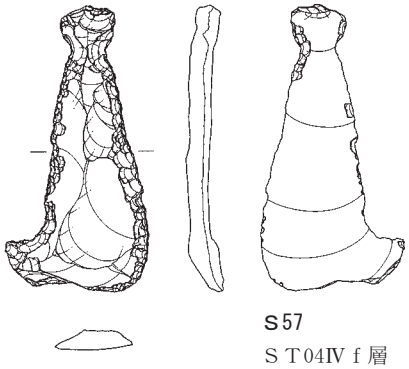
ＳＴ04Ⅳｆ層



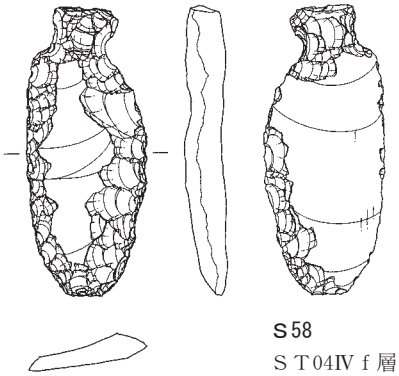
S55
ＳＴ04Ⅳｆ層



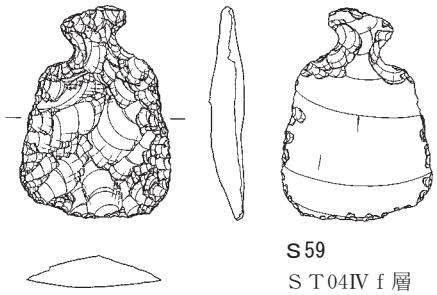
S56
ＳＴ04Ⅳｆ層



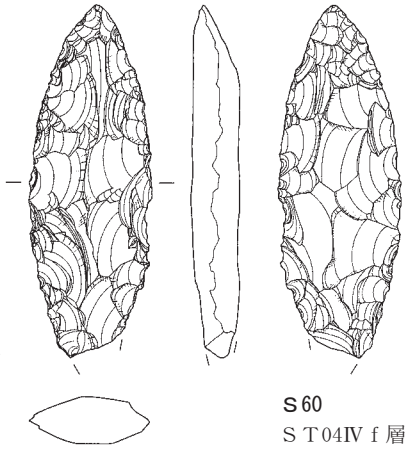
S57
ＳＴ04Ⅳｆ層



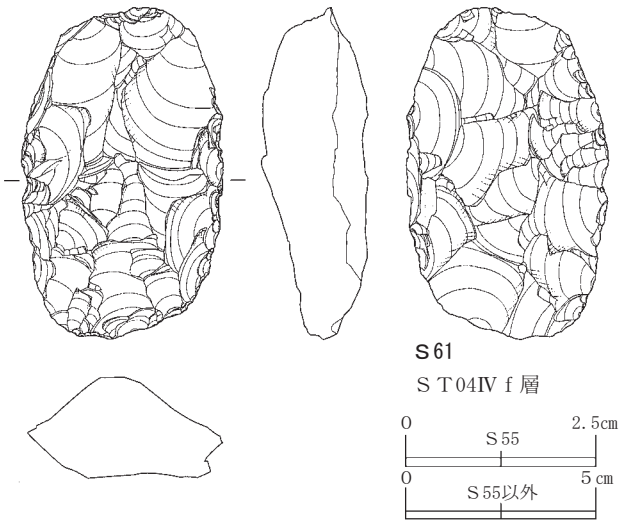
S58
ＳＴ04Ⅳｆ層



S59
ＳＴ04Ⅳｆ層



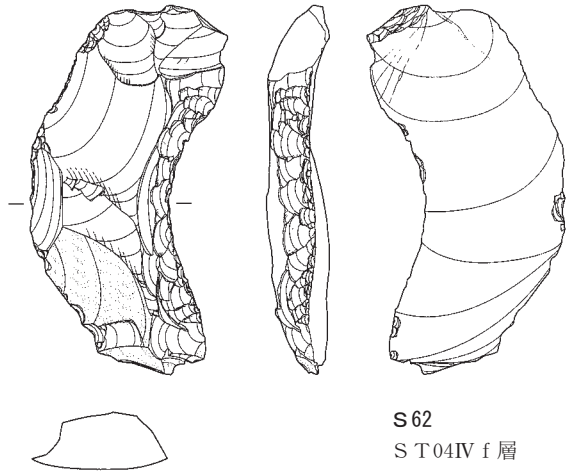
S60
ＳＴ04Ⅳｆ層



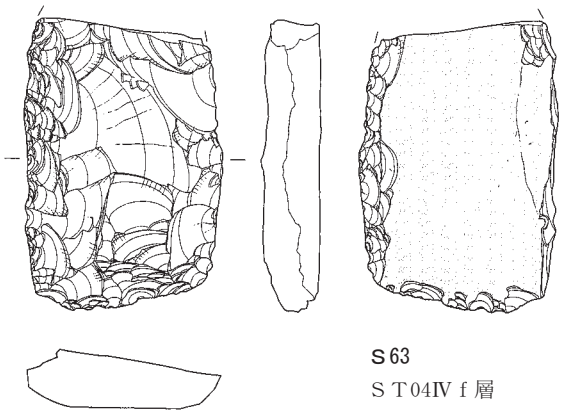
S61
ＳＴ04Ⅳｆ層

第66図　捨て場出土剥片石器（７）

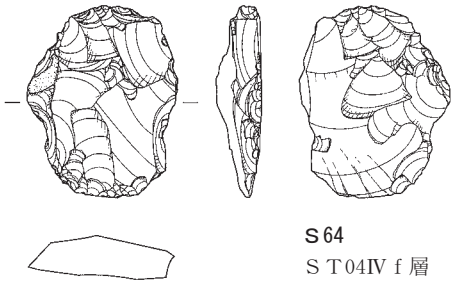
ＳＴ04Ⅳｆ層



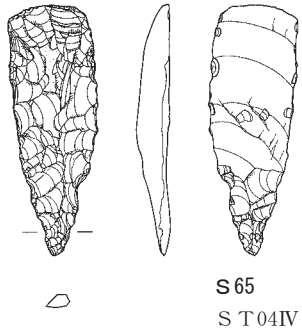
Ｓ62
ＳＴ04Ⅳｆ層



Ｓ63
ＳＴ04Ⅳｆ層

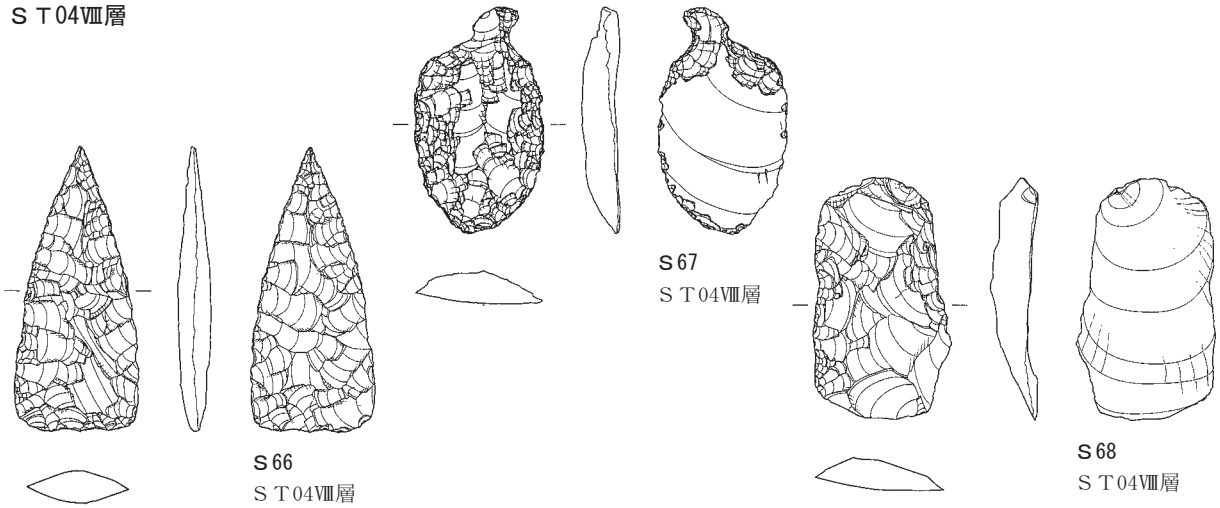


Ｓ64
ＳＴ04Ⅳｆ層



Ｓ65
ＳＴ04Ⅳｆ層

ＳＴ04Ⅷ層

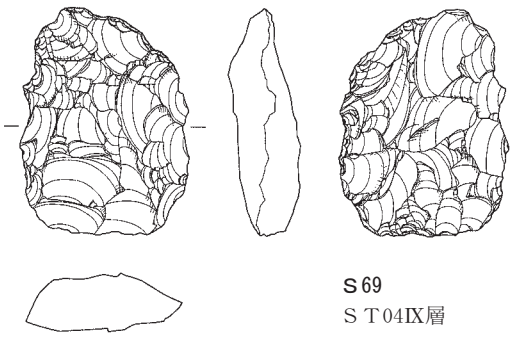


Ｓ66
ＳＴ04Ⅷ層

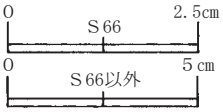
Ｓ67
ＳＴ04Ⅷ層

Ｓ68
ＳＴ04Ⅷ層

ＳＴ04Ⅸ層

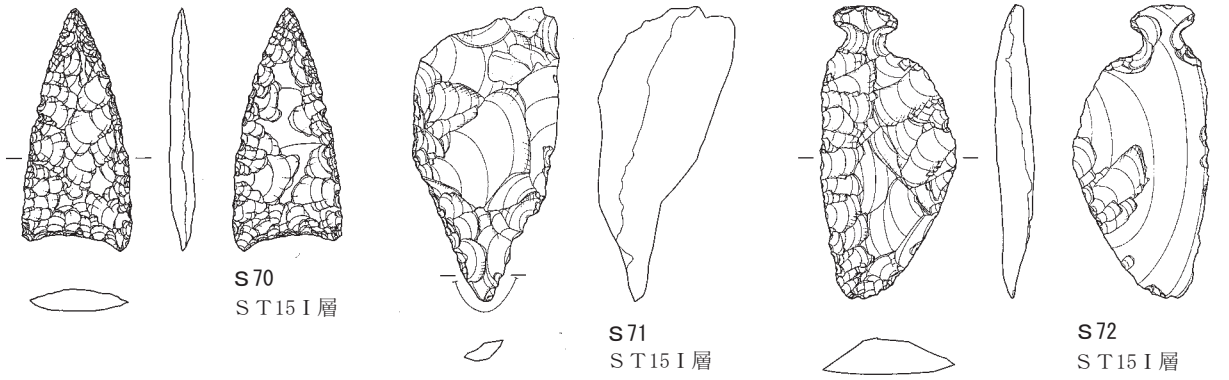


Ｓ69
ＳＴ04Ⅸ層




第67図　捨て場出土剥片石器（８）

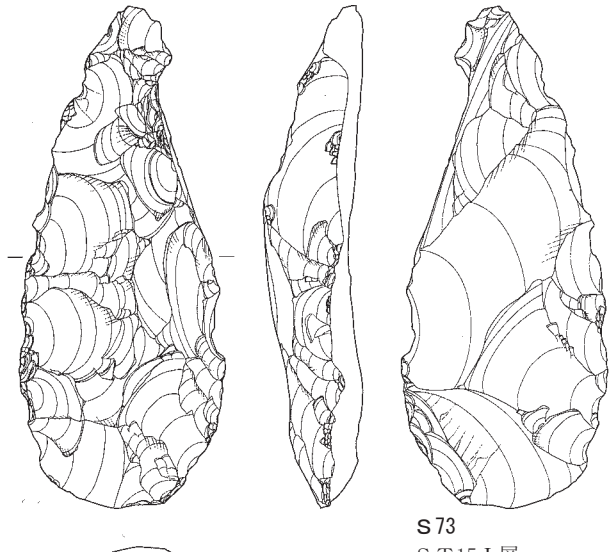
ＳＴ15Ⅰ層



S70
ＳＴ15Ⅰ層

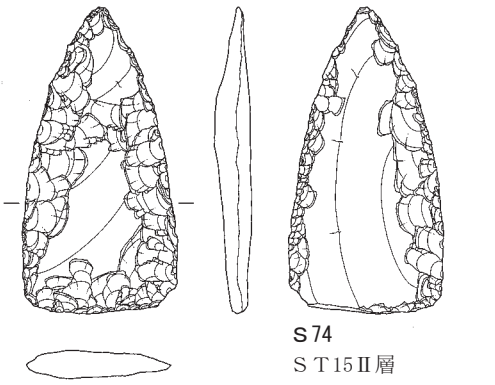
S71
ＳＴ15Ⅰ層

S72
ＳＴ15Ⅰ層

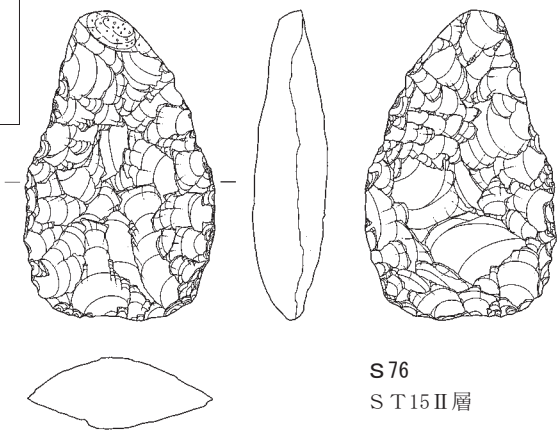


S73
ＳＴ15Ⅰ層

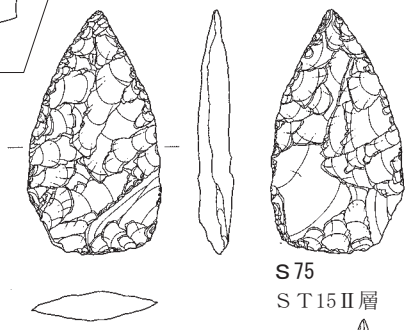
ＳＴ15Ⅱ層



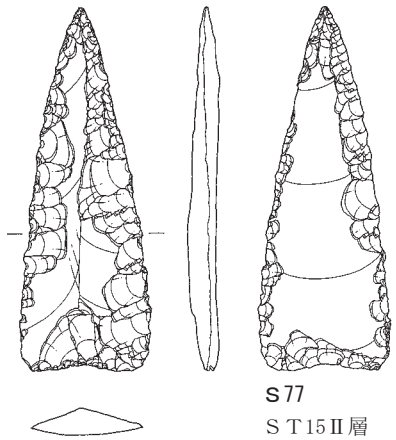
S74
ＳＴ15Ⅱ層



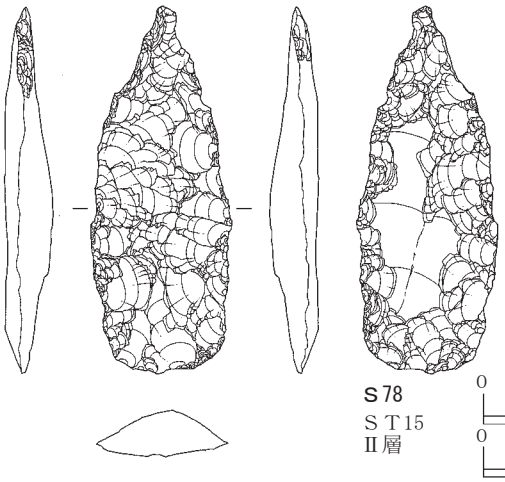
S76
ＳＴ15Ⅱ層



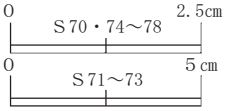
S75
ＳＴ15Ⅱ層



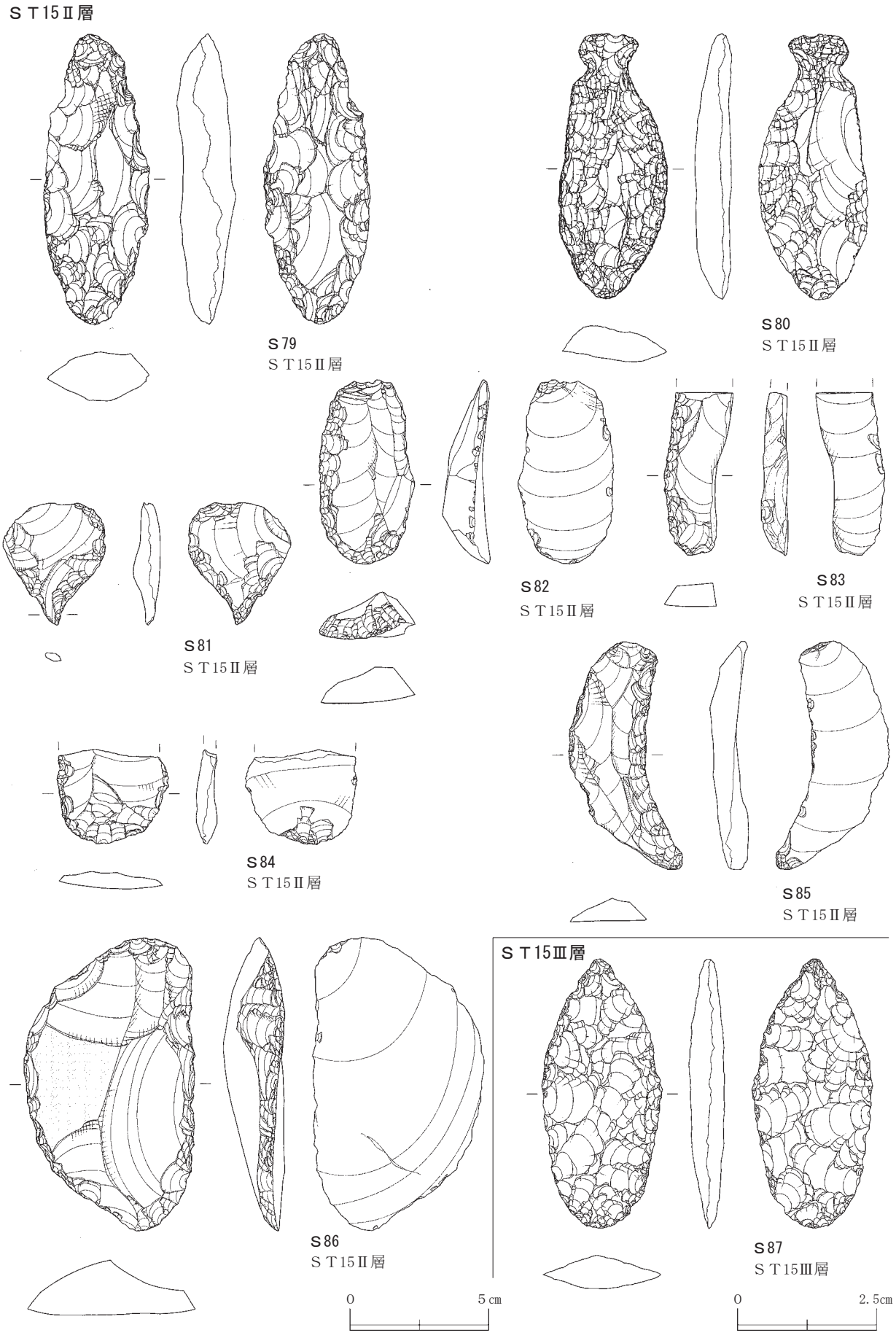
S77
ＳＴ15Ⅱ層



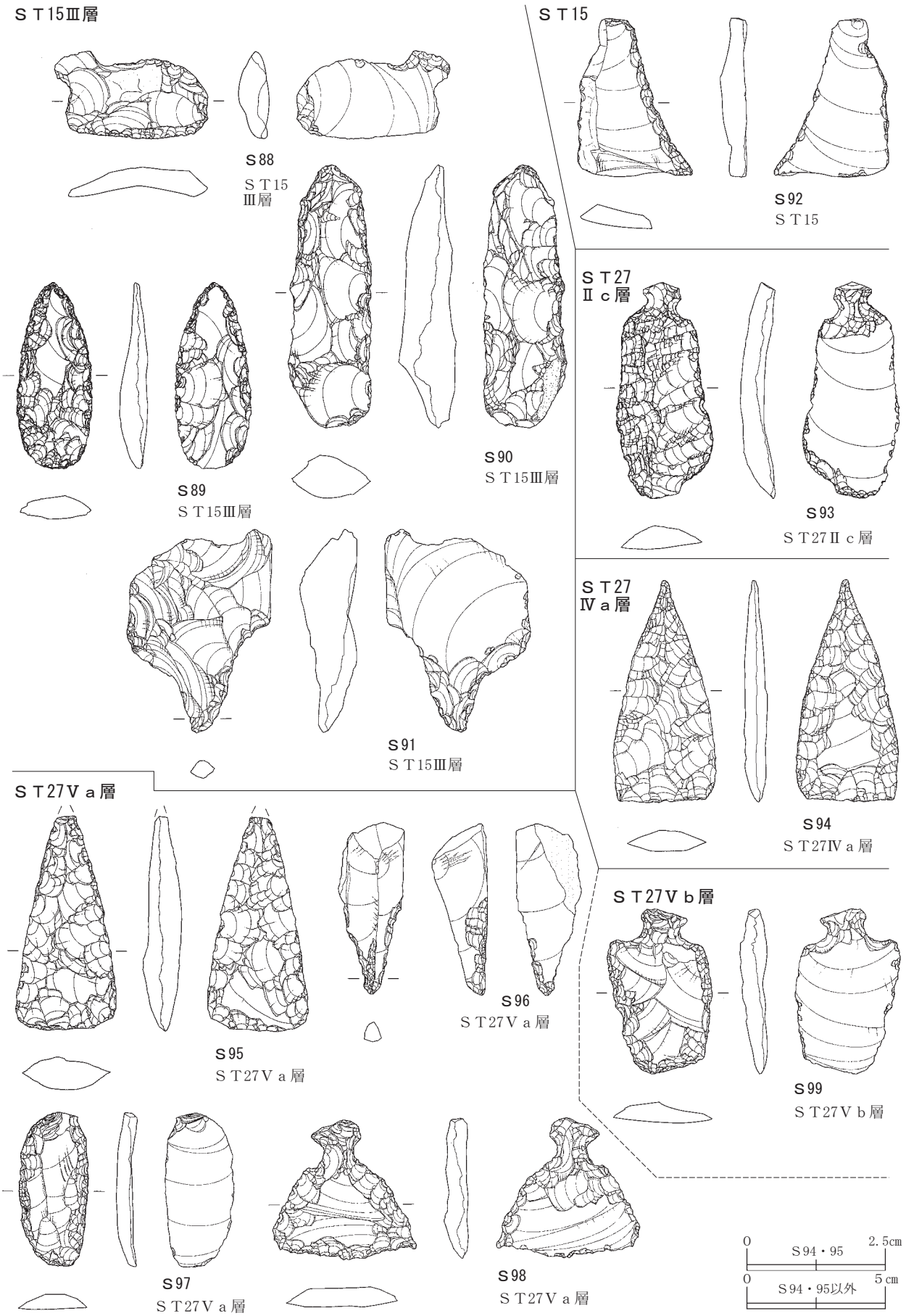
S78
ＳＴ15
Ⅱ層



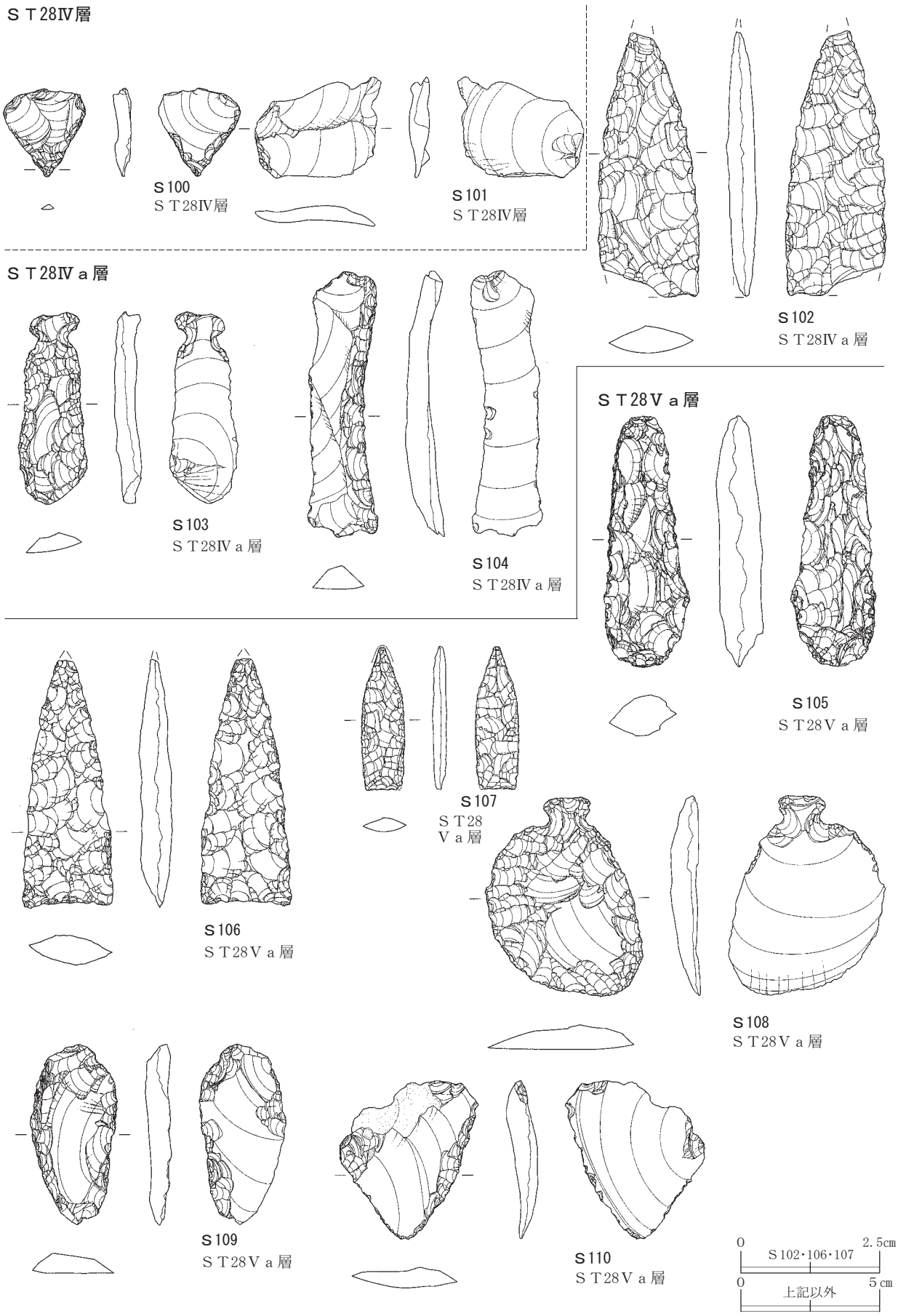

第68図　捨て場出土剥片石器（９）



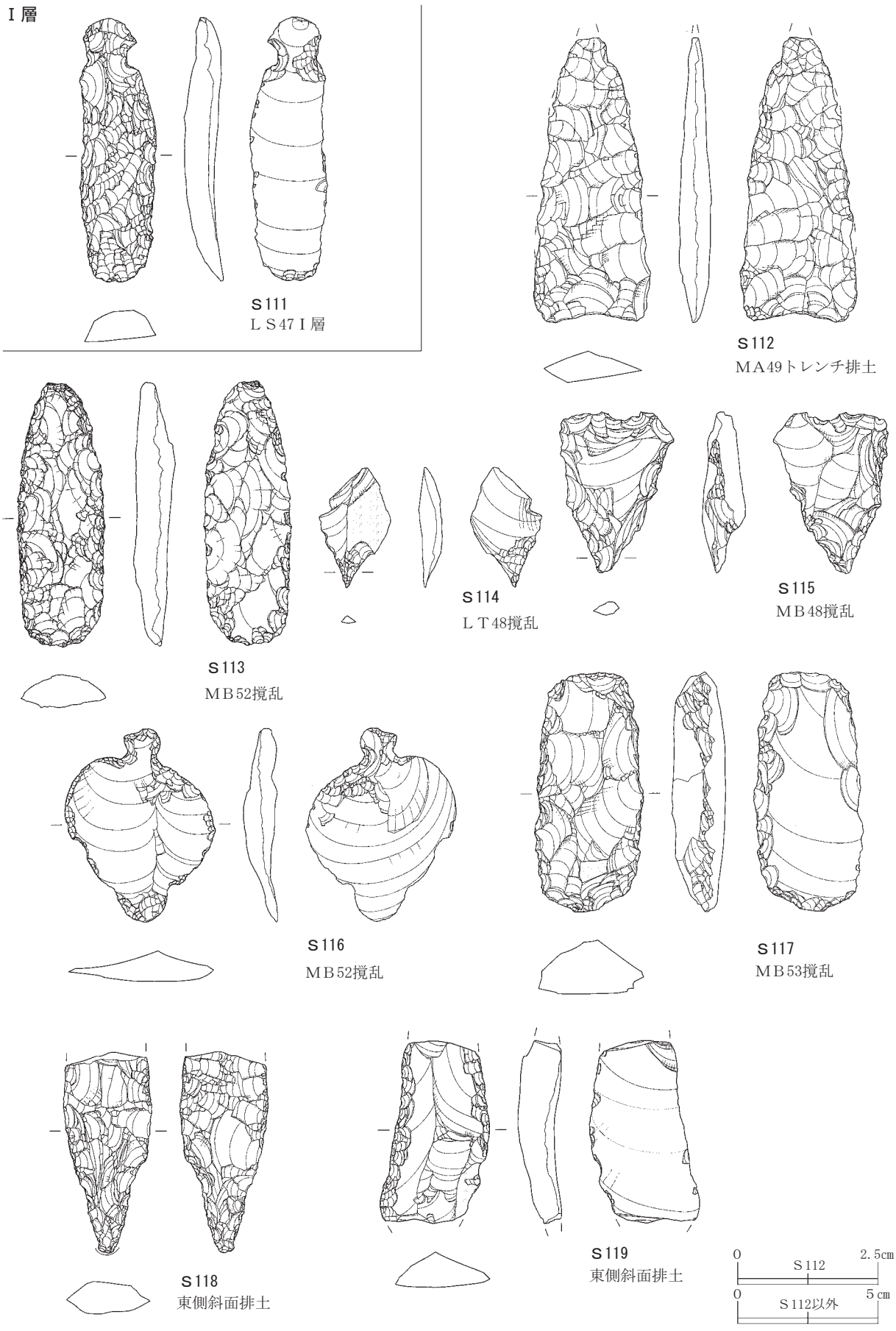

第69図　捨て場出土剥片石器(10)




第70図　捨て場出土剥片石器(11)

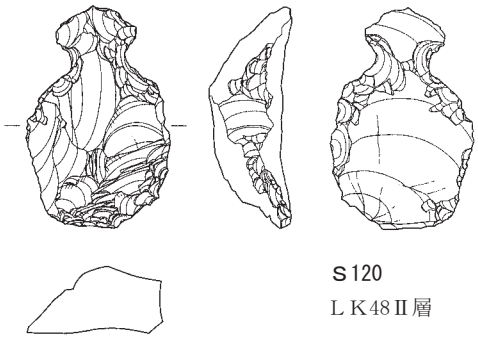



第71図　捨て場出土剥片石器(12)



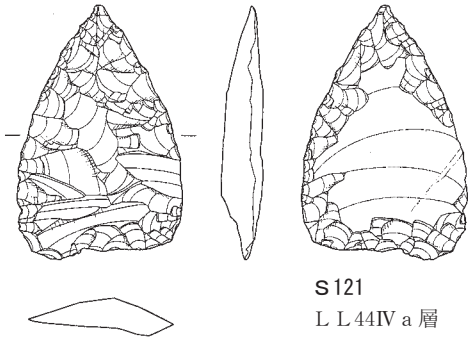

**第72図　Ａ区遺構外出土剥片石器**

Ｂ区Ⅱ層



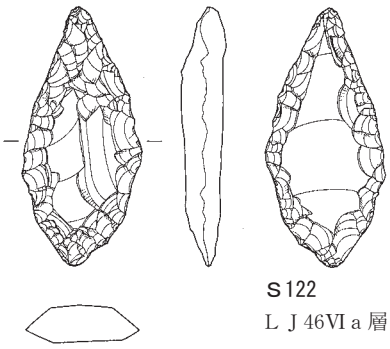
S120
ＬＫ48Ⅱ層

Ｂ区Ⅳａ層

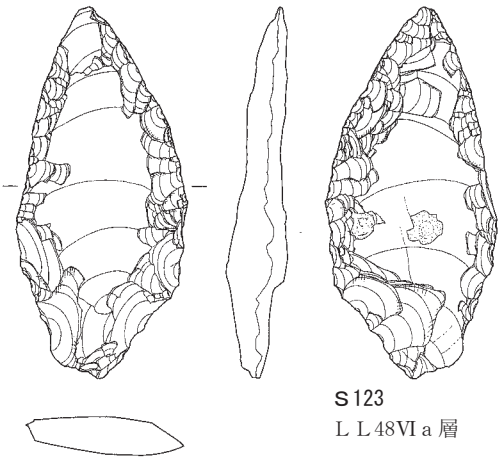


S121
ＬＬ44Ⅳａ層

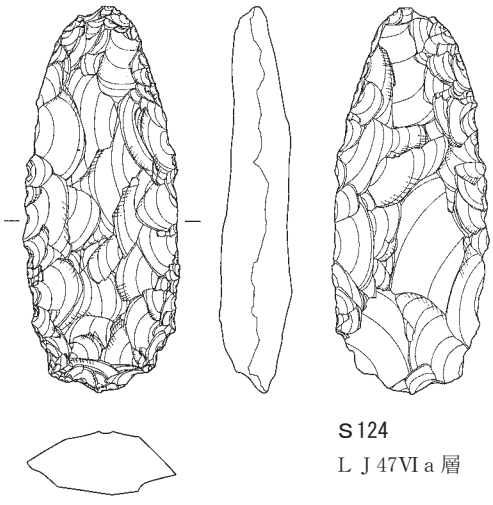
Ｂ区Ⅵａ層



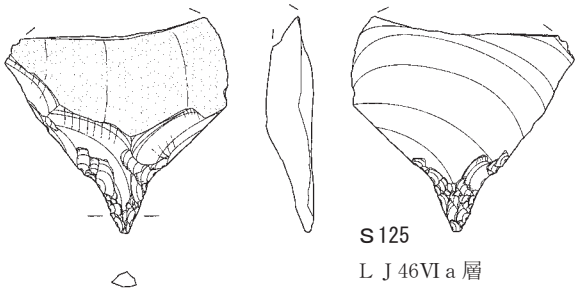
S122
ＬＪ46Ⅵａ層



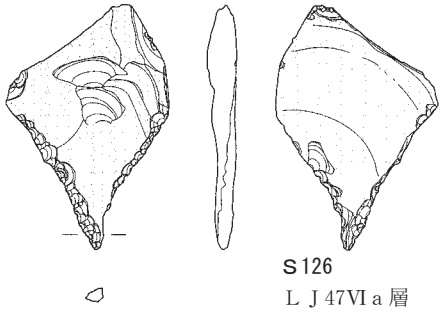
S123
ＬＬ48Ⅵａ層



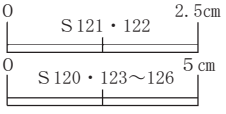
S124
ＬＪ47Ⅵａ層



S125
ＬＪ46Ⅵａ層

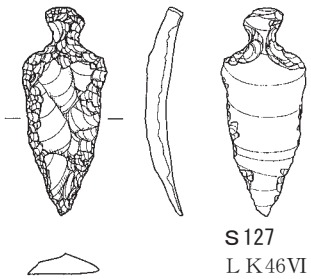


S126
ＬＪ47Ⅵａ層

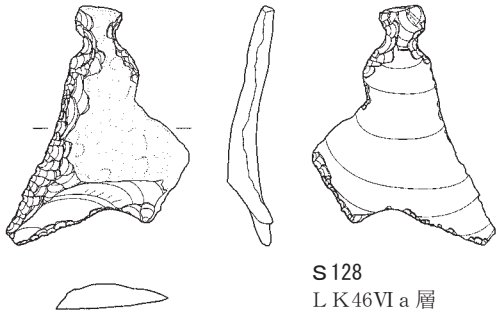



第73図　Ｂ区遺構外出土剥片石器（１）

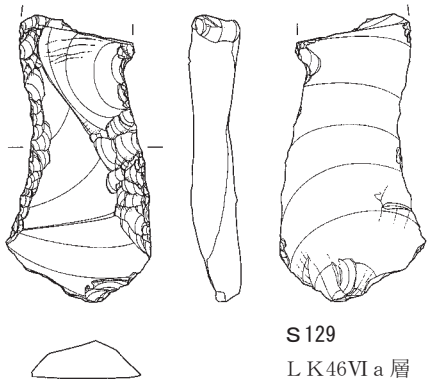
Ｂ区Ⅵａ層



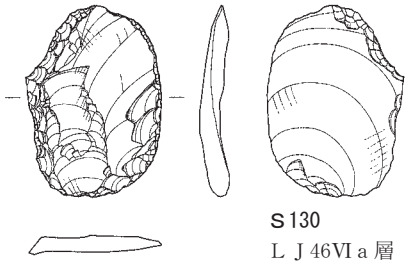
Ｓ127
ＬＫ46Ⅵａ層



Ｓ128
ＬＫ46Ⅵａ層

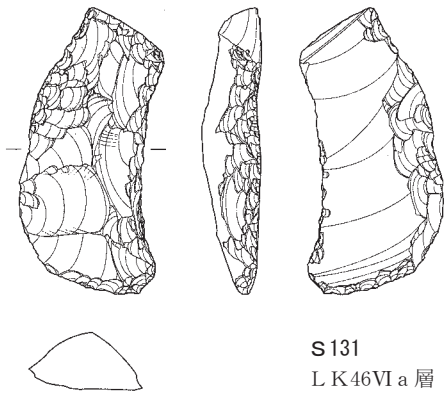


Ｓ129
ＬＫ46Ⅵａ層

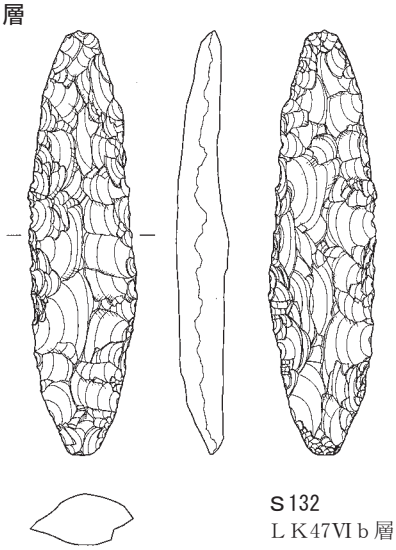


Ｓ130
ＬＪ46Ⅵａ層

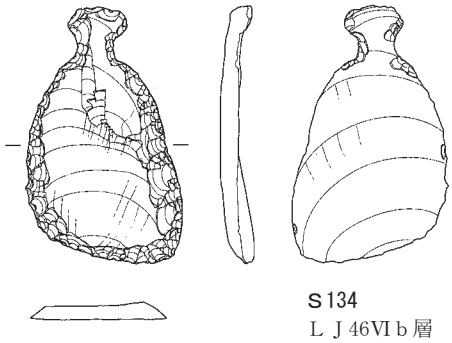
Ｂ区Ⅵｂ層



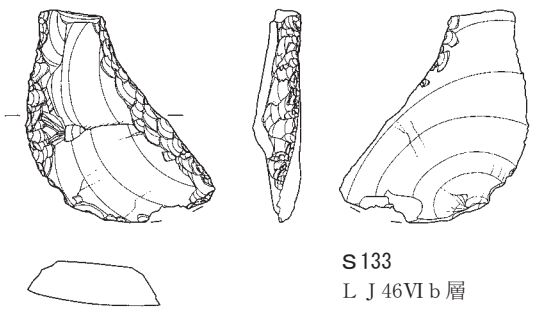
Ｓ131
ＬＫ46Ⅵａ層



Ｓ132
ＬＫ47Ⅵｂ層

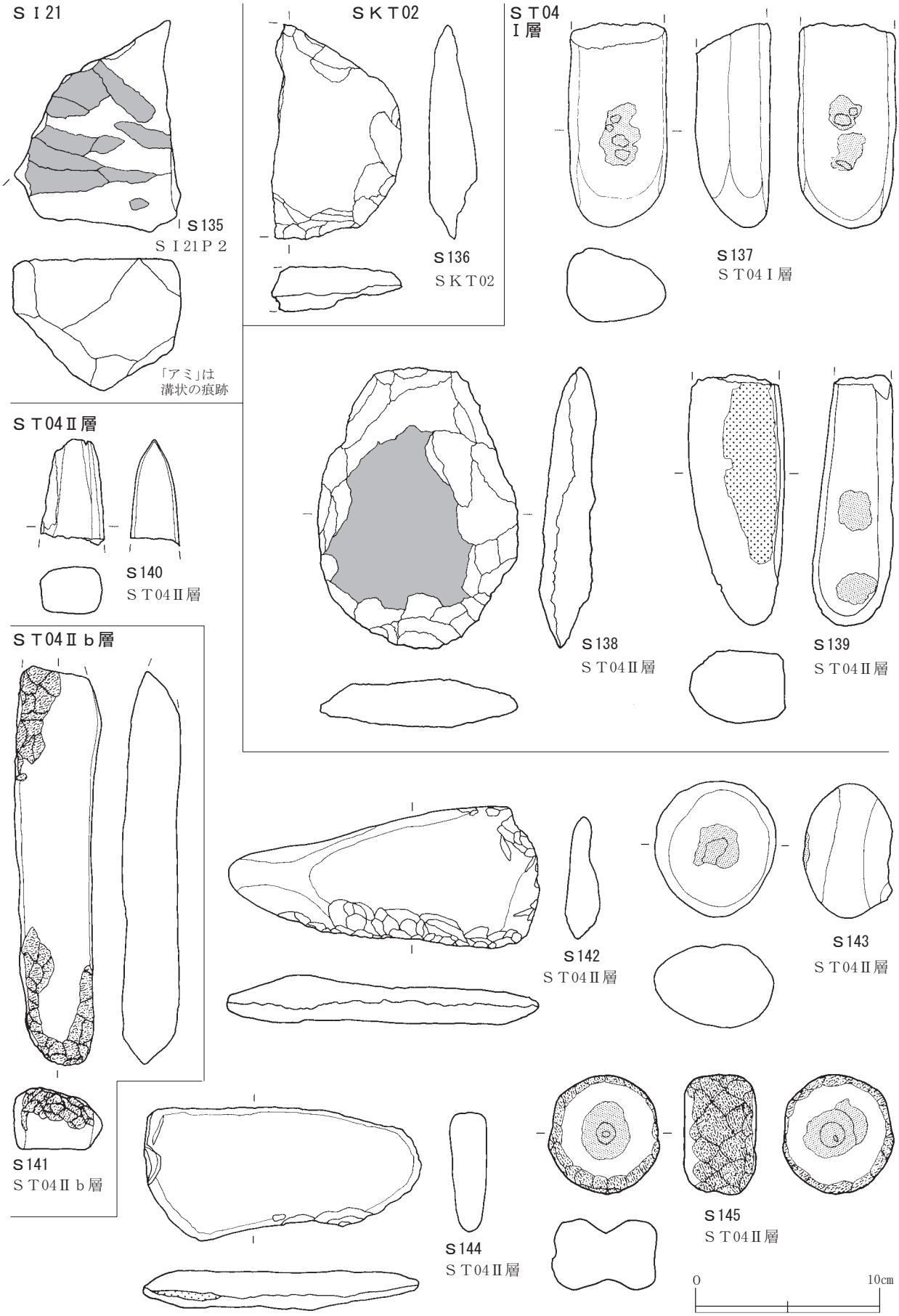


Ｓ134
ＬＪ46Ⅵｂ層



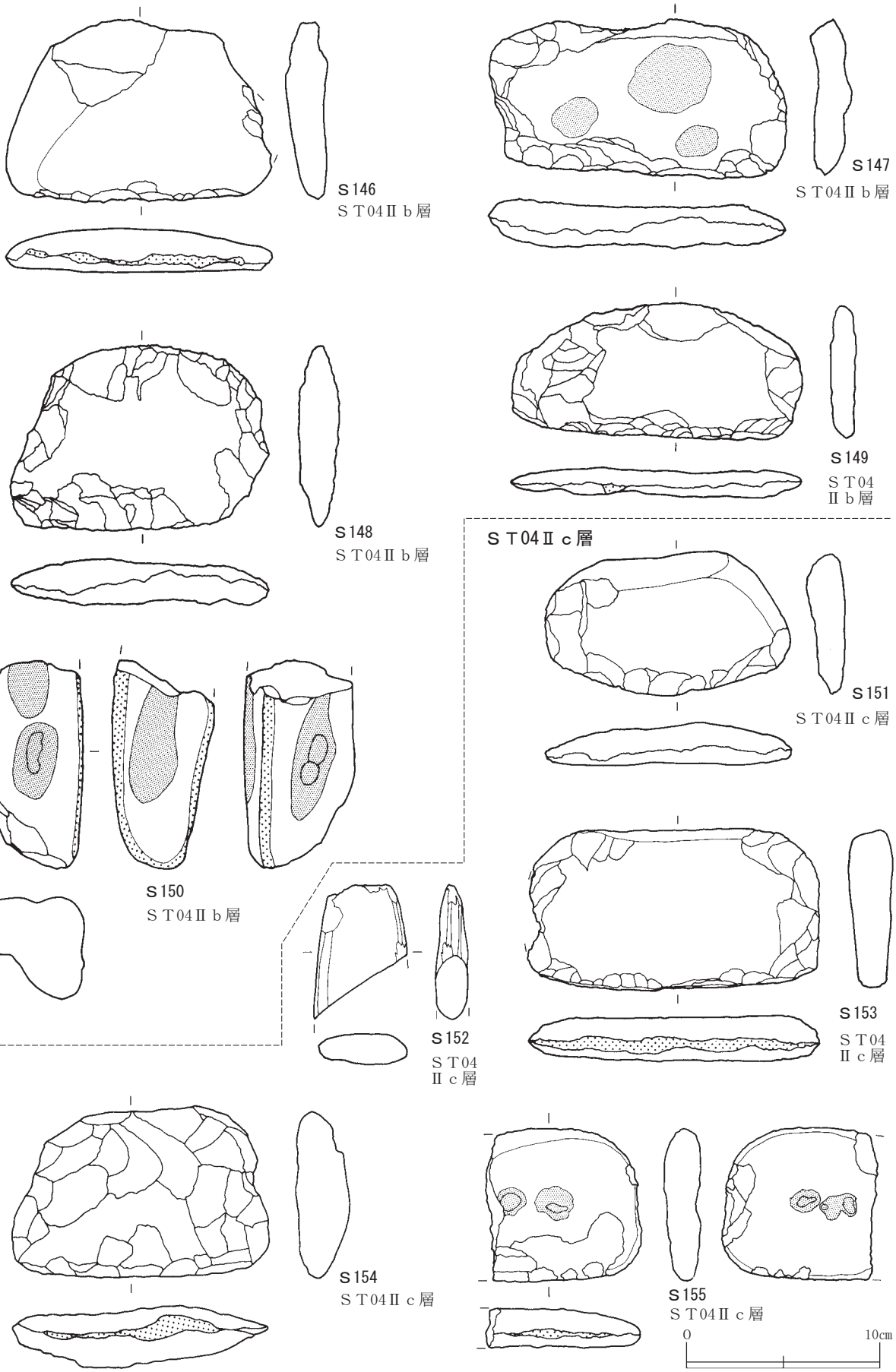
Ｓ133
ＬＪ46Ⅵｂ層

第74図　Ｂ区遺構外出土剥片石器（２）

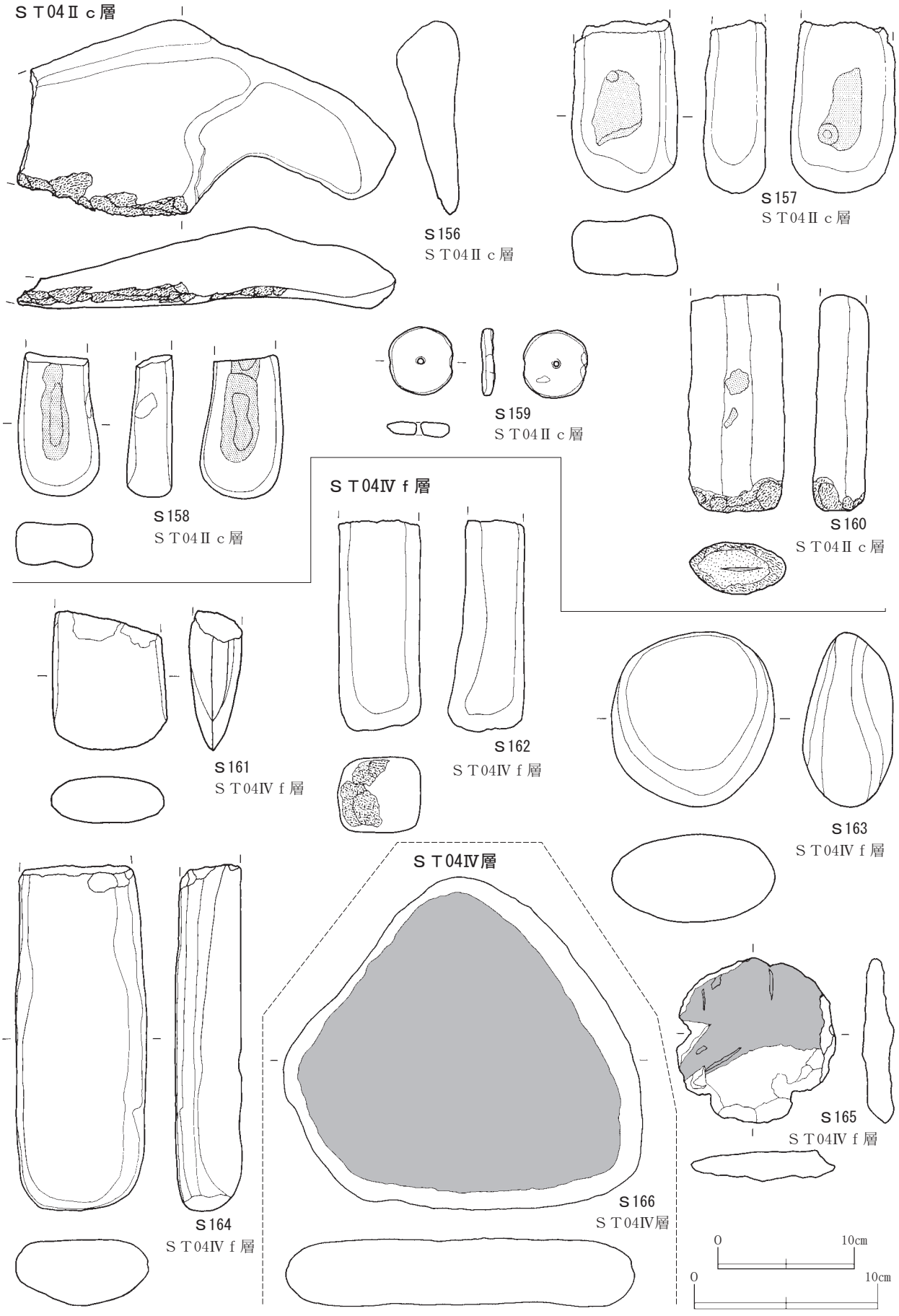



第75図　捨て場出土礫石器（１）

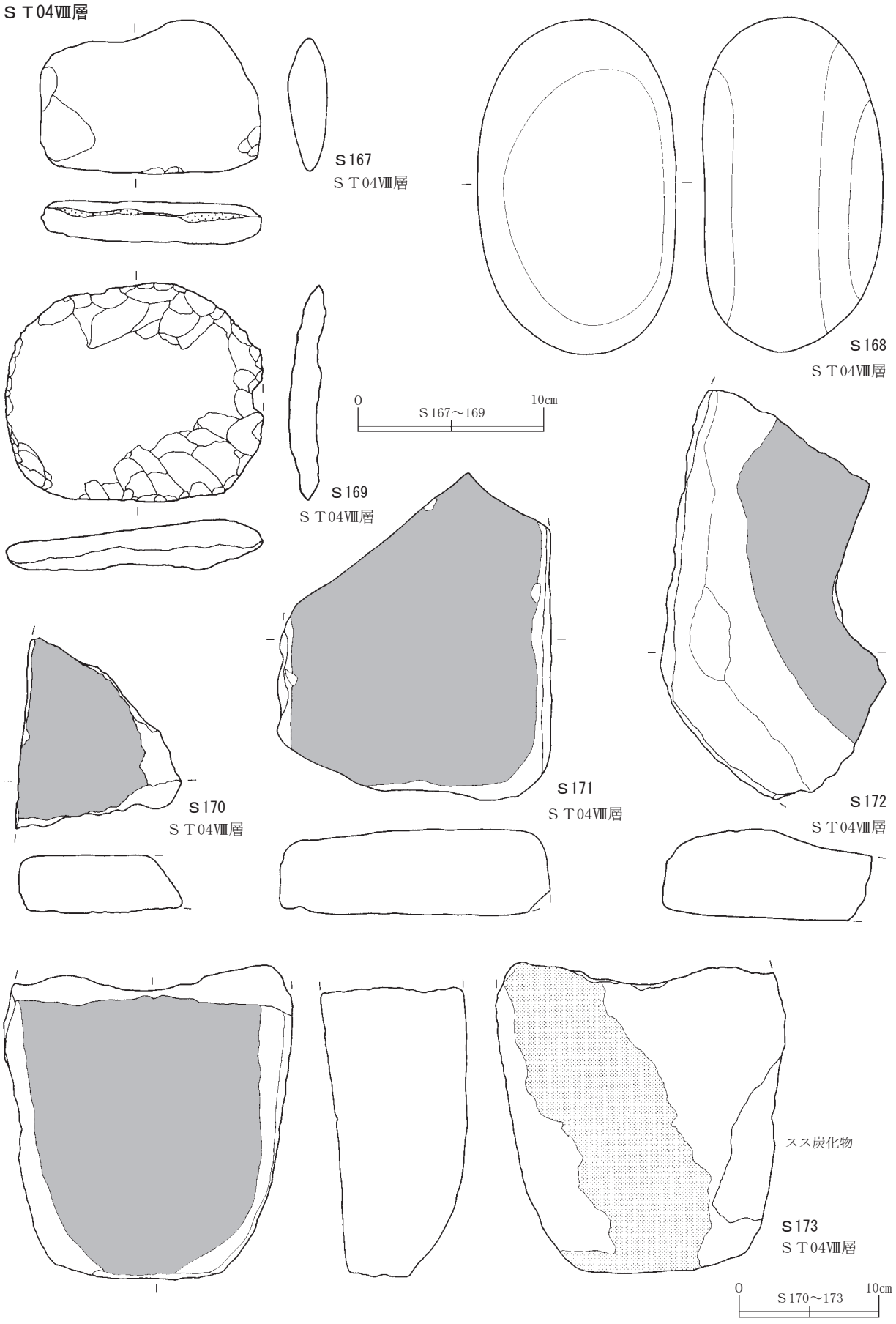
ＳＴ04Ⅱｂ層



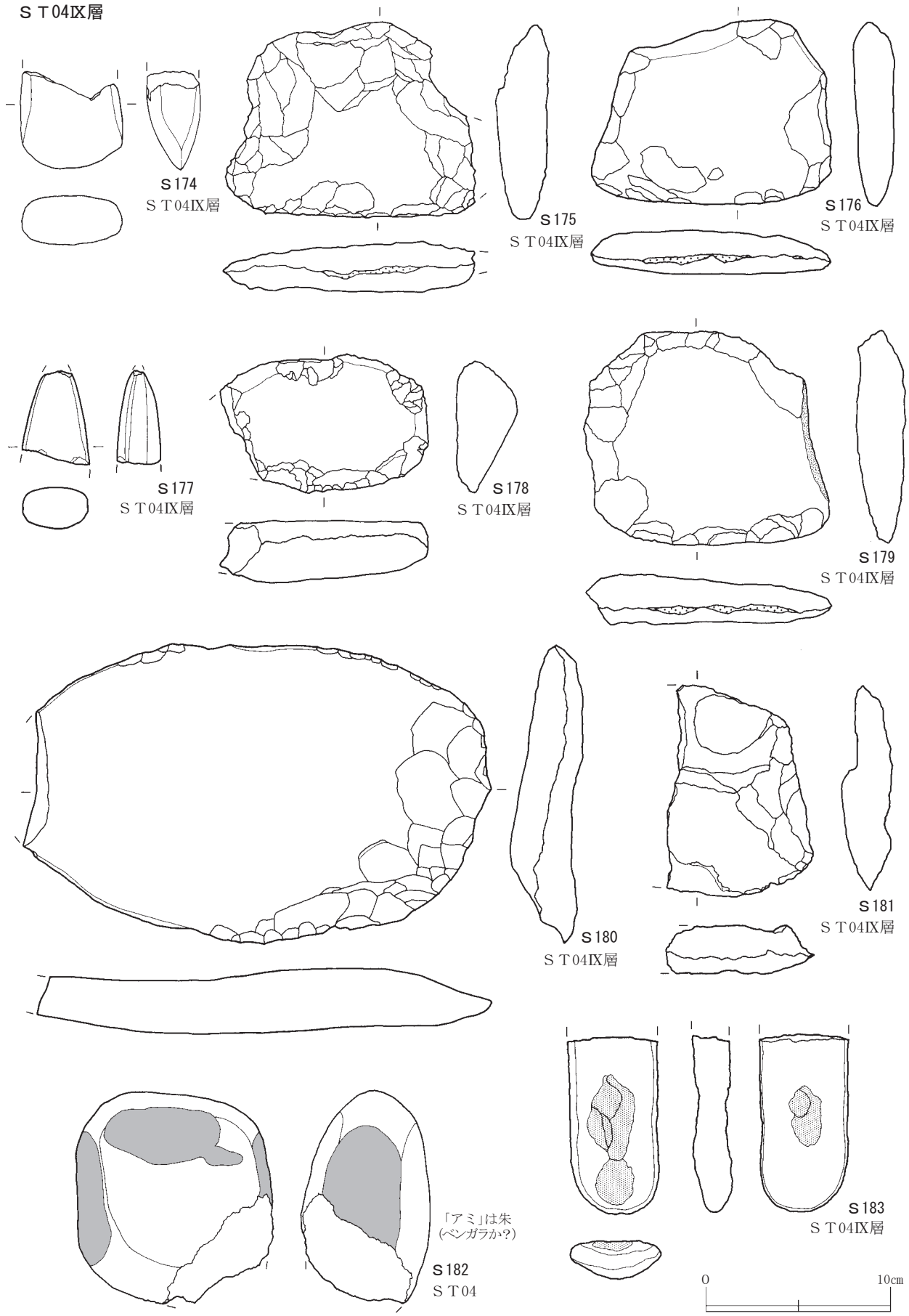

第76図　捨て場出土礫石器（２）



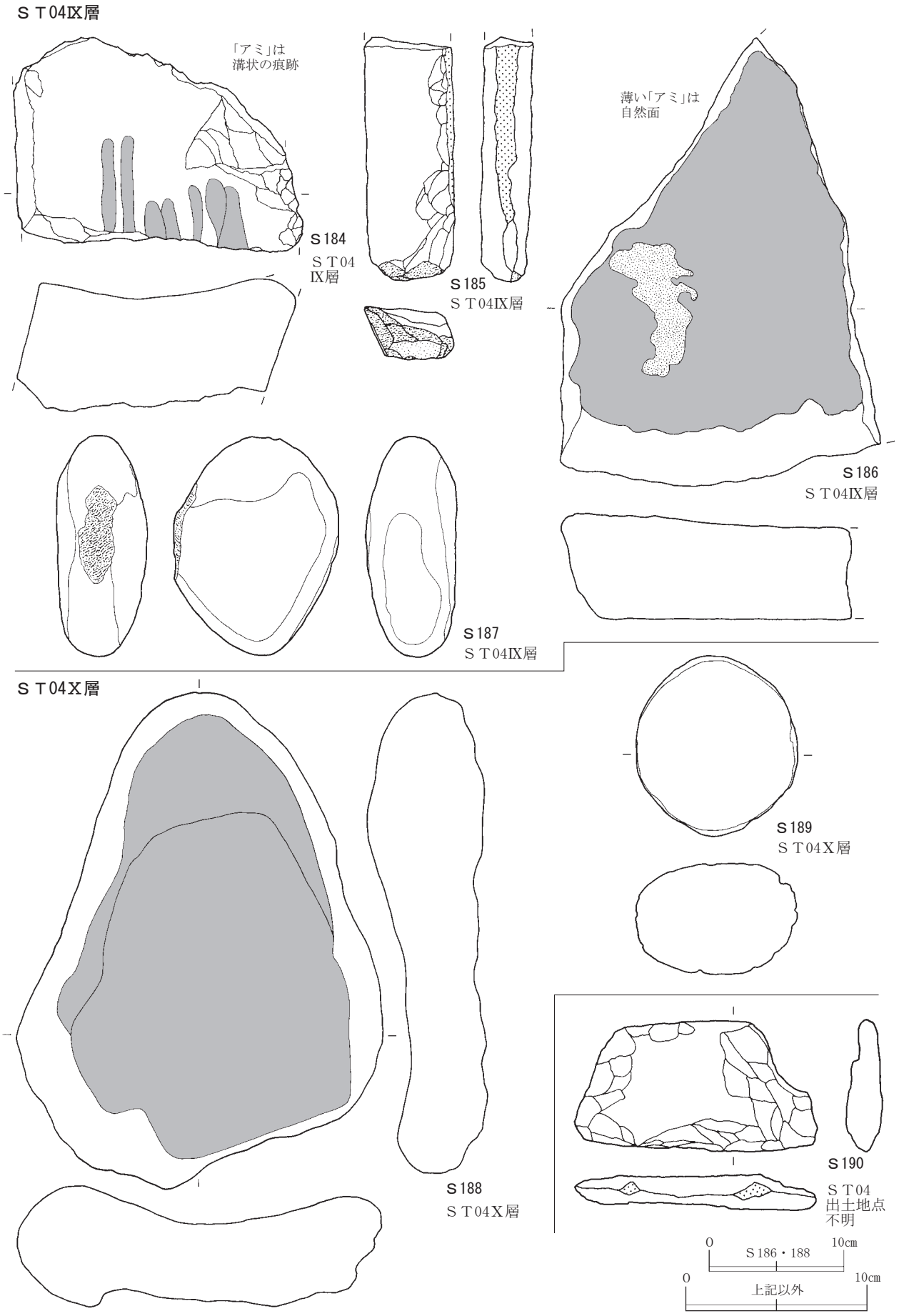

第77図　捨て場出土礫石器（３）



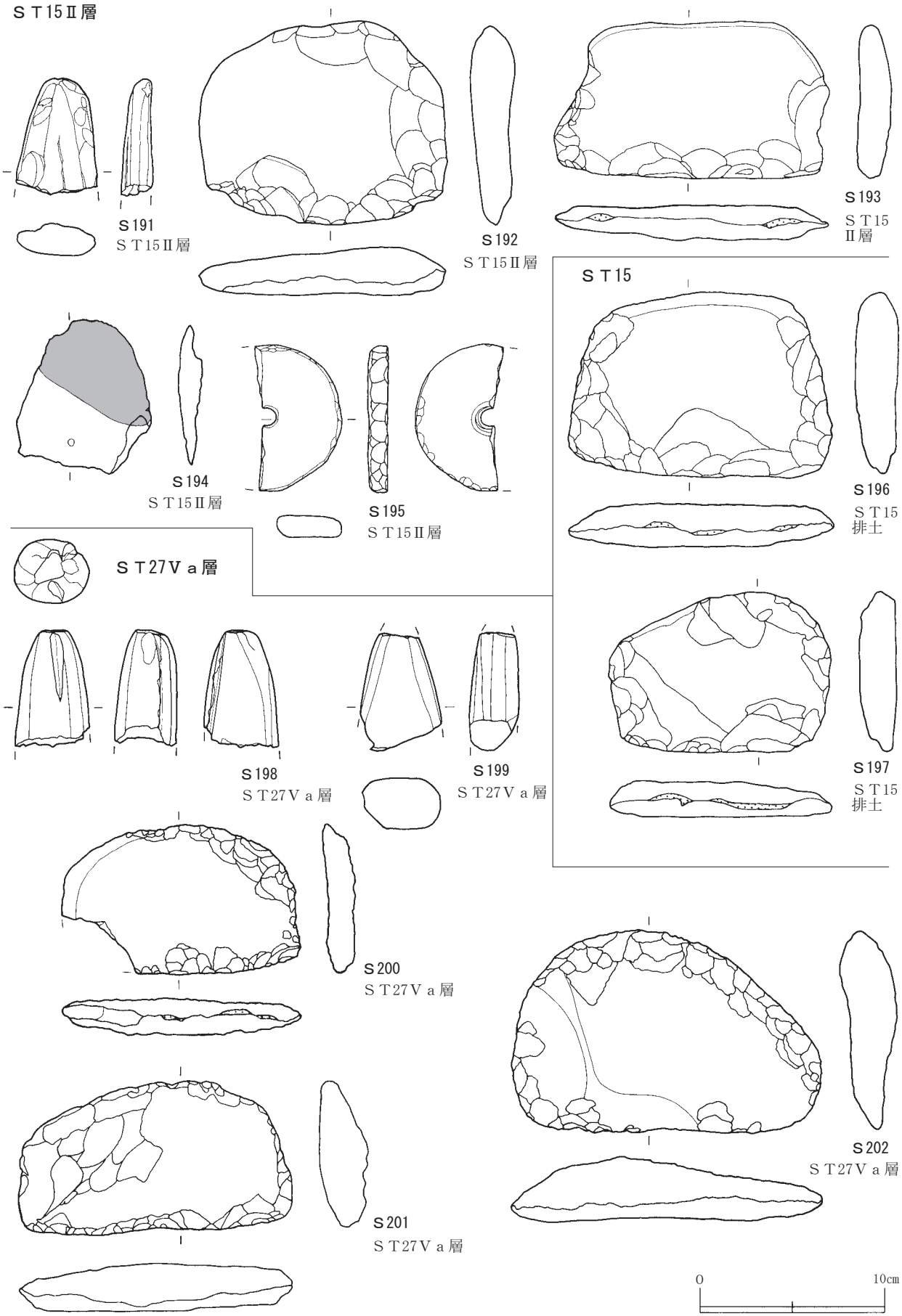

第78図　捨て場出土礫石器（４）



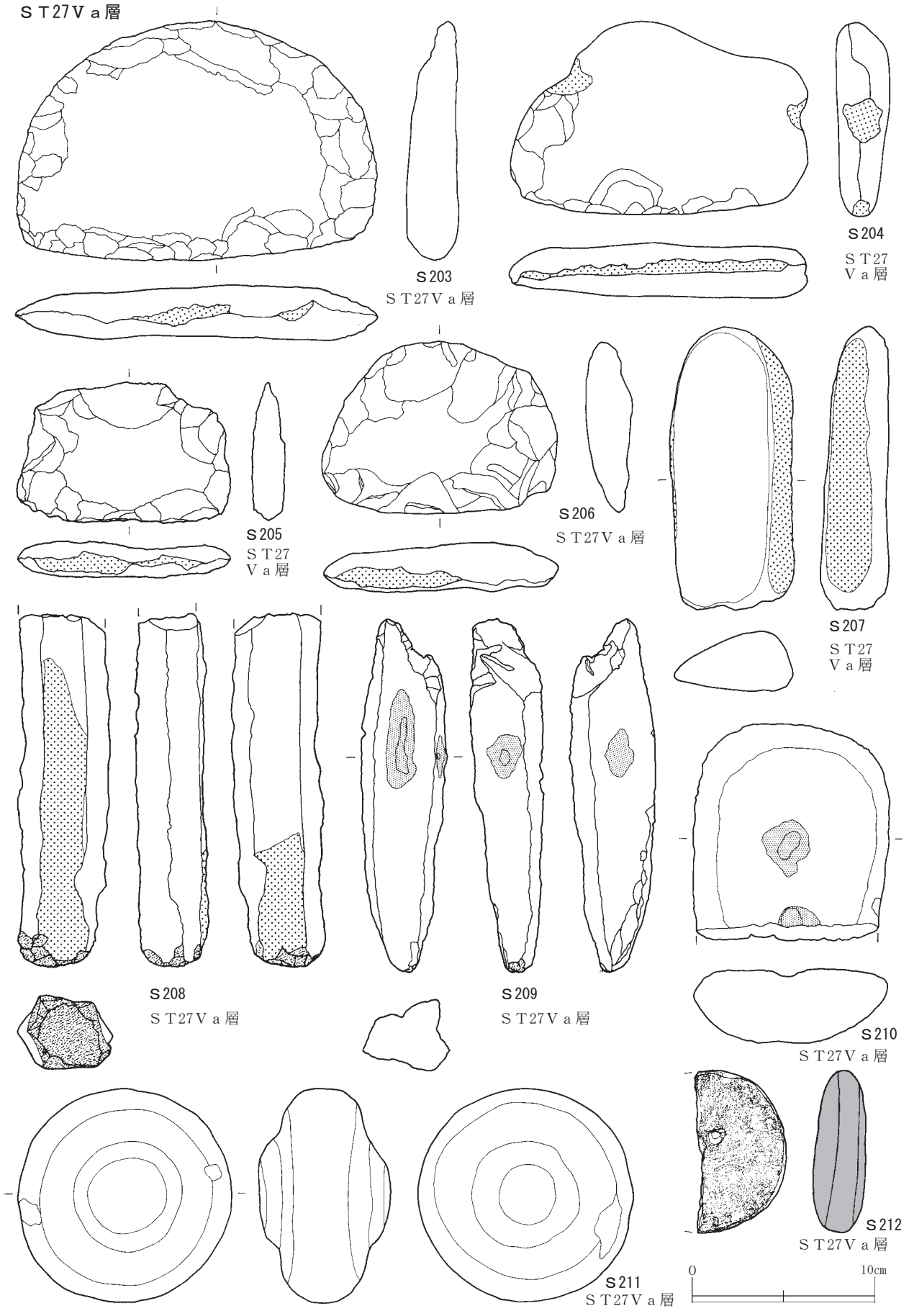

第79図　捨て場出土礫石器（５）



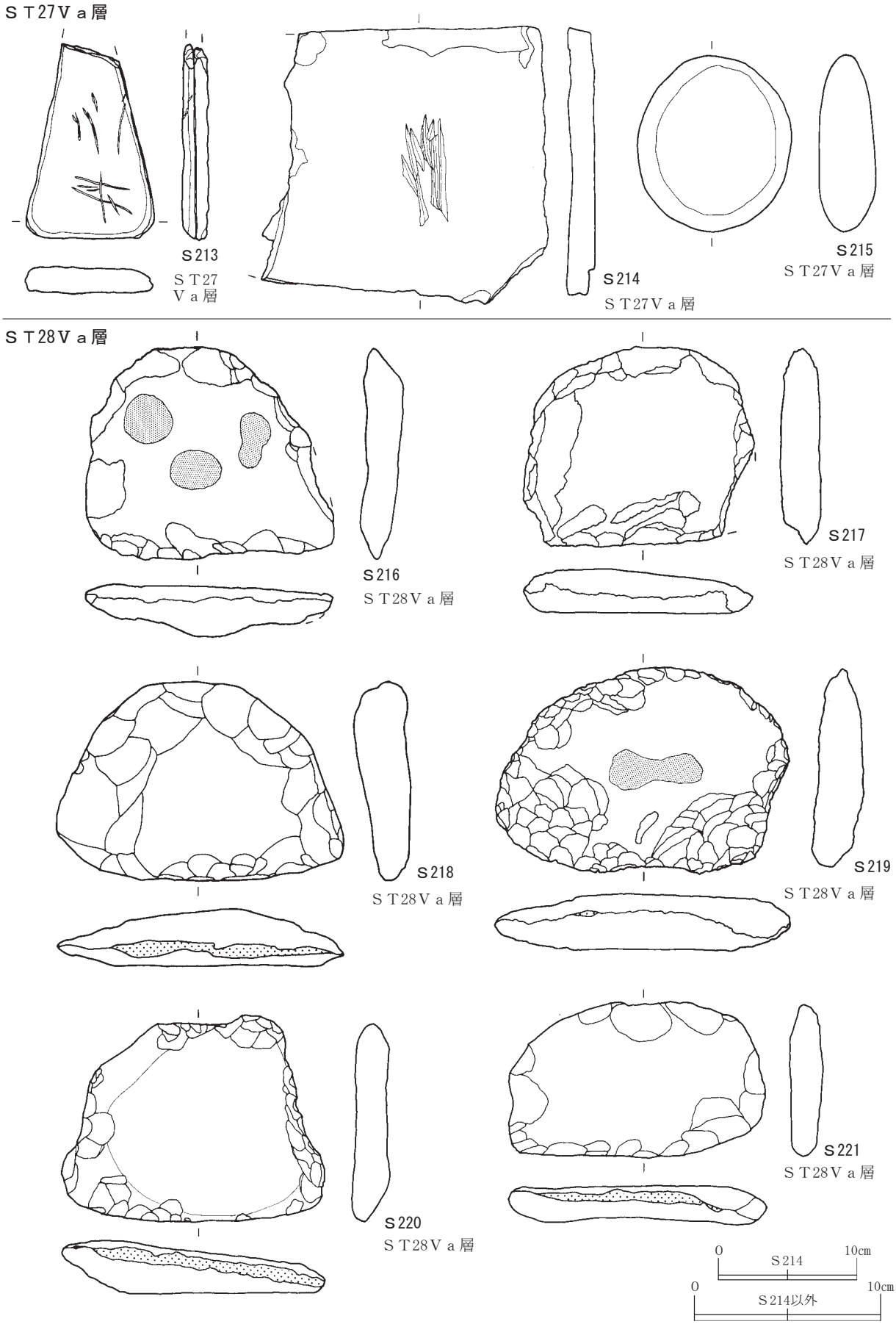

第80図　捨て場出土礫石器（６）



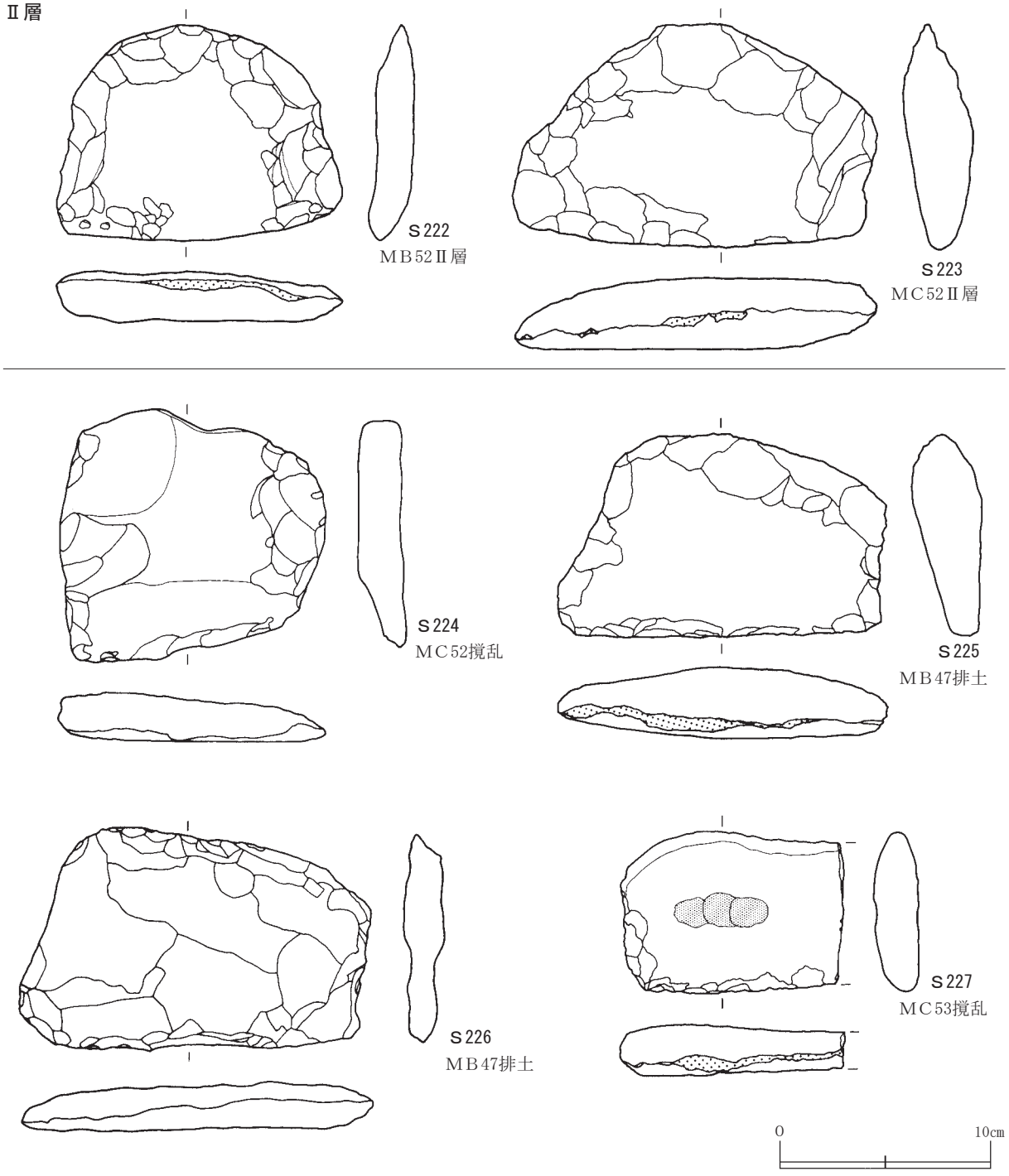

第81図　捨て場出土礫石器（７）



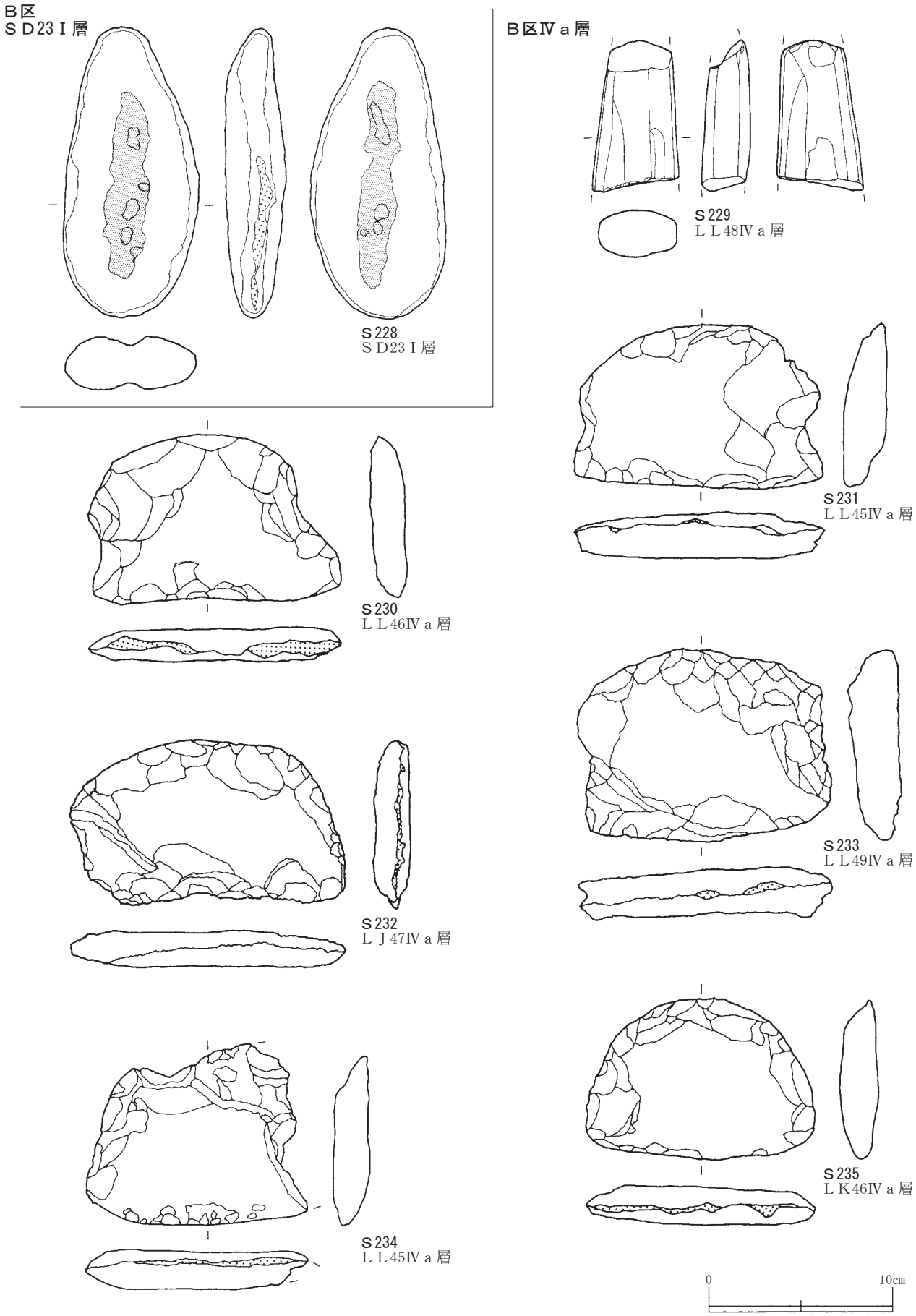

第82図　捨て場出土礫石器類（１）



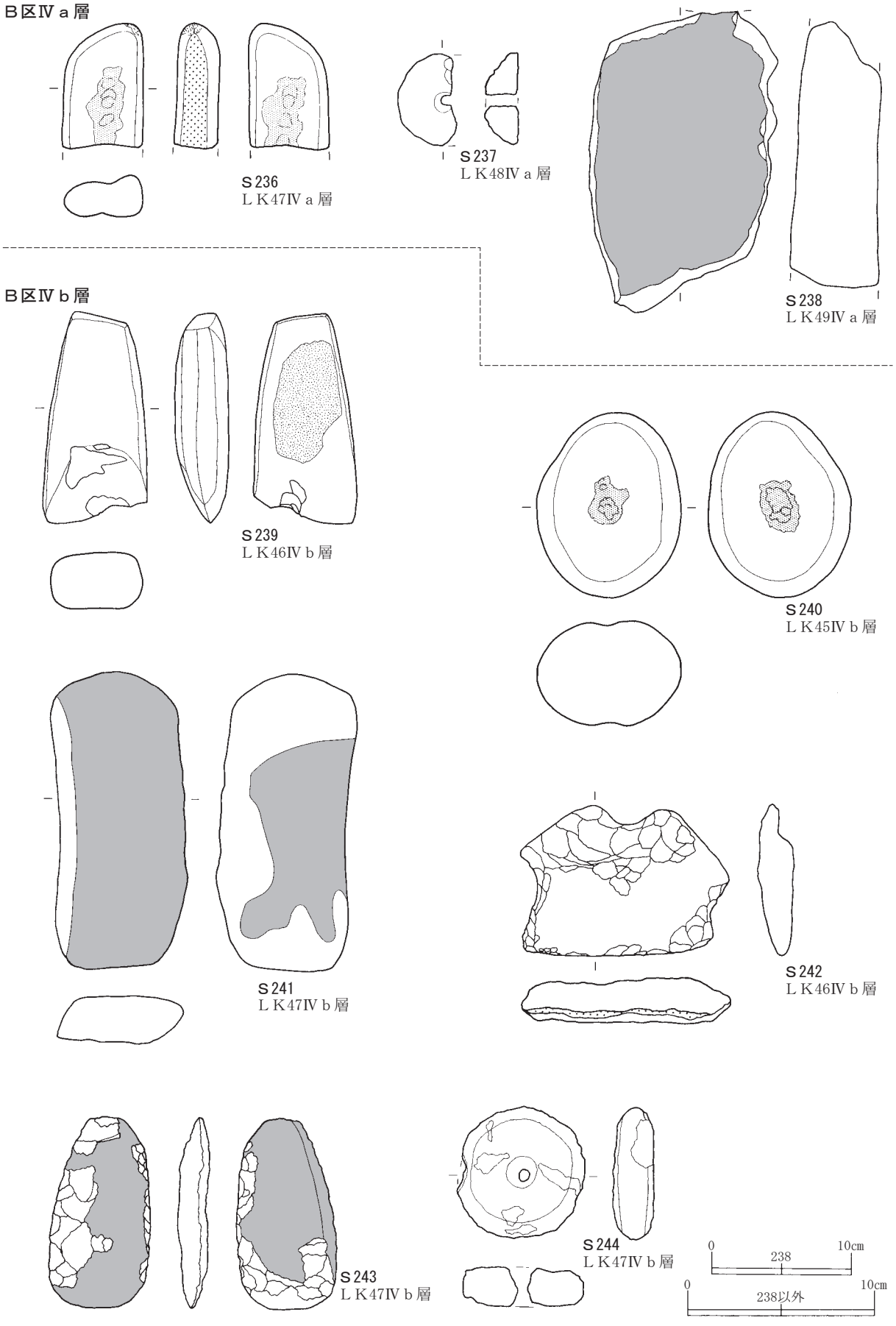

第83図　捨て場出土礫石器類（２）



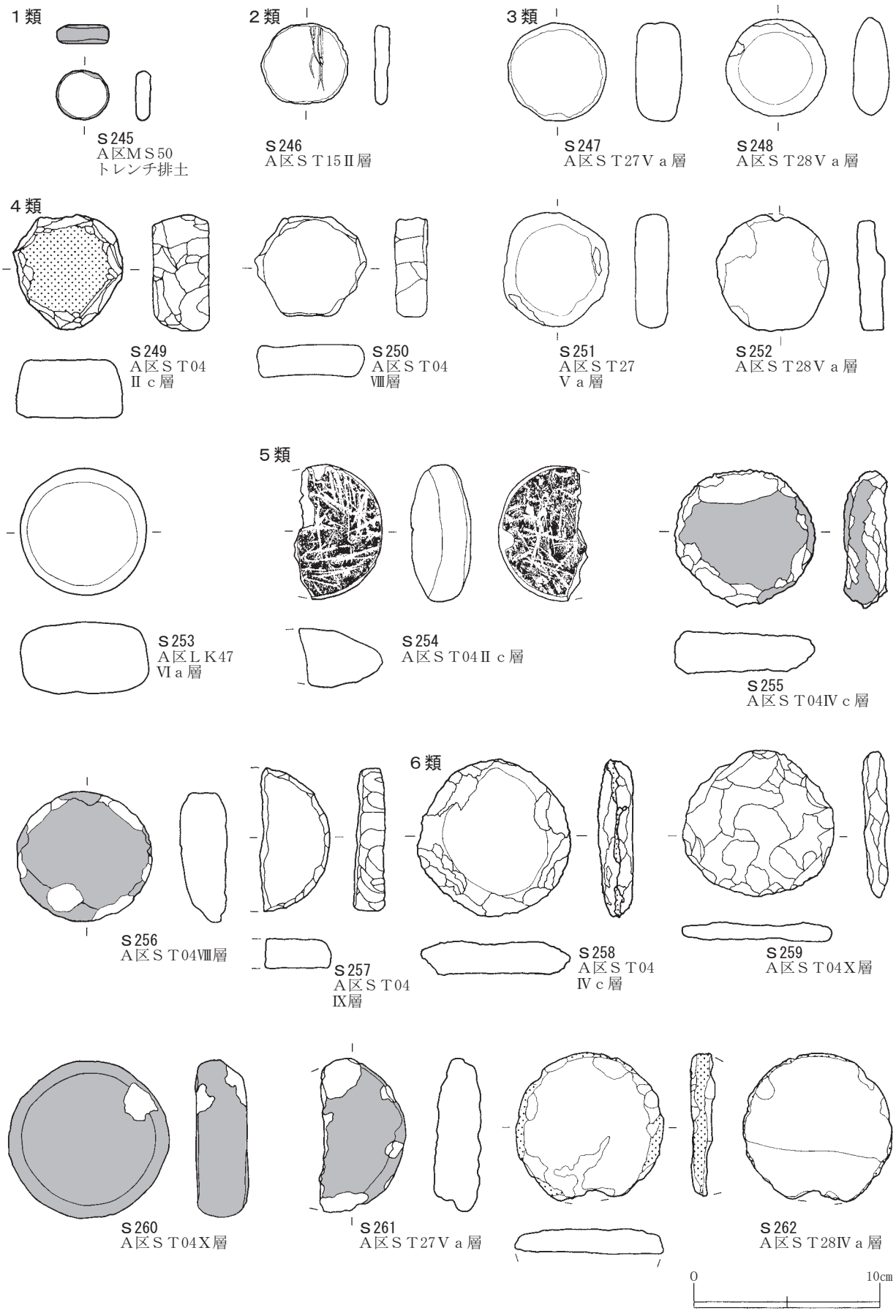

**第84図　Ａ区遺構外出土礫石器**



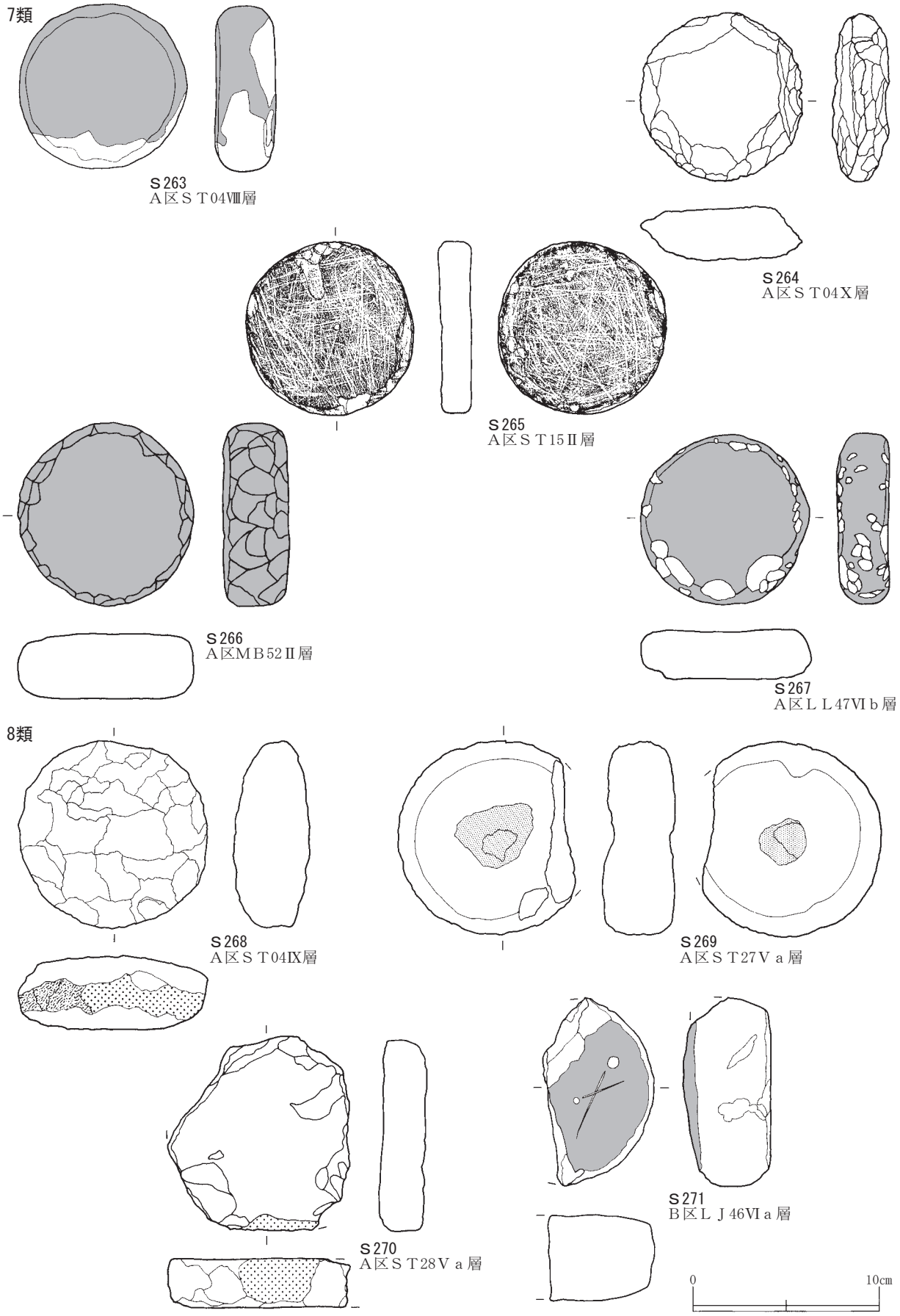

第85図　ＳＤ23溝跡、B区遺構外出土礫石器類（１）



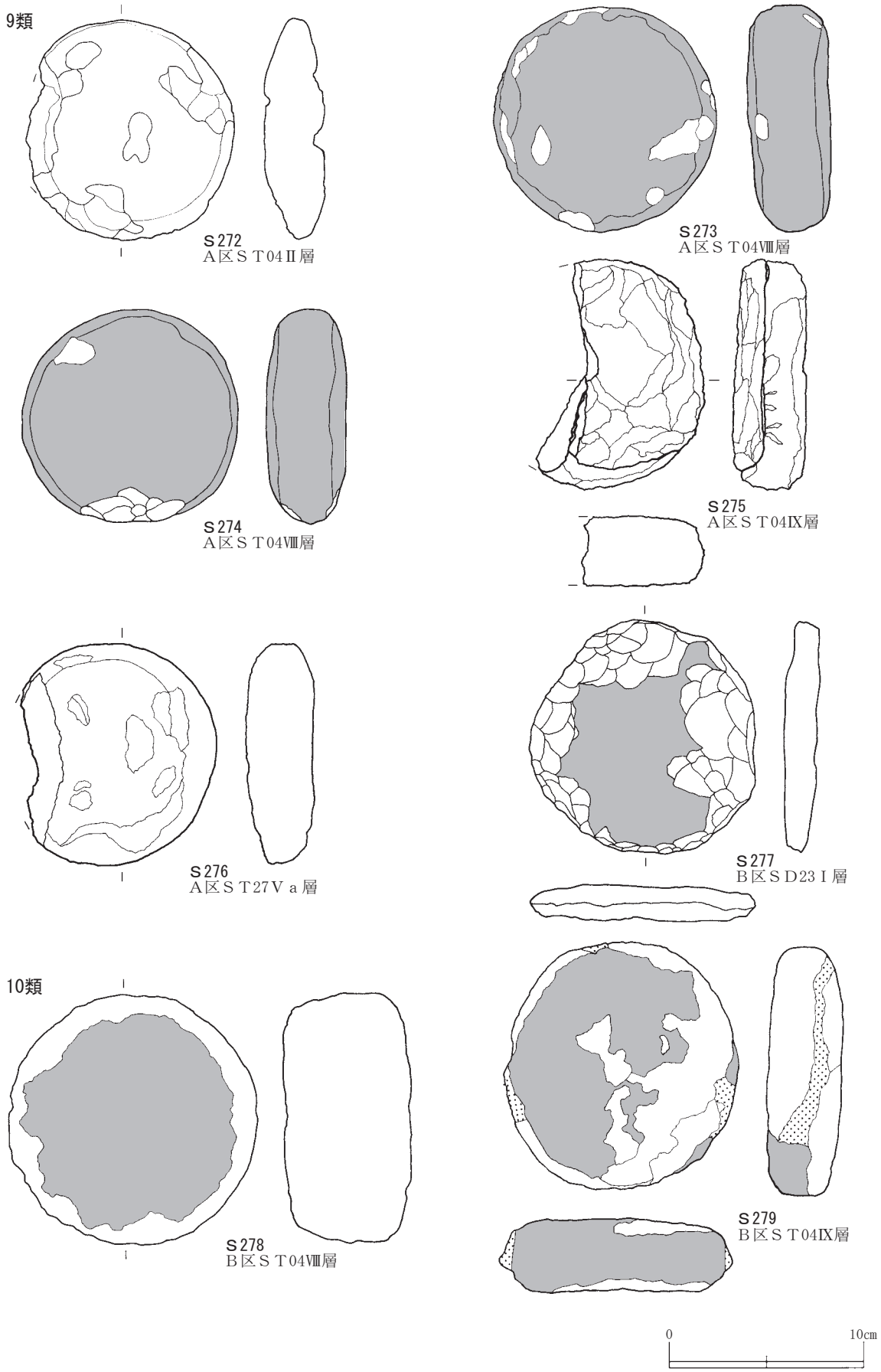

第86図　Ｂ区遺構外出土礫石器類（２）



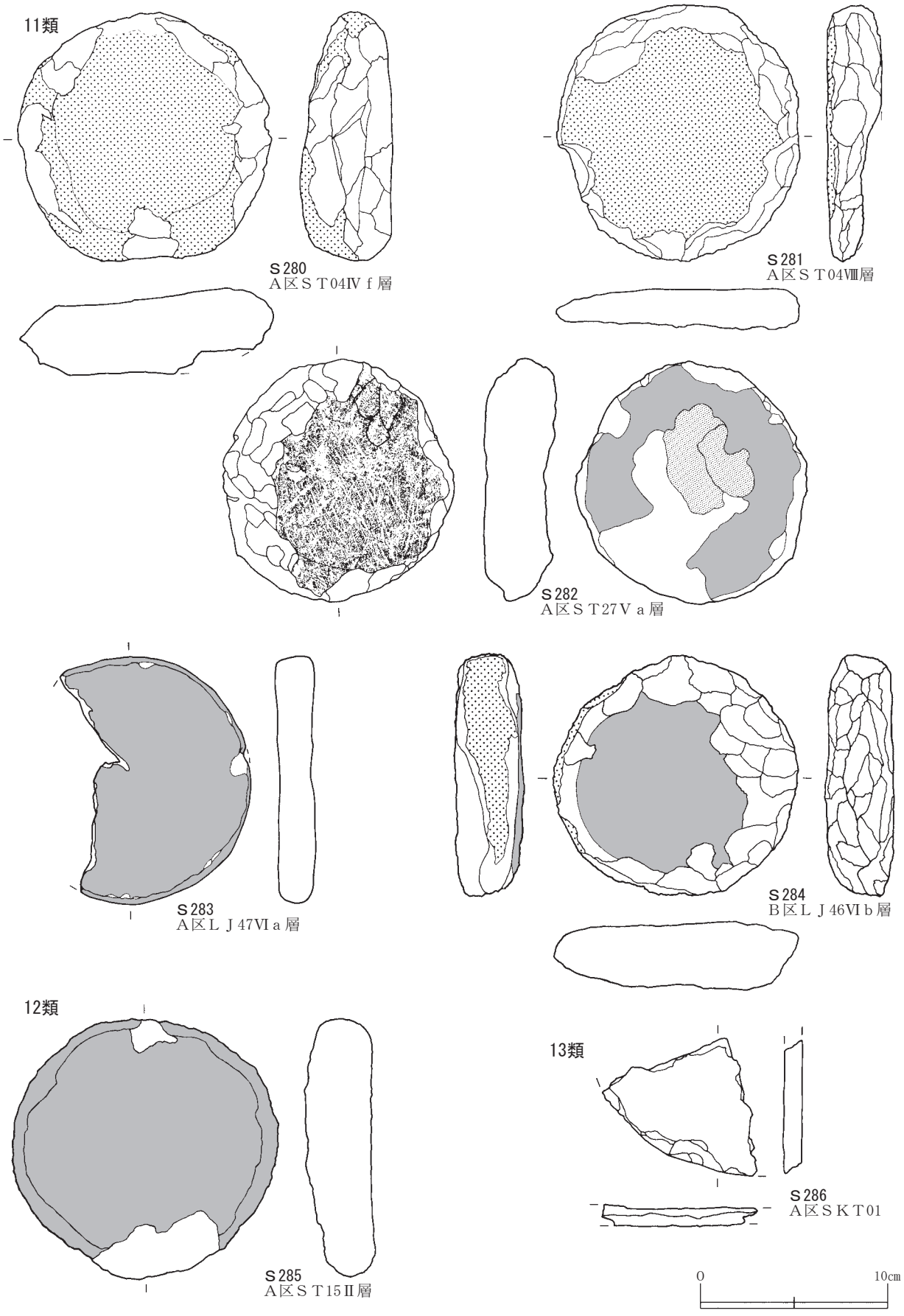

第87図　円盤状石製品（１）



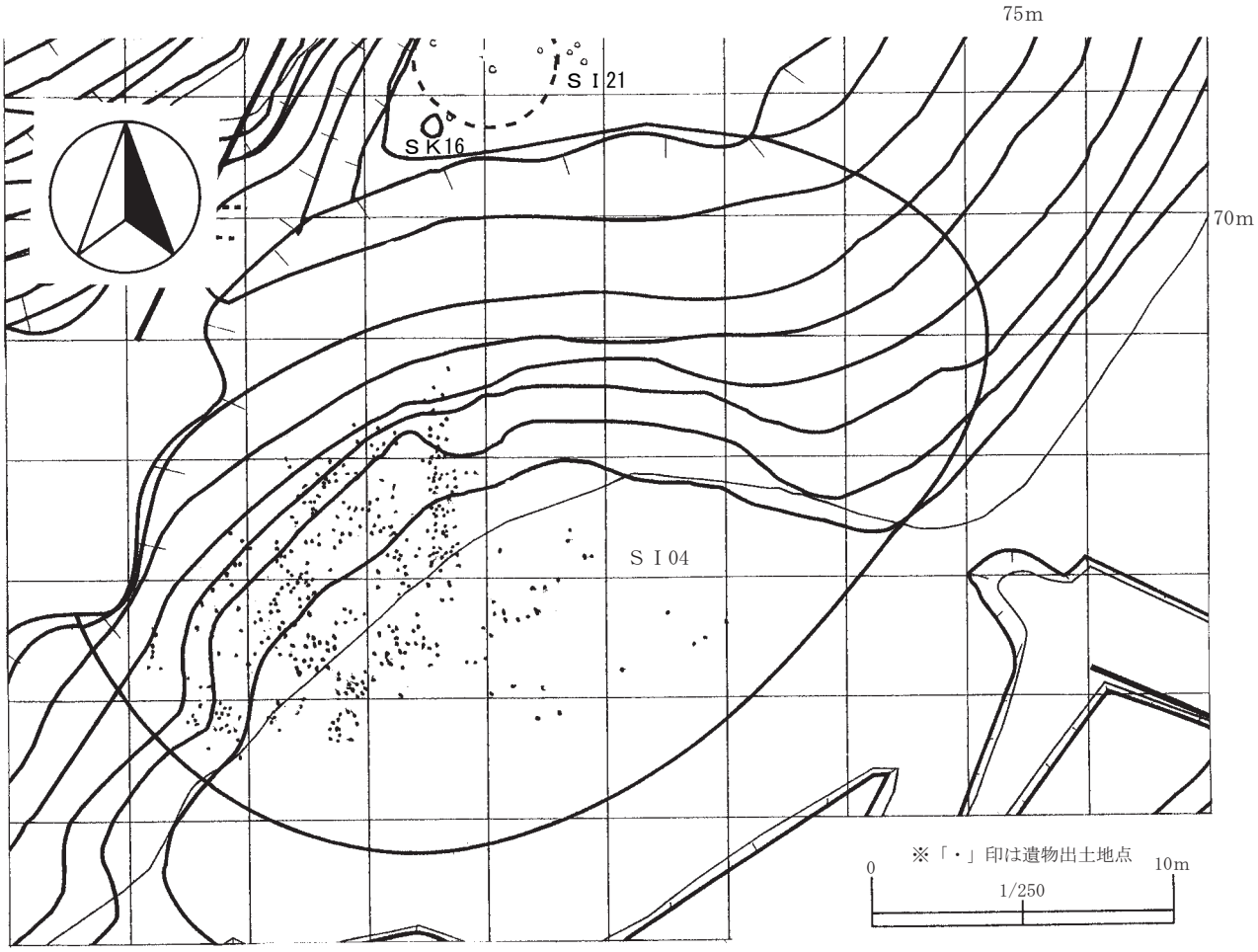

第88図　円盤状石製品（２）

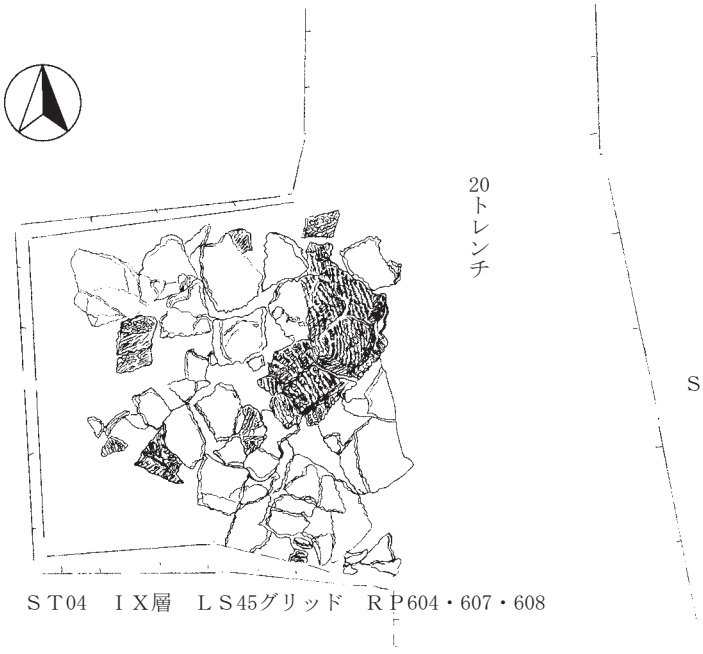



第89図　円盤状石製品（３）

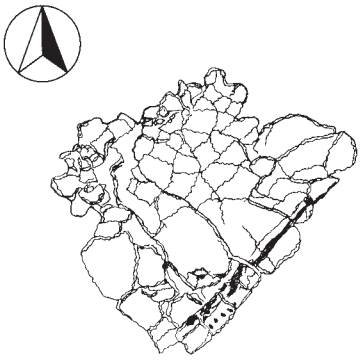



第90図　円盤状石製品（４）

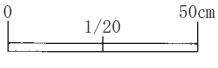


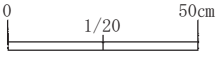




ＳＴ04　ＩＸ層　ＬＳ45グリッド　ＲＰ604・607・608



ＳＴ04　ＩＸ層　ＬＴ44グリッド　ＲＰ736

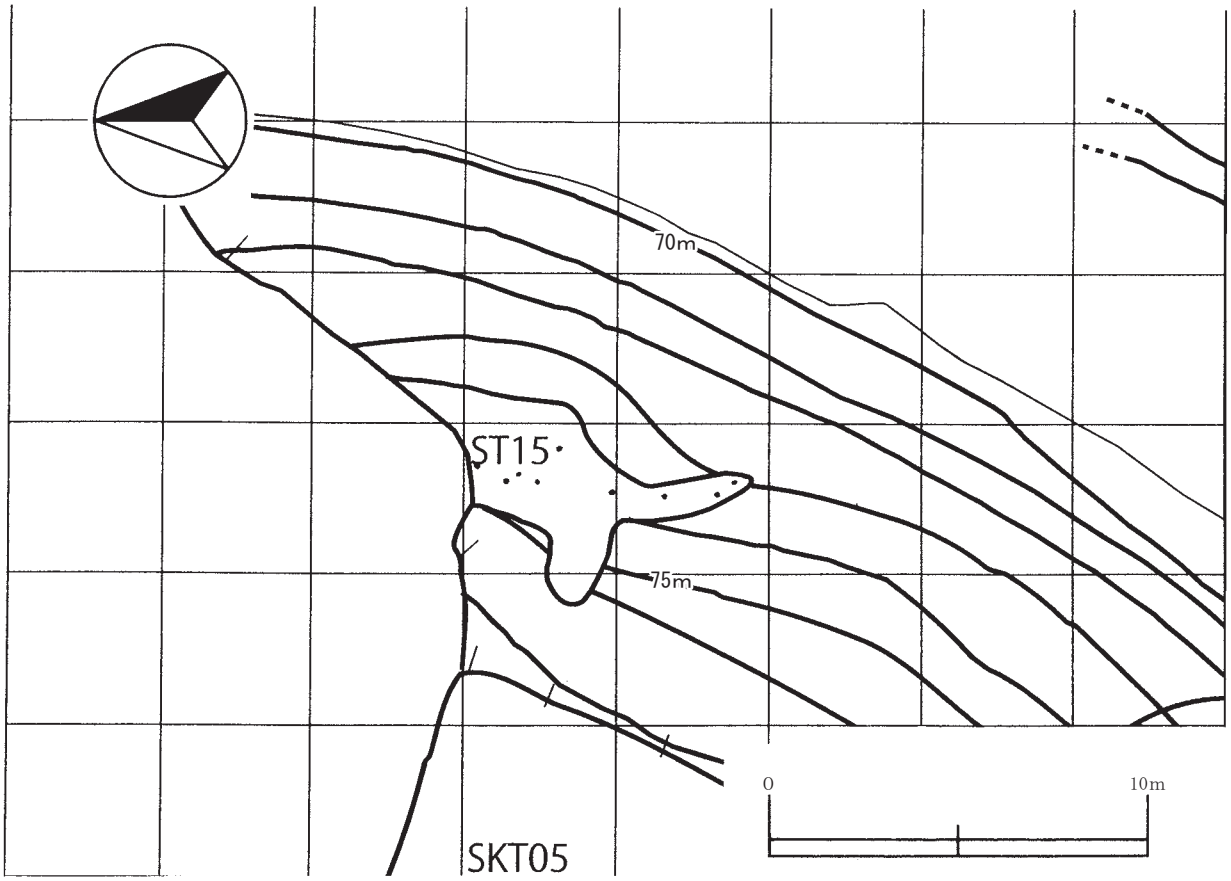


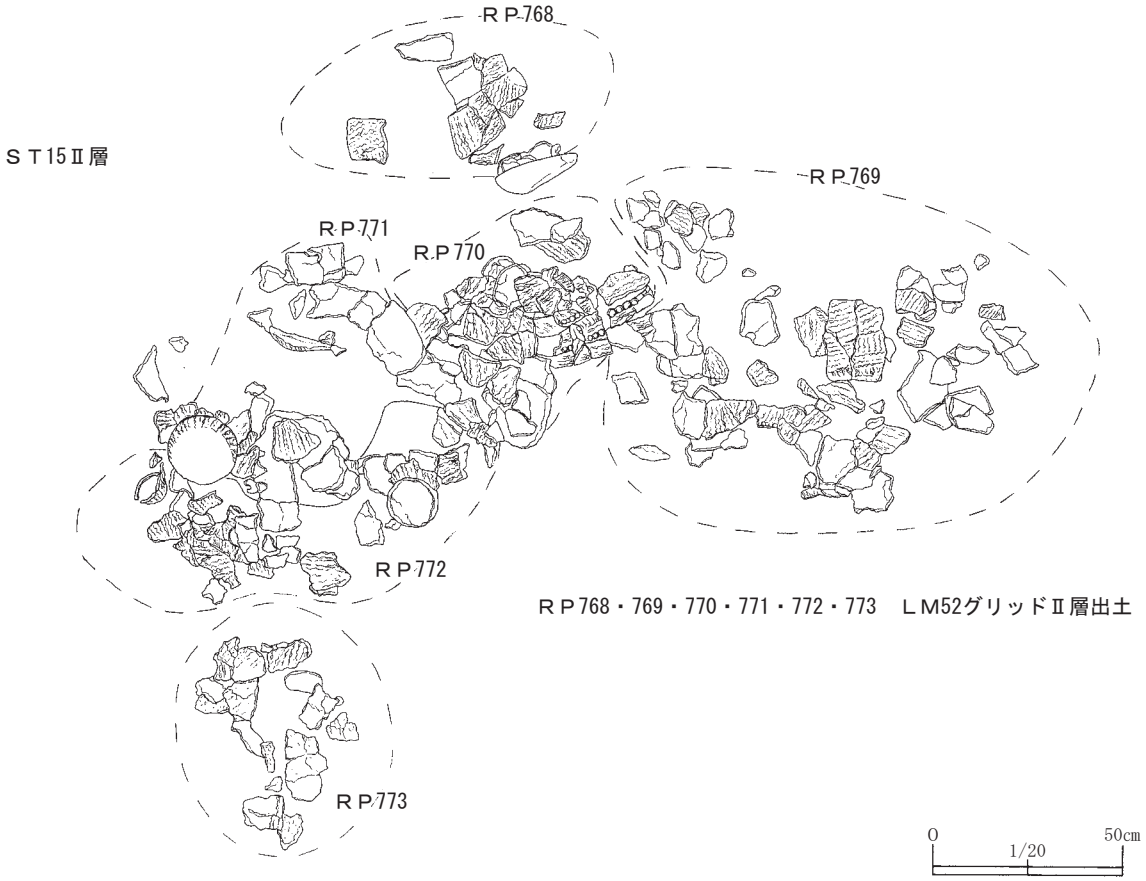




第91図　ＳＴ04捨て場範囲・遺物出土状況図

第92図　ＳＴ04捨て場出土遺物分布図（１）

第93図　ＳＴ04捨て場出土遺物分布図（２）




ＲＰ768・769・770・771・772・773　ＬＭ52グリッドⅡ層出土

第94図　ＳＴ15捨て場範囲・遺物出土状況図

# 第３表　土器観察表（１）

| 挿図番号 | 区名 | 遺構・グリッド名 | 出土層位 | 接合破片 | 分類 | 口径 | 胴径 | 底径 | 器高 | 施文・胎土・焼成・色調など |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第17図1 | A区 | ＳＩ03　ＳＫＰ１ | | | B（底部） | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体ＬＲの斜位回転)、底部は撚糸文、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第17図2 | A区 | ＳＩ03 | | | C | | | | | 文様は地文が斜行縄文(原体ＬＲの横位回転)、口縁部は綾繰文、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調は灰黄褐、内面調整はナデ。 |
| 第17図3 | A区 | ＳＩ03 | | | D | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口縁部は綾繰文、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第17図4 | A区 | ＳＩ03 | | | G | | | | | 文様は地文が斜行縄文(原体Ｌ)口唇部に刺突、口縁部に圧痕、頸部は隆帯（１条）上に原体末端の圧痕、胎土はやや密(砂粒少ない、繊維多い)、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整は入念なミガキ。※スス付着 |
| 第17図5 | A区 | ＳＩ21 | 中位層 | ＳＩ21　Ｐ9 | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体ＲＬの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はミガキ。 |
| 第17図6 | A区 | ＳＫＦ14 | Ⅱ層 | | | | | | | 文様は地文が斜行縄文(原体Ｒ)、胎土はやや密(砂粒少ない、繊維やや多い)、焼成はあまい、色調はにぶい黄橙、内面調整はミガキ。 |
| 第17図7 | A区 | ＳＫＦ14 | Ⅳ層 | | | | | | | 文様は地文が斜行縄文(原体Ｌの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第17図8 | A区 | ＳＫＴ01　ＲＰ32 | | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調は橙、内面調整はミガキ。 |
| 第17図9 | A区 | ＳＫＴ01　ＲＰ3 | | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体ＬＲの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調は橙、内面調整はナデ。 |
| 第17図10 | A区 | ＳＫＴ02 ＲＰ50 | | | H | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体ＲＬの斜位回転)、口縁部は絡条体圧痕文(2条)その間に綾繰文、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はミガキ。 |
| 第17図11 | A区 | ＳＫＴ02 | | | | | | | | 文様は地文が半截竹管文、胎土は粗い(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成はあまい、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第17図12 | A区 | ＳＫＴ02 | | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調は橙、内面調整はミガキ。※スス付着 |
| 第17図13 | A区 | ＳＫＴ02 | | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調は灰黄褐、内面調整はミガキ。※スス付着 |
| 第17図14 | A区 | ＳＫＴ02 | | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒少ない、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はミガキ。 |
| 第17図15 | A区 | ＳＫＴ02 | | | H | | | | | 文様は口縁部が綾繰文、口唇部に圧痕、胎土はやや密(砂粒少ない、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はミガキ、圧痕。 |
| 第17図16 | A区 | ＳＫＴ02 | | | H | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口縁部に絡条体圧痕文（２条）、胎土は粗い(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。 |
| 第17図17 | A区 | ＳＫＴ05　ＲＰ10 | | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。 |
| 第17図18 | A区 | ＳＫＴ05　覆土 | | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はミガキ。 |
| 第17図19 | A区 | ＳＫ16 | Ⅰ層 | | H | | | | | 文様は口縁部に圧痕、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第17図20 | A区 | ＳＫ16 | Ⅰ層 | | | | | | | 不明 |
| 第17図21 | A区 | ＳＳ22　ＭＥ51 | カクニン面 | | Ⅰ | | | | | 文様は地文が斜行縄文(原体ＲＬの斜位回転)胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第17図22 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ47 | Ⅰ層 | | A | | | | | 文様は地文が斜行縄文(原体ＲＬＲの斜位回転)、胎土は粗い(砂粒少ない、繊維やや多い)、焼成はあまい、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第17図23 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ46 | Ⅰ層 | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや少ない)、焼成はあまい、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第17図24 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ47 | Ⅰ層 | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はミガキ。 |
| 第17図25 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ44 | Ⅱ層 | | G | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)、口唇部は絡条体圧痕文、口縁部は綾繰文、頸部は隆帯（１条）上に絡条体圧痕文、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調は橙、内面調整はミガキ。※スス付着 |
| 第17図26 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ44 | Ⅱ層 | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第18図27 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ46 | Ⅱｂ層 | | A | | | | | 文様は地文が縦行撚糸文(原体ＬＲＬの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調は橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第18図28 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅱｂ層 | | A（底部） | | | | | 文様は地文が斜行縄文(原体ＬＲの縦位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成はあまい、色調は橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第18図29 | A区 | ＳＴ04　ＭＡ46 | Ⅱｂ層 | | A’ | | | | | 文様は地文・底部が綾繰文、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第18図30 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ46 | Ⅱｂ層 | | A不明 | | | | | 胎土は粗い(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成はあまい、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第18図31 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅱｂ層 | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)と横行撚糸文(原体Ｒの横位回転)、胎土は粗い(砂粒多い、繊維やや多い)、焼成はあまい、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第18図32 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅱｂ層 | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はミガキ。 |
| 第18図33 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｂ層 | | B（口） | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口唇部に圧痕、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。 |
| 第18図34 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ46 | Ⅱｂ層 | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はミガキ。※スス付着 |
| 第18図35 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ47 | Ⅱｂ層 | | F | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)と縦行撚糸文(原体Ｒの縦位回転)、口縁部は斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、胎土は粗い(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調は褐、内面調整はナデ。 |
| 第18図36 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ47 | Ⅱｂ層 | | G | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、頸部は隆帯（１条）上に圧痕、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。※補修孔あり、スス付着 |
| 第18図37 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ46 | Ⅱｂ層 | | G | | | | | 文様は口唇部と口縁部に刺突、頸部は隆帯（１条）上に刺突、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい橙、内面調整はミガキ。 |
| 第18図38 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｂ層 | | H | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)、口縁部に絡条体圧痕文、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。 |
| 第18図39 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅱｃ層 | | A | | | | | 文様は地文が斜行縄文(原体ＬＲの横位回転と斜位回転)、胎土はやや密(砂粒多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第18図40 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｃ層 | | A’（綾） | | | | | 文様は地文が綾繰文、胎土はやや密(砂粒多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第18図41 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅱｃ層 | | A | | | | | 文様は地文が斜行縄文(原体ＲＬの横位回転と斜位回転)、胎土はやや密(やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はミガキ、ナデ。※スス付着 |

## 第４表　土器観察表（２）

| 挿図番号 | 区名 | 遺構・グリッド名 | 出土層位 | 接合破片 | 分類 | 口径 | 胴径 | 底径 | 器高 | 施文・胎土・焼成・色調など |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第18図42 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｃ層 | | A | | | | | 文様は地文が斜行縄文（原体ＬＲの横位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は硬い、色調は橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第18図43 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ47 | Ⅱｃ層 | | A’ | | | | | 文様は地文が綾繰文、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維少ない）、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。 |
| 第18図44 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｃ層 | | A（口） | | | | | 文様は地文が斜行縄文（原体ＬＲの横位回転）、口唇部に圧痕、胎土はやや密（砂粒少ない、繊維やや多い）、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第18図45 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅱｃ層 | | A | | | | | 文様は地文が斜行縄文（原体ＲＬＲの縦位回転）、口唇部に圧痕、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はミガキ。 |
| 第19図46 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｃ層 | | B＋A’ | | | | | 文様は口縁部が綾繰文と斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第19図47 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅱｃ層 | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体ＬＲの斜位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。 |
| 第19図48 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅱｃ層 | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）と縦行撚糸文（原体Ｒの縦位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。 |
| 第19図49 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｃ層 | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、口唇部に圧痕、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第19図50 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ46 | Ⅱｃ層 | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は硬い、色調は橙、内面調整はナデ。 |
| 第19図51 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅱｃ層 | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｌの斜位回転）と綾繰文、胎土は粗い（砂粒やや多い、繊維多い）、焼成は硬い、色調は橙、内面調整はナデ。 |
| 第19図52 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｃ層 | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文、胎土は粗い（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成はあまい、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第19図53 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｃ層 | | D | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、口唇部に刺突、口縁部は綾繰文、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第19図54 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｃ層 | | D | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、口縁部は綾繰文、胎土はやや密（砂粒多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第19図55 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅱｃ層 | | D | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｌの斜位回転）、口縁部は綾繰文、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第19図56 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｃ層 | | D | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、口縁部は綾繰文、胎土は粗い（砂粒多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ、条痕あり。※スス付着 |
| 第19図57 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅳｆ層 | ＳＴ04　ＬＴ45　Ⅱ層 | F | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、口唇部に圧痕、口縁部は横行撚糸文（原体Ｒの横位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。 |
| 第19図58 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｃ層 | | F | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）と縦行撚糸文（原体Ｒの縦位回転）、口縁部は横行撚糸文（原体Ｒの横位回転）、胎土はやや密（砂粒多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい褐、内面調整はナデ。 |
| 第20図59 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ44 | Ⅱｃ層 | | D | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、口縁部は綾繰文、胎土はやや密（砂粒多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第20図60 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｃ層 | | F（網） | | | | | 文様は地文が網目状撚糸文（原体Ｒの斜位回転と横位回転）、口唇部に圧痕、胎土は粗い（砂粒多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第20図61 | A区 | ＳＴ04　ＬＱ45 | Ⅱｃ層 | | G | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、頸部は隆帯（１条）上に圧痕、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調は橙、内面調整はミガキ。 |
| 第20図62 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｃ層 | | G | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、口縁部は縦行撚糸文（原体Ｒ）、頸部は隆帯（１条）上に圧痕、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は硬い、色調は明黄褐、内面調整は入念なミガキ。 |
| 第20図63 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｃ層 | | G | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、口縁部は綾繰文、頸部は隆帯（１条）上に刺突と圧痕、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第20図64 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｃ層 | | G | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｌの斜位回転）、口唇部に絡条体圧痕文、口縁部は縦行撚糸文（原体Ｌの縦位回転）、頸部は隆帯（１条）上に圧痕、胎土は粗い（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。 |
| 第20図65 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅱｃ層 | | G | | | | | 文様は地文が綾繰文、口縁部は綾繰文、頸部は隆帯（１条）上に圧痕、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第20図66 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ46 | Ⅱｃ層 | | G | | | | | 文様は地文が綾繰文、口唇部に刺突、頸部は隆帯（１条）上に刺突、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調は橙、内面調整はミガキ。 |
| 第20図67 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ46 | Ⅱｃ層 | | G | | | | | 文様は口唇部に圧痕、口縁部に圧痕、隆帯（１条）上に圧痕、胎土はやや密（砂粒多い、繊維やや多い）、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第20図68 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｃ層 | | G | | | | | 文様は地文が縦行撚糸文（原体Ｒの縦位回転）、口唇部に刺突、口縁部は斜行撚糸文（原体Ｌの斜位回転）、頸部は隆帯（１条）上に刺突、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はミガキ。 |
| 第20図69 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｃ層 | | GかH | | | | | 文様は地文が斜行縄文（原体ＲＬの横位回転）、口縁部は斜行撚糸文（原体Ｌの斜位回転）、頸部は隆帯（１条）上に圧痕、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第20図70 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｃ層 | | G | | | | | 文様は口縁部が縦行撚糸文（原体Ｒの縦位回転）、頸部は隆帯（１条）上に圧痕、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面は剥離している。 |
| 第21図71 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｃ層 | | G | | | | | 文様は地文が斜行縄文（原体ＲＬの横位回転と斜位回転）、口唇部に刺突、口縁部に圧痕（原体ＲＬ）、頸部は隆帯（１条）条に刺突、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はミガキ。※スス付着 |
| 第21図72 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｃ層 | | （底部） | | | | | 文様は地文が斜行縄文（原体ＲＬＲの横位回転）、底部は縄文（原体ＲＬＲ）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第21図73 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｃ層 | | H | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、口縁部に絡条体圧痕文（原体Ｒ、２条）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第21図74 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｃ層 | | H | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｌの斜位回転）、口縁部に圧痕（２条）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※補修孔あり、スス付着 |
| 第21図75 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｃ層 | | H | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）と綾繰文、口縁部に圧痕、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はミガキ。 |
| 第21図76 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ47 | Ⅲ層 | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｌの斜位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調は灰黄褐、内面調整はミガキ。 |
| 第21図77 | A区 | ＳＴ04　ＭＡ45 | Ⅲ層 | | G | | | | | 文様は頸部が隆帯（２条）上に竹管文、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第21図78 | A区 | ＳＴ04　ＭＡ43 | Ⅳ層 | | A | | | | | 文様は地文が斜行縄文（原体ＬＲの横位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい褐、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第21図79 | A区 | ＳＴ04　ＭＡ43 | Ⅳ層 | | A’ | | | | | 文様は地文が綾繰文、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第21図80 | A区 | ＳＴ04　ＭＢ44 | Ⅳ層 | | D | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、口縁部は綾繰文、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい橙、内面調整はナデ。 |
| 第21図81 | A区 | ＳＴ04　ＭＢ43 | Ⅳ層 | | F | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｌの斜位回転）、口縁部は横行撚糸文（原体Ｌの横位回転）、胎土は粗い（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第21図82 | A区 | ＳＴ04　ＭＢ43 | Ⅳ層 | | G | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体ＬＲの斜位回転）、頸部は隆帯（１条）上に絡条体圧痕文、胎土はやや密（砂粒多い、繊維やや多い）、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はミガキ。 |

# 第５表　土器観察表（３）

| 挿図番号 | 区名 | 遺構・グリッド名 | 出土層位 | 接合破片 | 分類 | 口径 | 胴径 | 底径 | 器高 | 施文・胎土・焼成・色調など |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第22図83 | A区 | ＳＴ04　ＭＡ43 | Ⅳ層 | ＳＴ04　ＭＡ43　Ⅳ層 | H | 19.3 | | 11.0 | 29.7 | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)、口縁部に絡条体圧痕文(２条)、底部は撚糸文(原体Ｌ)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はミガキ。※補修孔あり、スス付着 |
| 第22図84 | A区 | ＳＴ04　ＭＢ43 | Ⅳ層 | | G | | | | | 文様は口唇部に指頭圧痕文、口縁部に絡条体圧痕文、頸部は隆帯(１条)上に指頭圧痕文、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調は橙、内面調整はミガキ、ナデ。 |
| 第22図85 | A区 | ＳＴ04　ＭＡ43 | Ⅳ層 | | H（口） | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口唇部に圧痕、口縁部に圧痕(２条)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調は灰黄褐、内面調整はミガキ。 |
| 第22図87 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ44 | Ⅳｆ層 | | A | | | | | 文様は地文が斜行縄文(原体ＲＬの横位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※補修孔あり |
| 第22図88 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ47 | Ⅳｆ層 | | A | | | | | 文様は地文が斜行縄文(原体ＲＬＲの横位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第22図89 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ46 | Ⅳｆ層 | | B（突） | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口縁部に突起、口縁部付近から縦に２条の沈線、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※補修孔あり |
| 第22図90 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅳｆ層 | | B（口） | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(斜位回転)、口唇部に圧痕、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい褐、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第22図91 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅳｆ層 | | B（網） | | | | | 文様は地文が網目状撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい褐、内面調整はミガキ。※スス付着 |
| 第22図92 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅳｆ層 | | B（網） | | | | | 文様は地文が網目状撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口唇部に圧痕、胎土はやや密(砂粒少ない、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調は灰黄褐、内面調整は入念なミガキ。 |
| 第22図93 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ46 | Ⅳｆ層 | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調は赤褐、内面調整はナデ。 |
| 第22図94 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅳｆ層 | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第22図95 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅳｆ層 | | B（口） | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口唇部に圧痕、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第23図96 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ46 | Ⅳｆ層 | ＳＴ04　ＬＳ46　Ⅳｆ層<br>ＳＴ04　ＬＳ46　Ⅳｆ層 | B | 21.5 | | 9.5 | 25.5 | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)、底部は撚糸文(原体Ｌ)、胎土は粗い(砂粒多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。※補修孔あり、スス付着 |
| 第23図97 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅳｆ層 | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口唇部に圧痕、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第23図98 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅳｆ層 | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口唇部に絡条体圧痕文(原体Ｒ)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい橙、内面調整はナデ。 |
| 第23図99 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅳｆ層 | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)、底部は撚糸文(原体Ｌ)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。 |
| 第23図100 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅳｆ層 | | B | (8.5) | | (8.2) | (4.4) | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、底部は撚糸文(原体Ｒ)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第23図101 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ44 | Ⅳｆ層 | | D（口） | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体ＬＲの斜位回転)、口唇部に絡条体圧痕文、口縁部は綾繰文、胎土はやや密(砂粒少ない、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第23図102 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅳｆ層 | | D | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体ＬＲの斜位回転)、口縁部は綾繰文、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はミガキ、ナデ。※スス付着 |
| 第23図103 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ46 | Ⅳｆ層 | | D（口） | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口唇部に圧痕、口縁部は綾繰文、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調は橙、内面調整はナデ。※補修孔あり |
| 第24図104 | A区 | ＳＴ04　ＭＡ44 | Ⅳｆ層 | | D | 20.5 | | 10.2 | 28.9 | 文様は地文が斜行縄文(原体ＲＬの横位回転)、胴部中央と下半に綾繰文(原体ＬＲ)、口縁部は綾繰文(原体ＬＲ)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ(内面底部に撚糸文)。※スス付着 |
| 第24図105 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅳｆ層 | | D（口） | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口唇部に刺突、口縁部は綾繰文、胎土は粗い(砂粒多い、繊維やや多い)、焼成はあまい、色調はにぶい橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第24図106 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅳｆ層 | | F | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口縁部は横行撚糸文(原体Ｒの横位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい橙、内面調整はナデ。 |
| 第24図107 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅳｆ層 | | F | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)と綾繰文、口縁部は斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第24図108 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ44 | Ⅳｆ層 | | F | | | | | 文様は地文が縦行撚糸文(原体Ｌの縦位回転)、口縁部は斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)と横行撚糸文(原体Ｌの横位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第24図109 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅳｆ層 | | G | | | | | 文様は地文が斜行縄文(原体ＲＬＲの斜位回転)、口唇部に刺突、口縁部に刺突、頸部は隆帯(１条)上に刺突、胎土は粗い(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい橙、内面調整はミガキ、ナデ。※スス付着 |
| 第24図110 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ44 | Ⅳｆ層 | | G | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体ＬＲの斜位回転)、口縁部は綾繰文、頸部に隆帯、胎土は粗い(砂粒多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第24図111 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅳｆ層 | | G | | | | | 文様は口縁部に圧痕、頸部は隆帯(１条)上に指頭圧痕文、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はミガキ。 |
| 第24図112 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅳｆ層 | | G | | | | | 文様は口唇部と口縁部が竹管文、頸部は隆帯(２条)上に竹管文、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成はあまい、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第25図113 | A区 | ＳＴ04 | Ⅳｆ層 | | G | | | | | 文様は口縁部が綾繰文、頸部は隆帯(１条)上に圧痕、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第25図114 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅳｆ層 | | G | | | | | 文様は口唇部に刺突、口縁部に指頭圧痕文、頸部は隆帯(２条)上に指頭圧痕文、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はミガキ。 |
| 第25図115 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ44 | Ⅳｆ層 | | H | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口縁部に絡条体圧痕文(２条)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成はあまい、色調は橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第25図116 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅳｆ層 | | H | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)、口唇部に圧痕、口縁部に絡条体圧痕文(２条)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。※補修孔あり、スス付着 |
| 第25図117 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅳｆ層 | | G | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)、口唇部に絡条体圧痕文(原体Ｌ)、口縁部に絡条体圧痕文、頸部は隆帯(１条)上に圧痕、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第25図118 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅳｆ層 | | H（口） | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口唇部に刺突、口縁部に圧痕、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調は明赤褐、内面調整はミガキ。※スス付着 |
| 第25図119 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ46 | Ⅳｆ層 | | H | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成はあまい、色調は橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第25図120 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅳｆ層 | ＳＴ04　ＬＴ46　Ⅳｆ層 | H | 21.3 | | 9.3 | 35.3 | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、胴部中央に綾繰文(原体Ｒ)、口縁部は綾繰文(原体Ｒ)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※補修孔あり、スス付着 |
| 第25図121 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ44 | Ⅳｆ層 | | H | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口縁部に絡条体圧痕文、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※補修孔あり |
| 第25図122 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅳｆ層 | | I | | | | | 文様は地文が半截竹管文、胎土はやや密(砂粒少ない、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第25図123 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅳｆ層 | | I | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※補修孔あり、スス付着 |
| 第25図124 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅳｆ層 | | (底部) | | | | | ミニチュア土器。上げ底。 |

## 第６表　土器観察表（４）

| 挿図番号 | 区名 | 遺構・グリッド名 | 出土層位 | 接合破片 | 分類 | 口径 | 胴径 | 底径 | 器高 | 施文・胎土・焼成・色調など |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第26図125 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＲ46 | Ⅷ層 | | Ａ’（口） | | | | | 文様は地文が綾繰文、口唇部に圧痕、胎土はやや密（砂粒少ない、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着、盲孔あり |
| 第26図126 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＲ46 | Ⅷ層 | | Ａ＋Ｂ | | | | | 文様は地文が斜行縄文（原体ＲＬの横位回転）と斜行撚糸文（原体Ｌの斜位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第26図127 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅷ層 | | Ａ | | | | | 文様は地文が斜行縄文（原体ＬＲの横位回転と斜位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい橙、内面調整はナデ。 |
| 第26図128 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅷ層 | | Ａ’不明 | | | | | 文様は地文が綾繰文、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。 |
| 第26図129 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅷ層 | | Ｂ（口） | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体ＬＲの斜位回転）、胴部下半は斜行撚糸文（原体ＲＬの斜位回転）、口唇部に圧痕、胎土は粗い（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成はあまい、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第26図130 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅷ層 | | Ａ | | | | | 文様は地文が斜行縄文（原体ＬＲの横位回転）、胎土は粗い（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成はあまい、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第26図131 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅷ層 | ＳＴ04　ＬＳ45　Ⅷ層 | Ｂ（口） | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体ＬＲの斜位回転）、胴部下半は斜行撚糸文（原体ＲＬの斜位回転）、口唇部に圧痕、胎土は粗い（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成はあまい、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第26図132 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅷ層 | | Ｂ（口） | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、口唇部に絡条体圧痕文、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第26図133 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅷ層 | | Ｂ（口） | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整は粗いナデ。 |
| 第27図134 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅷ層 | | Ｂ | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、胎土は密（砂粒少ない、繊維やや多い）、焼成は硬い、色調は橙、内面調整は入念なミガキ。 |
| 第27図135 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅷ層 | | Ｂ | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第27図136 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅷ層 | | Ｂ | － | | 7.2 | 17.4 | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｌの横位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は硬い、色調は橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第27図137 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅷ層 | | Ｂ | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｌの斜位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい橙、内面調整はナデ。 |
| 第27図138 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅷ層 | | Ｂ | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※補修孔あり、スス付着 |
| 第27図139 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ44 | Ⅷ層 | ＳＴ04　ＬＳ44　Ⅷ層 | Ｂ | （18.1） | 15.2 | 9.0 | 21.5 | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、底部は撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、底部は撚糸文（原体Ｒ）、胎土はやや密（砂粒少ない、繊維やや多い）、焼成は硬い、色調は灰黄褐、内面調整はナデ、ミガキ。 |
| 第27図140 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅷ層 | | Ｂ（網） | | | | | 文様は地文が網目状撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、胎土はやや密（砂粒多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第27図141 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅷ層 | | Ｂ | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第27図142 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅷ層 | | Ｂ | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第28図143 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅷ層 | ＳＴ04　ＬＴ45　Ⅷ層 | Ｂ | （19.0） | | 11.5 | 27.6 | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｌの斜位回転）、口唇部に圧痕、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい橙、内面調整はナデ。※補修孔あり |
| 第28図144 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅷ層 | ＳＴ04　ＬＴ45　Ⅸ層 | Ｂ（綱） | | | | | 文様は地文が網目状撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、口唇部に圧痕、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第28図145 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅷ層 | | Ｂ（底部） | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、底部は撚糸文（原体Ｒ）、胎土はやや密（砂粒少ない、繊維やや多い）、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第28図146 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅷ層 | | Ｂ（底部？） | － | | 9.7 | （19.5） | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、底部穿孔、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は硬い、色調はにぶい橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第28図147 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＲ46 | Ⅷ層 | | Ｂ | （14.4） | （13.7） | （8.0） | 22.5 | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｌの斜位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。※補修孔あり、スス付着 |
| 第28図148 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ44 | Ⅷ層 | | Ｂ | 15.0 | 8.5 | | 19.3 | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｌの斜位回転）、底部は撚糸文（原体Ｌ）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第29図149 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅷ層 | | Ｂ | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。 |
| 第29図150 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅸ層 | ＳＴ04　ＬＳ45　Ⅷ層 | Ｂ（底部） | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、底部は撚糸文（原体Ｒ）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は硬い、色調は灰黄褐、内面調整はミガキ。 |
| 第29図151 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅷ層 | ＳＴ04　ＬＳ46<br>ＳＴ04　ＬＴ45　Ⅷ層 | Ｂ？ | （25.9） | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第29図152 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅷ層 | | Ｂ | （9.7） | | － | － | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｌの斜位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。 |
| 第29図153 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ44 | Ⅷ層 | | Ｃ | | | | | 文様は地文が斜行縄文（原体ＲＬＲの横位回転）、口縁部は綾繰文、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※補修孔あり、スス付着 |
| 第29図154 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅷ層 | ＳＴ04　ＬＳ45　Ⅷ層<br>ＳＴ04　ＬＳ45　Ⅸ層 | Ｃ | 23.4 | | 11.0 | 34.0 | 文様は地文が斜行縄文（原体ＲＬの横位回転）、口縁部は綾繰文（原体Ｌ）、底部は縄文（原体ＬＲ）と網代痕、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ、ミガキ。※スス付着 |
| 第29図155 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ44 | Ⅷ層 | | Ｃ | 20.5 | | －　 | （19.8） | 文様は地文が斜行縄文（原体ＬＲの横位回転）、口縁部は綾繰文、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第30図156 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅷ層 | | Ｄ | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体ＬＲの斜位回転）、口縁部は綾繰文、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はミガキ、ナデ。 |
| 第30図157 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅷ層 | | Ｄ | － | | － | 28.0 | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）と縦行撚糸文（原体Ｒの縦位回転）、胴部中央に綾繰文、口縁部は綾繰文、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はミガキ。 |
| 第30図158 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ47 | Ⅷ層 | | Ｄ（口） | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、口唇部に刺突、口縁部は綾繰文、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。 |
| 第30図159 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ47 | Ⅷ層 | | Ｄ（口） | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｌの斜位回転）、口唇部に刺突、口縁部は綾繰文、胎土は粗い（砂粒やや多い、繊維少ない）、焼成はあまい、色調はにぶい橙、内面調整はナデ。 |
| 第30図160 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ44 | Ⅸ層 | ＳＴ04　ＬＴ45　Ⅷ層 | Ｄ | 23.7 | | 12.5 | 31.5 | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｌの斜位回転）と横行撚糸文（原体Ｌの横位回転）、胴部中央と下半に綾繰文（原体Ｌ）、口唇部は撚糸文（原体Ｌ）、口縁部は綾繰文（原体Ｌ）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整は撚糸文施文後ナデ。※スス付着 |
| 第30図161 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅷ層 | ＳＴ04　ＬＳ45　Ⅷ層 | Ｄ | （21.6） | | 9.6 | 34.1 | 文様は地文が縦行撚糸文（原体Ｒの縦位回転）と斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、口縁部は綾繰文、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は硬い、色調は橙、内面調整はミガキ。※補修孔あり、スス付着 |
| 第31図162 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅷ層 | | Ｄ | 17.0 | | 8.8 | 30 | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｌの斜位回転）、胴部に綾繰文（原体Ｌ）、口縁部は綾繰文（原体Ｌ）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ、ミガキ。 |
| 第31図163 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅷ層 | | Ｄ（口） | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体ＬＲの斜位回転）、口唇部に圧痕、口縁部は綾繰文、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第31図164 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅷ層 | | Ｄ | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、口縁部は綾繰文、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |

# 第７表　土器観察表（５）

| 挿図番号 | 区名 | 遺構・グリッド名 | 出土層位 | 接合破片 | 分類 | 口径 | 胴径 | 底径 | 器高 | 施文・胎土・焼成・色調など |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第31図165 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅷ層 | | D | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体ＬＲの斜位回転)、口縁部は綾繰文、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はミガキ。※補修孔あり |
| 第31図166 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅷ層 | | D | (17.2) | | (9.6) | 26.3 | 文様は地文が縦行撚糸文(原体Ｌの縦位回転)と斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)、口縁部は綾繰文、底部は撚糸文(原体Ｒ)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第31図167 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅷ層 | | D（口） | 12.0 | | | 23.0 | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、胴部下半に綾繰文(原体Ｒ)、口唇部に(棒状工具による刺突文)、口縁部は綾繰文(原体Ｒ)、内面に条痕、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ、ミガキ。※ス ス付着 |
| 第31図168 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅷ層 | | D | 12.3 | 10.8 | | 19.4 | 文様は地文が斜行撚糸文(原体ＬＲの斜位回転)、胴部下半に綾繰文(原体Ｒ)、口縁部は綾繰文(原体Ｒ)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調はにぶい橙、内面調整はナデ、ミガキ。※ス ス付着 |
| 第32図169 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅷ・Ⅸ層 | ＳＴ04　ＬＴ45　Ⅷ層<br>ＳＴ04　ＬＳ46　Ⅸ層 | D | 18.4 | | 10.7 | 21.7 | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、胴部下半に綾繰文(原体Ｒ)、口縁部は綾繰文(原体Ｒ)、底部は撚糸文(原体Ｒ)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい橙、内面調整はナデ。※補修孔あり、ス ス付着 |
| 第32図170 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅷ層 | ＳＴ04　ＬＳ44　Ⅷ層 | B（口） | 17.8 | | 10.4 | 23.5 | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口唇部に圧痕、口縁部は綾繰文(原体Ｒ)、胎土は粗い(砂粒やや多い、繊維多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※ス ス付着 |
| 第32図171 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅷ層 | | E | | | | | 文様は地文が斜行縄文(原体ＲＬの横位回転)、口縁部は横行撚糸文(原体Ｌの横位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※ス ス付着 |
| 第32図172 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅷ層 | | F | 11.5 | | 6.0 | 13.2 | 文様は地文が斜行撚糸文(原体ＬＲの斜位回転)、口縁部は斜行撚糸文(原体ＬＲの斜位回転)、胎土は粗い(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成はあまい、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第32図173 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅷ層 | | F | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体ＬＲの斜位回転)、口縁部は横行撚糸文(原体ＬＲの横位回転)、胎土は粗い(砂粒多い、繊維やや多い)、焼成はあまい、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第32図174 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅷ層 | | G | | | | | 文様は地文が縦行撚糸文(原体Ｒの縦位回転)、口唇部に刺突、口縁部は綾繰文と刺突、頸部は隆帯(１条)上に刺突、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※ス ス付着 |
| 第32図175 | A区 | ＳＴ04　ＬＱ45 | Ⅷ層 | | G | | | | | 文様は口唇部に刺突、口縁部は綾繰文と斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)と円形刺突文、頸部は隆帯(１条)上に円形刺突文、胎土は粗い(砂粒少ない、繊維やや多い)、焼成はあまい、色調は灰白、内面調整はナデ。 |
| 第32図176 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅷ層 | | G | 16.0 | | | (17.2) | 文様は地文が斜行縄文(原体ＬＲの横位回転)、口唇部は隆帯(１条)上に指頭圧痕文、頸部は隆帯(１条)上に指頭圧痕文、(胴部中央から底部にかけて原体の末端結節残存か)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※ス ス付着 |
| 第32図177 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅷ層 | | G | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口唇部に指頭圧痕文、口縁部は斜行縄文(原体ＬＲの横位回転)、頸部は隆帯(１条)上に指頭圧痕文、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第32図178 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅷ層 | ＬＴ45　Ⅸ層 | G | 25.9 | | | (55.0) | 文様は地文が斜行縄文(原体ＲＬＲの横位回転)、口唇部に刺突、頸部は隆帯(１条)上に指頭圧痕文、隆帯整形時の爪痕あり、口縁部から胴部中央にかけて綾繰文(原体ＬＲ)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※補修孔あり、ス ス付着 |
| 第33図179 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅷ層 | | G | | | 11.5 | 32.7 | 文様は地文が斜行縄文(原体ＬＲの横位回転)、頸部は隆帯(１条)上に斜行縄文(原体ＬＲの横位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はミガキ。※補修孔あり、ス ス付着 |
| 第33図180 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅷ層 | | G | | | | | 文様は口唇部に指頭圧痕文、口縁部は綾繰文、頸部は隆帯(２条)上に指頭圧痕文、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第33図181 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅷ層 | | G | | | | | 文様は地文が斜行縄文(原体ＬＲの横位回転)と綾繰文、頸部は隆帯(１条)上に指頭圧痕文、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調は褐、内面調整はナデ。※ス ス付着 |
| 第33図182 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ44 | Ⅷ層RP779 | | G | | | | | 文様は口唇部に刺突、口縁部は撚糸文と刺突、頸部は隆帯(１条)上に刺突、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調は黒褐、内面調整はナデ。※ス ス付着 |
| 第33図183 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅷ層 | | G | | | | | 文様は口縁部に絡条体圧痕文、頸部は隆帯(１条)上に刺突、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※ス ス付着 |
| 第33図184 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅷ層 | | G | 23.8 | | | (24.5) | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口唇部に指頭圧痕文、縄文の側面圧痕文、頸部は隆帯(１条)上に指頭圧痕文、胎土はやや密(砂粒多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※ス ス付着 |
| 第33図185 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅷ層 | | G | | | | | 文様は口唇部に圧痕、口縁部は斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)と圧痕、頸部は隆帯(２条)上に圧痕、胎土は密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はミガキ。 |
| 第33図186 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅷ層 | | G | | | | | 文様は地文が綾繰文と円形刺突文、口唇部に刺突、頸部は隆帯(１条)上に竹管文、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はミガキ。※ス ス付着 |
| 第34図187 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅷ層 | ＳＴ04　ＬＳ45　Ⅷ層 | G | (26.0) | | － | (32.3) | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口縁部は綾繰文、頸部は隆帯(１条)上に絡条体圧痕文、胎土はやや密(砂粒少ない、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第34図188 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅷ層 | | G | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)、口縁部は斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)と絡条体圧痕文、頸部は隆帯(１条)上に絡条体圧痕文、胎土は粗い(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成はあまい、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第34図189 | A区 | ＳＴ04　ＭＡ43 | Ⅷ層 | | H | 18.0 | 15.8 | 8.9 | 23.5 | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、胴部中央に綾繰文(原体Ｒ)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※補修孔あり |
| 第34図190 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅷ層 | ＳＴ04　ＬＲ45　Ⅸ層 | H | 18.0 | | 8.0 | 17.0 | 文様は地文が斜行縄文(原体ＬＲの横位回転)と横行縄文(原体ＬＲの斜位回転)、口唇部は斜行縄文(原体ＬＲの横位回転)、口縁部に竹管による沈線、底部は縄文(原体ＬＲ)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はミガキ。※補修孔あり、ス ス付着 |
| 第34図191 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅷ層 | ＳＴ04　ＬＳ45　Ⅷ層 | H | 14.0 | | 8.5 | 20.5 | 文様は地文が斜行縄文(原体ＬＲの横位回転)、口縁部は綾繰文(原体ＬＲ)と(原体末端部分の回転圧痕か)、底部は縄文(原体ＬＲ)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調は灰白、内面調整はナデ、ミガキ。※ス ス付着 |
| 第34図192 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅷ層 | | H | 17.1 | | 8.6 | 22.8 | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口縁部に絡条体圧痕文(２条、原体Ｒ)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第34図193 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅷ層 | | H | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)、口縁部は綾繰文、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第35図194 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅸ層 | ＬＳ45　Ⅷ層 | H | 18.0 | | | 24.5 | 文様は地文が斜行縄文(原体ＲＬＲの横位回転)、胴部下半に原体圧痕(２条)、口縁部に棒状工具の圧痕(２条)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※補修孔あり、ス ス付着 |
| 第35図195 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ47 | Ⅷ層 | | H | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口縁部に圧痕、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第35図196 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ44 | Ⅹ層 | ＳＴ04　ＬＲ45　Ⅸ層<br>ＳＴ04　ＬＲ45　Ⅷ層<br>ＳＴ04　ＬＲ45　Ⅷ層 | H（鋸） | 18.0 | | 7.2 | 22.5 | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｌの横位回転)、全面に竹管による沈線、口唇部に棒状工具の圧痕、口縁部に絡条体圧痕文(原体Ｌ)、底部は？、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※ス ス付着 |
| 第35図197 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅷ層 | | H | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体ＬＲの斜位回転)、胎土は粗い(砂粒多い、繊維やや多い)、焼成はあまい、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※ス ス付着 |
| 第35図198 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ44 | Ⅷ層 | | I | | | | | 文様は地文が刺突、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第35図199 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅷ層 | ＳＴ04　ＬＲ45　Ⅷ層<br>ＳＴ04　ＬＲ45　Ⅸ層 | I | | | | | 胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調は灰黄褐、内面調整はナデ。※ス ス付着 |
| 第35図200 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅷ層 | | （底部） | | | | | 文様は地文が綾繰文、底部は撚糸文、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第35図201 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ46 | Ⅷ層 | | （底部） | － | | 6.3 | (12.2) | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第35図202 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅷ層 | | （底部） | － | | 11.8 | (11.5) | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はミガキ。 |
| 第35図203 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ47 | Ⅸ層 | | A（底部） | | | | | 文様は地文が斜行縄文(原体ＬＲＬの縦位回転)、底部は縄文(原体ＬＲＬ)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調は橙、内面調整はナデ。 |
| 第35図204 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅸ層 | | A（底部） | | | | | 文様は地文が斜行縄文(原体ＬＲの横位回転)、底部に斜行縄文(原体ＬＲ)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第36図205 | A区 | ＳＴ04 | | | A | 21.6 | 19.0 | | (28.7) | 文様は地文が斜行縄文(原体ＲＬの横位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※補修孔あり |

## 第８表　土器観察表（６）

| 挿図番号 | 区名 | 遺構・グリッド名 | 出土層位 | 接合破片 | 分類 | 口径 | 胴径 | 底径 | 器高 | 施文・胎土・焼成・色調など |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第36図206 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅸ層 | | Ａ | | | | | 文様は地文が斜行縄文(原体ＲＬＲの横位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。※補修孔あり、スス付着 |
| 第36図207 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＱ46 | Ⅸ層 | | Ａ（口） | | | | | 文様は地文が斜行縄文(原体ＲＬの縦位回転と斜位回転)、口唇部に刺突、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※補修孔あり、スス付着 |
| 第36図208 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅸ層 | ＳＴ04　ＬＳ45　Ⅸ層 | Ａ | (17.0) | | 9.0 | 24.5 | 文様は地文が斜行縄文(原体ＬＲの横位回転)、底部は縄文(原体ＬＲ)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調は褐灰、内面調整はナデ、ミガキ。※スス付着 |
| 第36図209 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＱ45 | Ⅸ層 | | Ａ（突） | 29.1 | | | (24.2) | 文様は地文が斜行縄文(原体ＲＬＲの横位回転)、口唇部に圧痕、口縁部に突起あり、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調は灰黄褐、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第37図210 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅷ層 | ＳＴ04　ＬＳ45　Ⅸ層 | Ａ | 16.0 | | 8.2 | 25.0 | 文様は地文が斜行縄文(原体ＬＲの横位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ、ミガキ。※スス付着 |
| 第37図211 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅸ層 | | Ａ | | | | | 文様は地文が斜行縄文(原体ＲＬ)、口唇部に圧痕、胎土は粗い(砂粒やや多い、繊維多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第37図212 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅸ層 | ＳＴ04　ＬＱ45　Ⅸ層 | Ａ | (17.4) | | － | (16.8) | 文様は地文が斜行縄文(原体ＬＲの横位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調は灰黄褐、内面調整はナデ。※補修孔あり、スス付着 |
| 第37図213 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅸ層ベルト | | Ｂ | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調は灰黄褐、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第37図214 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅸ層 | | Ｂ（網） | | | | | 文様は地文が網目状撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒少ない、繊維やや多い)、焼成は普通、色調は灰黄褐、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第37図215 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅸ層 | ＳＴ04　ＬＳ45　Ⅸ層 | Ｂ | (23.4) | | － | (32.5) | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調は褐灰、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第37図216 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅸ層 | | Ｂ | (21.2) | | － | (28.2) | 文様は地文が斜行撚糸文(原体ＬＲの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調は灰黄褐、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第38図217 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＲ44 | Ⅸ層23トレ | ＳＴ04　ＬＱ45　Ⅸ層 | Ｂ（口） | 18.0 | | | (19.2) | 文様は地文が斜行縄文(原体ＲＬＲの横位回転)、口唇部に斜行縄文(原体ＲＬＲ)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ、ミガキ。※スス付着 |
| 第38図218 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅸ層 | | Ｂ（口） | 22.0 | | (7.6) | 26.6 | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)、口唇部は斜行撚糸文(原体Ｌ)、底部は撚糸文(原体Ｌ)、胎土は粗い(砂粒多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※補修孔あり、スス付着 |
| 第38図219 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅸ層 | | Ｂ（口） | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口唇部に竹管文、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第38図220 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅸ層 | | Ｂ（口） | (11.4) | | 6.6 | (13.7) | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口唇部に刺突、底部は撚糸文(原体Ｒ)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調は褐灰、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第38図221 | Ａ区 | ＳＴ04 | Ⅸ層 | | Ｂ（口） | 18.2 | | | (30.3) | 文様は地文が斜行撚糸文(原体ＬＲの斜位回転)と横行撚糸文(原体ＬＲの横位回転)、口唇部に絡条体圧痕文(原体ＬＲ)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第38図222 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＱ45 | Ⅸ層 | | Ｂ | 13.5 | | | 16 | 文様は地文が斜行縄文(原体ＲＬＲの横位回転と縦位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙)、内面調整は縦位の条痕(５本単位)。※スス付着 |
| 第38図223 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅸ層ＲＰ784 | | Ｂ（口） | 13.2 | | 8.3 | 20.8 | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口唇部は斜行撚糸文(原体Ｒ)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第39図224 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅸ層 | ＳＴ04　ＬＳ45　Ⅸ層 | Ｂ | 23.8 | | 10.2 | 22.1 | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)、口縁部に(指頭による浅い押捺痕)、胎土はやや密(砂粒多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※補修孔あり、スス付着 |
| 第39図225 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅸ層 | ＳＴ04　ＬＳ45　Ⅸ層 | Ｂ | － | | 11.9 | － | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調はにぶい橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第39図226 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＲ46 | Ⅸ層 | ＳＴ04　ＬＲ45　Ⅸ層 | Ｂ（口） | (21.9) | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)、口唇部は斜行撚糸文(原体Ｌ)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第39図227 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅸ層 | | Ｂ | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調は灰黄褐、内面調整はナデ。 |
| 第39図228 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅸ層 | ＳＴ04　ＬＲ45　Ⅸ層 | Ｂ？ | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体ＬＲの斜位回転)、口唇部に圧痕、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調は灰黄褐、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第40図229 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅸ層 | ＳＴ04　ＬＲ45　Ⅸ層 | Ｂ | 19.0 | | 13.0 | 23.0 | 文様は地文が綾繰文(原体Ｒ)、底部に圧痕(原体ＬＲ)、胎土は粗い(砂粒多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第40図230 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅸ層 | | Ｂ（口） | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口唇部に圧痕、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調は灰黄褐、内面調整はナデ。 |
| 第40図231 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅸ層 | | Ｂ（網・口） | － | | (5.2) | 21.0 | 文様は地文が網目状撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口唇部に圧痕、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第40図232 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅸ層 | | Ｂ | 14.7 | | 5.3 | 18.4 | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口唇部に圧痕、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※補修孔あり、スス付着 |
| 第40図233 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅸ層 | | Ｂ | 14.0 | | | 17.5 | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)、胎土は粗い(砂粒多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第40図234 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＲ44<br>23トレ | Ⅸ層 | | Ｂ | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※補修孔あり、スス付着 |
| 第40図235 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅸ層 | | Ｂ | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口唇部に圧痕、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第40図236 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅸ層 | | Ｂ | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調は灰黄褐、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第41図237 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅸ層 | | Ｂ | (21.7) | | 10.8 | 22.3 | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、底部は撚糸文(原体Ｒ)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第41図238 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅸ層 | | Ｂ | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第41図239 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅸ層 | | Ｂ | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体ＬＲの斜位回転)、底部は撚糸文(原体ＬＲ)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第41図240 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅸ層 | | Ｂ（口） | (10.8) | | － | (10.7) | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)、口唇部に圧痕、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第41図241 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅸ層 | | Ｂ？ | (19.9) | | － | (11.9) | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、胎土は粗い(砂粒多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調は灰黄褐、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第41図242 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅸ層 | ＳＴ04　ＬＳ45　Ⅸ層 | Ｂ | 30.9 | | | (41.0) | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、胎土は粗い(砂粒多い、繊維やや多い)、焼成はあまい、色調はにぶい黄橙、内面調整は粗いナデ。※スス付着、補修孔あり |
| 第41図243 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅸ層 | | Ｂ（底部？） | － | | 8.2 | (15.2) | 文様は地文が斜行撚糸文(原体ＬＲの斜位回転)と縦行撚糸文(原体ＬＲの縦位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維多い)、焼成は普通、色調はにぶい橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第41図244 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅸ層 | | Ｃ | (13.2) | | 8.2 | 18.7 | 文様は地文が斜行縄文(原体ＬＲの横位回転)、口縁部は綾繰文、胎土はやや密(砂粒少ない、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第42図245 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ44 | Ⅸ層ＲＰ784 | | Ｃ | | | | | 文様は地文が斜行縄文(原体ＬＲの縦位回転と横位回転)、口縁部は綾繰文、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維多い)、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はミガキ。※スス付着 |
| 第42図246 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅸ層 | | Ｃ | | | | | 文様は地文が斜行縄文(原体ＲＬＲの横位回転)、口縁部は綾繰文、胎土は粗い(砂粒多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |

# 第９表　土器観察表（７）

| 挿図番号 | 区名 | 遺構・グリッド名 | 出土層位 | 接合破片 | 分類 | 口径 | 胴径 | 底径 | 器高 | 施文・胎土・焼成・色調など |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第42図247 | A区 | ＳＴ04　ＬＱ45 | Ⅸ層 | | C | (18.6) | | － | (19.9) | 文様は地文が斜行縄文(原体ＲＬＲの横位回転と斜位回転)、口縁部は綾繰文、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※補修孔あり、スス付着 |
| 第42図248 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅸ層 | | D | 14.0 | 12.0 | 7.3 | 20.9 | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)、口縁部は横走撚糸文(原体Ｌの横位回転)、底部は撚糸文(原体Ｌ)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第42図249 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅸ層ベルト | ＳＴ04　ＬＳ45　Ⅸ層 | D（口） | (22.5) | | 10.0 | 25.5 | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、(綾繰文(原体Ｒ)下に原体末端部分の回転圧痕か)、口唇部に円形刺突文、口縁部は綾繰文(原体Ｒ)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第42図250 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ44 | Ⅸ層 | | D | 23.5 | | | (23.5) | 文様は地文が斜位回転(原体Ｒの斜位回転)、口縁部は綾繰文(原体Ｒ)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第43図251 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅸ層 | | D | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、波状の口縁部は綾繰文、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第43図252 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ44 | Ⅸ層 | | D | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)、口縁部は綾繰文、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第43図253 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ44 | Ⅸ層 | | D | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体ＬＲの斜位回転)、口唇部に圧痕、口縁部は綾繰文、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第43図254 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅸ層 | | D | (20.6) | | － | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口唇部に刺突、口縁部は綾繰文、内面に条痕、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調は灰褐、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第43図255 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ44 | Ⅸ層 | | D | 17.5 | 14.7 | | (21.5) | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)、口縁部は綾繰文(原体Ｒ)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい橙、内面調整はナデ、ミガキ。 |
| 第43図256 | A区 | ＳＴ04 | Ⅸ層 | | F | 18.6 | 17.0 | 11.2 | 26.1 | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口縁部は斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)と横行撚糸文(原体Ｒの横位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調は明褐灰、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第44図257 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ44 | Ⅸ層ＲＰ736 | | F | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口縁部は斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)と横行撚糸文(原体Ｒの横位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成はあまい、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第44図258 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ44 | Ⅸ層 | | G | | | | | 文様は頸部が隆帯(１条)上に刺突、胎土は粗い(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第44図259 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅸ層 | | G | 50.3 | | | (39.8) | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、胴部下半に繊維文(原体ＬＲ)、口唇部に圧痕(原体ＬＲ)、頸部は隆帯(１条)上に圧痕(原体ＬＲ)、隆帯下に地文の撚糸文が残存、隆帯整形時の爪痕あり、胎土は粗い(砂粒多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調は灰黄褐、内面調整はミガキ、※スス付着、隆帯の上下に指頭圧痕文。 |
| 第44図260 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ44 | Ⅸ層RP761 | | G | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)と縦行撚糸文(原体Ｒの縦位回転)、口唇部に刺突、頸部は隆帯(１条)上に原体末端の圧痕、胎土は粗い(砂粒やや多い、繊維少ない)、焼成はあまい、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※補修孔あり |
| 第44図261 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅸ層 | ＬＴ45　Ⅸ層<br>ＬＳ45　Ⅸ層 | G | 37.0 | | 28.7 | 46.0 | 文様は地文が斜行縄文(原体ＲＬＲの横位回転)、口唇部に圧痕(原体ＲＬＲ)、頸部は隆帯(１条)上に圧痕(原体ＲＬＲ)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第44図262 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅸ層 | | G | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)、口縁部に圧痕、頸部は隆帯(１条)上に圧痕、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調は灰黄褐、内面調整はミガキ。※スス付着 |
| 第45図263 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅸ層ＲＰ781 | | G | (19.6) | | － | (32.0) | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)と縦行撚糸文(原体Ｒの縦位回転)、口縁部は斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、頸部は隆帯(１条)上に原体の圧痕、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第45図264 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅸ層ＲＰ736 | | G | (15.2) | | － | (11.1) | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口唇部に刺突文、口縁部は綾繰文、頸部は隆帯(１条)上に刺突文、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第45図265 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅸ層ベルト | ＳＴ04　ＬＲ45　Ⅸ層 | H | 13.0 | | 7.0 | 20.0 | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、胴部下半に綾繰文(原体Ｒ)、口縁部は綾繰文(原体Ｒ)と(縄末端部分の回転圧痕か)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第45図266 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅸ層 | | Ⅰ口(縄＋撚) | (20.1) | | － | | 文様は地文が斜行縄文(原体ＲＬＲの横位回転)と斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)、口唇部に刺突、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調は灰黄褐、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第45図267 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅸ層 | | Ⅰ（縄＋撚） | － | | (9.4) | (20.3) | 文様は地文が斜行縄文(原体ＬＲの横位回転)と斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒少ない、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第45図268 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅸ層 | | (底部) | － | | 9.1 | (8.1) | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)と横行撚糸文(原体Ｌの横位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第45図269 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅸ層 | | (底部) | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)と縦行撚糸文(原体Ｌの縦位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第45図270 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅸ層 | | (底部) | | | | | 上げ底風。 |
| 第46図271 | A区 | ＳＴ04　ＬＱ46 | Ⅸ層 | | (底部) | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体ＬＲの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒多い、繊維多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※底外面にスス？付着 |
| 第46図272 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ44 | Ⅸ層 | | (底部) | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)、底部付近に綾繰文、底部は撚糸文(原体Ｒ)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第46図274 | A区 | ＳＴ04　ＬＯ45 | Ⅹ層 | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、底部は撚糸文(原体Ｒ)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第46図275 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅹ層 | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第46図276 | A区 | ＳＴ04　ＬＰ45 | Ⅹ層 | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)と横行撚糸文(原体Ｌの横位回転)、口縁部は綾繰文、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第46図277 | A区 | ＳＴ04 | 排土 | | G | | | | | 文様は地文が斜行縄文(原体ＲＬの横位回転と縦位回転)、口唇部と口縁部に斜行縄文、頸部は隆帯(１条)上に斜行縄文(原体ＲＬ)、胎土はやや密(砂粒少ない、繊維多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はミガキ。※スス付着 |
| 第46図278 | A区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅰ層 | | C | | | | | 文様は地文が斜行縄文(原体ＲＬの横位回転)、口縁部は綾繰文(原体ＲＬ)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調はにぶい赤褐、内面調整はナデ。 |
| 第46図279 | A区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅰ層 | | D（口） | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)、口唇部に刺突、口縁部は綾繰文、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維少ない)、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。 |
| 第46図280 | A区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅰ層 | | H | | | | | 文様は地文が縦行撚糸文(原体Ｌの縦位回転)、口縁部は綾繰文と圧痕、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第46図281 | A区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | | A（突） | | | | | 文様は地文が斜行縄文(原体ＲＬＲの横位回転)、口縁部は綾繰文、口縁部に突起、胎土はやや密(砂粒多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調はにぶい黄褐、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第47図282 | A区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | | A | | | | | 文様は地文が斜行縄文(原体ＬＲＬの横位回転)、胎土は粗い(砂粒多い、繊維やや多い)、焼成はあまい、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第47図283 | A区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | | A | | | | | 文様は地文が斜行縄文(原体ＲＬの横位回転と縦位回転)、胎土はやや密(砂粒少ない、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第47図284 | A区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | | | | | | | 文様は地文が斜行縄文(原体ＲＬＲの横位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調はにぶい橙、内面調整はミガキ。※スス付着 |
| 第47図285 | A区 | ＳＴ15　ＬＭ51 | Ⅱ層 | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体ＲＬの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第47図286 | A区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | | B（口） | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)と横行撚糸文(原体Ｌの横位回転)、口唇部に刺突、胎土は粗い(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第47図287 | A区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | | B（口） | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)、口唇部に圧痕、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第47図288 | A区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | | B（口） | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口唇部に圧痕、口縁部は綾繰文、胎土は粗い(砂粒やや多い、繊維多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |

## 第10表　土器観察表（８）

| 挿図番号 | 区名 | 遺構・グリッド名 | 出土層位 | 接合破片 | 分類 | 口径 | 胴径 | 底径 | 器高 | 施文・胎土・焼成・色調など |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第47図289 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第47図290 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | ＳＴ15　ＬＭ52　Ⅱ層 | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は硬い、色調はにぶい橙、内面調整はナデ。※補修孔あり |
| 第47図291 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ51 | Ⅱ層 | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第47図292 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）と縦走撚糸文（原体Ｒの縦位回転）、胎土はやや密（砂粒少ない、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はミガキ。 |
| 第47図293 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体ＲＬの斜位回転と縦位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調は橙、内面調整はミガキ。※スス付着 |
| 第47図294 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | | B（網） | | | | | 文様は頸部は隆帯（２条）上に刺突、胎土は粗い（砂粒やや多い、繊維多い）、焼成はあまい、色調は橙、内面調整はナデ。 |
| 第48図295 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、胎土はやや密（砂粒少ない、繊維やや多い）、焼成は硬い、色調は橙、内面調整はナデ。 |
| 第48図296 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | | B（底） | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体ＬＲの斜位回転）、底部は撚糸文（原体ＬＲ）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。 |
| 第48図297 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | | C | | | | | 文様は地文が斜行縄文（原体ＲＬの横位回転）、口縁部は綾繰文、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維少ない）、焼成はあまい、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第48図298 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | ＳＴ15　ＬＭ52　Ⅱ層 | D | 18.2 | | 9.5 | 17.2 | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｌの斜位回転）、口縁部は綾繰文（原体Ｌ）、胎土はやや密（砂粒少ない、繊維やや多い）、焼成はあまい、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第48図299 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | | D（口） | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、口唇部に圧痕、口縁部は綾繰文、胎土はやや密（砂粒多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調は明赤褐、内面調整はミガキ。※スス付着 |
| 第48図300 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | | D | 16.0 | | 8.0 | 20.0 | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｌの斜位回転）、胴部に綾繰文（原体Ｌ）、口縁部は綾繰文（原体Ｌ）、胎土は粗い（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。 |
| 第48図301 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | | D | | | | | 文様は地文が縦行撚糸文（原体Ｌの縦位回転）、口縁部は綾繰文、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維少ない）、焼成は普通、色調はにぶい橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第48図302 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | | D | | | | | 文様は地文が斜行縄文（原体ＲＬＲの横位回転）、口縁部は綾繰文、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はミガキ。※補修孔あり |
| 第48図303 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | | D（突） | | | | | 文様は地文が縦行撚糸文（原体Ｌの縦位回転）、口縁部は綾繰文、胎土は粗い（砂粒多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第48図304 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | | F | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｌの斜位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい橙、内面調整はナデ。※補修孔あり、スス付着 |
| 第48図305 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | | F | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体ＬＲの斜位回転）と縦走撚糸文（原体ＬＲの縦位回転）、口唇部に圧痕、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は硬い、色調は橙、内面調整は入念なミガキ。 |
| 第48図306 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | | F | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体ＬＲの斜位回転）、口縁部は横走撚糸文（原体ＬＲの横位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調は橙、内面調整はミガキ。※スス付着 |
| 第49図307 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | ＳＴ15　ＬＭ52　Ⅲ層 | G | | | － | (27.3) | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、口縁部は綾繰文、頸部は隆帯（１条）上に刺突、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はミガキ。 |
| 第49図308 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ50 | Ⅱ層 | | G | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｌ）、頸部は隆帯（１条）上に刺突、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は硬い、色調はにぶい橙、内面調整はミガキ。 |
| 第49図309 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | | G | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、口唇部に刺突、口縁部は綾繰文、頸部は隆帯（１条）上に刺突、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調は橙、内面調整はミガキ。 |
| 第49図310 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | | G | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体ＬＲの斜位回転）、口縁部は横走撚糸文、頸部は隆帯（１条）上に刺突、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整は入念なミガキ。 |
| 第49図311 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ51 | Ⅱ層 | | G | | | | | 文様は地文が綾繰文と縦行撚糸文（原体Ｒ）、頸部は隆帯上に刺突、胎土はやや密（砂粒多い、繊維やや多い）、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はミガキ。 |
| 第49図312 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ51 | Ⅱ層 | | G | | | | | 文様は頸部は隆帯（１条）上に刺突、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は硬い、色調は橙、内面調整はナデ。 |
| 第49図313 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | | H | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体ＬＲの斜位回転）、口縁部に絡条体圧痕文（１条）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第49図314 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ58 | Ⅱ層 | | H | | | | | 文様は地文が斜行縄文（原体ＲＬの横位回転）、口縁部は綾繰文と圧痕（２条）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調は灰黄褐、内面調整はナデ。 |
| 第49図315 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | | H | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｌの斜位回転）、口縁部は綾繰文、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。※補修孔・盲孔あり |
| 第49図316 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | | H | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｌの斜位回転）と縦走撚糸文（原体Ｌの縦位回転）、胎土は粗い（砂粒少ない、繊維多い）、焼成はあまい、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第49図317 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | ＳＴ15　ＬＭ52　Ⅱ層<br>ＳＴ15　ＬＭ52　Ⅱ層 | H | 17.6 | | | (19.0) | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｌの斜位回転）、頸部は隆帯（１条）上に斜行撚糸文（原体Ｌ）、胎土は密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデの後ミガキ。 |
| 第50図318 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ51 | Ⅱ層 | | I（竹？） | | | | | 文様は地文が半截竹管文、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第50図319 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | | I（無文波状） | (11.0) | | 5.7 | 9.8 | 文様は無文、波状の口縁部、内面に条痕、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい橙、内面調整はナデ。 |
| 第50図320 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | | F | | | | | 文様は地文が縦行撚糸文（原体Ｒの縦位回転）、胴部に綾繰文、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成はやや普通、色調は橙、内面調整はナデ。 |
| 第50図321 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅲ層 | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、胎土はやや密（砂粒多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第50図322 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ50 | Ⅲ層 | | D（口） | | | | | 文様は地文が横行撚糸文（原体Ｌの横位回転）、口唇部に刺突、口縁部は綾繰文、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第50図323 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ50 | Ⅲ層 | | D | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体ＲＬの斜位回転）、口唇部に刺突、口縁部は綾繰文、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※補修孔あり |
| 第50図324 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅲ層 | | H | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、口縁部に絡条体圧痕文、胎土はやや密（砂粒多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい橙、内面調整はナデ。 |
| 第50図325 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ50 | Ⅲ層 | | H | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｌの斜位回転）、胎土はやや密（砂粒多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第50図326 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅲ層 | | G | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｌの斜位回転）、頸部は隆帯（１条）上に圧痕、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第50図327 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅲ層 | | G（口） | | | | | 文様は地文が縦行撚糸文（原体Ｌの縦位回転）、口唇部に刺突、頸部は隆帯（１条）上に刺突、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維多い）、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。 |
| 第50図328 | Ａ区 | ＳＴ15 | 排土 | | A’（口） | | | | | 文様は口唇部に圧痕、口縁部は綾繰文、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい橙、内面調整はナデ。 |
| 第50図329 | Ａ区 | ＳＴ15 | 排土 | | D | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｌの斜位回転）と綾繰文、口唇部に刺突？、口縁部は綾繰文、胎土はやや密（砂粒少ない、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |

# 第11表　土器観察表（９）

| 挿図番号 | 区名 | 遺構・グリッド名 | 出土層位 | 接合破片 | 分類 | 口径 | 胴径 | 底径 | 器高 | 施文・胎土・焼成・色調など |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第50図330 | A区 | ＳＴ15 | 排土 | | G | | | | | 文様は地文が綾繰文、頸部は円形刺突文と隆帯（２条）上に刺突、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調は橙、内面調整はミガキ。 |
| 第50図331 | A区 | ＳＴ15 | 排土 | | F | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、口縁部は横行撚糸文（原体Ｒの横位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。 |
| 第51図332 | A区 | ＳＴ27　ＭＡ49 | Ｖａ層 | | A | 14.6 | | 6.0 | 18.0 | 文様は地文が斜行縄文（原体ＬＲの横位回転）、口縁部に（原体末端部分の回転圧痕か）、胎土は粗い（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ、ミガキ。 |
| 第51図333 | A区 | ＳＴ27　ＭＢ49 | Ｖａ層 | | A？不明 | | | | | 文様は地文が縄文、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整は入念なミガキ。 |
| 第51図334 | A区 | ＳＴ27　ＬＴ50 | Ｖａ層 | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｌの斜位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はミガキ。 |
| 第51図335 | A区 | ＳＴ27　ＭＤ48 | Ｖｂ層 | | B | － | | － | 21.7 | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい橙、内面調整はナデ。 |
| 第51図336 | A区 | ＳＴ28　ＭＣ52 | Ⅳａ層 | | A | | | | | 文様は地文が斜行縄文（原体ＲＬの横位回転）、胎土はやや密（砂粒多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第51図337 | A区 | ＳＴ28　ＭＣ53 | Ⅳａ層 | | 撚糸文 | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。 |
| 第51図338 | A区 | ＳＴ28　ＭＣ52 | Ⅳａ層 | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｌの斜位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第51図339 | A区 | ＳＴ28　ＭＤ53 | Ⅳａ層 | | B（口） | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体ＲＬの斜位回転）、口唇部と口縁部に圧痕、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調は灰黄褐、内面調整はナデ。 |
| 第51図340 | A区 | ＳＴ28　ＭＣ53 | Ⅳａ層 | | B（口） | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、口唇部と口縁部に圧痕、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい褐灰、内面調整はミガキ、※スス付着 |
| 第51図341 | A区 | ＳＴ28　ＭＤ53 | Ⅳａ層 | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）と横行撚糸文（原体Ｒの横位回転）、口唇部に圧痕文、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第51図342 | A区 | ＳＴ28　ＭＣ53 | Ⅳａ層 | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第51図343 | A区 | ＳＴ28　ＭＣ53 | Ⅳ層 | | F | | | | | 文様は地文が斜行縄文（原体ＲＬＲの横位回転）、口縁部は横行縄文（原体ＬＲＬの斜位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第51図344 | A区 | ＳＴ28　ＭＣ53 | Ⅳａ層 | | G | | | | | 文様は口縁部に刺突、頸部は隆帯（２条）上に刺突、胎土は粗い（砂粒多い、繊維多い）、焼成はあまい、色調は橙。 |
| 第51図345 | A区 | ＳＴ28　ＭＢ54 | Ｖａ層 | | B？ | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｌの斜位回転）、口唇部に絡条体圧痕文（原体Ｌ）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維多い）、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ、ミガキ。※スス付着 |
| 第51図346 | A区 | ＳＴ28　ＭＢ54 | Ｖａ層 | | G | | | | | 文様は口縁部に刺突と圧痕、隆帯（１条）上に刺突、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第52図347 | A区 | ＳＴ28　ＭＢ54 | Ｖａ層 | | A’ | | | | | 文様は口縁部が綾繰文（原体ＬＲ）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整は入念なミガキ。 |
| 第52図348 | A区 | ＳＴ28　ＭＤ52 | Ｖａ層 | | F | | | | | 文様は地文が縦行撚糸文（原体ＲＬの縦位回転）、口縁部は横行撚糸文（原体Ｒの横位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はミガキ。※スス付着 |
| 第52図349 | A区 | ＳＴ28　ＭＢ54 | Ｖａ層 | | G | | | | | 文様は口縁部に刺突、頸部は隆帯（２条）上に刺突、胎土は粗い（砂粒多い、繊維多い）、焼成はあまい、色調はにぶい黄橙、内面調整はミガキ。 |
| 第52図350 | A区 | ＳＴ28　ＭＣ52 | Ⅵ層 | | I（不明） | | | | | 胎土はやや密（砂粒多い、繊維やや多い）、焼成はあまい、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第52図351 | A区 | ＳＴ28　ＭＣ52 | Ⅶ層 | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｌの斜位回転）、胎土はやや密（砂粒多い、繊維やや多い）、焼成はあまい、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第52図352 | A区 | ＭＡ47 | カクラン | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第52図353 | A区 | ＭＡ46 | カクラン | | H | | | | | 文様は口縁部に刺突、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調は灰黄褐、内面調整はミガキ。 |
| 第52図354 | A区 | ＬＴ51 | トレンチ排土 | | I | | | | | 文様は地文が斜行縄文（原体ＲＬの横位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成はあまい、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第52図355 | A区 | ＳＤ23 | Ｉ層 | | B（底部） | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は硬い、色調は内がにぶい黄橙、外が橙、内面調整はミガキ、ナデ。※スス付着 |
| 第52図356 | A区 | ＳＤ23 | Ｉ層 | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第52図357 | A区 | ＳＤ25 | Ｉ層 | | A・B・A’ | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、胎土はやや密（砂粒少ない、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第52図358 | B区 | ＬＬ5 | Ｉ層 | | B（網） | | | | | 文様は地文が網目状撚糸文（原体Ｌの斜位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第52図359 | B区 | ＬＬ5 | Ｉ層 | | B（網・口） | | | | | 文様は地文が網目状撚糸文（原体Ｌの斜位回転）、口唇部に圧痕、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第52図360 | B区 | ＬＫ46 | Ⅳａ層 | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第52図361 | B区 | ＬＫ48 | Ⅵａ層 | | G | | | | | 文様は口縁部に爪痕、頸部は隆帯（２条）上に爪痕、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第52図362 | B区 | ＬＪ46 | Ⅵａ層 | | A（口・胴） | | | | | 文様は地文が斜行縄文（原体ＬＲＬの縦位回転と横位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調は灰黄褐、内面調整はミガキ。※スス付着 |
| 第52図363 | B区 | ＬＬ47 | Ⅵａ層 | | A | | | | | 文様は地文が斜行縄文（原体ＬＲの横位回転）、胎土は粗い（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第53図364 | B区 | ＬＪ46 | Ⅵａ層 | | A’ | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体ＬＲの斜位回転）と縦行撚糸文（原体Ｒの縦位回転）と横行撚糸文（原体Ｒの横位回転）、口唇部と口縁部に圧痕、胎土はやや密（砂粒多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第53図365 | B区 | ＬＫ46 | Ⅵａ層 | | B | | | | | 文様は地文が縦行撚糸文（原体Ｒの縦位回転）、口唇部に圧痕、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第53図366 | B区 | ＬＬ47 | Ⅵａ層 | | B（網） | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）と縦行撚糸文（原体Ｒの縦位回転）と横行撚糸文（原体Ｒの横位回転）、口唇部と口縁部に圧痕、胎土はやや密（砂粒多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第53図367 | B区 | ＬＫ47 | Ⅵａ層 | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、口唇部に絡条体圧痕文（原体Ｒ）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第53図368 | B区 | ＬＫ47 | Ⅵａ層 | | B（口） | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、口唇部に圧痕、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は硬い、色調はにぶい橙、内面調整はナデ。 |
| 第53図369 | B区 | ＬＫ48 | Ⅵａ層 | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｌの斜位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は普通、色調はにぶい橙、内面調整はナデ。 |
| 第53図370 | B区 | ＬＫ47 | Ⅵａ層 | | B | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文（原体Ｒの斜位回転）、胎土はやや密（砂粒やや多い、繊維やや多い）、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※スス付着 |

## 第12表　土器観察表(10)

| 挿図番号 | 区名 | 遺構・グリッド名 | 出土層位 | 接合破片 | 分類 | 口径 | 胴径 | 底径 | 器高 | 施文・胎土・焼成・色調など |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第53図371 | Ｂ区 | ＬＬ47 | Ⅵａ層 | | Ｂ | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口唇部に絡条体圧痕文(原体Ｒ)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第53図372 | Ｂ区 | ＬＫ46 | Ⅵａ層 | | Ｂ（網） | | | | | 文様は地文が網目状撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はミガキ。 |
| 第53図373 | Ｂ区 | ＬＫ47 | Ⅵａ層 | | Ｂ | | | | | 文様は地文が斜行縄文(原体ＬＲＬの縦位回転)と横行縄文(原体ＲＬの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第53図374 | Ｂ区 | ＬＬ48 | Ⅵａ層 | | Ｄ | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口縁部は綾繰文、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第53図375 | Ｂ区 | ＬＬ47 | Ⅵａ層 | | | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、内面に条痕、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第54図376 | Ｂ区 | ＬＫ46 | Ⅵａ層 | | Ｄ | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口唇部に圧痕、口縁部は綾繰文、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※補修孔あり |
| 第54図377 | Ｂ区 | ＬＪ46 | Ⅵａ層 | | Ｄ | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口縁部は綾繰文、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※補修孔あり、スス付着 |
| 第54図378 | Ｂ区 | ＬＫ47 | Ⅵａ層 | | Ｄ | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口唇部に圧痕、口縁部は綾繰文、胎土は粗い(砂粒多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調は灰黄褐、内面調整はミガキ。 |
| 第54図379 | Ｂ区 | ＬＫ46 | Ⅳｂ層 | Ｂ区　ＬＫ46　Ⅳｂ層<br>Ｂ区　ＬＫ46　Ⅳａ層<br>Ｂ区　ＬＫ47　Ⅳａ層<br>Ｂ区　ＬＫ48　Ⅳａ層 | Ｇ | (26.2) | | － | (31.4) | 文様は地文が斜行縄文(原体ＬＲの横位回転)、口唇部に刺突、口縁部は綾繰文(原体ＬＲ)、頸部は隆帯(１条)上に刺突、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調はにぶい橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第54図380 | Ｂ区 | ＬＪ46 | Ⅵａ層 | | Ｇ | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)、頸部は隆帯(１条)上に圧痕、胎土はやや密(砂粒少ない、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はミガキ。 |
| 第54図381 | Ｂ区 | ＬＪ46 | Ⅵａ層 | | Ｈ（口） | | | | | 文様は口唇部に刺突、口縁部は、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※補修孔あり |
| 第54図382 | Ｂ区 | ＬＬ47 | Ⅵｂ層 | | Ａ | | | | | 文様は地文が斜行縄文(原体ＬＲの横位回転)、胎土は粗い(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。※補修孔あり |
| 第54図383 | Ｂ区 | ＬＫ48 | Ⅵｂ層 | | Ｂ（口） | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口唇部内側に圧痕、胎土はやや密(砂粒多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい橙、内面調整はナデ。※スス付着 |
| 第55図384 | Ｂ区 | ＬＬ47 | Ⅵｂ層 | | Ａ | | | | | 文様は地文が斜行縄文(原体ＲＬＲの斜位回転と横位回転)、口唇部に圧痕、胎土はやや密(砂粒多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第55図385 | Ｂ区 | ＬＫ47 | Ⅵｂ層 | | Ｂ（網） | | | | | 文様は地文が網目状撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第55図386 | Ｂ区 | ＬＫ46 | Ⅳｂ層 | | Ｂ | 15.4 | | 8.2 | 18.0 | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)、底部に撚糸文(原体Ｌ)、胎土は粗い(砂粒多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調は橙、内面調整は(ヘラ削り後一部ミガキ)。※補修孔あり |
| 第55図387 | Ｂ区 | ＬＪ46 | Ⅵｂ層 | | Ｂ | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。 |
| 第55図388 | Ｂ区 | ＬＫ46 | Ⅵｂ層 | | Ｂ | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第55図389 | Ｂ区 | ＬＫ45 | Ⅵｂ層 | | Ｂ | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第55図390 | Ｂ区 | ＬＪ46 | Ⅵｂ層 | | Ｂ（網・鋸・口） | | | | | 文様は地文が網目状撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口唇部に圧痕、口縁部に鋸歯状の沈線、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第55図391 | Ｂ区 | ＬＫ45 | Ⅵｂ層 | | Ｂ | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)、胎土はやや密(砂粒多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第55図392 | Ｂ区 | ＬＫ47 | Ⅵｂ層 | | Ｄ | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口縁部は綾繰文(原体Ｒ)、胎土は粗い(砂粒多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第55図393 | Ｂ区 | ＬＫ47 | Ⅵｂ層 | | Ｇ | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口縁部は斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)と綾繰文、頸部は隆帯(１条)上に圧痕、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第55図394 | Ｂ区 | ＬＫ46 | Ⅳｂ層 | | Ｇ（口） | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口唇部に圧痕、口縁部は縦行撚糸文(原体Ｒの縦位回転)と横行撚糸文(原体Ｒの横位回転)、頸部は隆帯(１条)上に圧痕、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第56図395 | Ｂ区 | ＬＫ47 | Ⅵｂ層 | | Ｇ | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口唇部は円形刺突文、口縁部は綾繰文と圧痕、頸部は隆帯(１条)上に圧痕、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、調整は入念なミガキ。 |
| 第56図396 | Ｂ区 | ＬＫ46 | Ⅵｂ層 | | Ｇ | | | | | 文様は口唇部に刺突、口縁部に圧痕、頸部は隆帯(１条)上に刺突、胎土は密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調は橙、内面調整はミガキ。 |
| 第56図397 | Ｂ区 | ＬＫ47 | Ⅵｂ層 | | Ｂ（口） | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｒの斜位回転)、口唇部に圧痕、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第56図398 | Ｂ区 | ＬＫ48 | Ⅵｂ層 | | Ｈ | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文、口縁部に絡条体圧痕文(原体Ｌ)、胎土は粗い(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成はあまい、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。※補修孔あり |
| 第56図399 | Ｂ区 | ＬＫ47 | カクラン | | Ｇ | | | | | 文様は地文が斜行撚糸文(原体Ｌの斜位回転)、口唇部に圧痕、頸部は隆帯(１条)上に圧痕、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はミガキ。 |
| 第56図400 | Ａ区 | ＳＴ27　ＭＡ49 | Ⅳａ層 | | 縄文晩期 | | | | | 文様は地文が斜行縄文(原体ＬＲの横位回転)、胎土は密(砂粒やや多い、繊維少ない)、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。 |
| 第56図401 | Ａ区 | ＳＴ27 | Ⅴａ層 | | | | | | | (縄文時代中期円筒上層式土器)、深鉢形土器、波状口縁の波頂部の突起部分か、口縁部は折り返し口縁様、内・外面に細い粘土紐を楕円形(横位)に貼付、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維少ない)、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。 |
| 第56図402 | Ａ区 | ＳＴ27　ＭＡ49 | Ⅴａ層 | | | | | | | (縄文時代中期円筒上層式土器)、深鉢形土器、文様は地文が斜行縄文(原体ＲＬの横位回転)、外面に細い粘土紐を三角形様に貼付、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維少ない)、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。 |
| 第56図403 | Ａ区 | ＳＴ27　ＭＡ49 | Ⅴａ層 | | 縄文晩期 | | | | | 高台部で平行沈線を３条巡らす、胎土は密(砂粒やや多い、繊維少ない)、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。 |
| 第56図404 | Ａ区 | ＳＴ27　ＭＡ48 | Ⅴａ層 | | 縄文晩期 | | | | | 文様は地文が斜行縄文(原体ＲＬの縦位回転)、胎土は密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は硬い、色調はにぶい黄橙、内面調整はナデ。 |
| 第56図405 | Ａ区 | ＳＴ28　ＭＤ54 | Ⅳａ層 | | 縄文晩期 | | | | | 文様は地文が斜行縄文(原体ＬＲの横位回転)、口縁部に沈線(２条)、胎土は密(砂粒やや多い、繊維やや多い)、焼成は普通、色調は灰黄褐、内面調整はナデ、ミガキ。※スス付着 |
| 第56図406 | Ａ区 | ＳＴ28　ＭＣ52 | Ⅳａ層 | | 縄文晩期 | | | | | 文様は地文が斜行縄文(原体ＲＬの横位回転)、口唇部に刺突、口縁部に沈線(３条)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維少ない)、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。 |
| 第56図407 | Ａ区 | ＳＴ28　ＭＣ53 | Ⅳａ層 | | 縄文晩期 | | | | | 文様は地文が斜行縄文(原体ＲＬの縦位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維少ない)、焼成は普通、色調は橙、内面調整はナデ。 |
| 第56図408 | Ａ区 | ＳＴ28　ＭＣ53 | カクラン | | 縄文晩期 | | | | | 文様は地文が斜行縄文(原体ＲＬの縦位回転)、胎土はやや密(砂粒やや多い、繊維少ない)、焼成は普通、色調は明赤褐、内面調整はナデ。 |

## 第13表　土器観察表(11)

### 円盤状土製品

| 挿図番号 | 区 | 遺構・グリッド | 出土層位 | 分類 | 最大径×最大厚(㎜) | 重量(ｇ) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第57図409 | Ａ区 | ＳＩ03　ＭＡ55 | 埋土 | Ａ | 35×　9 | 11.5 | 周縁に磨き。 |
| 第57図410 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ44 | Ⅷ層 | Ａ | 36×10 | 12.7 | 周縁に磨き。 |
| 第57図411 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅸ層 | Ａ | 33×　7 | 7.1 | 周縁に磨き。 |
| 第57図412 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | Ａ | 37×11 | 12.4 | 周縁に磨き。 |
| 第57図413 | Ａ区 | ＳＴ28　ＭＣ52 | Ⅳａ層 | Ａ | 38×12 | 19.3 | 周縁に磨き。 |
| 第57図414 | Ｂ区 | ＬＫ47 | Ⅵｂ層 | Ａ | 38×13 | 10.7 | |
| 第57図415 | Ａ区 | ＳＴ27　ＭＤ49 | Ⅴａ層 | Ｂ | 42×11 | 20.9 | 磨きあり。 |
| 第57図416 | Ｂ区 | ＬＪ47 | Ⅵｂ層 | Ｂ | 47×11 | 22.6 | 磨きあり。 |
| 第57図417 | Ｂ区 | ＬＫ47 | Ⅵｂ層 | Ｂ | 47×10 | 25.4 | 磨きあり。 |
| 第57図418 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ47 | Ⅱｂ層 | Ｃ | 57×13 | 34.6 | 磨きあり。 |
| 第57図419 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ46 | Ⅱｂ層 | Ｃ | 52×14 | 35.4 | 磨きあり。 |
| 第57図420 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ46 | Ⅱｃ層 | Ｃ | 52×12 | 31.4 | |
| 第57図421 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅷ層 | Ｃ | 58×10 | 36.8 | |
| 第57図422 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅸ層 | Ｃ | 54×11 | 28.1 | 磨きあり。 |
| 第57図423 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＲ44 | Ⅸ層 23ﾄﾚ | Ｃ | 53×15 | 40.6 | 磨きあり。 |
| 第57図424 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅸ層 | Ｃ | 54×11 | 29.0 | |
| 第57図425 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅸ層 | Ｃ | 50×11 | 29.2 | |
| 第58図426 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | | Ｃ | 55×13 | 27.3 | 磨きあり。 |
| 第58図427 | Ａ区 | ＳＴ27　ＭＡ50 | Ⅴａ層 | Ｃ | 50×11 | 22.8 | 磨きあり。 |
| 第58図428 | Ａ区 | ＳＴ27　ＭＢ50 | Ⅴａ層 | Ｃ | 51×12 | 25.3 | |
| 第58図429 | Ｂ区 | ＬＫ46 | Ⅵｂ層 | Ｃ | 58×13 | 42.3 | 磨きあり。 |
| 第58図430 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅷ層 | Ｄ | 60×10 | 29.3 | |
| 第58図431 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＰ45 | Ⅸ層 | Ｄ | 60×11 | 31.2 | |
| 第58図432 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＲ44 | Ⅸ層 | Ｄ | 60×11 | 47.9 | 内外面に「ス ス」が付着。 |
| 第58図433 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | Ｄ | 61×10 | 34.2 | 磨きあり。 |
| 第58図434 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | Ｄ | 66×16 | 45.5 | 底部破片。 |
| 第58図435 | Ａ区 | ＳＴ27　ＭＡ49 | Ⅴａ層 | Ｄ | 66×12 | 50.1 | 磨きあり。 |
| 第58図436 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | Ｅ | 111×10 | 138.9 | 周縁に磨き。 |

### 土　製　品

| 挿図番号 | 区 | 遺構・グリッド | 出土層位 | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|
| 第22図86 | Ａ区 | ＳＴ04 | Ⅳ層 | |
| 第46図273 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅸ層 | (土偶の足) |

# 第14表　剥片石器類観察表（１）

**石鏃**

| 挿図番号 | 区名 | 遺構・グリッド名 | 出土層位 | 器種 | 分類 | 長さ（㎜） | 幅（㎜） | 厚さ(㎜) | 重量（ｇ） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第59図S1 | Ａ区 | ＳＫＴ01 | | 石鏃 | 4 | 31.3 | 20.0 | 5.5 | 2.8 |
| 第59図S6 | Ａ区 | ＳＩ03　ＭＡ55 | 埋土 | 石鏃 | 1 | 33.3 | 15.5 | 4.9 | 2.3 |
| 第60図S7 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ54 | Ⅰ層 | 石鏃 | 2 | 32.7 | 14.1 | 3.8 | 1.4 |
| 第61図S14 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ47 | Ⅱｂ層 | 石鏃 | 2 | 43.6 | 21.4 | 7.2 | 6.9 |
| 第61図S15 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ46 | Ⅱｂ層 | 石鏃 | 2 | 49.0 | 20.1 | 5.2 | 4.7 |
| 第61図S16 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ48 | Ⅱｂ層 | 石鏃 | 3 | 39.1 | 16.3 | 4.1 | 2.8 |
| 第61図S17 | Ａ区 | ＳＴ04　ＭＡ56 | Ⅱｂ層 | 石鏃 | 3 | 30.6 | 15.4 | 5.7 | 2.3 |
| 第63図S29 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｃ層 | 石鏃 | 2 | 49.8 | 22.4 | 6.2 | 5.5 |
| 第63図S30 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ46 | Ⅱｃ層 | 石鏃 | 2 | 44.2 | 18.2 | 5.8 | 4.3 |
| 第63図S31 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｃ層 | 石鏃 | 1 | 27.1 | 17.1 | 2.6 | 1.3 |
| 第63図S32 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅱｃ層 | 石鏃 | 3 | 32.5 | 14.8 | 4.8 | 2.4 |
| 第63図S33 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ46 | Ⅱｃ層 | 石鏃 | 3 | 43.0 | 17.5 | 4.4 | 3.3 |
| 第63図S34 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ47 | Ⅱｃ層 | 石鏃 | 1 | 34.7 | 19.7 | 4.5 | 3.1 |
| 第66図S55 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ46 | Ⅳｆ層 | 石鏃 | 4 | 33.8 | 15.7 | 4.3 | 2.3 |
| 第67図S66 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅷ層 | 石鏃 | 2 | 37.9 | 16.5 | 4.5 | 2.3 |
| 第68図S70 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅰ層 | 石鏃 | 1 | 30.2 | 14.5 | 3.0 | 1.4 |
| 第68図S74 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | 石鏃 | 3 | 40.4 | 20.3 | 4.5 | 3.8 |
| 第68図S75 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | 石鏃 | 3 | 32.1 | 17.5 | 4.5 | 2.4 |
| 第68図S76 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ51 | Ⅱ層 | 石鏃 | 3 | 40.4 | 25.1 | 9.5 | 9.3 |
| 第68図S77 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | 石鏃 | 1 | 47.1 | 17.0 | 3.5 | 2.6 |
| 第68図S78 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | 石鏃 | 3 | 48.5 | 18.4 | 6.2 | 5.0 |
| 第69図S87 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ51 | Ⅲ層 | 石鏃 | 3 | 48.8 | 21.6 | 6.2 | 6.1 |
| 第70図S94 | Ａ区 | ＳＴ27　ＭＣ53 | Ⅳａ層 | 石鏃 | 2 | 40.6 | 18.8 | 4.4 | 2.9 |
| 第70図S95 | Ａ区 | ＳＴ27　ＭＡ49 | Ⅴａ層 | 石鏃 | 3 | 38.9 | 18.0 | 6.3 | 4.1 |
| 第71図S102 | Ａ区 | ＳＴ28　ＭＢ52 | Ⅳａ層 | 石鏃 | 4 | 48.3 | 18.5 | 5.4 | 4.1 |
| 第71図S106 | Ａ区 | ＳＴ28　ＭＢ52 | Ⅴａ層 | 石鏃 | 2 | 44.1 | 16.3 | 5.5 | 3.8 |
| 第71図S107 | Ａ区 | ＳＴ28　ＭＢ52 | Ⅴａ層 | 石鏃 | 2 | 26.1 | 8.0 | 2.7 | 0.5 |
| 第72図S112 | Ａ区 | ＭＡ49 | トレンチ排土 | 石鏃 | 1 | 51.5 | 21.0 | 6.0 | 5.6 |
| 第73図S121 | Ｂ区 | ＬＬ44 | Ⅳａ層 | 石鏃 | 1 | 33.9 | 21.9 | 5.7 | 3.4 |
| 第73図S122 | Ｂ区 | ＬＪ46 | Ⅵａ層 | 石鏃 | 4 | 34.5 | 16.0 | 6.0 | 2.9 |

**石槍**

| 挿図番号 | 区名 | 遺構・グリット名 | 出土層位 | 器種 | 長さ（㎜） | 幅（㎜） | 厚さ（㎜） | 重量（ｇ） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第66図S60 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅳｆ層 | 石槍 | 93.5 | 32.7 | 13.1 | 42.3 |
| 第70図S89 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅲ層 | 石槍 | 68.1 | 27.4 | 10.1 | 17.6 |
| 第72図S118 | Ａ区 | 東側斜面 | 排土中 | 石槍 | 72.6 | 31.9 | 13.1 | 27.7 |
| 第73図S123 | Ｂ区 | ＬＬ48 | Ⅵａ層 | 石槍 | 98.6 | 45.5 | 16.3 | 57.1 |
| 第74図S132 | Ｂ区 | ＬＫ47 | Ⅵｂ層 | 石槍 | 112.6 | 29.3 | 13.9 | 40.4 |

**石錐**

| 挿図番号 | 区名 | 遺構・グリッド名 | 出土層位 | 器種 | 長さ（㎜） | 幅（㎜） | 厚さ（㎜） | 重量（ｇ） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第59図S4 | Ａ区 | ＳＫＴ05 | | 石錐 | 59.4 | 20.9 | 8.4 | 7.6 |
| 第60図S9 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ47 | Ⅰ層 | 石錐 | 80.8 | 50.4 | 15.7 | 45.6 |
| 第62図S25 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｂ層 | 石錐 | 82.4 | 27.4 | 19.1 | 34.9 |
| 第65図S47 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｃ層 | 石錐 | 85.6 | 34.6 | 19.6 | 46.9 |
| 第65図S48 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｃ層 | 石錐 | 91.5 | 22.6 | 14.7 | 24.0 |
| 第67図S65 | Ａ区 | ＳＴ04　ＭＡ44 | Ⅳｆ層 | 石錐 | 66.6 | 23.8 | 9.0 | 12.2 |
| 第68図S71 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅰ層 | 石錐 | 78.3 | 39.0 | 36.6 | 69.4 |
| 第69図S81 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ51 | Ⅱ層 | 石錐 | 44.5 | 37.3 | 9.9 | 12.3 |
| 第70図S91 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ51 | Ⅲ層 | 石錐 | 74.2 | 53.3 | 20.8 | 48.8 |
| 第70図S96 | Ａ区 | ＳＴ27　ＭＡ49 | Ⅴａ層 | 石錐 | 62.8 | 24.1 | 20.5 | 20.8 |
| 第71図S100 | Ａ区 | ＳＴ28　ＭＢ43 | Ⅳ層 | 石錐 | 32.4 | 29.9 | 6.6 | 4.7 |
| 第72図S114 | Ａ区 | ＬＴ48 | 撹乱 | 石錐 | 43.5 | 25.7 | 8.6 | 5.7 |
| 第72図S115 | Ａ区 | ＭＢ48 | 撹乱 | 石錐 | 58.4 | 41.3 | 15.7 | 24.6 |
| 第73図S125 | Ｂ区 | ＬＪ46 | Ⅵａ層 | 石錐 | 57.5 | 59.1 | 12.7 | 29.2 |
| 第73図S126 | Ｂ区 | ＬＪ47 | Ⅵａ層 | 石錐 | 65.1 | 43.1 | 8.0 | 13.9 |

**石匙**

| 挿図番号 | 区名 | 遺構・グリッド名 | 出土層位 | 器種 | 長さ（㎜） | 幅（㎜） | 厚さ（㎜） | 重量（ｇ） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第59図S5 | Ａ区 | ＳＫＴ05 | | 石匙 | 57.8 | 43.3 | 8.9 | 18.2 |
| 第60図S8 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ47 | Ⅰ層 | 石匙 | 108.6 | 23.1 | 15.5 | 26.8 |
| 第60図S11 | Ａ区 | ＳＴ04　ＭＢ44 | Ⅱ層 | 石匙 | 71.3 | 26.6 | 9.2 | 13.7 |
| 第60図S12 | Ａ区 | ＳＴ04　ＭＢ43 | Ⅱ層 | 石匙 | 55.6 | 50.4 | 8.1 | 15.1 |
| 第61図S19 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ46 | Ⅱｂ層 | 石匙 | 50.4 | 40.3 | 8.2 | 16.6 |
| 第61図S20 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ47 | Ⅱｂ層 | 石匙 | 43.0 | 52.1 | 9.1 | 15.3 |
| 第61図S21 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ46 | Ⅱｂ層 | 石匙 | 65.1 | 26.9 | 9.6 | 15.9 |
| 第62図S22 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅱｂ層 | 石匙 | 83.6 | 25.9 | 6.7 | 20.5 |
| 第62図S24 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅱｂ層 | 石匙 | 90.3 | 20.8 | 8.2 | 19.6 |
| 第64図S36 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｃ層 | 石匙 | 95.3 | 26.6 | 9.8 | 27.1 |
| 第64図S37 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｃ層 | 石匙 | 101.2 | 22.9 | 10.1 | 24.2 |
| 第64図S38 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｃ層 | 石匙 | 82.0 | 24.8 | 9.6 | 19.3 |
| 第64図S39 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ46 | Ⅱｃ層 | 石匙 | 64.2 | 30.5 | 8.4 | 17.6 |
| 第64図S40 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅱｃ層 | 石匙 | 71.0 | 28.7 | 8.6 | 17.3 |
| 第64図S41 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅱｃ層 | 石匙 | 74.2 | 30.0 | 9.4 | 23.0 |
| 第64図S42 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅱｃ層 | 石匙 | 40.0 | 49.5 | 6.2 | 9.3 |
| 第65図S53 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅱｄ層 | 石匙 | 91.8 | 27.6 | 13.1 | 26.2 |
| 第66図S56 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅳｆ層 | 石匙 | 77.3 | 26.0 | 10.5 | 18.8 |
| 第66図S57 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅳｆ層 | 石匙 | 75.2 | 37.6 | 7.8 | 13.4 |
| 第66図S58 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅳｆ層 | 石匙 | 76.4 | 31.8 | 10.3 | 23.7 |
| 第66図S59 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅳｆ層 | 石匙 | 56.0 | 39.9 | 9.1 | 17.7 |
| 第67図S67 | Ａ区 | ＳＴ04　ＬＲ40 | Ⅷ層 | 石匙 | 58.0 | 34.0 | 8.8 | 19.0 |
| 第68図S72 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＬ53 | Ⅰ層 | 石匙 | 78.2 | 36.1 | 10.7 | 25.6 |
| 第70図S88 | Ａ区 | ＳＴ15　ＬＭ51 | Ⅲ層 | 石匙 | 50.6 | 48.3 | 11.5 | 15.5 |
| 第70図S93 | Ａ区 | ＳＴ27　ＭＡ45 | Ⅱｃ層 | 石匙 | 78.5 | 34.2 | 9.3 | 25.5 |
| 第70図S98 | Ａ区 | ＳＴ27　ＭＡ49 | Ⅴａ層 | 石匙 | 51.5 | 52.4 | 9.1 | 18.7 |
| 第70図S99 | Ａ区 | ＳＴ27　ＭＤ48 | Ⅴｂ層 | 石匙 | 60.6 | 38.4 | 10.0 | 19.2 |
| 第71図S103 | Ａ区 | ＳＴ28　ＭＢ52 | Ⅳａ層 | 石匙 | 70.1 | 25.2 | 9.9 | 15.3 |
| 第71図S108 | Ａ区 | ＳＴ28　ＭＢ54 | Ⅴａ層 | 石匙 | 72.8 | 57.4 | 10.5 | 36.8 |
| 第72図S111 | Ａ区 | ＬＳ47 | Ⅰ層 | 石匙 | 95.3 | 27.7 | 13.7 | 35.5 |
| 第72図S116 | Ａ区 | ＭＢ52 | 撹乱 | 石匙 | 69.9 | 54.4 | 12.3 | 24.2 |
| 第73図S120 | Ｂ区 | ＬＫ48 | Ⅱ層 | 石匙 | 59.3 | 38.3 | 22.1 | 39.9 |
| 第74図S127 | Ｂ区 | ＬＫ46 | Ⅵａ層 | 石匙 | 55.7 | 22.4 | 10.2 | 6.9 |
| 第74図S128 | Ｂ区 | ＬＫ46 | Ⅵａ層 | 石匙 | 64.1 | 48.6 | 12.6 | 15.6 |
| 第74図S134 | Ｂ区 | ＬＪ46 | Ⅵｂ層 | 石匙 | 68.5 | 41.6 | 8.8 | 18.8 |

# 第15表　剥片石器類観察表（２）

**石篦**

| 挿図番号 | 区名 | 遺構・グリッド名 | 出土層位 | 器種 | 長さ（㎜） | 幅（㎜） | 厚さ（㎜） | 重量（ｇ） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第60図S13 | A区 | ＳＴ04　MD53 | Ⅱ層 | 石篦 | 98.0 | 34.9 | 18.2 | 56.3 |
| 第61図S18 | A区 | ＳＴ04　MA56 | Ⅱｂ層 | 石篦 | 93.4 | 45.4 | 20.5 | 74.6 |
| 第63図S35 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｃ層 | 石篦 | 110.9 | 33.9 | 18.9 | 69.5 |
| 第65図S51 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｃ層 | 石篦 | 80.7 | 38.8 | 17.3 | 47.7 |
| 第65図S52 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅱｃ層 | 石篦 | 50.9 | 33.2 | 12.6 | 22.6 |
| 第66図S61 | A区 | ＳＴ04　MA43 | Ⅳｆ層 | 石篦 | 88.0 | 53.5 | 28.3 | 125.7 |
| 第67図S68 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅷ層 | 石篦 | 64.2 | 36.8 | 12.8 | 20.4 |
| 第67図S69 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅸ層 | 石篦 | 60.3 | 45.1 | 19.3 | 46.3 |
| 第68図S73 | A区 | ＳＴ15　ＬM52 | Ⅰ層 | 石篦 | 133.3 | 54.8 | 26.4 | 155.1 |
| 第69図S79 | A区 | ＳＴ15 | Ⅱ層 | 石篦 | 105.4 | 38.0 | 19.4 | 73.8 |
| 第69図S82 | A区 | ＳＴ15　ＬM52 | Ⅱ層 | 石篦 | 66.8 | 34.8 | 17.3 | 31.3 |
| 第70図S90 | A区 | ＳＴ15　ＬM52 | Ⅲ層 | 石篦 | 96.0 | 29.4 | 20.2 | 57.2 |
| 第71図S105 | A区 | ＳＴ28　MB54 | Ⅴａ層 | 石篦 | 91.3 | 30.9 | 15.2 | 43.5 |
| 第72図S113 | A区 | MB52 | 撹乱 | 石篦 | 94.8 | 31.6 | 13.8 | 42.1 |
| 第72図S117 | A区 | MB53 | 撹乱 | 石篦 | 86.2 | 39.3 | 19.6 | 76.6 |
| 第73図S124 | B区 | ＬＪ47 | Ⅵａ層 | 石篦 | 102.5 | 41.7 | 19.4 | 82.6 |

**有撮石器**

| 挿図番号 | 区名 | 遺構・グリッド名 | 出土層位 | 器種 | 長さ（㎜） | 幅（㎜） | 厚さ（㎜） | 重量（ｇ） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第59図S3 | A区 | ＳＫＴ02 | | 有撮石器 | 87.7 | 38.8 | 11.5 | 28.0 |
| 第62図S23 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｂ層 | 有撮石器 | 87.7 | 29.6 | 10.7 | 29.6 |
| 第69図S80 | A区 | ＳＴ15　ＬM52 | Ⅱ層 | 有撮石器 | 96.5 | 39.0 | 12.9 | 49.7 |

**削器**

| 挿図番号 | 区名 | 遺構・グリッド名 | 出土層位 | 器種 | 分類 | 長さ（㎜） | 幅（㎜） | 厚さ（㎜） | 重量（ｇ） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第59図S2 | A区 | ＳＫＴ01 | | 削器 | 7 | 59.8 | 37.3 | 11.2 | 20.6 |
| 第62図S27 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｂ層 | 削器 | 4 | 94.3 | 47.2 | 13.5 | 61.0 |
| 第62図S28 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ47 | Ⅱｂ層 | 削器 | 2 | 78.7 | 30.1 | 12.4 | 18.4 |
| 第65図S50 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｃ層 | 削器 | 2 | 102.1 | 40.5 | 15.4 | 49.3 |
| 第65図S49 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｃ層 | 削器 | 6 | 59.5 | 49.8 | 14.6 | 40.7 |
| 第66図S54 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅳ層 | 削器 | 8 | 43.4 | 30.9 | 5.8 | 7.7 |
| 第67図S62 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅳｆ層 | 削器 | 3 | 98.0 | 52.5 | 16.7 | 59.9 |
| 第67図S63 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ46 | Ⅳｆ層 | 削器 | 5 | 77.9 | 52.8 | 16.0 | 84.8 |
| 第69図S83 | A区 | ＳＴ15　ＬM51 | Ⅱ層 | 削器 | 1 | 59.4 | 25.2 | 9.8 | 15.4 |
| 第69図S84 | A区 | ＳＴ15　ＬM52 | Ⅱ層 | 削器 | 6 | 34.5 | 40.6 | 7.6 | 10.5 |
| 第69図S85 | A区 | ＳＴ15　ＬM52 | Ⅱ層 | 削器 | 3 | 83.0 | 41.3 | 14.0 | 25.5 |
| 第70図S92 | A区 | ＳＴ15　ＬM51 | | 削器 | 8 | 58.3 | 41.9 | 9.7 | 14.7 |
| 第70図S97 | A区 | ＳＴ27　ＬＴ51 | Ⅴａ層 | 削器 | 4 | 56.7 | 25.4 | 7.6 | 11.1 |
| 第71図S104 | A区 | ＳＴ28　MC53 | Ⅳａ層 | 削器 | 1 | 97.0 | 25.8 | 14.2 | 21.1 |
| 第71図S109 | A区 | ＳＴ28　MD52 | Ⅴａ層 | 削器 | 4 | 66.0 | 31.7 | 9.5 | 17.6 |
| 第71図S110 | A区 | ＳＴ28　MB54 | Ⅴａ層 | 削器 | 8 | 58.0 | 50.7 | 11.4 | 22.7 |
| 第72図S119 | A区 | 東側斜面 | 排土中 | 削器 | 5 | 66.0 | 39.7 | 15.7 | 37.2 |
| 第74図S129 | B区 | ＬＫ46 | Ⅵａ層 | 削器 | 1 | 76.4 | 38.6 | 13.8 | 36.3 |
| 第74図S130 | B区 | ＬＪ46 | Ⅵａ層 | 削器 | 6 | 50.9 | 36.0 | 7.9 | 11.6 |
| 第74図S133 | B区 | ＬＪ46 | Ⅵｂ層 | 削器 | 7 | 56.8 | 50.2 | 12.8 | 26.9 |

**剥片**

| 挿図番号 | 区名 | 遺構・グリッド名 | 出土層位 | 器種 | 分類 | 長さ（㎜） | 幅（㎜） | 厚さ（㎜） | 重量（ｇ） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第71図S101 | A区 | ＳＴ28　MC53 | Ⅳ層 | 剥片 | | 52.7 | 40.1 | 8.3 | 8.4 |

**掻器**

| 挿図番号 | 区名 | 遺構・グリッド名 | 出土層位 | 器種 | 分類 | 長さ（㎜） | 幅（㎜） | 厚さ（㎜） | 重量（ｇ） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第60図S10 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ46 | Ⅰ層 | 掻器 | 4 | 55.2 | 50.5 | 14.9 | 31.7 |
| 第62図S26 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｂ層 | 掻器 | 4 | 63.4 | 55.3 | 21.5 | 63.7 |
| 第64図S43 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅱｃ層 | 掻器 | 3 | 55.4 | 36.9 | 12.3 | 21.1 |
| 第64図S44 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅱｃ層 | 掻器 | 1 | 88.0 | 45.0 | 18.7 | 48.1 |
| 第64図S45 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ47 | Ⅱｃ層 | 掻器 | 1 | 69.2 | 28.8 | 14.4 | 12.5 |
| 第64図S46 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｃ層 | 掻器 | 3 | 41.1 | 26.9 | 8.7 | 9.0 |
| 第67図S64 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ46 | Ⅳｆ層 | 掻器 | 3 | 50.9 | 39.9 | 12.2 | 24.0 |
| 第69図S86 | A区 | ＳＴ15　ＬM52 | Ⅱ層 | 掻器 | 2 | 106.5 | 62.5 | 22.6 | 129.1 |
| 第74図S131 | B区 | ＬＫ46 | Ⅵａ層 | 掻器 | 1 | 76.2 | 38.3 | 15.7 | 42.1 |

**磨製石斧**

| 挿図番号 | 区名 | 遺構・グリッド名 | 出土層位 | 器種 | 長さ（cm） | 幅（cm） | 厚さ（cm） | 重量（ｇ） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第75図S140 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ47 | Ⅱ層 | 磨製石斧 | (5.4) | (3.5) | (2.7) | 75.2 |
| 第76図S152 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ47 | Ⅱｃ層 | 磨製石斧 | (7.0) | (4.8) | (1.7) | 69.2 |
| 第77図S161 | A区 | ＳＴ04　MA43 | Ⅳｆ層 | 磨製石斧 | (7.3) | (6.3) | (2.9) | 224.7 |
| 第79図S174 | A区 | ＳＴ04　ＬＰ45 | Ⅸ層 | 磨製石斧 | (4.7) | (5.4) | (2.8) | 111.3 |
| 第79図S177 | A区 | ＳＴ04　ＬＯ45 | Ⅸ層 | 磨製石斧 | 4.8 | (3.6) | (2.4) | 65.1 |
| 第81図S191 | A区 | ＳＴ15　ＬM51 | Ⅱ層 | 磨製石斧 | (6.4) | (4.3) | (1.8) | 65.3 |
| 第81図S198 | A区 | ＳＴ27　ＬＳ51 | Ⅴａ層 | 磨製石斧 | (5.7) | (4.0) | (3.8) | 126.2 |
| 第81図S199 | A区 | ＳＴ27　MB49 | Ⅴａ層 | 磨製石斧 | (6.4) | (4.4) | (2.7) | 118.6 |
| 第85図S229 | B区 | ＬＬ48 | Ⅵａ層 | 磨製石斧 | (7.8) | (4.6) | (2.6) | 166.8 |
| 第86図S239 | B区 | ＬＫ46 | Ⅵｂ層 | 磨製石斧 | 11.3 | 5.5 | 3.0 | 314.7 |
| 第86図S243 | B区 | ＬＫ47 | Ⅵｂ層 | 磨製石斧 | 10.3 | 5.3 | 16.0 | 115.7 |

# 第16表　礫石器類観察表（１）

**打製石斧**

| 挿図番号 | 区名 | 遺構・グリッド名 | 出土層位 | 器種 | 分類 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第75図S138 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅰ層 | 打製石斧 | | 15.3 | 10.8 | 2.8 | 543.2 | |

**半円状扁平打製石器**

| 挿図番号 | 区名 | 遺構・グリッド名 | 出土層位 | 器種 | 分類 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第75図S136 | A区 | ＳＫＴ02 | | 半円状扁平打製石器 | 6－b | 11.8 | (6.8) | 2.6 | 223.0 | 半分欠損。 |
| 第75図S142 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ46 | Ⅱ層 | 半円状扁平打製石器 | 2－a | 7.7 | 16.8 | 1.8 | 328.8 | |
| 第75図S144 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ43 | Ⅱ層 | 半円状扁平打製石器 | 2－b | 7.3 | 1.5 | 2.0 | 315.1 | |
| 第76図S146 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ47 | Ⅱｂ層 | 半円状扁平打製石器 | 4－b | 9.4 | 13.8 | 2.1 | 400.0 | 一部欠損。 |
| 第76図S147 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ47 | Ⅱｂ層 | 半円状扁平打製石器 | 6－a | 8.1 | 14.9 | 2.1 | 428.9 | |
| 第76図S148 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ47 | Ⅱｂ層 | 半円状扁平打製石器 | 6－a | 9.6 | 13.4 | 2.0 | 420.1 | |
| 第76図S149 | A区 | ＳＴ04　ＭＡ46 | Ⅱｂ層 | 半円状扁平打製石器 | 6－a | 7.1 | 15.0 | 1.3 | 202.3 | |
| 第76図S151 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ46 | Ⅱｃ層 | 半円状扁平打製石器 | 2 | 7.4 | 12.6 | 2.0 | 251.3 | |
| 第76図S153 | A区 | ＳＴ04　ＬＰ44 | Ⅱｃ層 | 半円状扁平打製石器 | 3－b | 8.2 | 15.0 | 2.3 | 476.4 | 一部欠損。 |
| 第76図S154 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ46 | Ⅱｃ層 | 半円状扁平打製石器 | 6－b | 8.6 | 13.2 | 2.8 | 444.6 | |
| 第76図S155 | A区 | ＳＴ04　ＬＰ45 | Ⅱｃ層 | 半円状扁平打製石器 | 7－e | 7.9 | (7.9) | 2.0 | 180.7 | 一部欠損。 |
| 第78図S167 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ44 | Ⅷ層 | 半円状扁平打製石器 | 3－b | 7.2 | 11.7 | 2.2 | 314.0 | |
| 第78図S169 | A区 | ＳＴ04　ＭＡ43 | Ⅷ層 | 半円状扁平打製石器 | 6－a | 11.8 | 13.9 | 2.4 | 475.0 | 一部欠損。 |
| 第79図S175 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ44 | Ⅸ層 | 半円状扁平打製石器 | 5 | 10.6 | 13.5 | 2.6 | 562.0 | 一部欠損。 |
| 第79図S176 | A区 | ＳＴ04　ＬＱ45 | Ⅸ層 | 半円状扁平打製石器 | 6－b | 10.1 | 13.1 | 2.4 | 429.2 | |
| 第79図S178 | A区 | ＳＴ04　ＬＰ45 | Ⅸ層 | 半円状扁平打製石器 | 6－b | 7.4 | (11.1) | 32.5 | 378.0 | 一部欠損。 |
| 第79図S179 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅸ層 ベルト内 | 半円状扁平打製石器 | 6－b | 11.6 | 13.3 | 2.5 | 599.0 | |
| 第79図S180 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅸ層 | 半円状扁平打製石器 | 4－a | (24.7) | 16.2 | 3.4 | 2009.6 | 一部欠損。 |
| 第79図S181 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ44 | Ⅸ層 | 半円状扁平打製石器 | 6－b | 11.2 | (8.0) | 2.7 | 268.2 | 半分欠損。 |
| 第80図S190 | A区 | ＳＴ04 | | 半円状扁平打製石器 | 4－c | 7.2 | 13.2 | 2.0 | 248.2 | |
| 第81図S192 | A区 | ＳＴ15　ＬＭ51 | Ⅱ層 | 半円状扁平打製石器 | 4－a | 11.0 | 13.3 | 2.4 | 522.3 | |
| 第81図S193 | A区 | ＳＴ15　ＬＭ53 | Ⅱ層 | 半円状扁平打製石器 | 1－a | 8.5 | 14.9 | 1.9 | 387.1 | |
| 第81図S196 | A区 | ＳＴ15 | 排土中 | 半円状扁平打製石器 | 3－a | 10.1 | 14.4 | 2.3 | 547.3 | |
| 第81図S197 | A区 | ＳＴ15 | 排土中 | 半円状扁平打製石器 | 6－b | 10.2 | 12.1 | 2.0 | 342.8 | |
| 第81図S200 | A区 | ＳＴ27　ＬＴ51 | Ⅴａ層 | 半円状扁平打製石器 | 6－a | 8.1 | 12.7 | 1.5 | 241.1 | 一部欠損。 |
| 第81図S201 | A区 | ＳＴ27　ＬＴ51 | Ⅴａ層 | 半円状扁平打製石器 | 6－a | 8.4 | 14.8 | 2.6 | 383.5 | |
| 第81図S202 | A区 | ＳＴ27　ＭＢ50 | Ⅴａ層 | 半円状扁平打製石器 | 6－a | 11.0 | 16.8 | 2.8 | 651.9 | |
| 第82図S203 | A区 | ＳＴ27　ＭＡ50 | Ⅴａ層 | 半円状扁平打製石器 | 6－b | 13.1 | 19.5 | 2.8 | 1047.7 | |
| 第82図S204 | A区 | ＳＴ27　ＭＢ50 | Ⅴａ層 | 半円状扁平打製石器 | 4－c | 10.6 | 16.3 | 2.9 | 761.5 | |
| 第82図S205 | A区 | ＳＴ27　ＭＢ49 | Ⅴａ層 | 半円状扁平打製石器 | 6－b | 7.6 | 11.7 | 1.9 | 256.8 | |
| 第82図S206 | A区 | ＳＴ27　ＭＢ49 | Ⅴａ層 | 半円状扁平打製石器 | 6－b | 9.4 | 12.9 | 2.7 | 412.7 | |
| 第83図S216 | A区 | ＳＴ28　ＭＣ54 | Ⅴａ層 | 半円状扁平打製石器 | 6－a | 11.3 | 13.3 | 2.4 | 414.1 | 一部欠損。 |
| 第83図S217 | A区 | ＳＴ28　ＭＢ54 | Ⅴａ層 | 半円状扁平打製石器 | 6－a | 10.6 | 12.1 | 2.3 | 458.6 | 一部欠損。 |
| 第83図S218 | A区 | ＳＴ28　ＭＯ54 | Ⅴａ層 | 半円状扁平打製石器 | 6－b | 10.7 | 15.9 | 3.1 | 609.0 | |
| 第83図S219 | A区 | ＳＴ28　ＭＢ54 | Ⅴａ層 | 半円状扁平打製石器 | 6－a | 10.7 | 15.1 | 2.5 | 600.9 | |
| 第83図S220 | A区 | ＳＴ28　ＭＢ54 | Ⅴａ層 | 半円状扁平打製石器 | 6－b | 11.0 | 14.2 | 2.0 | 476.3 | |
| 第83図S221 | A区 | ＳＴ28　ＭＤ52 | Ⅴａ層 | 半円状扁平打製石器 | 6－b | 8.2 | 13.5 | 1.7 | 345.0 | |
| 第84図S222 | A区 | ＭＢ52 | Ⅱ層 | 半円状扁平打製石器 | 6－b | 10.3 | 13.5 | 1.8 | 426.2 | |
| 第84図S223 | A区上 | ＭＣ52 | Ⅱ層 | 半円状扁平打製石器 | 6－b | 10.8 | 16.9 | 3.4 | 776.2 | |
| 第84図S224 | A区上 | ＭＣ52 | 撹乱 | 半円状扁平打製石器 | 3－a | 12.2 | 12.7 | 2.3 | 493.3 | |
| 第84図S225 | A区 | ＭＢ47 | 排土 | 半円状扁平打製石器 | 6－b | 9.7 | 15.4 | 3.3 | 623.7 | |
| 第84図S226 | A区 | ＭＢ47 | 排土 | 半円状扁平打製石器 | 6－a | 10.8 | 16.7 | 2.0 | 521.9 | |
| 第84図S227 | A区 | ＭＣ53 | 撹乱 | 半円状扁平打製石器 | 7－e | 7.8 | (10.6) | 2.2 | 287.1 | 一部欠損。 |
| 第85図S230 | B区 | ＬＬ46 | Ⅵａ層 | 半円状扁平打製石器 | 5 | 8.9 | 13.8 | 1.8 | 363.0 | |
| 第85図S231 | B区 | ＬＬ45 | Ⅵａ層 18トレ拡張 | 半円状扁平打製石器 | 5 | 8.9 | (13.5) | 2.5 | 392.5 | |
| 第85図S232 | B区 | ＬＪ47 | Ⅵａ層 | 半円状扁平打製石器 | 6－a | 8.6 | 14.3 | 2.0 | 368.0 | |
| 第85図S233 | B区 | ＬＬ49 | Ⅵａ層 | 半円状扁平打製石器 | 6－b | 10.6 | 13.5 | 2.5 | 475.0 | |
| 第85図S234 | B区北 | ＬＬ45 | Ⅵａ層 18トレ拡張 | 半円状扁平打製石器 | 6－b | 9.7 | 11.5 | 2.2 | 317.2 | 一部欠損。 |
| 第85図S235 | B区 | ＬＫ46 | Ⅵａ層 | 半円状扁平打製石器 | 6－b | 8.8 | 12.5 | 2.1 | 333.4 | |
| 第86図S242 | B区 | ＬＪ46 | Ⅵｂ層 | 半円状扁平打製石器 | 1－b | 8.1 | 10.2 | 1.9 | 257.7 | |

**擦石・凹石・敲石**

| 挿図番号 | 区名 | 遺構・グリッド名 | 出土層位 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第75図S139 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ48 | Ⅰ層 | 凹石 | (13.6) | 5.2 | 4.2 | 334.2 | |
| 第76図S150 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ46 | Ⅱｂ層 | 擦石(凹石・磨石) | (10.3) | 5.8 | 5.3 | 372.8 | |
| 第80図S185 | A区 | ＳＴ04　ＬＰ44 | Ⅸ層 | 擦石（敲石） | (13.2) | 4.9 | 2.7 | 274.7 | |
| 第82図S207 | A区 | ＳＴ27　ＭＡ49 | Ⅴａ層 | 擦石 | 15.4 | 6.7 | 3.2 | 498.0 | |
| 第82図S208 | A区 | ＳＴ27　ＬＴ50 | Ⅴａ層 | 擦石（敲石） | (19.3) | 5.1 | 3.8 | 533.6 | |
| 第85図S228 | B区 | ＳＤ23 | 1層 | 凹石 | 14.9 | 7.3 | 3.3 | 472.2 | |
| 第86図S236 | B区 | ＬＫ47 | Ⅵｂ層 | 凹石 | (6.7) | 4.3 | 2.4 | 88.2 | |

**砥石**

| 挿図番号 | 区名 | 遺構・グリッド名 | 出土層位 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第75図S135 | | ＳＩ21Ｐ２ | ＲＱ１ | 砥石 | (12) | (9) | 7 | 599.0 | |
| 第80図S184 | A区 | ＳＴ04　ＬＰ45 | Ⅸ層 | 砥石 | 11 | (16) | 7 | 1447.0 | |

**ナタ状礫石器**

| 挿図番号 | 区名 | 遺構・グリッド名 | 出土層位 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第77図S156 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ46 | Ⅱｃ層 | ナタ状礫石器 | 10.7 | (20.1) | 3.4 | 669.4 | |

**凹石**

| 挿図番号 | 区名 | 遺構・グリッド名 | 出土層位 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第75図S137 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ47 | Ⅰ層 | 凹石 | (11.0) | 5.3 | 4.0 | 308.9 | |
| 第75図S143 | A区 | ＳＴ04　ＭＡ45 | Ⅱ層 | 凹石 | 7.3 | 6.5 | 4.5 | 273.8 | |
| 第75図S145 | A区 | ＳＴ04　ＬＱ47 | Ⅱ層 | 凹石 | 6.6 | | 3.9 | 192.8 | |
| 第77図S157 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｃ層 | 凹石 | (9.4) | 5.7 | 3.4 | 110.8 | |
| 第77図S158 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｃ層 | 凹石 | (7.8) | 4.5 | 2.5 | 302.7 | |
| 第79図S183 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅸ層 | 凹石 | (9.6) | 4.8 | 2.0 | 118.2 | |
| 第82図S209 | A区 | ＳＴ27　ＬＴ50 | Ⅴａ層 | 凹石 | 18.9 | 4.7 | 3.8 | 310.0 | |
| 第82図S210 | A区 | ＬＴ51 | Ⅴａ層 | 凹石 | (11.9) | 11.7 | 3.9 | 519.9 | |
| 第86図S240 | B区 | ＬＪ45 | Ⅵｂ層 | 凹石 | 10.0 | 7.7 | 5.6 | 599.3 | |

**磨石**

| 挿図番号 | 区名 | 遺構・グリッド名 | 出土層位 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第77図S160 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅱｃ層 | 磨石 | (11.8) | 5.2 | 2.8 | 265.5 | |
| 第77図S162 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ44 | Ⅳｆ層 | 磨石 | (11.5) | 4.4 | 4.1 | 337.2 | |
| 第77図S163 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ46 | Ⅳｆ層 | 磨石 | 9.5 | 8.9 | 4.9 | 568.9 | |
| 第77図S164 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ46 | Ⅳｆ層 | 磨石 | (17.9) | 7.3 | 3.6 | 818.9 | |
| 第78図S168 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅷ層 | 磨石 | 18.1 | 10.7 | 9.6 | 2911.7 | |
| 第79図S182 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅸ層 | 磨石 | 11.5 | 10.6 | 7.0 | 1175.8 | |
| 第80図S187 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅸ層 | 磨石 | 12.0 | 9.5 | 5.0 | 687.0 | |
| 第80図S189 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅹ層 | 磨石 | 9.9 | 8.9 | 6.1 | 667.8 | |
| 第83図S215 | A区 | ＳＴ27　ＭＡ50 | Ⅴａ層 | 磨石 | 9.5 | 8.2 | 3.1 | 301.7 | |
| 第86図S241 | B区 | ＬＫ47 | Ⅵｂ層 | 磨石 | 16.0 | 7.0 | 24.0 | 466.2 | |

# 第17表　礫石器類観察表（２）

## 磨石

| 挿図番号 | 区名 | 遺構・グリッド名 | 出土層位 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第77図S160 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅱｃ層 | 磨石 | (11.8) | 5.2 | 2.8 | 265.5 | |
| 第77図S162 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ44 | Ⅳｆ層 | 磨石 | (11.5) | 4.4 | 4.1 | 337.2 | |
| 第77図S163 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ46 | Ⅳｆ層 | 磨石 | 9.5 | 8.9 | 4.9 | 568.9 | |
| 第77図S164 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ46 | Ⅳｆ層 | 磨石 | (17.9) | 7.3 | 3.6 | 818.9 | |
| 第78図S168 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅷ層 | 磨石 | 18.1 | 10.7 | 9.6 | 2911.7 | |
| 第79図S182 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅸ層 | 磨石 | 11.5 | 10.6 | 7.0 | 1175.8 | |
| 第80図S187 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅸ層 | 磨石 | 12.0 | 9.5 | 5.0 | 687.0 | |
| 第80図S189 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅹ層 | 磨石 | 9.9 | 8.9 | 6.1 | 667.8 | |
| 第83図S215 | A区 | ＳＴ27　ＭＡ50 | Ⅴａ層 | 磨石 | 9.5 | 8.2 | 3.1 | 301.7 | |
| 第86図S241 | B区 | ＬＫ47 | Ⅵｂ層 | 磨石 | 16.0 | 7.0 | 24.0 | 466.2 | |

## 敲石

| 挿図番号 | 区名 | 遺構・グリッド名 | 出土層位 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第75図S141 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ47 | Ⅱｂ層 | 敲石 | (21.3) | 4.6 | 2.6 | 561.5 | |

## 石皿

| 挿図番号 | 区名 | 遺構・グリッド名 | 出土層位 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第77図S166 | A区 | ＳＴ04　ＭＢ44 | Ⅳ層 | 石皿 | 24.2 | 25.8 | 4.9 | 4850.0 | |
| 第78図S170 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅷ層 | 石皿 | (13.7) | (12.1) | 4.2 | 723.0 | |
| 第78図S171 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅷ層 | 石皿 | (23.3) | 19.7 | 6.2 | 4250.0 | |
| 第78図S172 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ46 | Ⅷ層 | 石皿 | (27.5) | (15.8) | 6.9 | 3760.0 | |
| 第78図S173 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅷ層 | 石皿 | (21.7) | 20.9 | 10.4 | 5990.0 | |
| 第80図S186 | A区 | ＳＴ04　ＬＰ45 | Ⅸ層 | 石皿 | 33.2 | (23.7) | 7.8 | 8310.0 | |
| 第80図S188 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅹ層 | 石皿 | 36.1 | 27.0 | 8.7 | 9450.0 | |
| 第86図S238 | B区 | ＬＬ49 | Ⅵａ層 | 石皿 | (20.3) | (13.2) | 6.4 | 3050.0 | |

## 円盤状石製品

| 挿図番号 | 区名 | 遺構・グリッド名 | 出土層位 | 器種 | 分類 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第82図S212 | A区 | ＳＴ27　ＭＡ49 | Ⅴａ層 | 円盤状石製品 | 6 | 8.8 | | 2.6 | 136.0 | |
| 第87図S245 | A区 | | トレンチ排土 | 円盤状石製品 | 1 | 2.8 | | 8.0 | 8.4 | 表裏・周縁に丁寧な磨き。 |
| 第87図S246 | A区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | 円盤状石製品 | 2 | 4.3 | | 7.0 | 16.5 | 片面に数条の直線的な線刻が並列。 |
| 第87図S247 | A区 | ＳＴ27　ＬＴ51 | Ⅴａ層 | 円盤状石製品 | 3 | 5.3 | | 2.5 | 49.7 | 表裏・周縁に丁寧な磨き。 |
| 第87図S248 | A区 | ＳＴ28　ＭＤ53 | Ⅳａ層 | 円盤状石製品 | 3 | 5.4 | | 2.0 | 54.6 | |
| 第87図S249 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅱｃ層 | 円盤状石製品 | 4 | 6.1 | | 3.1 | 141.8 | 表裏に磨き。 |
| 第87図S250 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ46 | Ⅷ層 | 円盤状石製品 | 4 | 6.0 | | 1.8 | 56.4 | |
| 第87図S251 | A区 | ＳＴ27　ＬＴ50 | Ⅴａ層 | 円盤状石製品 | 4 | 6.2 | | 1.9 | 90.9 | 周縁に磨き。 |
| 第87図S252 | A区 | ＳＴ28　ＭＣ53 | Ⅴａ層 | 円盤状石製品 | 4 | 6.2 | | 1.3 | 53.3 | 周縁に磨き。一部欠損。 |
| 第87図S253 | B区 | ＬＫ47 | Ⅵａ層 | 円盤状石製品 | 4 | 6.8 | | 3.9 | 217.1 | 表裏・周縁に丁寧な磨き。 |
| 第87図S254 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｃ層 | 円盤状石製品 | 5 | 7.8 | | 3.1 | 89.7 | 全体に丁寧な磨き。表裏に線刻。半分欠損。 |
| 第87図S255 | A区 | ＳＴ04　ＬＰ45 | Ⅳｃ層 | 円盤状石製品 | 5 | 7.6 | | 2.3 | 114.4 | 表裏に丁寧な磨き。 |
| 第87図S256 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ46 | Ⅷ層 | 円盤状石製品 | 5 | 7.3 | | 2.5 | 159.2 | 表裏に丁寧な磨き。周縁に磨き。極一部欠損。 |
| 第87図S257 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ44 | Ⅸ層 | 円盤状石製品 | 5 | (7.7) | | (1.7) | 58.3 | 周縁に磨き。半分欠損。 |
| 第87図S258 | A区 | ＳＴ04　ＬＰ45 | Ⅳｃ層 | 円盤状石製品 | 6 | 8.4 | | 1.9 | 114.3 | 周縁に擦り。 |
| 第87図S259 | A区 | ＳＴ04　ＬＱ45 | Ⅹ層 | 円盤状石製品 | 6 | 8.2 | | 1.3 | 55.1 | |
| 第87図S260 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ43 | Ⅹ層 | 円盤状石製品 | 6 | 8.7 | | 2.7 | 245.5 | 全体に磨き。一部欠損。 |
| 第87図S261 | A区 | ＳＴ27　ＬＴ51 | Ⅴａ層 | 円盤状石製品 | 6 | 8.2 | | 2.5 | 104.3 | 全体に磨き。半分欠損。 |
| 第87図S262 | A区 | ＳＴ28　ＭＣ53 | Ⅳａ層 | 円盤状石製品 | 6 | 8.0 | | 1.3 | 79.0 | 周縁に擦り。一部欠損。 |
| 第88図S263 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅷ層 | 円盤状石製品 | 7 | 9.0 | | 3.0 | 272.2 | 全体に磨き。一部欠損。 |
| 第88図S264 | A区 | ＳＴ04　ＬＰ45 | Ⅹ層 | 円盤状石製品 | 7 | 9.1 | | 2.8 | 254.1 | |
| 第88図S265 | A区 | ＳＴ15　ＬＭ51 | Ⅱ層 | 円盤状石製品 | 7 | 9.2 | | 1.8 | 182.0 | 全体に磨き。表裏に直線的な線刻。 |
| 第88図S266 | A区 | ＭＢ52 | Ⅱ層 | 円盤状石製品 | 7 | 9.5 | | 3.5 | 319.3 | 全体に磨き。 |
| 第88図S267 | B区 | ＬＬ47 | Ⅵｂ層 | 円盤状石製品 | 7 | 9.6 | | 2.6 | 282.6 | 全体に磨き。 |
| 第88図S268 | A区 | ＳＴ04　ＬＰ45 | Ⅸ層 | 円盤状石製品 | 8 | 10.1 | | 4.0 | 395.0 | 周縁に部分的に擦り・敲き。 |
| 第88図S269 | A区 | ＳＴ27　ＬＴ51 | Ⅴａ層 | 円盤状石製品 | 8 | 10.4 | | 3.9 | 421.9 | 全体に磨き。表裏に凹み。一部欠損。 |
| 第88図S270 | A区 | ＳＴ28　ＭＢ54 | Ⅴａ層 | 円盤状石製品 | 8 | 10.5 | | 2.6 | 341.0 | 周縁に部分的に擦り。一部欠損。 |
| 第88図S271 | B区 | ＬＪ46 | Ⅵａ層 | 円盤状石製品 | 8 | 10.2 | | 4.6 | 264.7 | 全体に磨き。中央付近に直線的な線刻２本。3/5欠損。 |
| 第89図S272 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱ層 | 円盤状石製品 | 9 | 11.4 | | 3.1 | 240.9 | 全体に磨き。軽石製。一部欠損。 |
| 第89図S273 | A区 | ＳＴ04　ＬＳ45 | Ⅷ層 | 円盤状石製品 | 9 | 11.6 | | 4.3 | 598.7 | 全体に磨き。表裏に特に丁寧な磨き。極一部欠損。 |
| 第89図S274 | A区 | ＳＴ04　ＭＡ44 | Ⅷ層 | 円盤状石製品 | 9 | 11.5 | | 4.1 | 460.6 | 全体に磨き。表裏に特に丁寧な磨き。極一部欠損。 |
| 第89図S275 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ44 | Ⅸ層 | 円盤状石製品 | 9 | 11.8 | | 3.7 | 322.5 | 2/5欠損。 |
| 第89図S276 | A区 | ＳＴ27　ＬＳ51 | Ⅴａ層 | 円盤状石製品 | 9 | 11.4 | | 3.5 | 618.9 | 一部欠損。 |
| 第89図S277 | B区 | ＳＤ23 | Ⅰ層 | 円盤状石製品 | 9 | 11.9 | | 1.9 | 304.3 | 薄い。表面に丁寧な磨き。 |
| 第89図S278 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ44 | Ⅷ層 | 円盤状石製品 | 10 | 12.8 | | 6.5 | 1226.1 | 表裏全面に丁寧な磨き。周縁に磨き。厚手。 |
| 第89図S279 | A区 | ＳＴ04　ＬＰ45 | Ⅸ層 | 円盤状石製品 | 10 | 12.7 | | 3.8 | 705.0 | 表裏全面に丁寧な磨き。周縁は部分的に磨き。薄手。 |
| 第90図S280 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ44 | Ⅳｆ層 | 円盤状石製品 | 11 | 13.6 | | 4.5 | 853.9 | 表裏に磨き。 |
| 第90図S281 | A区 | ＳＴ04　ＬＲ45 | Ⅷ層 | 円盤状石製品 | 11 | 13.7 | | 2.9 | 541.0 | 表面に磨き。 |
| 第90図S282 | A区 | ＳＴ27　ＭＡ49 | Ⅴａ層 | 円盤状石製品 | 11 | 13.0 | | 4.0 | 400.8 | 表面に磨き。表面に直線的な細い線。裏面に凹み。 |
| 第90図S283 | B区 | ＬＪ47 | Ⅵａ層 | 円盤状石製品 | 11 | 13.2 | | 2.1 | 294.1 | 表裏・周縁に丁寧な磨き。薄手。平滑。1/3欠損。 |
| 第90図S284 | B区 | ＬＪ46 | Ⅵｂ層 | 円盤状石製品 | 11 | 13.1 | | 3.7 | 678.8 | 表面に磨き。 |
| 第90図S285 | A区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | 円盤状石製品 | 12 | 14.2 | | 3.7 | 729.3 | 表裏・周縁に丁寧な磨き。 |
| 第90図S286 | A区 | ＳＫＴ01 | | 円盤状石製品 | 13 | 7.1 | | 1.1 | 84.7 | 半分以上欠損。 |

## 有孔石製品

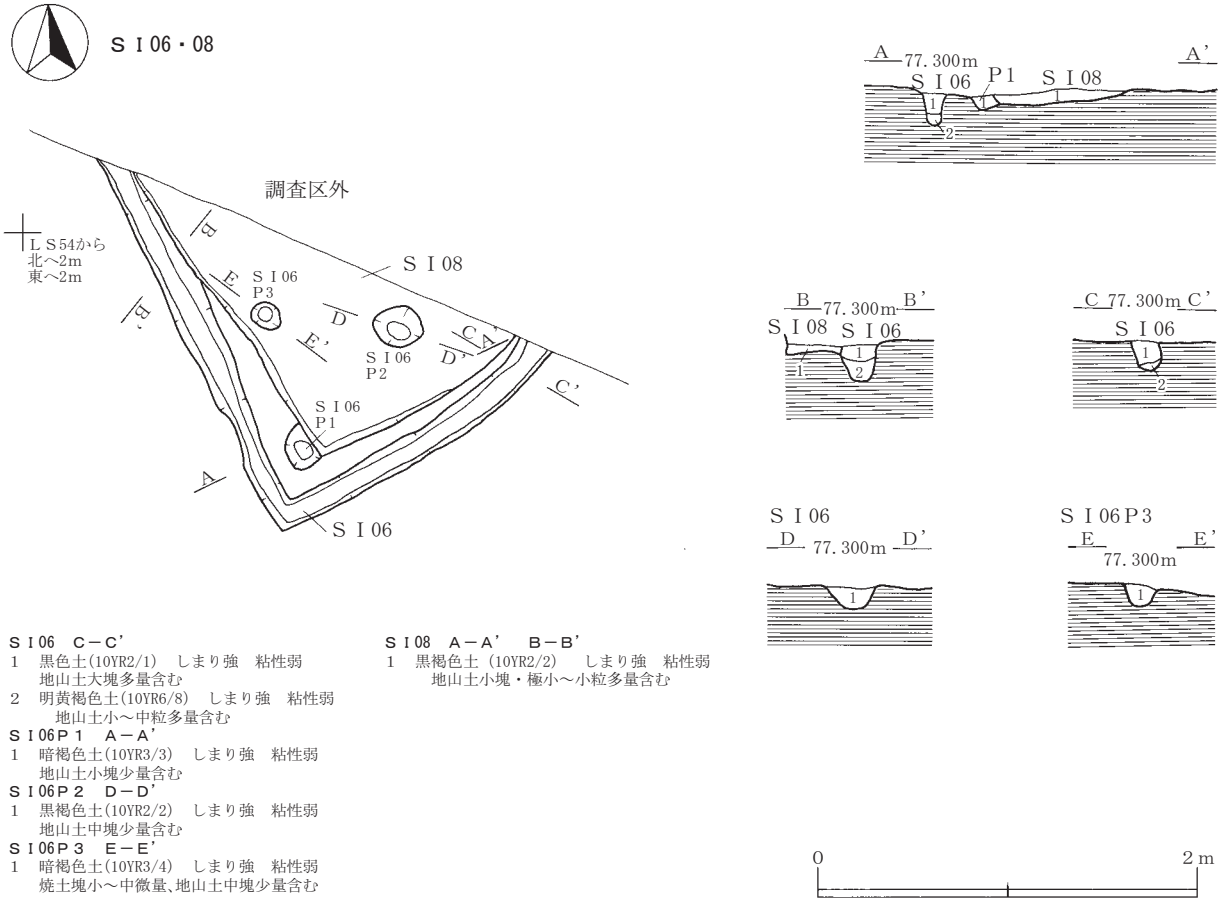
| 挿図番号 | 区名 | 遺構・グリッド名 | 出土層位 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第77図S159 | A区 | ＳＴ04　ＬＴ45 | Ⅱｃ層 | 有孔石製品 | 3.7 | | 0.8 | 8.0 | |
| 第81図S195 | A区 | ＳＴ15　ＬＭ51 | Ⅱ層 | 有孔石製品 | 8.0 | | 1.2 | 42.2 | |
| 第86図S237 | B区 | ＬＬ48 | Ⅵａ層 | 有孔石製品 | 4.9 | | 1.9 | 24.5 | |
| 第86図S244 | B区 | ＬＫ47 | Ⅵｂ層 | 有孔石製品 | 7.0 | | 2.2 | 111.3 | |

## 線刻礫

| 挿図番号 | 区名 | 遺構・グリッド名 | 出土層位 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第83図S213 | A区 | ＳＴ27　ＭＡ49 | Ⅴａ層 | 線刻礫 | (11.4) | 6.8 | 1.4 | 109.8 | |
| 第83図S214 | A区 | ＳＴ27　ＭＡ49 | Ⅴａ層 | 線刻礫 | 20.0 | 20.6 | 1.9 | 1037.1 | |

## その他の石製品

| 挿図番号 | 区名 | 遺構・グリッド名 | 出土層位 | 器種 | 長さ(cm) | 幅(cm) | 厚さ(cm) | 重量(g) | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第77図S165 | A区 | ＳＴ04　ＭＡ43 | Ⅳｆ層 | その他 | 8.9 | 8.5 | 1.6 | 97.7 | |
| 第81図S194 | A区 | ＳＴ15　ＬＭ52 | Ⅱ層 | その他 | 8.4 | 7.3 | 1.8 | 79.4 | |
| 第82図S211 | A区 | ＳＴ27　ＭＡ51 | Ⅴａ層 | その他 | 11.7 | | 7.2 | 733.7 | |




ＳＩ06　Ｃ－Ｃ’
1　黒色土(10YR2/1)　しまり強　粘性弱
　地山土大塊多量含む
2　明黄褐色土(10YR6/8)　しまり強　粘性弱
　地山土小～中粒多量含む
ＳＩ06Ｐ１　Ａ－Ａ’
1　暗褐色土(10YR3/3)　しまり強　粘性弱
　地山土小塊少量含む
ＳＩ06Ｐ２　Ｄ－Ｄ’
1　黒褐色土(10YR2/2)　しまり強　粘性弱
　地山土中塊少量含む
ＳＩ06Ｐ３　Ｅ－Ｅ’
1　暗褐色土(10YR3/4)　しまり強　粘性弱
　焼土塊小～中微量、地山土中塊少量含む

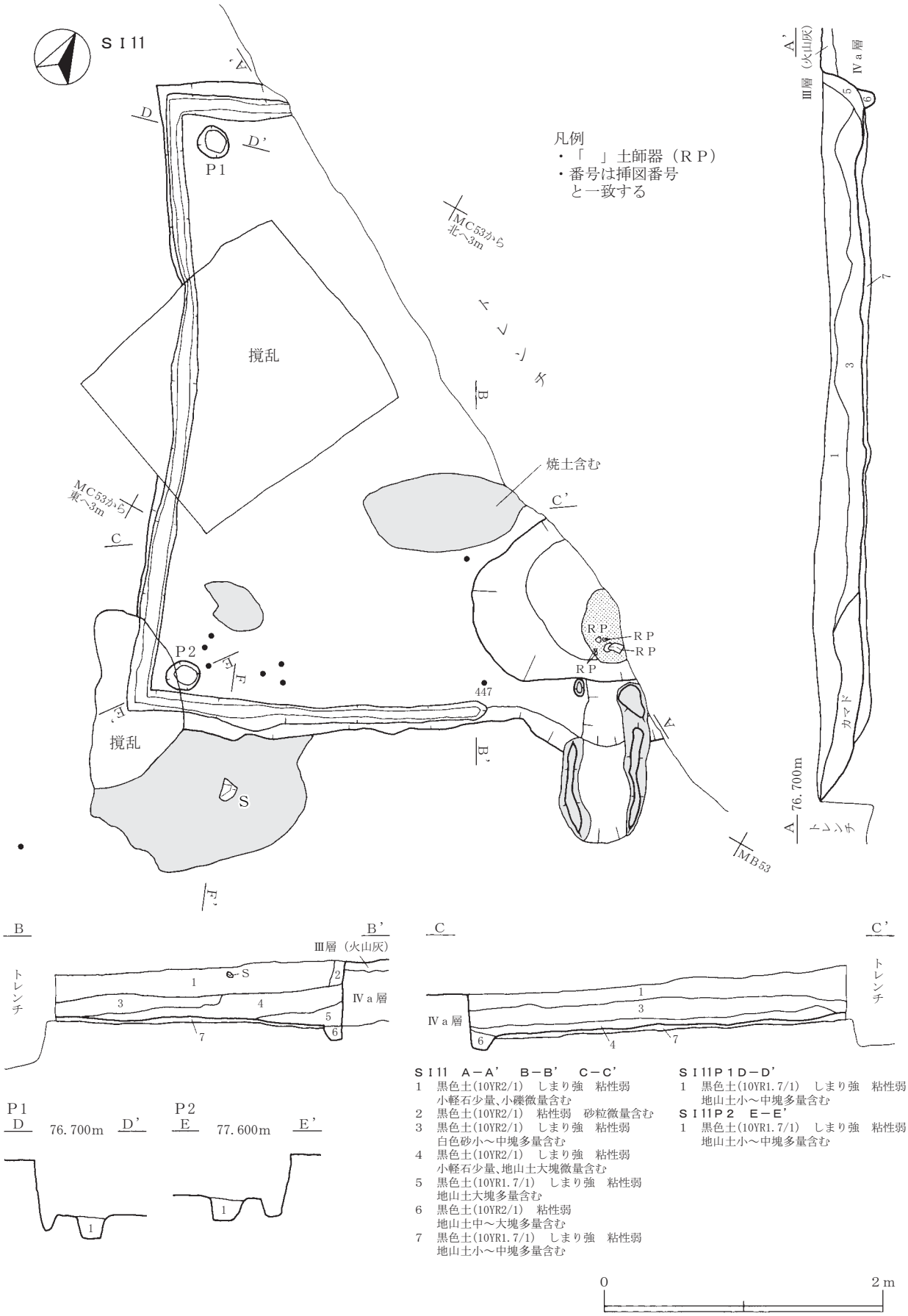
ＳＩ08　Ａ－Ａ’　Ｂ－Ｂ’
1　黒褐色土（10YR2/2）　しまり強　粘性弱
　地山土小塊・極小～小粒多量含む

第95図　ＳＩ06・08竪穴住居跡平面図・断面図

第18表　ＳＩ06柱穴様ピット一覧

| 遺構 | 長軸（m） | 短軸（m） | 深さ（m） | 底面標高(m) | 重複関係 |
|---|---|---|---|---|---|
| ＳＩ06Ｐ１ | ※0.24 | ※0.15 | 0.06 | 77.07 | SI08に切られる。 |
| ＳＩ06Ｐ２ | 0.26 | 0.20 | 0.19 | 76.99 | |

※印は残存値



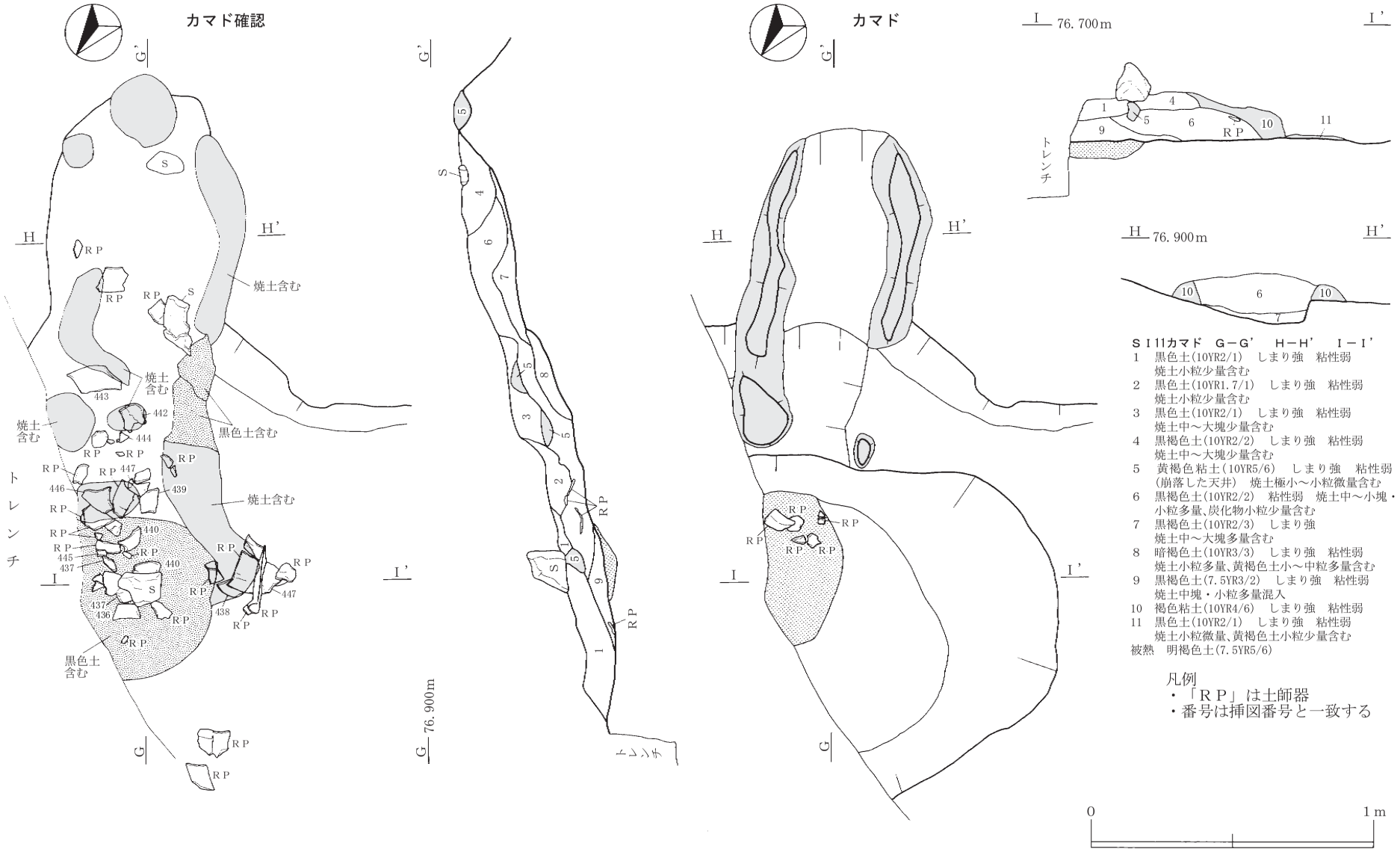

ＳＩ11　Ａ－Ａ’　Ｂ－Ｂ’　Ｃ－Ｃ’
1　黒色土(10YR2/1)　しまり強　粘性弱
小軽石少量､小礫微量含む
2　黒色土(10YR2/1)　粘性弱　砂粒微量含む
3　黒色土(10YR2/1)　しまり強　粘性弱
白色砂小～中塊多量含む
4　黒色土(10YR2/1)　しまり強　粘性弱
小軽石少量､地山土大塊微量含む
5　黒色土(10YR1.7/1)　しまり強　粘性弱
地山土大塊多量含む
6　黒色土(10YR2/1)　粘性弱
地山土中～大塊多量含む
7　黒色土(10YR1.7/1)　しまり強　粘性弱
地山土小～中塊多量含む

ＳＩ11Ｐ１Ｄ－Ｄ’
1　黒色土(10YR1.7/1)　しまり強　粘性弱
地山土小～中塊多量含む

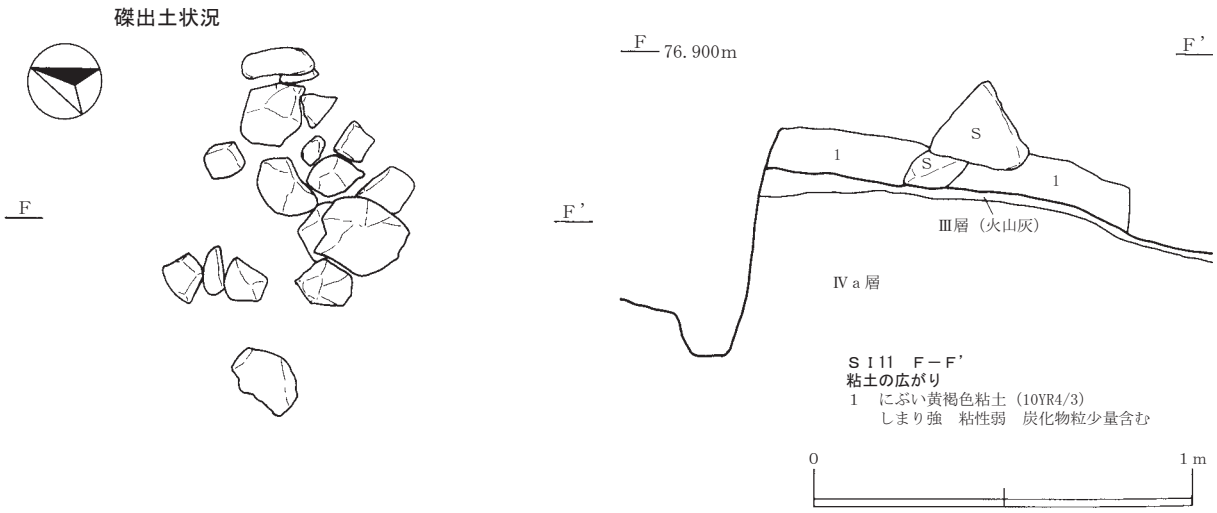
ＳＩ11Ｐ２　Ｅ－Ｅ’
1　黒色土(10YR1.7/1)　しまり強　粘性弱
地山土小～中塊多量含む

0　2m

**第96図　ＳＩ11竪穴住居跡平面図・断面図**




第97図　ＳＩ11竪穴住居跡カマド平面図・断面図・確認状況図

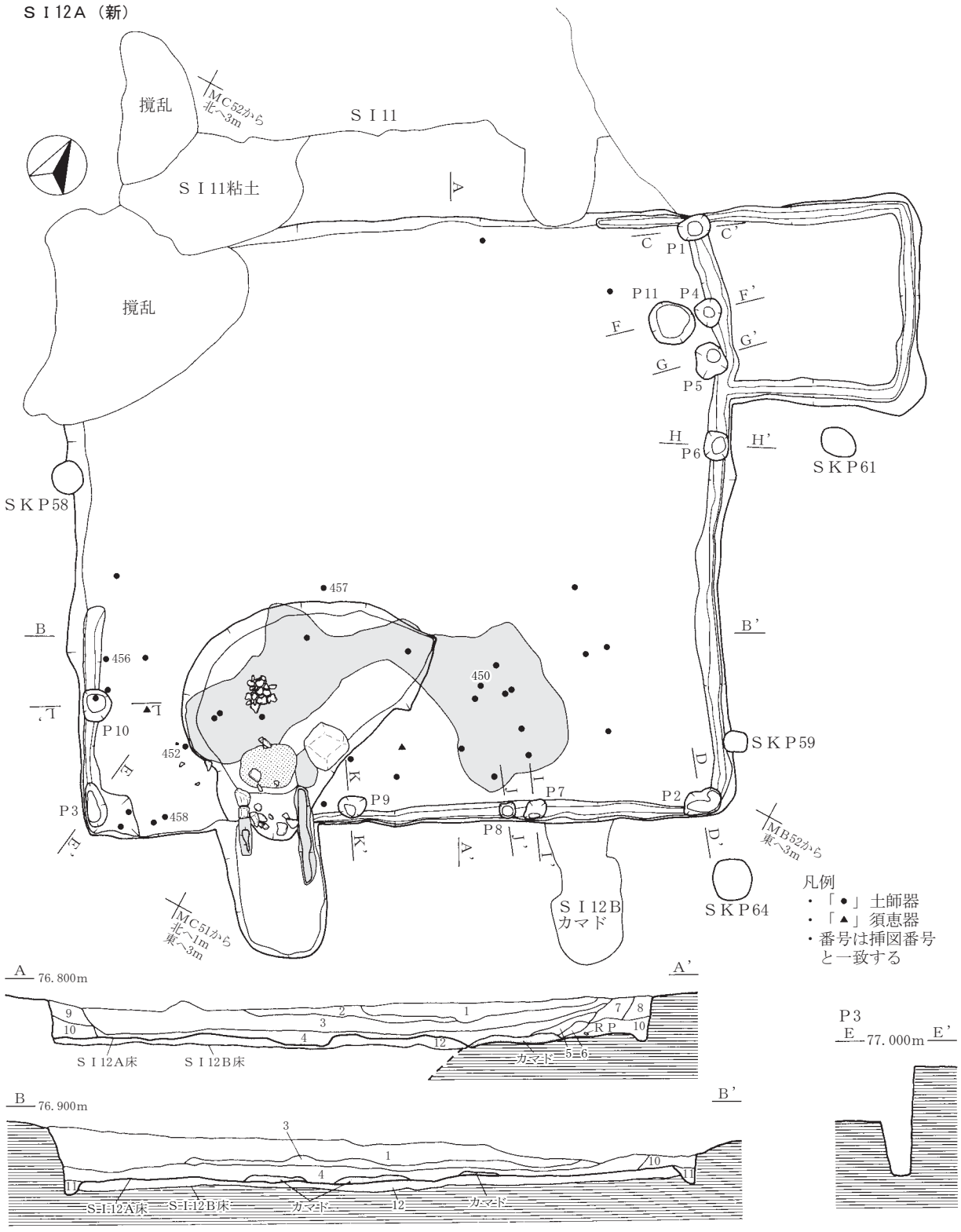



第98図　ＳＩ11竪穴住居跡礫出土状況平面図・断面図

## 第19表　ＳＩ12柱穴様ピット一覧

| 遺構 | 長軸(m) | 短軸(m) | 深さ(m) | 底面標高(m) | 備　　考 |
|---|---|---|---|---|---|
| ＳＩ12ＡＰ１ | 0.22 | 0.16 | 0.35 | 75.94 | |
| ＳＩ12ＡＰ２ | 0.25 | 0.15 | 0.28 | 76.05 | |
| ＳＩ12ＡＰ３ | 0.30 | 0.14 | 0.46 | 75.87 | |
| ＳＩ12ＡＰ４ | 0.19 | 0.18 | 0.09 | 76.22 | |
| ＳＩ12ＡＰ５ | 0.23 | 0.22 | 0.45 | 75.91 | |
| ＳＩ12ＡＰ６ | 0.19 | 0.16 | 0.17 | 76.20 | |
| ＳＩ12ＡＰ７ | 0.18 | 0.16 | 0.19 | 76.03 | |
| ＳＩ12ＡＰ８ | 0.11 | 0.10 | 0.26 | 76.02 | |
| ＳＩ12ＡＰ９ | 0.19 | 0.14 | 0.21 | 76.08 | |
| ＳＩ12ＡＰ10 | 0.22 | 0.20 | 0.16 | 76.07 | |
| ＳＩ12ＡＰ11 | 0.31 | 0.27 | 0.10 | 76.25 | |
| ＳＩ12ＢＰ３ | ※0.2 | 0.25 | 0.37 | 75.97 | ＳＩ12ＡＰ３に切られる。 |
| ＳＩ06Ｐ２ | 0.26 | 0.20 | 0.19 | 76.99 | |

※印は残存値

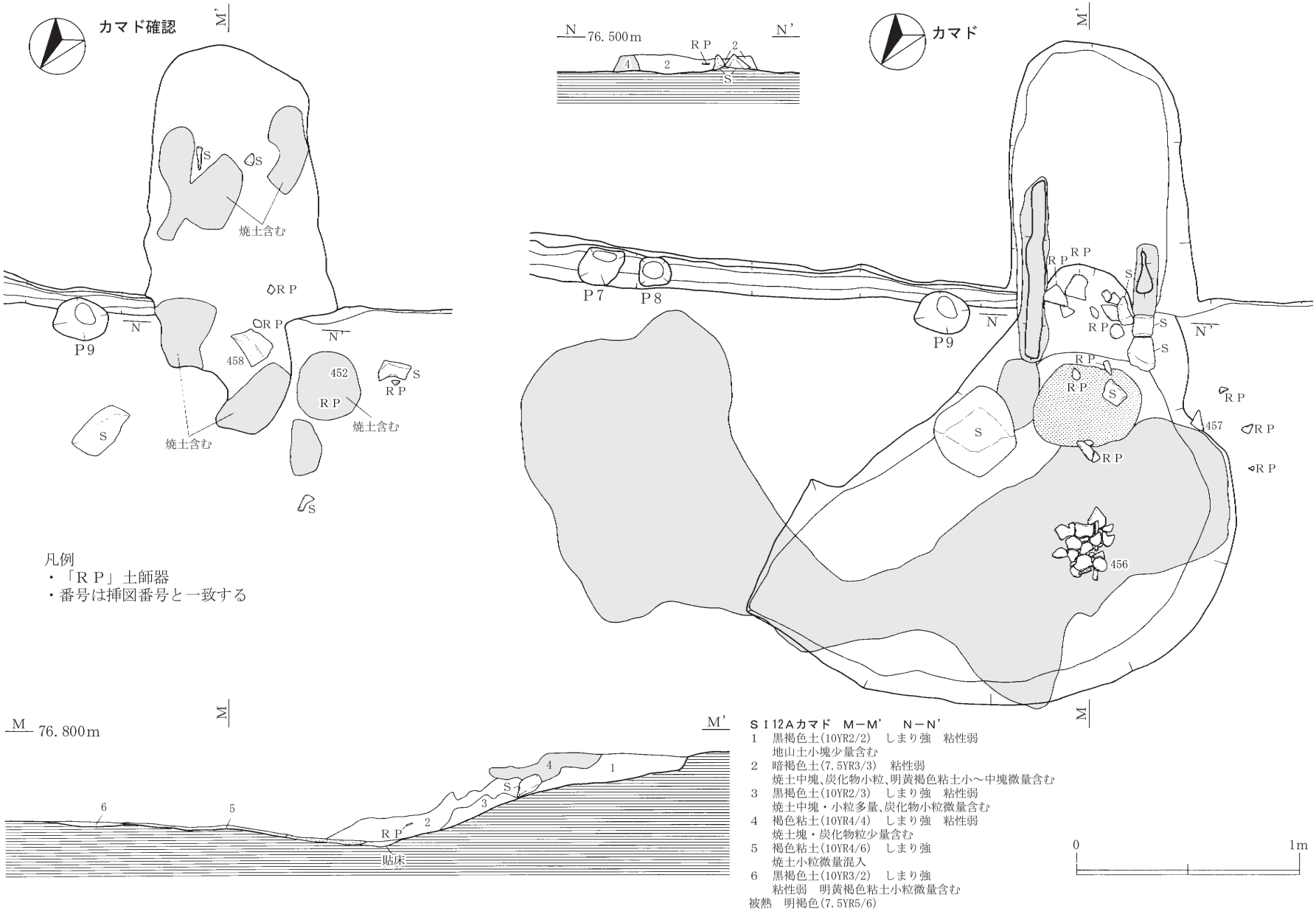



ＳＩ12Ａ　Ａ－Ａ’　Ｂ－Ｂ’

1　黒褐色土(10YR2/2)　しまり強　粘性弱　地山小～大塊多量含む
2　黒色土(10YR2/1)　しまり強　粘性弱　小浮石少量、地山土極小～小粒微量含む
3　黒色土(10YR2/1)　しまり強　粘性弱　炭化物小粒微量、地山土大塊・小粒少量、火山灰(浮石)小粒微量含む
4　黒褐色土(10YR2/2)　しまり強　粘性弱　地山土小～中塊・小粒多量、明黄褐色粘土大塊少量含む
5　黒褐色土(10YR3/2)　しまり強　粘性弱　地山土小～中塊・小粒多量、小～中焼土粒微量含む
6　暗褐色土(10YR3/3)　粘性弱　焼土小粒微量含む
7　黒褐色土(10YR3/2)　しまり強　粘性弱　地山土小～中粒微量含む
8　黒褐色土(10YR3/2)　しまり強　粘性弱　地山土中塊・小粒多量、炭化物小粒微量含む
9　黒色土(10YR2/1)　しまり強　粘性弱　小浮石多量、極小～小砂粒多量含む
10　黒褐色土(10YR2/3)　しまり強　粘性弱　地山土中塊・小粒多量、黄褐色粘土小～中塊微量含む
11　黒色土(10YR1.7/1)　しまり強　粘性弱　地山土小～中塊微量含む(壁溝)
12　黒色土(10YR2/1)　粘性弱　黄褐色粘土中塊微量、地山土中塊・小粒少量含む(貼床)

0　2m

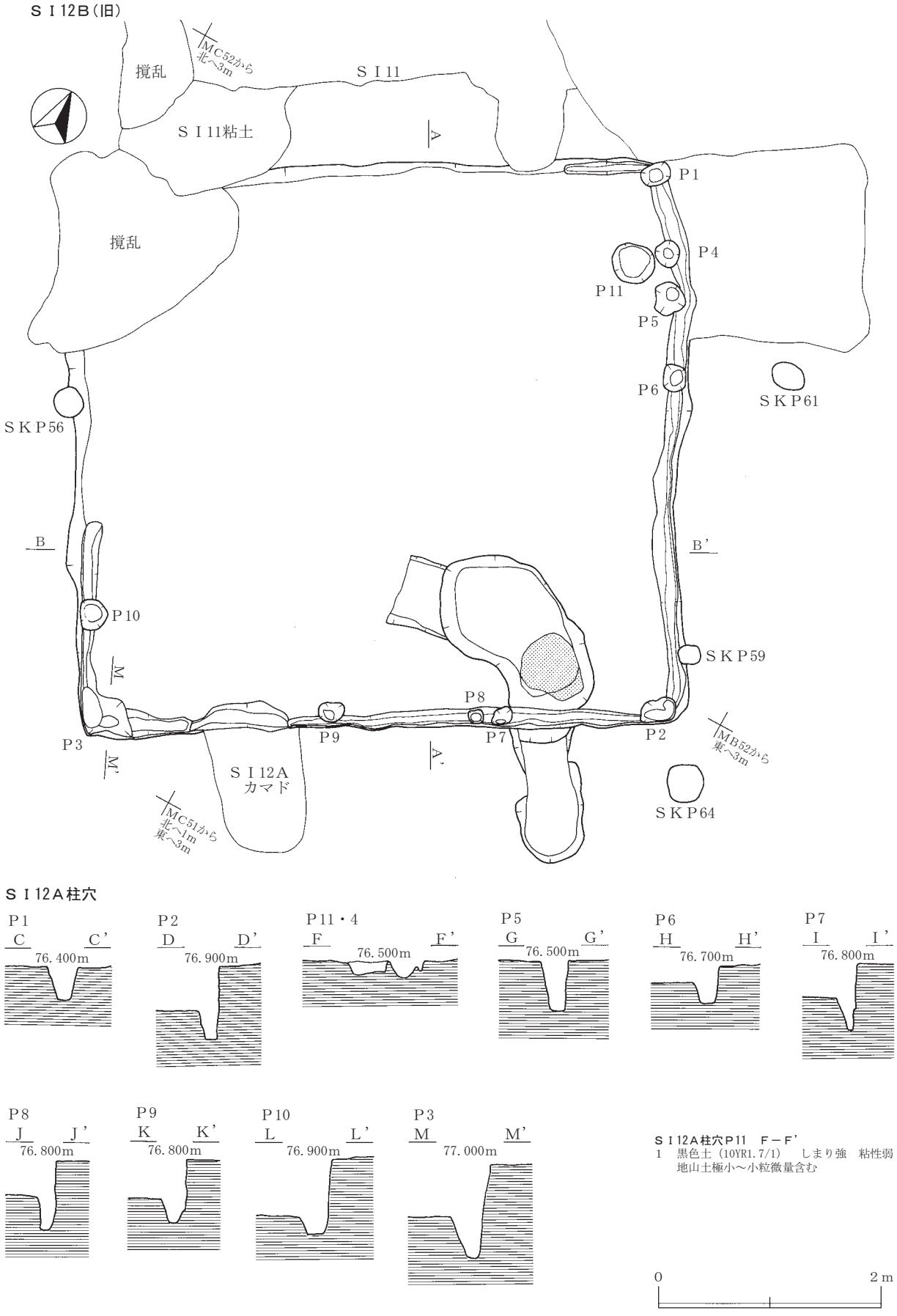
**第99図　ＳＩ12Ａ竪穴住居跡平面図・断面図**



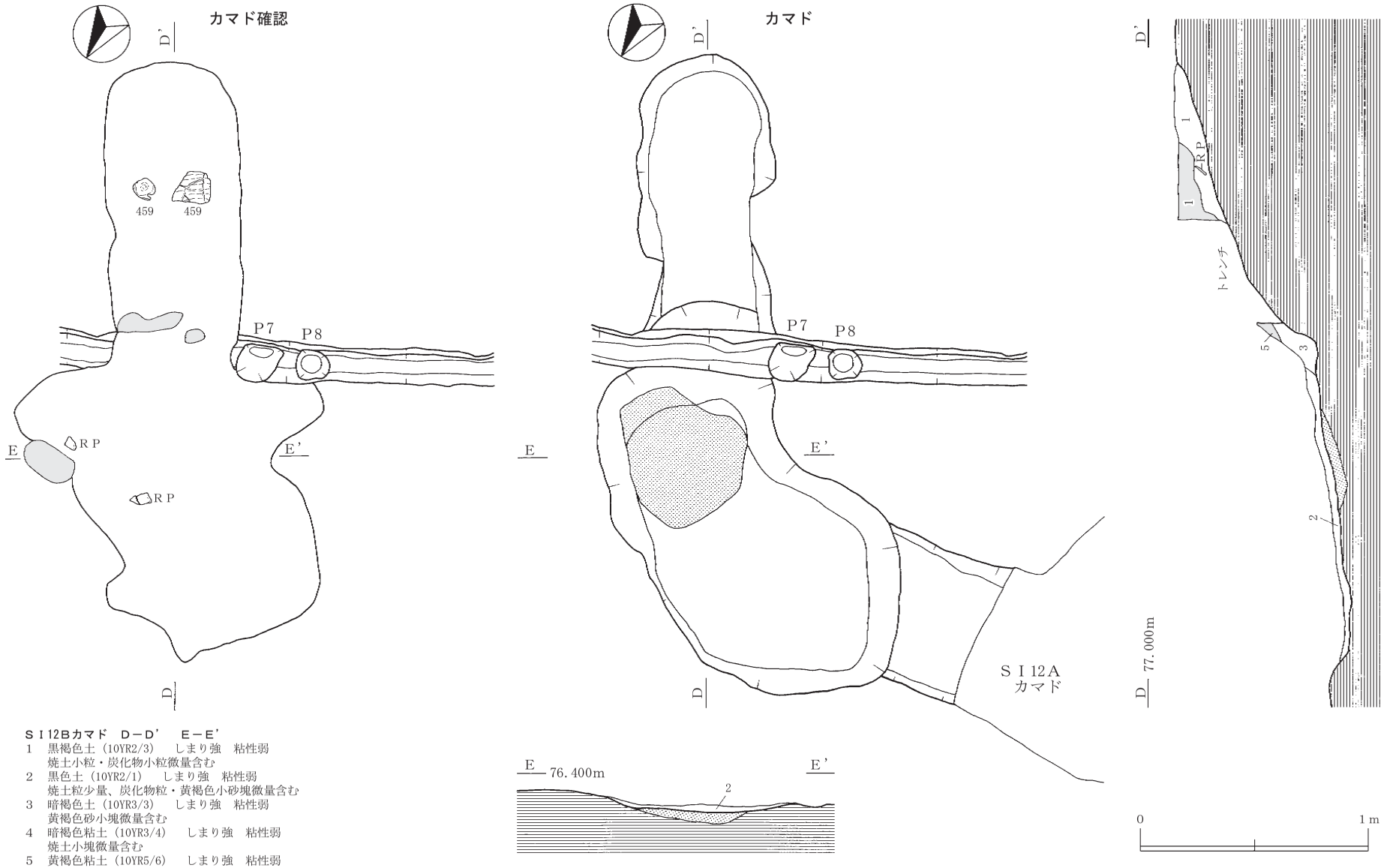

凡例
・「ＲＰ」土師器
・番号は挿図番号と一致する

ＳＩ12Ａカマド　Ｍ－Ｍ'　Ｎ－Ｎ'
1　黒褐色土(10YR2/2)　しまり強　粘性弱
　地山土小塊少量含む
2　暗褐色土(7.5YR3/3)　粘性弱
　焼土中塊、炭化物小粒、明黄褐色粘土小～中塊微量含む
3　黒褐色土(10YR2/3)　しまり強　粘性弱
　焼土中塊・小粒多量、炭化物小粒微量含む
4　褐色粘土(10YR4/4)　しまり強　粘性弱
　焼土塊・炭化物粒少量含む
5　褐色粘土(10YR4/6)　しまり強
　焼土小粒微量混入
6　黒褐色土(10YR3/2)　しまり強
　粘性弱　明黄褐色粘土小粒微量含む
被熱　明褐色(7.5YR5/6)

第100図　ＳＩ12Ａ竪穴住居跡カマド平面図・断面図・確認状況図

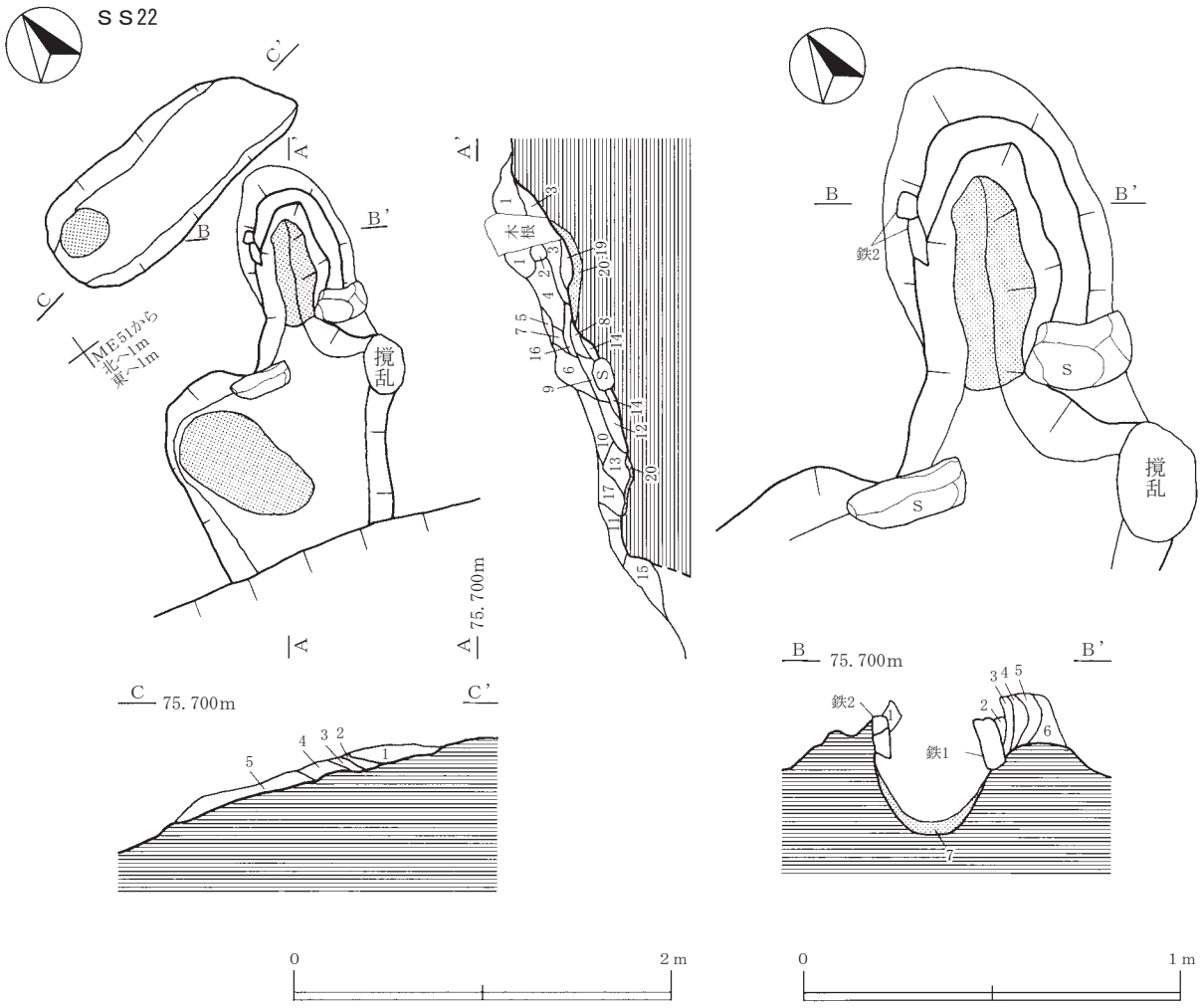



第101図　ＳＩ12Ｂ竪穴住居跡平面図、ＳＩ12Ａ・Ｂ竪穴住居跡柱穴断面図




ＳＩ12Ｂカマド　Ｄ－Ｄ'　Ｅ－Ｅ'
1　黒褐色土（10YR2/3）　しまり強　粘性弱
　焼土小粒・炭化物小粒微量含む
2　黒色土（10YR2/1）　しまり強　粘性弱
　焼土粒少量、炭化物粒・黄褐色小砂塊微量含む
3　暗褐色土（10YR3/3）　しまり強　粘性弱
　黄褐色砂小塊微量含む
4　暗褐色粘土（10YR3/4）　しまり強　粘性弱
　焼土小塊微量含む
5　黄褐色粘土（10YR5/6）　しまり強　粘性弱
　焼土小粒微量含む
被熱　赤褐色（5YR4/6）

第102図　ＳＩ12Ｂ竪穴住居跡カマド平面図・断面図・確認状況図

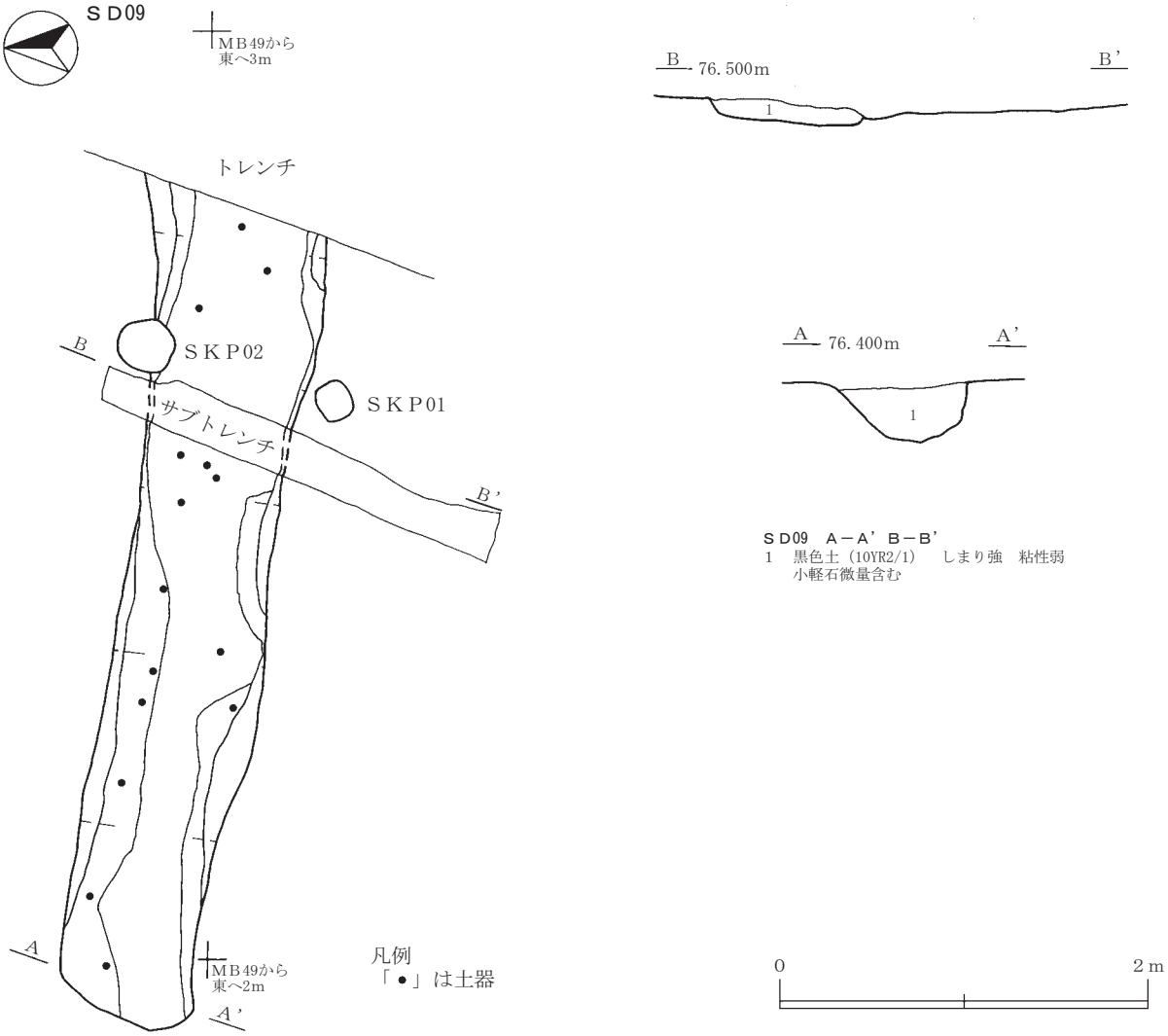



ＳＳ22　Ａ－Ａ’
1　褐色砂（7.5YR4/4）　しまり弱　粘性弱　焼土小塊少量含む
2　褐色砂（7.5YR4/6）　しまり弱　粘性極めて弱（全体的に被熱した層）
3　暗褐色砂（10YR3/4）　しまり弱　粘性弱
4　暗褐色砂（7.5YR3/4）　しまり弱　粘性極めて弱　炭化物・焼土小粒各微量含む
5　褐色砂（7.5YR4/4）　しまり弱　粘性極めて弱　炭化物小粒微量含む　被熱層
6　褐色砂（10YR4/4）　しまり弱　粘性極めて弱　炭化物・焼土小粒微量含む
7　にぶい黄橙色砂（10YR6/4）　しまりやや弱　粘性弱（被熱層）
8　黄褐色砂（10YR5/6）　しまりやや強　粘性弱（被熱層）
9　褐色砂（10YR4/6）　しまり弱　粘性弱　焼土小塊・炭化物小粒子各微量含む
10　黒褐色砂（2.5Y3/2）　しまり弱　粘性弱　焼土小塊微量含む
11　黒色砂（2.5Y2/1）　しまり弱　粘性弱　地山小塊微量含む
12　灰黄褐色砂（10YR4/2）　しまり弱　粘性弱
13　黒色砂（10YR1.7/1）　しまり弱　粘性やや弱　地山土小塊微量含む
14　暗褐色砂（10YR3/3）　しまり弱　粘性極めて弱　焼土小塊微量含む
15　暗オリーブ褐色砂（2.5Y3/3）　しまり極めて弱　粘性弱　黒色土小塊微量含む
16　黄褐色砂（10YR5/6）　しまり弱　粘性極めて弱（被熱層）
17　黒色砂（2.5Y2/1）　しまりやや強　粘性やや弱
18　浅黄色砂（2.5Y7/4）　地山
19　黒褐色土（10YR3/1）　しまり強　粘性弱　焼土・炭化物小塊各微量含む（被熱して鉄分が溜まった層）
20　被熱層（地山）

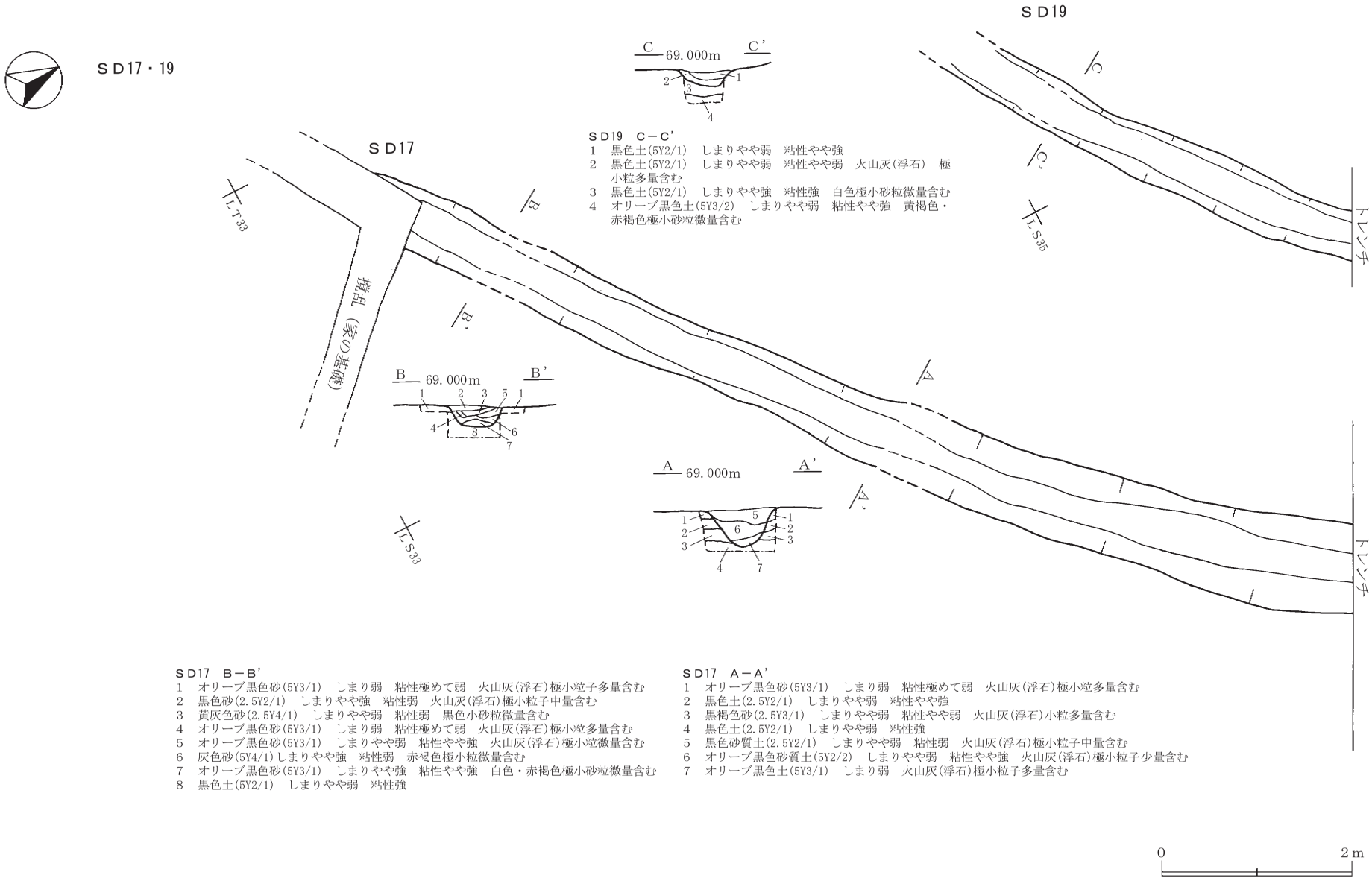
ＳＳ22　Ｂ－Ｂ’
1　褐色砂（10YR4/6）しまり弱　粘性弱　焼土小粒微量含む
2　黒褐色砂（10YR3/1）　しまり弱　粘性弱（鉄滓が砂粒化した層）
3　明褐色砂（7.5YR5/6）　しまり弱　粘性弱（被熱した炉壁の層）
4　黒褐色砂（7.5YR3/2）　しまり弱　粘性弱
5　褐色砂（7.5YR4/4）　しまりやや強　粘性弱（被熱層）
6　にぶい黄褐色砂（10YR5/4）　しまりやや強　粘性強
7　被熱層（地山）

ＳＳ22　Ｃ－Ｃ’
1　黒褐色砂（10YR3/1）　しまり弱　粘性弱　地山土中粒少量含む
2　にぶい黄橙砂（10YR7/4）　しまり弱　粘性弱　黒褐色小砂粒微量含む
3　暗褐色砂（10YR3/3）　しまり弱　粘性弱　地山小砂粒微量含む
4　にぶい黄橙砂（10YR7/4）　しまり弱　粘性弱　黒褐色小砂粒少量含む
5　黒褐色砂（10YR3/2）　しまり弱　粘性弱　地山小砂粒微量含む

**第103図　ＳＳ22製鉄炉平面図・断面図**




第104図　ＳＤ09溝跡平面図・断面図

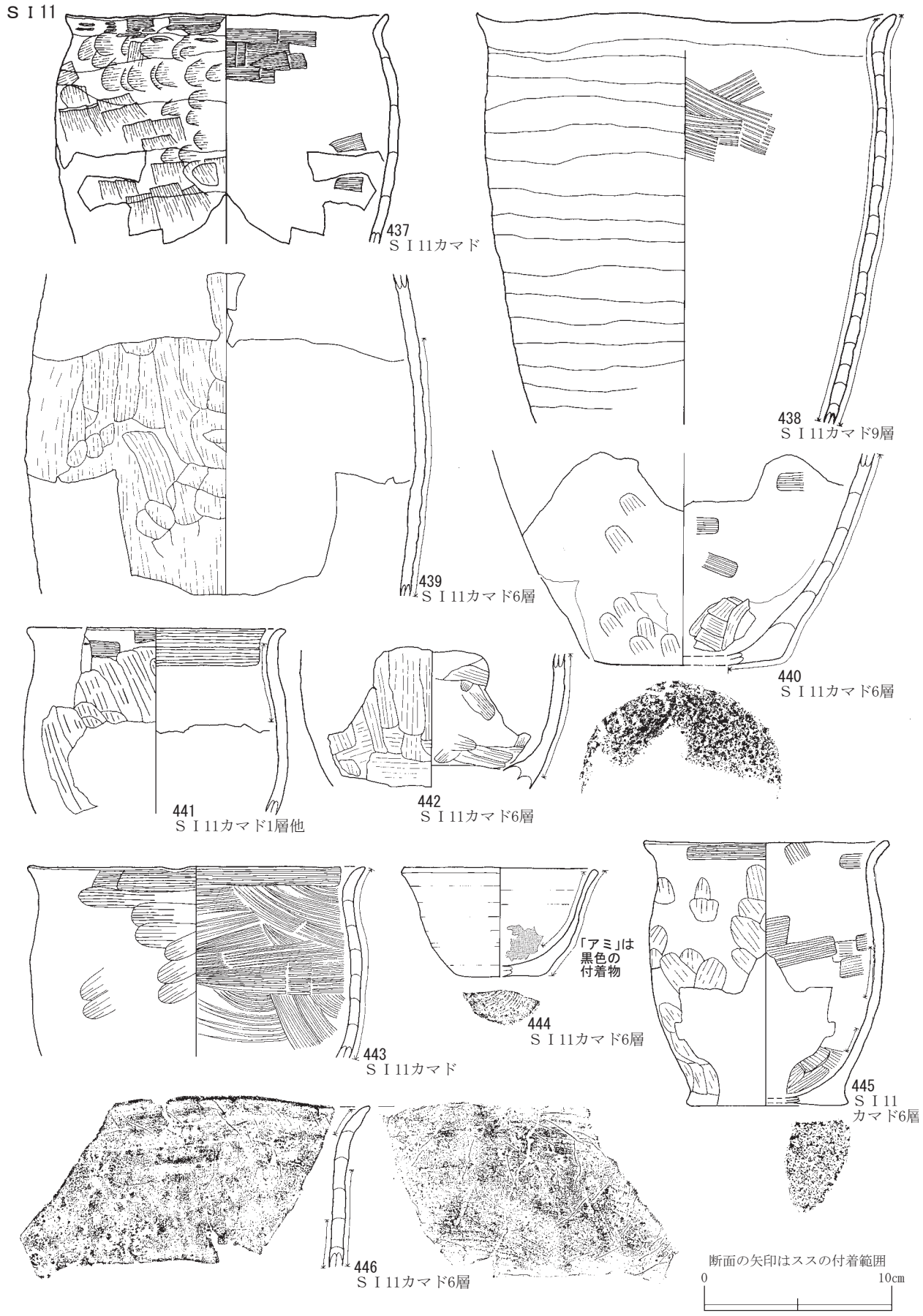



ＳＤ19　Ｃ－Ｃ’
1　黒色土(5Y2/1)　しまりやや弱　粘性やや強
2　黒色土(5Y2/1)　しまりやや弱　粘性やや弱　火山灰(浮石)　極小粒多量含む
3　黒色土(5Y2/1)　しまりやや強　粘性強　白色極小砂粒微量含む
4　オリーブ黒色土(5Y3/2)　しまりやや弱　粘性やや強　黄褐色・赤褐色極小砂粒微量含む

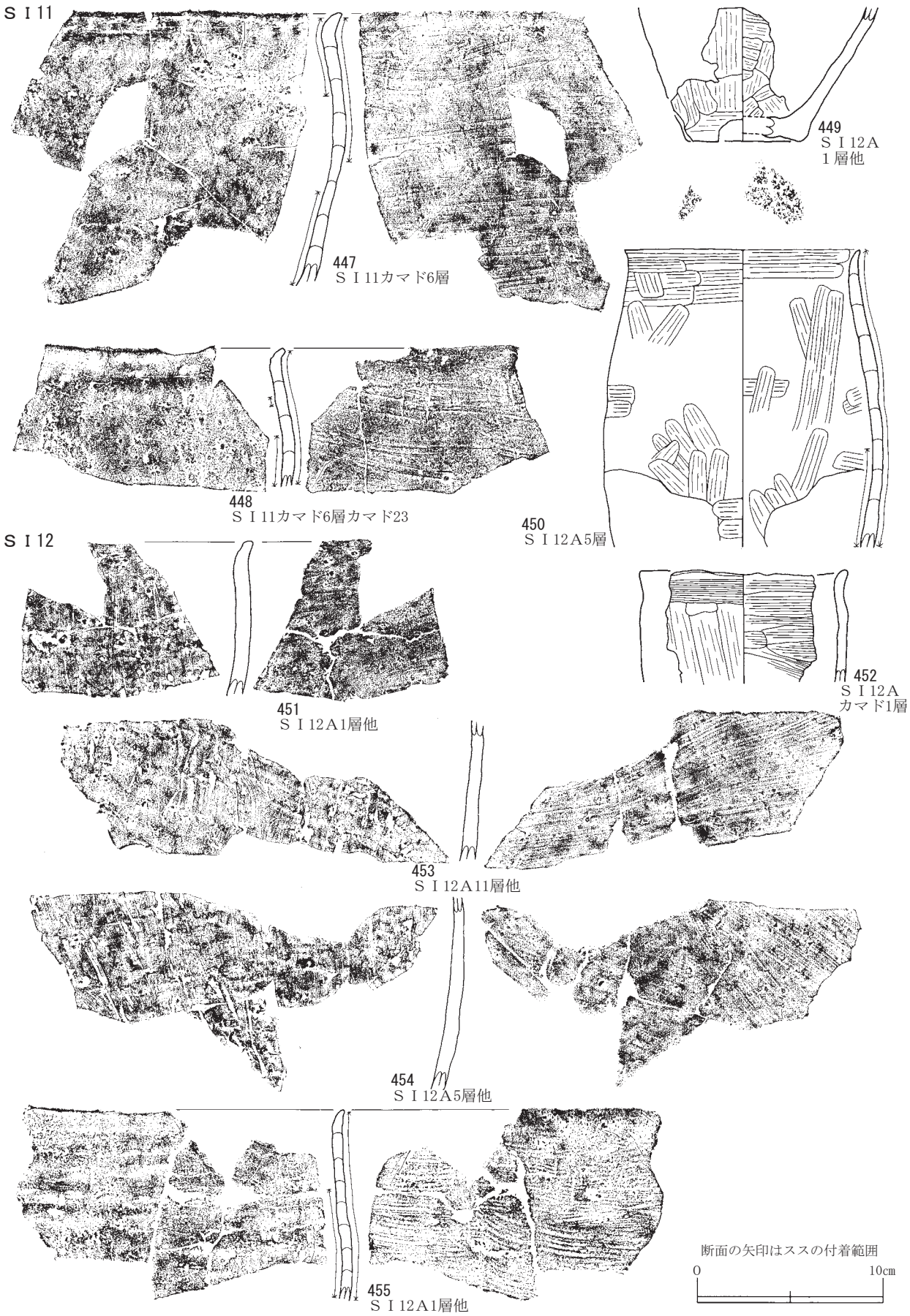
ＳＤ17　Ｂ－Ｂ’
1　オリーブ黒色砂(5Y3/1)　しまり弱　粘性極めて弱　火山灰(浮石)極小粒子多量含む
2　黒色砂(2.5Y2/1)　しまりやや強　粘性弱　火山灰(浮石)極小粒子中量含む
3　黄灰色砂(2.5Y4/1)　しまりやや弱　粘性弱　黒色小砂粒微量含む
4　オリーブ黒色砂(5Y3/1)　しまり弱　粘性極めて弱　火山灰(浮石)極小粒多量含む
5　オリーブ黒色砂(5Y3/1)　しまりやや弱　粘性やや強　火山灰(浮石)極小粒微量含む
6　灰色砂(5Y4/1)しまりやや強　粘性弱　赤褐色極小粒微量含む
7　オリーブ黒色砂(5Y3/1)　しまりやや強　粘性やや強　白色・赤褐色極小砂粒微量含む
8　黒色土(5Y2/1)　しまりやや弱　粘性強

ＳＤ17　Ａ－Ａ’
1　オリーブ黒色砂(5Y3/1)　しまり弱　粘性極めて弱　火山灰(浮石)極小粒多量含む
2　黒色土(2.5Y2/1)　しまりやや弱　粘性やや強
3　黒褐色砂(2.5Y3/1)　しまりやや弱　粘性やや弱　火山灰(浮石)小粒多量含む
4　黒色土(2.5Y2/1)　しまりやや弱　粘性強
5　黒色砂質土(2.5Y2/1)　しまりやや弱　粘性弱　火山灰(浮石)極小粒子中量含む
6　オリーブ黒色砂質土(5Y2/2)　しまりやや弱　粘性やや強　火山灰(浮石)極小粒子少量含む
7　オリーブ黒色土(5Y3/1)　しまり弱　火山灰(浮石)極小粒子多量含む

第105図　ＳＤ17・19溝跡平面図・断面図

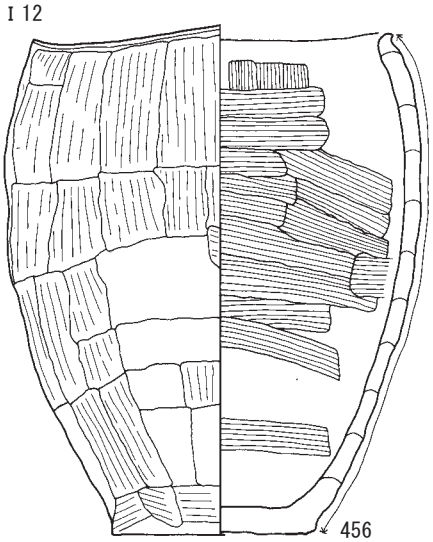



第106図　ＳＩ11竪穴住居跡出土遺物

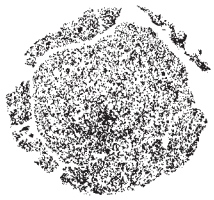


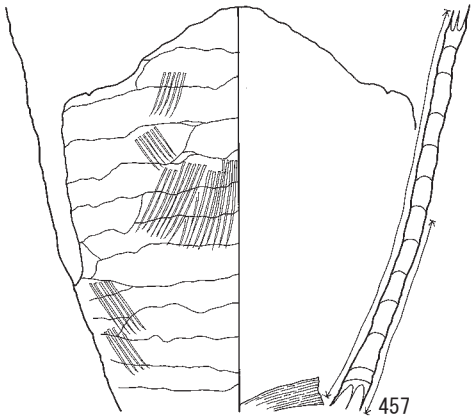

第107図　ＳＩ11・12Ａ竪穴住居跡出土遺物

ＳＩ12

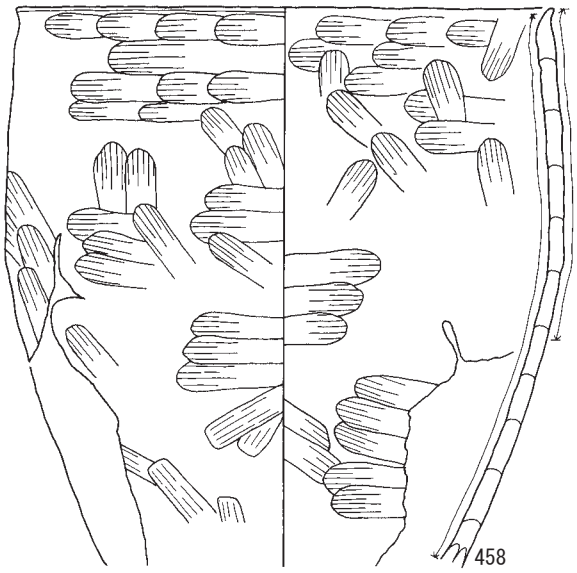


456
ＳＩ12Ａカマド2層

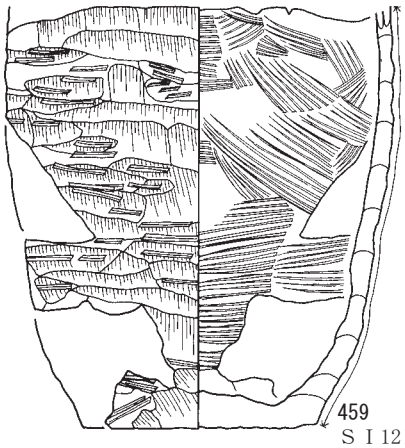




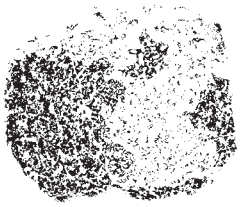
457
ＳＩ12Ａカマド2層



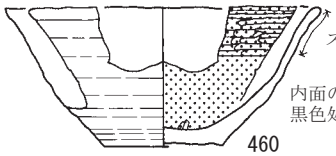
458
ＳＩ12Ａカマド



459
ＳＩ12Ｂカマド1層



遺構外



スス付着

内面の「アミ」は
黒色処理

460
ＭＢ52Ⅱ層他

断面の矢印はススの付着範囲

0　10cm

第108図　ＳＩ12Ａ・Ｂ竪穴住居跡出土遺物、Ａ区遺構外出土遺物

## 第20表　柱穴様ピット一覧

| SKP番号 | ｸﾞﾘｯﾄﾞ | 平面形 | 長軸(m) | 短軸(m) | 深さ(m) | 底面標高(m) | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 01 | ＭＡ48 | 円形 | 0.11 | 0.10 | 0.27 | 76.03 | |
| 02 | ＭＡ49 | 楕円形 | 0.20 | 0.18 | 0.33 | 76.04 | SD09より新しい。 |
| 03 | ＬＱ51 | 円形 | 0.20 | 0.18 | 0.15 | 77.09 | |
| 04 | ＬＱ51 | 楕円形 | 0.24 | 0.23 | 0.38 | 76.86 | |
| 05 | ＬＱ51 | 楕円形 | 0.23 | 0.18 | 0.25 | 76.99 | |
| 06 | ＬＲ51 | 楕円形 | 0.28 | 0.21 | 0.25 | 77.01 | |
| 07 | ＬＲ51 | 楕円形 | 0.30 | 0.24 | 0.41 | 76.82 | |
| 08 | ＬＯ52 | 円形 | 0.15 | 0.14 | 0.16 | 77.05 | |
| 09 | ＬＯ･ＬＰ52 | 円形 | 0.16 | 0.16 | 0.09 | 77.13 | |
| 10 | ＬＰ52 | 円形 | 0.19 | 0.18 | 0.10 | 77.11 | |
| 11 | ＬＰ52 | 楕円形 | 0.14 | 0.12 | 0.11 | 77.12 | |
| 12 | ＬＰ52･53 | 楕円形 | 0.24 | 0.19 | 0.36 | 76.84 | |
| 13 | ＬＰ53 | 楕円形 | 0.18 | 0.15 | 0.29 | 76.88 | |
| 14 | ＬＰ53 | 楕円形 | 0.21 | 0.19 | 0.25 | 76.97 | |
| 15 | ＬＰ53 | 楕円形 | 0.22 | 0.17 | 0.26 | 76.95 | |
| 16 | ＬＱ52･53 | 楕円形 | 0.27 | 0.20 | 0.23 | 76.99 | |
| 17 | ＬＱ52 | 楕円形 | 0.29 | 0.22 | 0.29 | 76.94 | |
| 18 | ＬＱ52 | 楕円形 | 0.22 | 0.20 | 0.29 | 76.96 | |
| 19 | ＬＱ52 | 円形 | 0.16 | 0.15 | 0.12 | 77.09 | |
| 20 | ＬＱ52 | 楕円形 | 0.22 | 0.17 | 0.18 | 77.02 | |
| 21 | ＬＰ52 | 楕円形 | 0.25 | 0.19 | 0.18 | 76.98 | |
| 22 | ＬＰ52 | 円形 | 0.15 | 0.14 | 0.11 | 77.12 | |
| 23 | ＬＱ50 | 円形 | 0.17 | 0.17 | 0.30 | 76.88 | |
| 24 | ＬＱ50 | 円形 | 0.39 | 0.38 | 0.25 | 76.95 | |
| 25 | ＬＱ51 | 楕円形 | 0.21 | 0.17 | 0.15 | 77.04 | |
| 26 | ＬＱ51 | 楕円形 | 0.25 | 0.20 | 0.50 | 76.75 | |
| 27 | ＬＲ50 | 楕円形 | 0.27 | 0.24 | 0.44 | 76.84 | |
| 28 | ＬＱ51 | 円形 | 0.23 | 0.20 | 0.16 | 77.03 | |
| 29 | ＬＲ51 | 楕円形 | 0.24 | 0.21 | 0.31 | 76.97 | |
| 30 | ＬＲ50 | 楕円形 | 0.31 | 0.25 | 0.23 | 77.03 | |
| 31 | ＬＲ50 | 楕円形 | 0.23 | 0.18 | 0.21 | 77.07 | |
| 32 | ＬＲ50 | 楕円形 | 0.25 | 0.18 | 0.32 | 76.94 | |
| 33 | ＬＱ50 | 楕円形 | 0.31 | 0.26 | 0.10 | 77.08 | |
| 34 | ＬＱ50 | 楕円形 | 0.22 | 0.18 | 0.19 | 76.98 | |
| 35 | ＬＱ50 | 楕円形 | 0.18 | 0.16 | 0.46 | 76.74 | |
| 36 | ＬＱ50 | 楕円形 | 0.22 | 0.20 | 0.15 | 77.05 | |
| 37 | ＬＲ50 | 楕円形 | 0.17 | 0.15 | 0.29 | 76.98 | |
| 38 | ＬＲ51 | 円形 | 0.24 | 0.22 | 0.39 | 76.83 | |
| 39 | ＬＱ51 | 楕円形 | 0.26 | 0.16 | 0.14 | 77.03 | |
| 40 | ＬＱ51 | 楕円形 | 0.24 | 0.20 | 0.36 | 76.81 | |
| 41 | ＬＱ51 | 楕円形 | 0.44 | 0.28 | 0.10 | 77.08 | |
| 42 | ＬＱ52 | 円形 | 0.24 | 0.23 | 0.16 | 77.02 | |
| 43 | ＬＱ52 | 楕円形 | 0.17 | 0.13 | 0.14 | 77.09 | |
| 44 | ＬＱ52 | 楕円形 | 0.18 | 0.15 | 0.20 | 77.04 | |
| 45 | ＬＱ52 | 楕円形 | 0.21 | 0.17 | 0.27 | 76.97 | |
| 46 | ＬＱ52 | 楕円形 | 0.18 | 0.17 | 0.26 | 76.97 | |
| 47 | ＬＱ52 | 楕円形 | 0.16 | 0.12 | 0.25 | 76.98 | |
| 48 | ＭＡ52 | 楕円形 | 0.25 | 0.20 | 0.17 | 76.87 | |
| 49 | LT･MA52 | 楕円形 | 0.23 | 0.17 | 0.12 | 76.97 | |
| 50 | ＬＴ52 | 楕円形 | 0.28 | 0.20 | 0.18 | 76.89 | |
| 51 | ＬＴ52 | 楕円形 | 0.28 | 0.24 | 0.31 | 76.78 | |
| 52 | ＬＴ52 | 楕円形 | 0.23 | 0.13 | 0.18 | 76.90 | SKP53より新しい。 |
| 53 | ＬＴ52 | (楕円形) | (0.41) | 0.19 | 0.25 | 76.87 | SKP52より古い。 |
| 54 | ＬＴ52 | 楕円形 | 0.27 | 0.23 | 0.21 | 76.92 | |
| 55 | ＭＢ51 | 楕円形 | 0.41 | 0.33 | 0.16 | 76.62 | SKF14より新しい。 |
| 56 | ＬＳ52 | 円形 | 0.21 | 0.20 | 0.13 | 76.59 | |
| 57 | LS51･52 | 楕円形 | 0.24 | 0.22 | 0.29 | 76.42 | 1層から縄文土器片1点、石器1点出土。 |
| 58 | ＭＢ51 | 楕円形 | 0.29 | 0.26 | 0.27 | 76.39 | SI12A・Bより新しい。 |
| 59 | ＬＴ52 | 楕円形 | 0.20 | 0.17 | 0.10 | 76.39 | SI12A・Bより新しい。 |
| 60 | ＭＢ54 | 楕円形 | 0.43 | 0.30 | 0.61 | 75.57 | 1層から縄文土器片1点出土。 |
| 61 | ＭＡ52 | 楕円形 | 0.32 | 0.23 | 0.11 | 76.46 | |
| 62 | ＬＳ52 | 楕円形 | 0.24 | 0.20 | 0.17 | 76.80 | |
| 63 | ＬＴ52 | 楕円形 | 0.32 | 0.27 | 0.45 | 76.35 | |
| 64 | ＭＡ51 | 円形 | 0.34 | 0.33 | 0.26 | 76.70 | |
| 65 | ＭＢ50 | 楕円形 | 0.32 | 0.29 | 0.14 | 76.53 | |
| 66 | ＬＰ50 | 円形 | 0.29 | 0.28 | 0.15 | 76.53 | |
| 67 | ＬＱ50 | 楕円形 | 0.17 | 0.13 | 0.08 | 77.10 | |
| 68 | ＬＰ50 | 円形 | 0.20 | 0.19 | 0.05 | 77.14 | |
| 69 | ＬＰ50 | 円形 | 0.18 | 0.17 | 0.11 | 77.09 | |
| 70 | ＬＰ50 | 楕円形 | 0.20 | 0.16 | 0.09 | 77.10 | |
| 71 | ＬＰ50 | 円形 | 0.16 | 0.16 | 0.09 | 77.10 | |
| 72 | ＬＱ50 | 楕円形 | 0.22 | 0.16 | 0.13 | 77.06 | |
| 73 | ＬＱ50 | 楕円形 | 0.14 | 0.11 | 0.33 | 76.87 | |
| 74 | ＬＱ50 | 楕円形 | 0.16 | 0.13 | 0.10 | 77.09 | |
| 75 | ＬＱ50 | 楕円形 | 0.20 | 0.17 | 0.19 | 77.02 | |
| 76 | ＬＱ51 | 楕円形 | 0.16 | 0.15 | 0.16 | 77.02 | |
| 80 | ＬＳ49 | 楕円形 | 0.25 | 0.22 | 0.14 | 76.76 | |
| 81 | LK･LL46 | 円形 | 0.29 | 0.28 | 0.28 | 68.82 | |
| 82 | ＭＢ53 | 楕円形 | 0.38 | 0.37 | 0.60 | 75.66 | |
| 83 | ＬＰ51 | 楕円形 | 0.22 | 0.18 | 0.12 | 77.11 | |
| 84 | ＬＰ52 | 楕円形 | 0.21 | 0.19 | 0.24 | 77.00 | |
| 85 | ＬＱ52 | 円形 | 0.21 | 0.21 | 0.40 | 76.82 | |
| 86 | ＬＲ50 | 楕円形 | 0.16 | 0.14 | 0.08 | 77.14 | |
| 87 | ＬＴ50 | 円形 | 0.17 | 0.17 | 0.10 | 77.18 | |
| 88 | ＬＳ49 | 円形 | 0.20 | 0.19 | 0.08 | 77.07 | |
| 89 | ＬＳ50 | 楕円形 | 0.18 | 0.16 | 0.15 | 76.90 | |
| 90 | ＬＲ50 | 楕円形 | 0.20 | 0.15 | 0.34 | 76.73 | |

## 第21表　平安時代土器観察表

| 挿図番号 | 区名 | 遺構・グリッド名 | 出土層位 | 接合破片 | 分類 | 口径(cm) | 底径(cm) | 器高(cm) | 調整・胎土・焼成・色調など |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 第105図437 | A区 | ＳＩ11 | カマド６層 | ＳＩ11　１層、ＳＩ11<br>ＳＩ11　カマド９層<br>ＳＩ11　カマド６層 | | (17.4) | － | (12.4) | 内面はヘラナデ。外面はヘラケズリ→ユビナデ→ヘラナデ。胎土はやや密(砂粒やや多い)、焼成は普通、色調は橙。 |
| 第105図438 | A区 | ＳＩ11 | カマド９層 | カマド　１層<br>カマド　６層<br>カマド　９層<br>ＭＢ53　2ﾄﾚﾝﾁ埋土 | | (22.4) | － | (22.1) | 非ロクロ成形。内面はハケ目→(口縁ヘラナデか)。外面は(ヘラナデか)→(口縁ヘラナデか)、一部ス ス付着、粘土紐の積み上げ痕明瞭。胎土はやや密(砂粒やや多い)、焼成は普通、色調は橙。 |
| 第105図439 | A区 | ＳＩ11 | カマド６層 | ＳＩ11　１層<br>ＭＢ52　Ⅱ層<br>ＭＢ53　排土<br>ＭＣ53　Ⅱ層<br>ＭＤ52　カクラン<br>Ａ区上　ＭＤ52　Ⅱ層 | | － | － | － | 外面はヘラケズリ。胎土は密(砂粒少ない)、焼成は普通、色調は橙。胎土はやや密(砂粒やや多い)、焼成は普通、色調は橙。 |
| 第105図440 | A区 | ＳＩ11 | カマド６層 | ＳＩ11　４層<br>ＭＢ52　Ⅱ層<br>ＭＤ48　Ⅳａ層 | | － | (10.5) | (11.5) | 内面はヘラケズリ、ヘラナデ。外面はユビナデ、ス ス付着、粘土紐の積み上げ痕明瞭。底部は砂底。胎土はやや密(砂粒やや多い)、焼成は普通、色調は橙。 |
| 第105図441 | A区 | ＳＩ11 | カマド１層 | ＳＩ11　カマド６層<br>ＭＢ53　Ⅱ層 | | (14.4) | － | (10.0) | 非ロクロ成形。内面はヘラケズリ、ヘラナデ。外面はヘラナデ、ス ス付着。胎土はやや密(砂粒やや多い)、焼成は普通、色調は橙。 |
| 第105図442 | A区 | ＳＩ11 | カマド６層 | ＭＢ53　ﾄﾚﾝﾁ埋土 | | － | － | － | 内面はユビナデ。外面はヘラケズリ、ス ス付着。胎土はやや密(砂粒やや多い)、焼成は普通、色調は橙。 |
| 第105図443 | A区 | ＳＩ11 | カマド６層 | ＭＤ52　Ⅱ層 | | (18.2) | － | － | 非ロクロ成形。内面はハケ目→ヘラナデ(仕上げ)。外面はユビナデ→ヘラナデ、ス ス付着。胎土はやや密(砂粒やや多い)、焼成は普通、色調は橙。 |
| 第105図444 | A区 | ＳＩ11 | カマド６層 | | 土師器<br>坏Ｂ類 | (10.7) | (4.3) | 5.8 | 糸切り。ロクロ成形。内外面に薄くス ス付着(部分)。(「アミ」内面に部分的に“黒色処理”したような黒色の付着物。)胎土は密(砂粒少ない)、焼成は普通、色調は橙。 |
| 第105図445 | A区 | ＳＩ11 | カマド６層 | ＳＩ11　カマド６層<br>ＳＩ11　カマド焼土<br>ＳＩ11　カマド２層<br>ＭＣ52　カクラン | 土師器<br>甕Ｂ類 | (12.5) | － | 14.3 | 非ロクロ成形。内面はヘラナデ、ス ス付着。外面はヘラケズリ→ヘラナデ。底部は砂底。胎土はやや密(砂粒やや多い)、焼成は普通、色調は橙。 |
| 第105図446 | A区 | ＳＩ11 | カマド６層 | | | － | － | － | 非ロクロ成形。内面はヘラナデ、ハケ目。外面は口縁部ハケ目、ユビナデ、ス ス付着、粘土紐積み上げ痕。胎土はやや密(砂粒やや多い)、焼成は普通、色調は橙。 |
| 第106図447 | A区 | ＳＩ11 | カマド | ＭＣ52　Ⅱ層 | | － | － | － | 非ロクロ成形。内面はハケ目。外面は口縁部ヘラナデ→胴部ユビナデ、粘土紐積み上げ痕。内外面にス ス付着。胎土はやや密(砂粒やや多い)、焼成は普通、色調は橙。 |
| 第106図448 | A区 | ＳＩ11 | カマド６層 | | | － | － | － | 非ロクロ成形。内面はヘラナデ、ハケ目、一部にス ス付着。外面は一部ヘラケズリ、粘土紐積み上げ痕。胎土はやや密(砂粒やや多い)、焼成は普通、色調は橙。 |
| 第106図449 | A区 | ＳＩ12Ａ | ５層 | ＳＩ12Ａ　１層<br>ＳＩ12Ａ　５層<br>ＭＡ50　Ⅳａ層<br>ＭＣ52　カクラン | | － | (6.4) | (7.2) | 非ロクロ成形。内面はヘラケズリ。外面はヘラケズリ。底部は上げ底風の砂底。胎土は粗い(砂粒多い)、焼成は普通、色調は橙。 |
| 第106図450 | A区 | ＳＩ12Ａ | ５層 | ＳＩ12Ａ　５層<br>ＳＩ12Ａ　３層 | | (12.6) | － | (16.0) | 非ロクロ成形。内面はヘラナデ。外面はヘラナデ。内外面にス ス付着。胎土はやや密(砂粒やや多い)、焼成は普通、色調は橙。 |
| 第106図451 | A区 | ＳＩ12Ａ | １層 | ＭＡ49　Ⅱ層<br>ＭＢ49　Ⅱ層<br>ＭＢ49　Ⅳ層 | | － | － | － | 非ロクロ成形。内面はヘラナデ、ハケ目。外面はヘラケズリ。胎土はやや密(砂粒やや多い)、焼成は普通、色調は橙。 |
| 第106図452 | A区 | ＳＩ12Ａ | カマド１層 | ＳＩ12Ａ　５層 | | (11.1) | － | － | 非ロクロ成形。内面はヘラケズリ→ヘラナデ、一部にス ス付着。外面はヘラナデ。胎土はやや密(砂粒やや多い)、焼成は普通、色調は橙。 |
| 第106図453 | A区 | ＳＩ12Ａ | 11層 | ＭＣ52　Ⅲ層<br>ＭＢ52　カクラン | | － | － | － | 非ロクロ成形。内面はハケ目。外面はヘラケズリ。胎土はやや密(砂粒やや多い)、焼成は普通、色調は橙。 |
| 第106図454 | A区 | ＳＩ12Ａ | ５層 | ＳＩ12Ａ　５層<br>ＭＣ52　Ⅲ層 | | － | － | － | 非ロクロ成形。内面はヘラナデ、ハケ目。外面はヘラケズリ。胎土はやや密(砂粒やや多い)、焼成は普通、色調は橙。 |
| 第106図455 | A区 | ＳＩ12Ａ | ５層 | ＳＩ12Ａ　１層<br>ＳＩ12Ａ　２層<br>ＳＩ12Ａ　５層<br>ＭＤ51　Ⅱ層<br>ＭＣ53　Ⅳａ層 | | － | － | － | 非ロクロ成形。内面はハケ目。外面は部分的にヘラケズリ。内外面にス ス付着。胎土はやや密(砂粒やや多い)、焼成は普通、色調は橙。 |
| 第107図456 | A区 | ＳＩ12Ａ | カマド２層 | | 土師器<br>甕Ａ類 | (14.2) | (8.0) | (20.0) | 非ロクロ成形。内面はヘラナデ。外面はヘラナデ。内外面にス ス付着。外面はヘラケズリ、ス ス付着。底部は砂底。胎土はやや密(砂粒やや多い)、焼成は普通、色調は橙。 |
| 第107図457 | A区 | ＳＩ12Ａ | カマド２層 | ＳＩ12Ａ　カマド２層<br>ＳＩ12Ａ　カマド３層 | | － | － | － | 非ロクロ成形。内面はヘラナデ。外面はハケ目、粘土紐の積み上げ痕が明瞭。内外面にス ス付着。胎土はやや密(砂粒やや多い)、焼成は普通、色調は橙。 |
| 第107図458 | A区 | ＳＩ12Ａ | カマド４層 | ＳＩ12Ａ　カマド２層<br>ＳＩ12Ａ　カマド３層<br>ＳＩ12Ａ　１層、<br>ＳＩ12Ａ　カマド４層 | | (20.5) | － | － | 非ロクロ成形。内面はユビナデ。外面はユビナデ、ス ス付着。胎土はやや密(砂粒やや多い)、焼成は普通、色調は橙。 |
| 第107図459 | A区 | ＳＩ12Ｂ | カマド１層 | ＭＣ51　排土<br>ＭＤ51　Ⅱ層 | | － | (9.2) | (16.6) | 非ロクロ成形。内面はハケ目。外面はヘラケズリ(ヘラケズリ時の段がごく浅い沈線状にみえる)、ス ス付着。底部砂底。胎土はやや密(砂粒やや多い)、焼成は普通、色調は橙。 |
| 第107図460 | | ＭＢ52 | Ⅱ層 | ＭＤ52　Ⅱ層<br>ＭＤ52　Ⅳａ層 | 土師器<br>坏Ａ類 | (12.4) | 4.6 | (5.5) | 糸切り。ロクロ成形の内黒土師器。ス ス(外面の上、口縁部に)付着。内面はヘラミガキ。外面はロクロ目。胎土は密(砂粒少ない)、焼成は普通、色調は橙。 |

# 第５章　自然科学的分析

## 第１節　放射性炭素年代測定

パレオ・ラボAMS年代測定グループ
伊藤茂・丹生越子・尾嵜大真・廣田正史・瀬谷薫・小林紘一
Ｚａur Lomtａtidze・Inezａ Jorjoliａni・竹原弘展

### １．はじめに

秋田県大館市に位置する狼穴Ⅱ遺跡より検出された試料について、加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を行った。

### ２．試料と方法

測定試料の情報、調製データは第22表のとおりである。試料は、土器付着炭化物が3点（試料№.１，４，６、PLD-12231,12234,12236）、炭化材が7点（試料№.2,3,5,8～11、PLD-12232,12233,12235,12238～12241）、不明炭化物が1点（試料№.7、PLD- 12237）の計11点である。試料№.１～７，９は捨て場の各層位より採取され、試料№.８は陥し穴の埋土中の炭化材である。また、試料№.10,11はかまどより出土した炭化材である。

試料は調製後、加速器質量分析計（パレオ・ラボ、コンパクトAMS：NEC製 1.5SDH）を用いて測定した。得られた$^{14}$Ｃ濃度について同位体分別効果の補正を行った後、$^{14}$Ｃ年代、暦年代を算出した。

### ３．結果

表２に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比（$\delta^{13}$Ｃ）、同位体分別効果の補正を行って暦年較正に用いた年代値、慣用に従って年代値、誤差を丸めて表示した$^{14}$Ｃ年代、$^{14}$Ｃ年代を暦年代に較正した年代範囲を、図1に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は年代値、誤差を丸めていない値であり、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

$^{14}$Ｃ年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。$^{14}$Ｃ年代（yrBP）の算出には、$^{14}$Ｃの半減期としてＬｉｂｂｙの半減期5568年を使用した。また、付記した$^{14}$Ｃ年代誤差（±１σ）は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の$^{14}$Ｃ年代がその$^{14}$Ｃ年代誤差内に入る確率が68.2％であることを示すものである。

なお、暦年較正の詳細は以下の通りである。

#### 暦年較正

暦年較正とは、大気中の$^{14}$Ｃ濃度が一定で半減期が5568年として算出された$^{14}$Ｃ年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の$^{14}$Ｃ濃度の変動、及び半減期の違い（$^{14}$Ｃの半減期5730±

40年）を較正することで、より実際の年代値に近いものを算出することである。

$^{14}$Ｃ年代の暦年較正には0xCａ14.0（較正曲線データ：INTCAL04）を使用した。なお、１σ暦年代範囲は、0xCａlの確率法を使用して算出された$^{14}$Ｃ年代誤差に相当する68.2％信頼限界の暦年代範囲であり、同様に2σ暦年代範囲は95.4％信頼限界の暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は$^{14}$Ｃ年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。それぞれの暦年代範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示してある。

４．考察

試料について、同位体分別効果の補正及び暦年較正を行った。試料№.１～９の暦年代範囲を第111図に図示する。Ｖａ層である試料№.９を除くと、各層位間に大きな時期差は現れなかったが、１σの範囲で検討すると、陥し穴SKT01の試料№.８はやや古く、Ⅱ層の試料№.７はやや新しい可能性がうかがえる。９点の暦年代はいずれも小林（2008）の示した縄文時代前期に相当する。試料№.９は他の８点と1000年以上の開きがあり、差が大きいことから№.9は埋蔵過程についても検討してみる必要があろう。

かまどより出土した炭化材については、試料№.10が９世紀～10世紀、№.11が７世紀～８世紀という年代を示した。なお、炭化材試料はいずれも最外年輪ではなく部位不明であることを考慮しなければならない。

参考文献

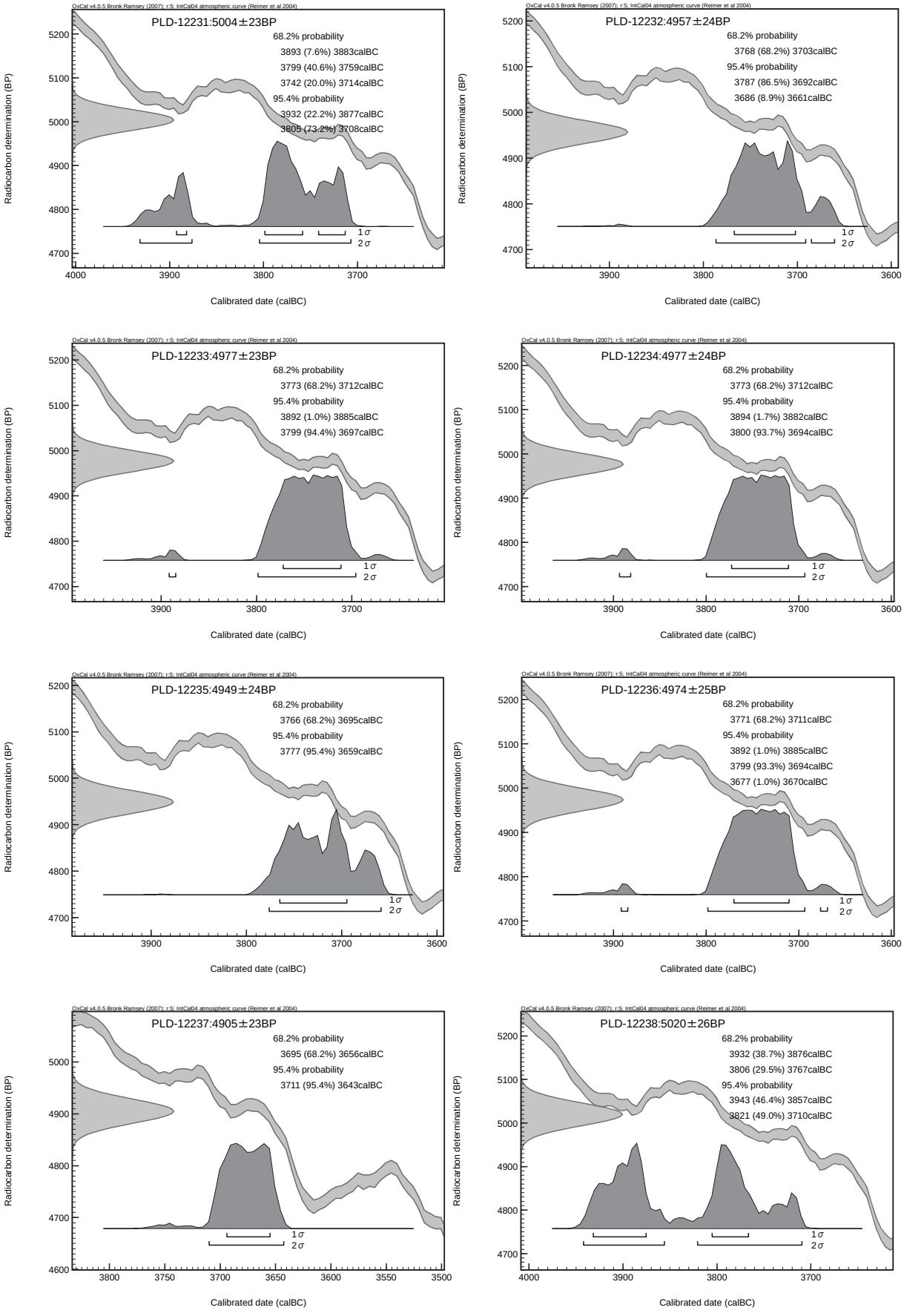
Bronk Ｒamsey, C. (1995) Ｒadiocａrbon Cａlibｒation ａnd Anａlysis of Stｒatigｒaphy: The OxCａl Pｒogｒam. Ｒadiocａrbon,
37, 425-430.
Bronk Ｒamsey, C. (2001) Development of the Ｒadiocａrbon Pｒogｒam OxCａl. Ｒadiocａrbon, 43, 355-363.
小林謙一（2008）縄文時代の暦年代. 縄文時代の考古学2 歴史のものさし, 257-269, 同成社.
中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎. 日本先史時代の$^{14}$Ｃ年代. 3-20.
Reimer, P.J., Ｂaillie, M.G.L., Ｂard, E., Ｂayliss, A., Beck, J.W., Bertｒand, C.J.H., Blａckwell, P.G., Buck, C.E., Burr, G.S., Cutler, K.B., Ｄamon, P.E., Edwａrds, R.L., Ｆairbａnks, R.G., Friedrich, M., Guilderson, T.P., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., McCormａc, G., Ｍanning, S., Bronk Ｒamsey, C., Reimer, R.W., Remmele, S., Southon, J.R., Stuiver, M., Ｔalamo, S., Ｔaylor, F.W., ｖan der Plicht, J. ａnd Weyhenmeyer, C.E. (2004) IntCａl04 terrestrial
ｒadiocａrbon ａge cａlibｒation, 0-26 cａl kyr BP. Ｒadiocａrbon, 46, 1029-1058.

第22表　測定試料及び処理

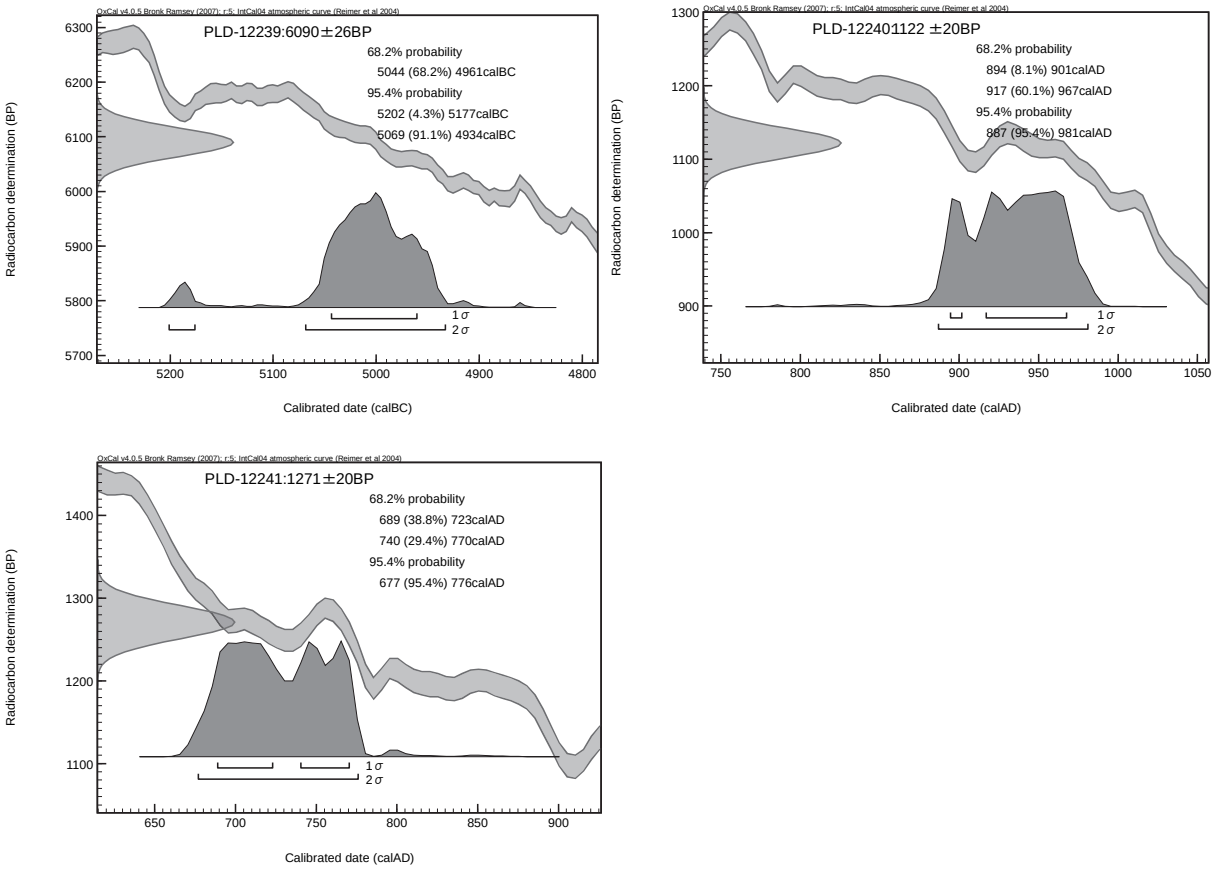
| 測定番号 | 遺跡データ | 試料データ | 前処理 |
|---|---|---|---|
| PLD-12231 | 遺構：ST04<br>調査区：A区<br>グリッド：MB44<br>試料No.：1<br>遺物No.：RP744<br>層位：Ⅱ層 | 試料の種類：土器付着炭化物<br>器種：深鉢(円筒土器)<br>部位：胴部内面<br>状態：dry | 超音波洗浄<br>酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:0.1N,塩酸:1.2N)<br>サルフィックス |
| PLD-12232 | 遺構：ST04<br>調査区：A区<br>グリッド：MA43<br>試料No.：2<br>層位：Ⅳ層<br>その他：RP762付近 | 試料の種類：炭化材<br>試料の性状：不明<br>状態：dry | 超音波洗浄<br>酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)<br>サルフィックス |
| PLD-12233 | 遺構：ST04<br>調査区：A区<br>グリッド：LS45<br>試料No.：3<br>層位：Ⅷ層 | 試料の種類：炭化材<br>試料の性状：不明<br>状態：dry | 超音波洗浄<br>酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)<br>サルフィックス |
| PLD-12234 | 遺構：ST04<br>調査区：A区<br>グリッド：LS45<br>試料No.：4<br>遺物No.：RP756<br>層位：Ⅷ層 | 試料の種類：土器付着炭化物<br>器種：深鉢(円筒土器)<br>部位：口縁部外面<br>状態：dry | 超音波洗浄<br>酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:0.1N,塩酸:1.2N)<br>サルフィックス |
| PLD-12235 | 遺構：ST04<br>調査区：A区<br>グリッド：LR45<br>試料No.：5<br>層位：Ⅸ層 | 試料の種類：炭化材<br>試料の性状：不明<br>状態：dry | 超音波洗浄<br>酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)<br>サルフィックス |
| PLD-12236 | 遺構：ST04<br>調査区：A区<br>グリッド：LS45<br>試料No.：6<br>遺物No.：RP785<br>層位：Ⅸ層 | 試料の種類：土器付着炭化物<br>器種：深鉢(円筒土器)<br>部位：口縁部外面<br>状態：dry | 超音波洗浄<br>酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)<br>サルフィックス |
| PLD-12237 | 遺構：ST15<br>調査区：A区<br>グリッド：LM52<br>試料No.：7<br>層位：Ⅱ層<br>その他：RP751付近 | 試料の種類：炭化物<br>試料の性状：不明<br>状態：dry | 超音波洗浄<br>酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)<br>サルフィックス |
| PLD-12238 | 遺構：SKT01<br>調査区：A区<br>グリッド：LQ51<br>試料No.：8<br>遺物No.：RC01<br>層位：SKT012層 | 試料の種類：炭化材<br>試料の性状：不明<br>状態：dry | 超音波洗浄<br>酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)<br>サルフィックス |
| PLD-12239 | 遺構：ST28<br>調査区：A区<br>グリッド：MC2<br>試料No.：9<br>層位：Ⅴa層 | 試料の種類：炭化材<br>試料の性状：不明<br>状態：dry | 超音波洗浄<br>酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)<br>サルフィックス |
| PLD-12240 | 遺構：SI11<br>調査区：A区<br>グリッド：MB52<br>試料No.：10<br>層位：かまど9層 | 試料の種類：炭化材<br>試料の性状：不明<br>状態：dry | 超音波洗浄<br>酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)<br>サルフィックス |
| PLD-12241 | 遺構：SI12<br>調査区：A区<br>グリッド：MB51<br>試料No.：11<br>層位：かまど4層 | 試料の種類：炭化材<br>試料の性状：不明<br>状態：dry | 超音波洗浄<br>酸・アルカリ・酸洗浄(塩酸:1.2N,水酸化ナトリウム:1N,塩酸:1.2N)<br>サルフィックス |

第23表　放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果

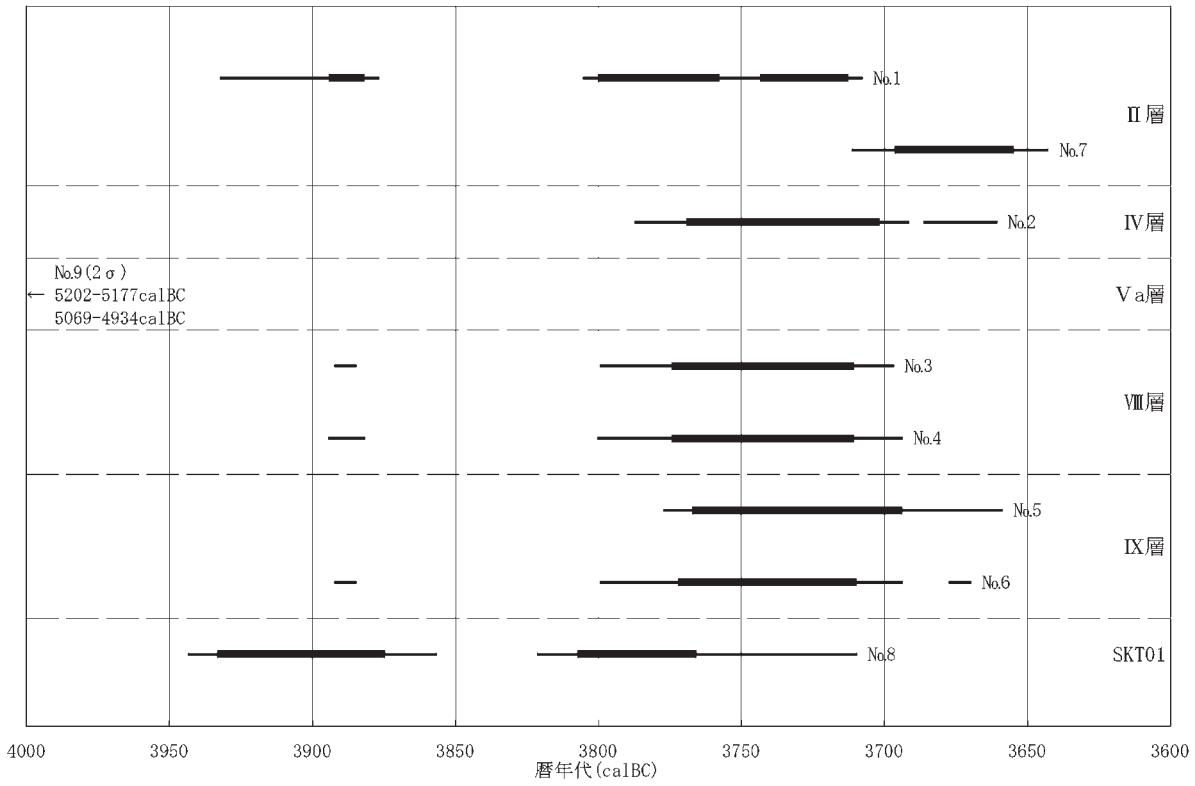
| 測定番号 | δ13C (‰) | 暦年較正用年代 (yrBP±1σ) | 14C 年代 (yrBP±1σ) | 14C年代を暦年代に較正した年代範囲 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | | 1σ暦年代範囲 | 2σ暦年代範囲 |
| PLD-12231<br>試料No.：1<br>遺物No.：RP744 | -25.31±0.12 | 5004±23 | 5005±25 | 3893BC( 7.6%)3883BC<br>3799BC(40.6%)3759BC<br>3742BC(20.0%)3714BC | 3932BC(22.2%)3877BC<br>3805BC(73.2%)3708BC |
| PLD-12232<br>試料No.：2 | -26.17±0.16 | 4957±24 | 4955±25 | 3768BC(68.2%)3703BC | 3787BC(86.5%)3692BC<br>3686BC( 8.9%)3661BC |
| PLD-12233<br>試料No.：3 | -28.98±0.23 | 4977±23 | 4975±25 | 3773BC(68.2%)3712BC | 3892BC( 1.0%)3885BC<br>3799BC(94.4%)3697BC |
| PLD-12234<br>試料No.：4<br>遺物No.：RP756 | -25.64±0.14 | 4977±24 | 4975±25 | 3773BC(68.2%)3712BC | 3894BC( 1.7%)3882BC<br>3800BC(93.7%)3694BC |
| PLD-12235<br>試料No.：5 | -28.81±0.15 | 4949±24 | 4950±25 | 3766BC(68.2%)3695BC | 3777BC(95.4%)3659BC |
| PLD-12236<br>試料No.：6<br>遺物No.：RP785 | -25.93±0.13 | 4974±25 | 4975±25 | 3771BC(68.2%)3711BC | 3892BC( 1.0%)3885BC<br>3799BC(93.3%)3694BC<br>3677BC( 1.0%)3670BC |
| PLD-12237<br>試料No.：7 | -26.41±0.12 | 4905±23 | 4905±25 | 3695BC(68.2%)3656BC | 3711BC(95.4%)3643BC |
| PLD-12238<br>試料No.：8<br>遺物No.：RC01 | -26.38±0.19 | 5020±26 | 5020±25 | 3932BC(38.7%)3876BC<br>3806BC(29.5%)3767BC | 3943BC(46.4%)3857BC<br>3821BC(49.0%)3710BC |
| PLD-12239<br>試料No.：9 | -26.37±0.14 | 6090±26 | 6090±25 | 5044BC(68.2%)4961BC | 5202BC( 4.3%)5177BC<br>5069BC(91.1%)4934BC |
| PLD-12240<br>試料No.：10 | -27.06±0.17 | 1122±20 | 1120±20 | 894AD( 8.1%)901AD<br>917AD(60.1%)967AD | 887AD(95.4%)981AD |
| PLD-12241<br>試料No.：11 | -25.42±0.15 | 1271±20 | 1270±20 | 689AD(38.8%)723AD<br>740AD(29.4%)770AD | 677AD(95.4%)776AD |




第109図　暦年較正結果（１）




第110図　暦年較正結果（２）




（太線：１σ，細線：２σ）

第111図　試料№.１～９の暦年代

## 第２節　黒曜石産地推定

竹　原　弘　展（パレオ・ラボ）

１．はじめに

大館市釈迦内字狼穴に所在する狼穴Ⅱ遺跡より出土した黒曜石製石器について、エネルギー分散型蛍光X線分析装置による元素分析を行い、産地を推定した。

２．試料と方法

分析試料は狼穴Ⅱ遺跡より出土した縄文時代前期の黒曜石製石器計１点である。試料は、測定前にメラミンフォーム製のスポンジを用いて、表面の洗浄を行った。分析装置は、(株)セイコーインスツルメンツ社製のエネルギー分散型蛍光X線分析計SEA－2001Lを使用した。装置の仕様は、X線管ターゲットはロジウム、X線検出器はSi(Li)半導体検出器である。測定条件は、測定時間300sec、照射径10㎜、電流自動設定(１～63μA、デッドタイムが20％未満になるよう自動設定)、電圧50kV、試料室内雰囲気真空に設定した。

黒曜石の産地推定には、蛍光X線分析によるX線強度を用いた黒曜石産地推定法である判別図法を用いた(望月,2004など)。本方法は、まず各試料を蛍光X線分析装置で測定し、その測定結果のうち、カリウム(K)、マンガン(Mn)、鉄(Fe)とルビジウム(Rb)、ストロンチウム(Sr)、イットリウム(Y)、ジルコニウム(Zr)の合計７元素のX線強度(cps；count per second)について、以下に示す指標値を計算する。

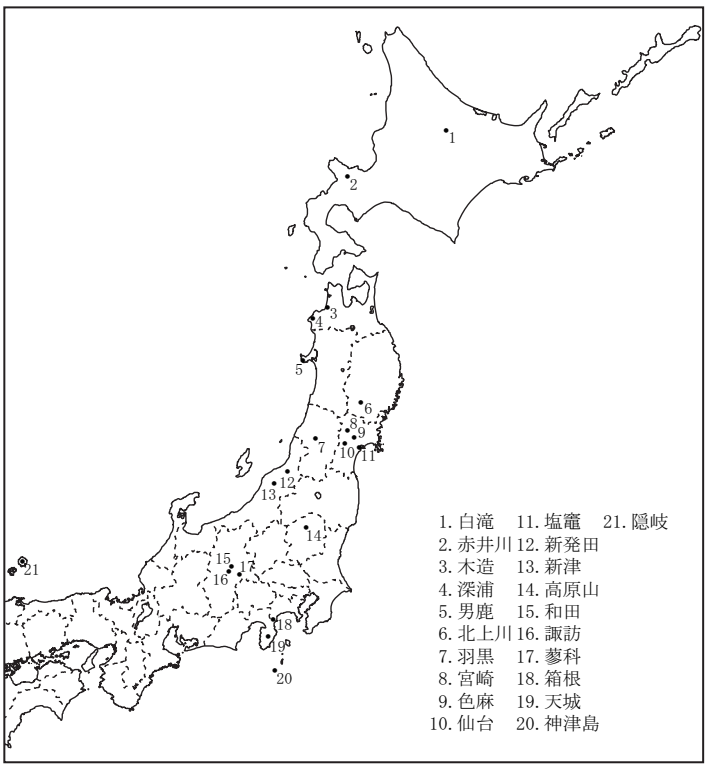
１)Rb分率=Rb強度×100/(Rb強度+Sr強度+Y強度+Zr強度)

２)Sr分率=Sr強度×100/(Rb強度+Sr強度+Y強度+Zr強度)

３)Mn強度×100/Fe強度

４)log(Fe強度/K強度)

そしてこれらの指標値を用いた２つの判別図(横軸Rb分率－縦軸Mn強度×100/Fe強度の判別図と横軸Sr分率－縦軸log(Fe強度/K強度)の判別図)を作成し、各地の原石データと遺跡出土遺物のデータを照合して、産地を推定するものである。この判別図法は、原石同士の判別図が重複した場合、分離は不可能となるが、現在のところ、同一エリア内の多少の重複はあってもエリア間の重複はほとんどないことから、産地エリアの推定には十分である。また、指標値に蛍光X線のエネルギー差がで




第112図　黒曜石産地分布図(東日本)

きる限り小さい元素同士を組み合わせて算出しているため、形状や厚みなどの影響を比較的受けにくいという利点があり、非破壊分析を原則とし、形状が不規則で薄い試料も多く存在する出土遺物の測定に対して非常に有効な方法であるといえる。なお、厚みについては、かなり薄くても測定可能であるが、それでも0.5㎜以下では影響をまぬかれないといわれる（望月,1999）。極端に薄い試料の場合、K強度が相対的に強くなるため、log(Fe強度/K強度)の値が減少する。また、風化試料の場合でも、log(Fe強度/K強度)の値が減少する（同上）。そのため、試料の測定面はなるべく奇麗で平坦な面を選び、測定した。測定結果が判別群からかけ離れた値を示した場合は、測定面を変更するか、あるいはメラミンフォーム製スポンジで再度表面の洗浄を行った後、何回か再測定を行って検証した。原石試料は、採取原石を割り新鮮な面を表出させた上で、産地推定対象試料と同様の条件で測定した。第24表に各原石産地とそれぞれの試料点数、ならびにこれらのエリアと判別群名を示す。また、第24表（望月，2004参考）に各原石の採取地分布図を示す。

第24表　黒曜石産地(東日本)の判別群名称

| 都道府県 | エリア | 判別群 | 記号 | 原石採取地 |
|---|---|---|---|---|
| 北海道 | 白滝 | 八号沢群 | STHG | 赤石山山頂･八号沢露頭･八号沢･黒曜の沢･ |
| | | 黒曜の沢群 | STKY | 幌加林道(36) |
| | 赤井川 | 曲川群 | AIMK | 曲川･土木川(12) |
| 青森 | 木造 | 出来島群 | KDDK | 出来島海岸(10) |
| | 深浦 | 八森山群 | HUHM | 岡崎浜(7)、八森山公園(8) |
| 秋田 | 男鹿 | 金ヶ崎群 | OGKS | 金ヶ崎温泉(10) |
| | | 脇本群 | OGWM | 脇本海岸(4) |
| 岩手 | 北上川 | 北上折居2群 | KKO2 | 北上川(9) |
| 山形 | 羽黒 | 月山群 | HGGS | 月山荘前(10) |
| 宮城 | 宮崎 | 湯ノ倉群 | MZYK | 湯ノ倉(40) |
| | 色麻 | 根岸群 | SMNG | 根岸(40) |
| | 仙台 | 秋保1群 | SDA1 | 土蔵(18) |
| | | 秋保2群 | SDA2 | |
| | 塩釜 | 塩竈群 | SGSG | 塩竈(10) |
| 新潟 | 新発田 | 板山群 | SBIY | 板山牧場(10) |
| | 新津 | 金津群 | NTKT | 金津(7) |
| 栃木 | 高原山 | 甘湯沢群 | THAY | 甘湯沢(22) |
| | | 七尋沢群 | THNH | 七尋沢(3)、宮川(3)、枝持沢(3) |
| 長野 | 和田(WD) | 鷹山群 | WDTY | 鷹山(20)、東餅屋(20) |
| | | 小深沢群 | WDKB | 小深沢(18) |
| | | 土屋橋西群 | WDTN | 土屋橋西(11) |
| | 和田(WO) | ブドウ沢群 | WOBD | ブドウ沢(20) |
| | | 牧ヶ沢群 | WOMS | 牧ヶ沢下(20) |
| | | 高松沢群 | WOTM | 高松沢(19) |
| | 諏訪 | 星ヶ台群 | SWHD | 星ヶ台(35)、星ヶ塔(20) |
| | 蓼科 | 冷山群 | TSTY | 冷山(20)、麦草峠(20)、麦草峠東(20) |
| 神奈川 | 箱根 | 芦ノ湯群 | HNAY | 芦ノ湯(20) |
| | | 畑宿群 | HNHJ | 畑宿(51) |
| | | 鍛冶屋群 | HNKJ | 鍛冶屋(20) |
| 静岡 | | 上多賀群 | HNKT | 上多賀(20) |
| | 天城 | 柏峠群 | AGKT | 柏峠(20) |
| 東京 | 神津島 | 恩馳島群 | KZOB | 恩馳島(27) |
| | | 砂糠崎群 | KZSN | 砂糠崎(20) |
| 島根 | 隠岐 | 久見群 | OKHM | 久見パーライト中(6)、久見採掘現場(5) |
| | | 箕浦群 | OKMU | 箕浦海岸(3)、加茂(4)、岸浜(3) |

３．分析結果

第113・114図に、黒曜石原石の判別図に分析試料１点をプロットした図を示す。なお、図は視覚的にわかりやすくするため、各判別群を楕円で取り囲んである。木造エリア出来島群KDDKの範囲内にプロットされた。第24表に、判別図法により推定された判別群名とエリア名を示す。

第25表　産地推定結果

| 試料No. | 出土遺構 | 出土グリッド | 層位 | 推定時期 | 備考 | 判別群 | エリア |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ST27 | MA50 | Va層 | 縄文時代前期 | 埋没谷A出土 | KDDK | 木造 |

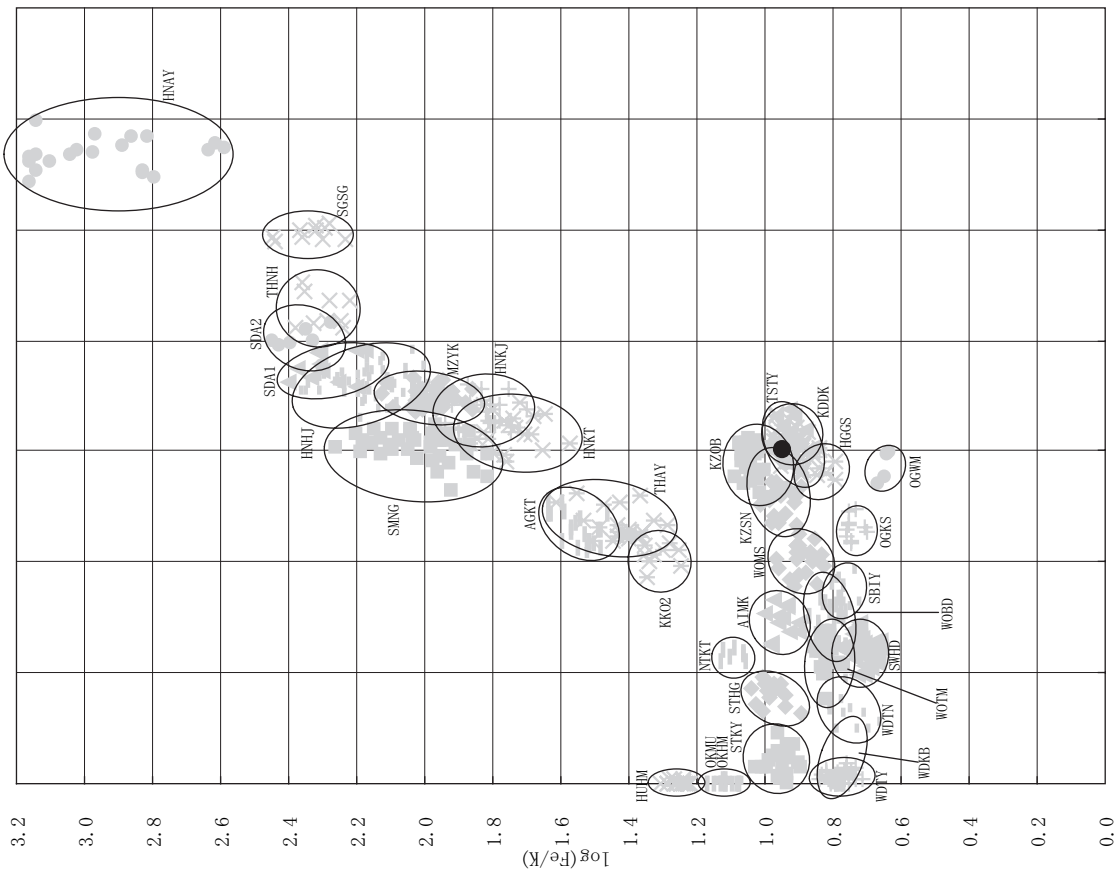
４．おわりに

黒曜石製石器１点について蛍光X線分析による産地推定を行った結果、木造エリア産と推定された。

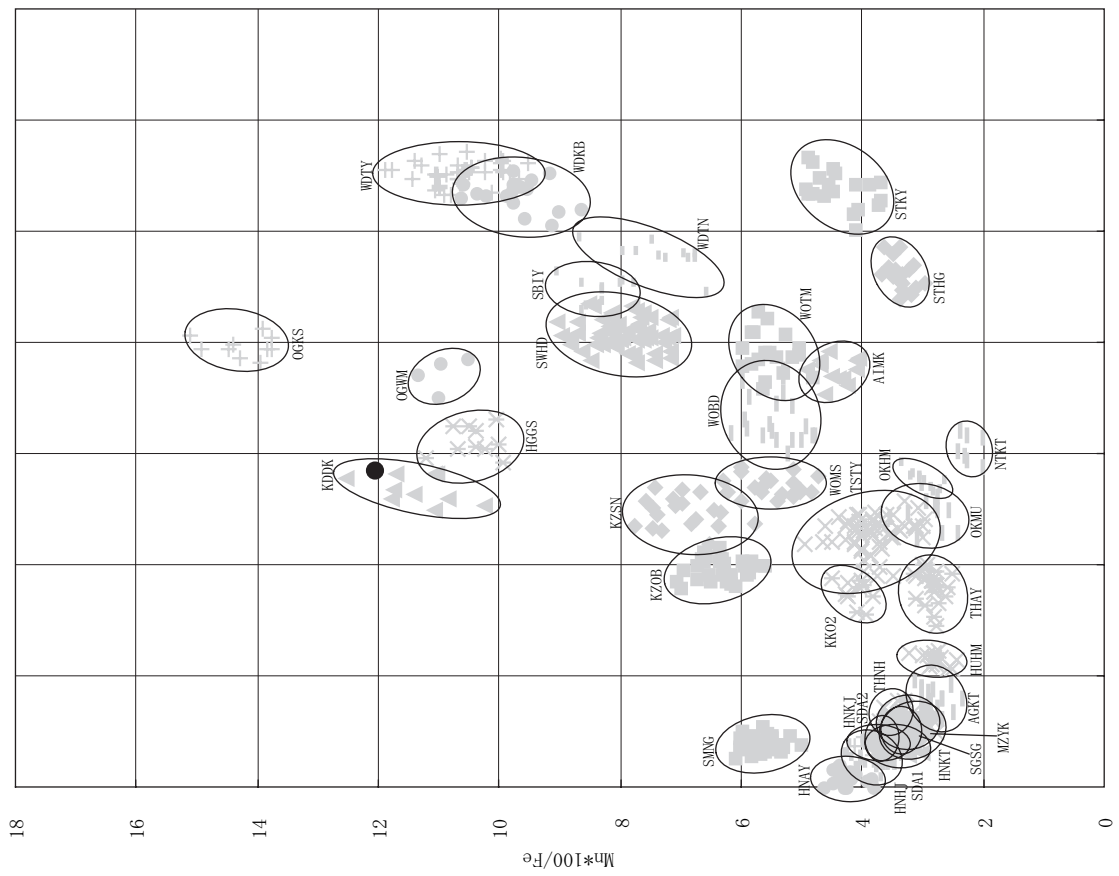
引用文献

望月明彦（1999）上和田城山遺跡出土の黒曜石産地推定.「埋蔵文化財の保管と活用のための基礎的整理報告書2　―上和田城山遺跡篇―」:172-179，大和市教育委員会.

望月明彦（2004）殿山遺跡出土の黒曜石製石器の産地推定．上尾市文化財調査報告第76集　「殿山遺跡　先土器時代石器群の保管･活用のための整理報告書」：272-282，上尾市教育委員会.




第114図　黒曜石産地推定判別図（２）




第113図　黒曜石産地推定判別図（１）

# 第６章　まとめ

今回の調査では、縄文時代の竪穴住居跡・フラスコ状土坑・陥し穴・土坑・溝跡・柱穴様ピットの他、捨て場が４か所見つかった。また、平安時代では竪穴住居跡・製鉄炉跡・土坑・溝跡・柱穴様ピットを検出した。ここでは全体の概要についてまとめる。

## 縄文時代の遺構について

縄文時代の遺構は主にＡ区平坦面で検出した。時期は出土遺物や遺構の配置状況から縄文時代前期中葉と考えられる。竪穴住居跡は２軒検出したが、撹乱のため正確な規模は把握できず、炉跡や主柱穴などからおおよその規模を想定した。この時期の住居跡の類例から、住居跡の平面形は円形かそれに近い形が想定される。また竪穴住居跡に近接してフラスコ状土坑１基を検出した。出土遺物から縄文時代前期と判明しており、住居に近接することから同時期に存在した可能性が高い。他に陥し穴３基を並列した状態で検出した。陥し穴の規模は、この種の遺構としては大きく長軸3.36ｍ～3.51ｍである。また出土遺物が少ないのが通例であるが、縄文時代前期中葉の土器や石器が埋土の底面～上位で多く出土した。

台地上の調査区平坦面の南東側と西側には急斜面が存在し、その南東側斜面に捨て場が形成されていた（ＳＴ04・ＳＴ15)。ＳＴ04からは特に多くの遺物が出土した。また、調査区の中央から西に向かう埋没谷、さらにその北側にある埋没谷でも、それぞれで捨て場が形成されていた（ＳＴ27・ＳＴ28)。

## 縄文時代の遺物について

土器の大半はＳＴ04捨て場から出土しており、層位毎に掲載した。ここではＳＴ04下方の遺物包含層から出土した土器を中心に概観する（以下、挿図番号を略し挿図中の遺物番号のみを記す)。

Ⅸ層からは以下の土器が出土している。203～209は全面に縄文を施文したＡ類、210～243は全面に撚糸文を施文したＢ類である。これらの器形は主として、底部から頸部にかけてわずかに丸味をもって立ち上がり、口縁部がわずかに外反するもの（①）と、底部から口縁部まで外反しながら直線的に立ち上がるもの（②）がある。209は胴部がかなり丸味をもち、最大径が口縁部にある。口縁部には小波状の突起がある。207は直線的に立ち上がり、口縁部がかなり開く。例えば203・204・218・229・232・237・239・243は縄文・撚糸文・原体の圧痕文などを施文する。

244～255は区画帯の無いもので、口縁部には綾繰文を施文する。244～247は胴部に縄文を施文したＣ類、248～255は胴部に撚糸文を施文したＤ類である。器形は254・257が底部から頸部までわずかに丸味をもちながら立ち上がり、頸部でわずかに外反する円筒形に近いものである。254の底部周縁は張り出し気味である。251・252は波状口縁で、249・253・254は口唇部に刺突文や圧痕文を施文する。

256・257は口縁部に斜位もしくは横位に撚糸文、胴部にも斜位に撚糸文を施文した区画帯の無いＦ類である。256の器形は底部から頸部までわずかに丸味をもちながら立ち上がりる。円筒形に近く、頸部でわずかに外反する。底部周縁は張り出し気味である。

同じ区画帯の無いもので、口縁部に撚糸文、胴部に縄文を施文したＥ類は未確認である。

258～264は、頸部の隆帯に縄文原体の圧痕文・指頭圧痕文など、口唇部には刺突文、地文は縄文・綾繰文・撚糸文などを施文したＧ類である。器形は隆帯の大きさや貼付位置、文様などによってバラエティがある。器形は261は底部から胴部上半まで丸味をもちながら立ち上がり、隆帯のある頸部でやや外反する。259は261とやや類似し、口縁部と胴部上半の径がほぼ同じである。両者は各層出土土器の中でも特に大きく、259は口径が50.3㎝である。263は前者に比べ立ち上がりが直線的で、頸部がわずかに外反する。260・262は立ち上がりが直線的で、頸部がわずかに外反する。264は胴部が膨らみ、頸部ですぼみ外反する。この器形は全体で２点だけの出土である。264は口唇部と隆帯に刺突、259・260も口唇部に文様を施文している。

265は頸部に綾繰文を横位に施文し、口縁部と胴部文様帯を区画しているＨ類である。器形は円筒形に近く、胴下半部に頸部と同じ文様を施文している。

266・267は頸部に縄文、胴下半部に撚糸文を施文したⅠ類である。分類した土器に文様が付加されたり、口縁部に突起がある土器である。266の口唇部には刺突文を施文する。267の底部には文様を施文する。全体の器形は破片のため不明であるが、円筒形に近い器形と推定される。

Ⅷ層からは以下の土器が出土している。125～152は全て破片資料のＡ類である。全面に縄文や撚糸文・綾繰文を施文した土器と考えられる。125は口唇部に原体の圧痕文を施文する。

129～152全面に撚糸文を施文したＢ類で、円筒形か、胴部がわずかにふくらむ円筒形に近い器形がほとんどである。底部外面や口唇部に文様を施文する例もある。

153～170はＣ類・Ｄ類である。器形は底部から頸部までわずかに丸味をもちながら立ち上がり、口縁部が頸部でわずかに外反する円筒形である。底部は上げ底風の土器が多い。167・180の口唇部には文様を施文している。

171は口縁部に撚糸文、胴部に縄文を施文した区画帯の無いＥ類である。

172・173も区画帯の無いＦ類で、172は円筒形の小型波状口縁となる。

174～188は頸部に隆帯を貼付するＧ類である。187は胴部上半から口縁部まで直線的に立ち上がり、胴部上半と口縁部の径がほぼおなじ器形で、口径が32.3㎝と大きい。Ⅸ層の同様な器形は263である。187の隆帯上には斜行する絡条体圧痕文を施文しており、出土遺物中この１点だけが出土した。Ⅷ層ではⅨ層でみられた縄文原体の圧痕文・指頭圧痕文などの他に、刺突文や竹管文を施文している例がある。この点でⅨ層と異なる。176は胴部がふくらみ、頸部ですぼみ外反する器形である。176は口唇部と隆帯に指頭圧痕文を施文している非常に珍しい器形で、Ⅸ層の264とあわせ２点だけの出土である。

189～197はＨ類である。Ⅸ層では１点であるが、Ⅷ層では19点と数が多い。器形は円筒形か頸部がややくびれる円筒形に近いものが主体を占め、190のようにバケツ状を呈するものもある。190は頸部に横位の２～３条の沈線を施文し、口縁部と胴部文様帯を区画している。地文は斜位の縄文で、胴下半部は横位に縄文を施文している。口唇部と底外面には縄文を施文し、底部は張り出し気味である。

以上、Ⅸ層、Ⅷ層出土の土器を分類毎にみてきた。土器は大きさや器形、文様に違いはあるが全て深鉢形の器種である。これら土器群は、口唇部に刻目や面取りされたように平坦面をなすものが多く、内面には凹凸がある。底部は周縁が張り出し、外面に文様を施文した上げ底気味のものが多い。胎土

には繊維を含むものが大半で、焼成は良好である。Ⅸ層・Ⅷ層出土土器群は、Ｇ類を除けば円筒下層ａ式土器として把握できる。一方Ｇ類は、張り出した胴部とすぼむ頸部から外反する口縁部をもち、頸部の隆帯に指頭圧痕文などを施文する特徴をもつものも含まれることから、茂屋下岱式土器群として把握できる。以上よりⅨ層、Ⅷ層の出土状況から茂屋下岱式土器群は、円筒下層ａ式土器と同時期に存在していたと考えられる。このことはⅣ層、Ⅳｆ層でも同じ傾向を把握することができる。したがって、従来から称されていた茂屋下岱式土器群は円筒下層ａ式土器のバリエーションとして把握することが妥当と考えられる。

平安時代の遺構について

Ａ区平坦面北西部では平安時代の竪穴住居跡３軒が隣接しており、２軒（ＳＩ12Ａ・Ｂ）は重複していた。ＳＩ12Ａは、ＳＩ12Ｂとほぼ同位置で建て替えられたことが確認できた。建て替え後のＳＩ12Ａが埋まりかけている途中に十和田ａ火山灰（10世紀前半）がレンズ状に堆積しており、これらの竪穴住居跡は火山灰降下以前に造られていることが分かった。また、隣接する竪穴住居跡（ＳＩ11）は、火山灰層を掘り込んでいたことから、火山灰降下後に造られたことが判明した。

他にＳＳ22製鉄炉が見つかっている。炉は本体上方と下方に作業場が存在する。操業時期は、出土遺物が無かったものの、東側の竪穴住居跡に隣接することから平安時代の時期が想定される。

平安時代の遺物について

土器は遺構内・外から須恵器壺・甕、土師器坏・甕が出土している。このうち土師器甕は砂底で、非ロクロ成形である。外面にヘラケズリ、内面にヘラナデ・ユビナデなどの二次調整を施す在地系の土器である。時期は平安時代の竪穴住居跡の重複関係から、十和田ａ火山灰降下（915年）前後の10世紀前半頃と考えられる。

以上のように調査の結果、遺跡が縄文時代前期の捨て場を伴う集落と狩猟場として利用されていたことが明らかになり、平安時代には鉄生産に関係していた集落であった可能性が高い。

《参考文献》
山内　清男　「関東北における繊維土器」『史前学雑誌』 1―2　1927(昭和4)年
佐藤　達夫　他　『深郷田遺跡発掘概報』 中里町誌　1965(昭和40)年
奥山　潤　「福館遺跡―大館市の縄文前期前半―」『北海道考古学』第5輯　北海道考古学会　1969(昭和44)年
江坂　輝彌・村越　潔　『石神遺跡』 ニュー・サイエンス社　1970(昭和45)年
秋田県立大館鳳鳴高等学校社会部考古学班　『茂屋下岱式土器群』 1971(昭和46)年
奥山　潤　「東北々西部の指頭圧痕土器」『北海道考古学』第8輯　北海道考古学会　1972(昭和47)年
村越　潔　『円筒土器文化』 雄山閣出版(株)　1974(昭和49)年
林　謙作　「縄文早前期の土器―北海道南部､東北地方」『縄文土器大成１早・前期』 講談社　1982(昭和57)年
秋田県教育委員会　『国道103号大館南バイパス建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書―上ノ山Ⅰ遺跡・上ノ山Ⅱ遺跡』 秋田県文化財調査報告書第173集　1988(昭和63)年
秋田県教育委員会　『国道103号道路改良工事に係る埋蔵文化財調査報告書Ⅳ―上ノ山Ⅰ遺跡第2次調査―』 秋田県文化財調査報告書第211集　1991(平成3)年

秋田県教育委員会 『国道103号道路改良事業に係る埋蔵文化財調査報告書Ⅶ―萩ノ台Ⅱ遺跡―』 秋田県文化財調査報告書第236集　1993(平成5)年

南北海道考古学情報交換会編 『円筒土器下層式図録集―円筒土器下層式とその周辺の様相―』 1995(平成7)年

編者　大川　清・鈴木　公雄・工楽　善通 『日本土器事典』 雄山閣出版(株)　1966(平成8年)

編者　小林　達雄 『総覧　縄文土器』 アム・プロモーション(株)　2008(平成20)年

嶋影　壮憲 「大館市茂屋下岱遺跡の前期縄文土器について」『秋田考古学』 第53号　秋田県考古学協会　2009年(平成21)年

1　遺跡近景－右が北（真上から）

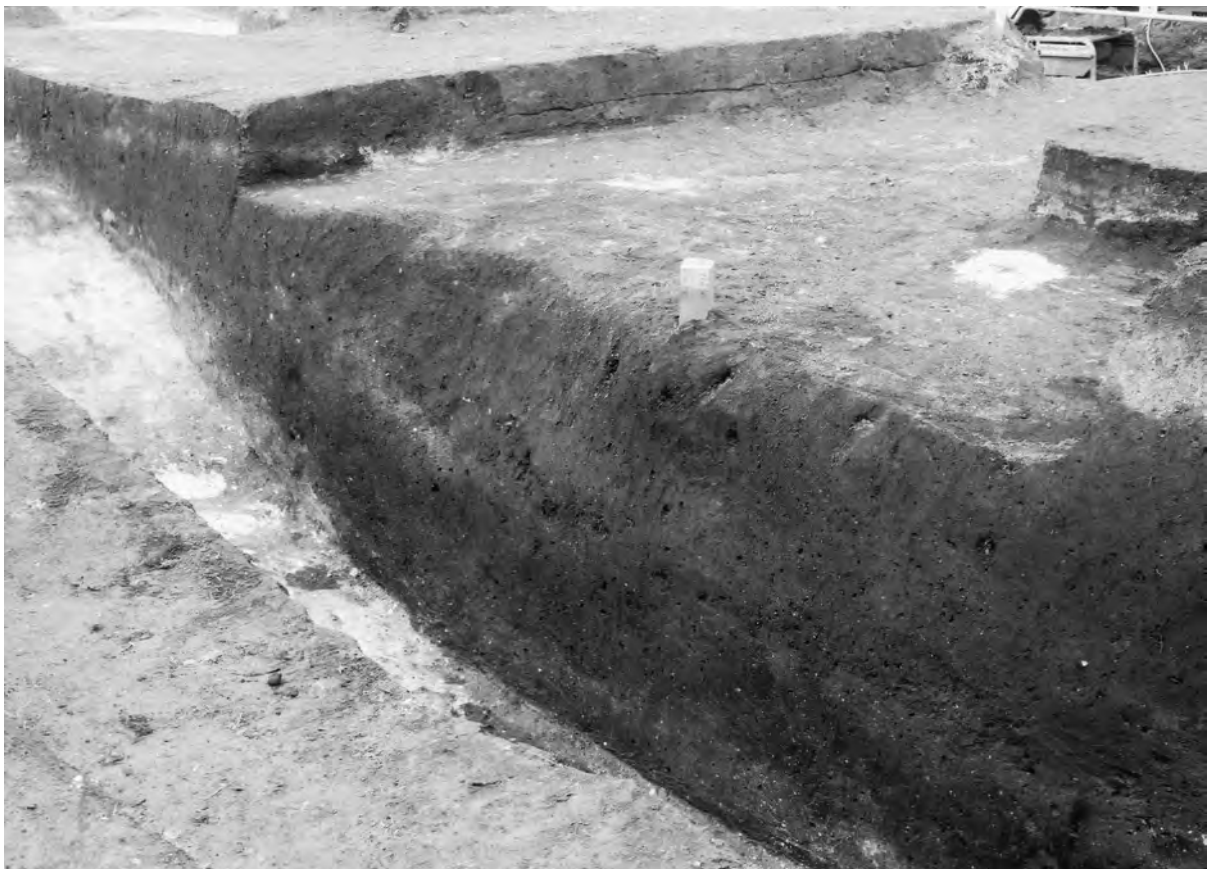
2　遺跡近景－中央が調査区（南から）

図版2

1　調査前のようすー中央が調査区（南東から）

2　調査前のようすーＳＴ04捨て場（北西から）

1　基本土層断面－ＳＴ04捨て場－ＳＰ・Ｆ～Ｇ下半分（西から）



2　基本土層断面－Ａ区平坦部ＳＴ27捨て場－ＳＰ・Ａ～Ｂ（北東から）

図版4

1　ＳＴ04捨て場遺物出土状況－Ⅸ層ＲＰ736（北西から）

2　ＳＴ04捨て場遺物出土状況－Ⅸ層ＲＰ780～784（南から）

1　ＳＴ04捨て場完掘状況（東から）

2　ＳＴ15捨て場遺物出土状況（東から）

図版6

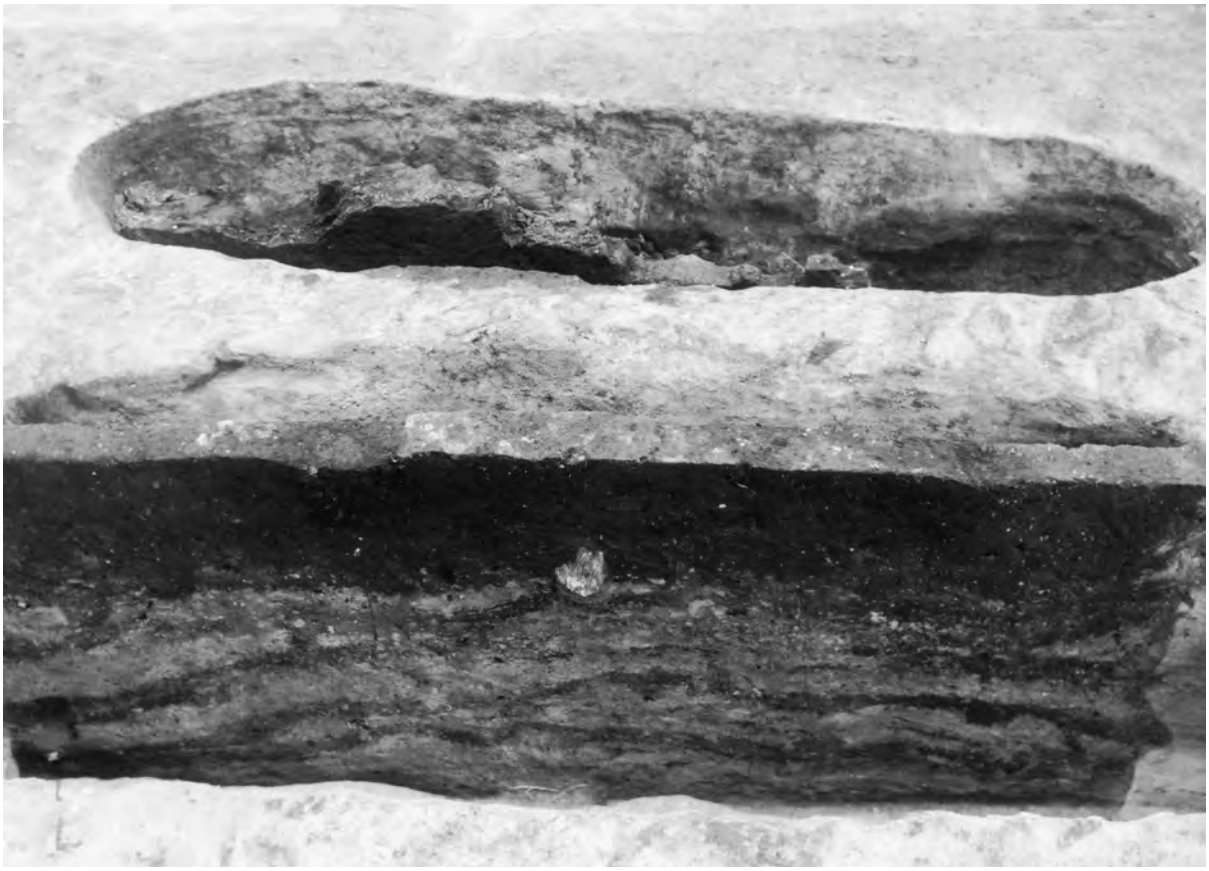
1　ＳＩ03竪穴住居跡完掘状況（東から）

2　ＳＩ21竪穴住居跡完掘状況（北から）

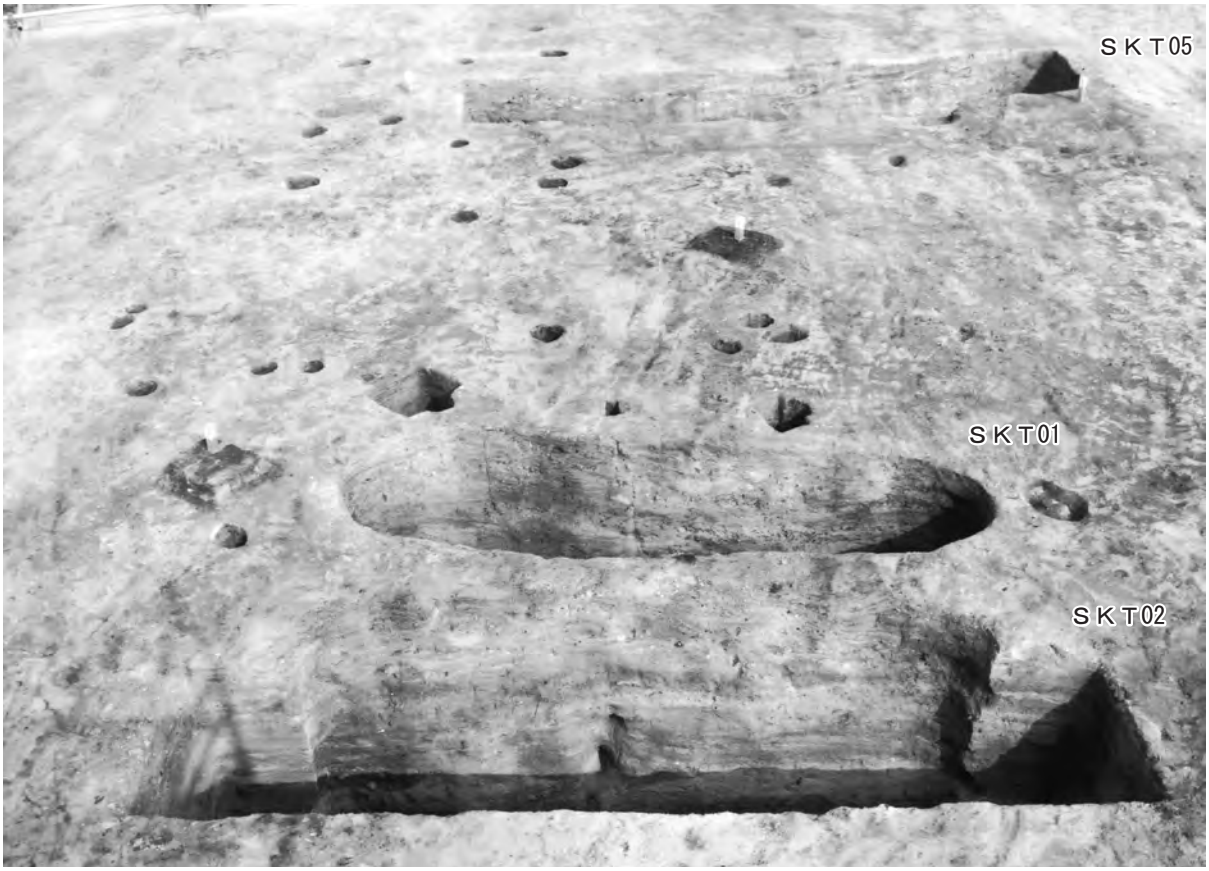
1　ＳＫＦ14フラスコ状土坑完掘状況（北から）

2　ＳＫＴ01・02陥し穴完掘状況（東から）

図版8



1　ＳＫＴ02陥し穴土層断面、ＳＫＴ01陥し穴完掘状況（南から）




2　ＳＫＴ01・02・05陥し穴完掘状況（南西から）

１　ＳＩ11・12竪穴住居跡検出状況（南から）

２　ＳＩ11カマド遺物出土状況（北西から）

1　ＳＩ11竪穴住居跡カマド完掘状況（北西から）

2　ＳＩ11竪穴住居跡完掘状況（北西から）

1　ＳＩ12Ａ竪穴住居跡カマド完掘状況（北西から）

2　ＳＩ12Ａ竪穴住居跡完掘状況（北東から）

1　ＳＳ22製鉄炉完掘状況（西から）

2　Ａ区平坦部調査終了（南から）

# 報 告 書 抄 録

| | |
|---|---|
| ふ り が な | おおかみあなにいせき |
| 書　　名 | 狼穴Ⅱ遺跡 |
| 副 書 名 | 一般国道７号大館西道路建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| 巻　　次 | Ⅶ |
| シリーズ名 | 秋田県文化財調査報告書 |
| リーズ番号 | 第460集 |
| | 柴田陽一郎・髙橋和成・深沢恵里子 |
| | 秋田県埋蔵文化財センター |
| 所 在 地 | 〒014-0802　秋田県大仙市払田字牛嶋20番地　電話(0187)69-3331 |
| 発行年月日 | 西暦2010年８月 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふ り が な<br>所 在 地 | コード<br>市町村 | <br>遺跡番号 | 北緯<br>° ′ ″ | 東経<br>° ′ ″ | 調査期間 | 調査面積<br>㎡ | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| おおかみあなにいせき<br>狼穴Ⅱ遺跡 | あきたけん<br>秋田県<br>おおだてししゃかない<br>大館市釈迦内<br>あざおおかみあなばん<br>字狼穴２番<br>ち<br>地18外 | 05204 | ― | 40°<br>18′<br>44″ | 140°<br>34′<br>32″ | 20080613<br>～<br>20081121 | 3,800㎡ | 一般国道７号大館西道路建設事業に係る埋蔵文化財事前調査 |

| 所収遺跡名 | 種　別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 狼穴Ⅱ遺跡 | 集落跡 | 縄文時代 | 竪穴住居跡 | ２軒 | 縄文土器 | 縄文時代前期中葉（円筒下層ａ式期）と平安時代（10世紀前半頃）の集落跡。 |
| | | | 陥し穴 | ３基 | 石器 | |
| | | | フラスコ状土坑 | １基 | 土製品 | |
| | | | 土坑 | ２基 | 石製品 | |
| | | | 溝跡 | ２条 | | 縄文時代には斜面などに捨て場が形成され、多くの土器、石器などが出土。 |
| | | | 捨て場 | ４か所 | | |
| | | | 柱穴様ピット | ６基 | | |
| | 集落跡 | 古代 | 竪穴住居跡 | ５軒 | 土師器 | |
| | | | 製鉄炉 | １基 | 須恵器 | 茂屋下岱式土器群は円筒下層ａ式土器のバリエーションとして把握できる。 |
| | | | 焼土遺構 | １基 | | |
| | | | 溝跡 | ３条 | | |
| | | | 柱穴様ピット | ４基 | | |
| | | 時期不明 | 柱穴様ピット | 80基 | | |

秋田県文化財調査報告書第460集

**狼　穴　Ⅱ　遺　跡**

－ 一般国道７号大館西道路建設事業に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅶ－

印刷・発行　平成22年８月
編　　集　秋田県埋蔵文化財センター
〒014-0802　大仙市払田字牛嶋20番地
電話(0187)69-3331　FAX(0187)69-3330
発　　行　秋田県教育委員会
〒010-8580
秋田市山王３丁目１番１号
電話(018)860－5193
印　　刷　株式会社　仙北印刷所